

漢字文獻 情報処理研究

第13号

漢字文獻情報処理研究会 編

好文出版

漢字文献情報処理研究 第13号

目次

論文	4 UCSにおける漢字異体字の情報処理	川幡 太一
	11 東洋史学専攻の大学生による Wikipedia 検証作業の試み ——学生の自己検証能力の育成を目的として——	小川 快之
特集 1	もっと『 電腦中国学入門 』 19	
	① Mac・スマートフォンで中国語	
	20 Mac OS X で中国語	師 茂樹
	24 iPad&Android で中国語	田邊 鉄
	② IME を使いこなす	
	29 繁体字 MS Office IME 2010 を導入する	千田 大介
	31 ATOK で効率よく入力する	山田 崇仁
	③ 文書作成のテクニック	
	35 タブとインデントを使いこなす	千田 大介
	38 アウトラインとナビゲーションウィンドウ	千田 大介
	43 Word のコメント機能と変更履歴	千田 大介
	45 一太郎の異体字変換機能	山田 崇仁
	46 一太郎で訓点付き漢文を作成する	山田 崇仁
	52 一太郎で個条書きと段落番号を付ける	山田 崇仁
	56 一太郎でスタイル機能を使いこなす	山田 崇仁
	62 文献リストを作る	矢野 正隆
	④ 中国学基本リソースガイド	
	70 道教	二階堂善弘
	73 京劇	平林 宣和
	77 「中国映画研究」への扉 ——アナログ系研究者による Web サイト紹介——	菅原 慶乃
	82 博物館・美術館	小島 浩之
	86 中国語のコーパス —— 言語研究に関わるものを中心に ——	山崎 直樹
	90 図書館・研究機関・学会・研究会など	小島 浩之
	94 中国での銀行口座開設 実践編	佐々木 愛
	⑤ 文献のデジタル化	
	99 BookDrive	氷野 善寛
	107 中国語の透明テキスト付き PDF を作る	田邊 鉄
	112 中国で文献の入力を委託する	千田 大介

特集 2 中国学向け情報スキル アンケート追加調査&分析 117

- 118 中国学情報化への対応に関するアンケート (続)
— パソコンの中国学利用実態調査 — 漢字文献情報処理研究会
- 134 アンケート結果の分析 — 2 項間の関係を中心に — 師 茂樹
-

漢情研 2012 年公開シンポジウム報告

- デジタル書籍・著作権に関する最新動向
— これからの東アジアにおけるデジタル文化のために — 147
- 148 2012 年公開シンポジウム報告「デジタル書籍・著作権に関する最新動向
— これからの東アジアにおけるデジタル文化のために —」参加レポート 設楽 舞
-

中国語 CAI 研究会実践レポート 155

- 156 iTunes U による講義の発信と受講 水野 善寛
- 164 ウェブカメラで学ぶ中国語発音入門
— 効果的な自習のために、授業の発音模範として — 郭 修静
- 169 ゲームもできる音声付き単語カードを無料で作る—Quizlet の使い方— 清原 文代
- 176 中国語でクローズテストを作ってみる 山崎 直樹
-

レビュー&リソース情報 183

- 184 ハードウェア
中国語電子辞書レビュー 2012
— カシオ EX-word XD-7300 とキヤノン wordtank Z900 — /
電子書籍端末
清原文代 / 田邊鉄
- 194 ソフトウェア
Windows8 / Microsoft Office 2012 / OS X Mountain Lion
— 太郎 2012 承 & ATOK2012 / Chinese Writer10
上地宏一 / 山田崇仁 / 金子真也
- 205 学術リソース
韓国の人文科学情報系ウェブサイトについて
篠原啓方
- 213 学術ソフト・製品
愛如生『申報』『方志庫』『宝巻』データベースについて
二階堂善弘
-

書 評 218 『人間はガジェットではない』/『中国の情報通信革命』 師茂樹 / 千田大介

コラム 145 理想の中国学的人文情報スキルとは? 山田崇仁

メッセージ 154 『法学と東洋学の対話』(仮) の出版にむけてのお願い 小島浩之

お知らせ 76 年会費の納入についてのお知らせ

- 98 会員の皆様へ
- 220 漢字文献情報処理研究会彙報
- 221 著者紹介 / 編集後記
-

- 本誌記事中のソフトウェア名、プログラム名、会社名などは一般に各社の商標または登録商標です。本文中では、™・®等のマークは明記していません。
- 本誌記事の記述に基づいて行われた作業の結果生じたあらゆる損害について、編著者・翻訳者および出版社は一切の責任を負いません。
- 本誌記事の内容に関するご意見・ご質問は、漢字文献情報処理研究会 Web サイト (<http://www.jaet.gr.jp/>) のフォームにて受け付けます。書面・電話・FAX によるお問い合わせには応じかねます。

UCS における 漢字異体字の情報処理

川幡 太一 (かわばた たいち)

回 1. はじめに

近年、日本のデジタル文書における漢字集合や符号化方式が、JIS X 0208 系から、JIS X 0213 や UCS (Universal Coded Character Standard … ISO/IEC 10646) ^[1] や Unicode^[2] に移行しつつある。

UCS は 2012 年 現 在 (ISO/IEC 10646 第 3 版)、約 75,000 漢字が符号化されている。また、Unicode 漢字異体字データベース (Ideographic Variation Database … IVD) には汎用電子^[3] と Adobe-Japan1 の漢字グリフが総計 27,700 個登録され、IVS (Ideographic Variation Sequence) で利用できる。

これらを利用すると、日本で普及している Adobe-Japan1-6 の全漢字グリフが、UCS または IVD を用いてプレーンテキストで表現できる。また、汎用電子の戸籍統一文字を経由することで、多数の康熙字典体の漢字が利用できるようになった。

しかしながら、UCS 漢字における異体字の構造は「符号」と「IVS」の 2 階層で理解する必要があり、その構造を整理したデータベースや、IVS を活用した漢字情報の入力・編集・検索のために必要な技術に関しては、まだ未成熟な状態にある。

本稿では、IVS を含む UCS 漢字における異体字全体の構造、入力や検索に関連する規格や技術と、今後の Web や電子書籍の中心になると思わ

れる HTML5・CSS3 との関係を述べる。

回 2. UCS における異体字の現状と課題

◇ 2.1. UCS 漢字の統合基準

UCS では現在、URO (Unified Repertoire and Ordering)、拡張 A、拡張 B、拡張 C、拡張 D の計 7 万 4 千の統合漢字と、約 1 千の互換漢字が符号化されている。

UCS の最初の漢字符号は、日本・中国・台湾・韓国の漢字規格の規格表に現れる漢字を統合して、1992 年に作成された (Han Unification)。すなわち UCS 漢字規格は、初期の段階から統合基準を意識して整備され、後にその基準は UCS 規格の附属書として文書化された (現在の ISO/IEC 10646 附属書 S)。その後、新しい漢字が増えるに従い、附属書の規定をより詳細化した基準が必要になり、それらは UCV (Unifiable Character Variations) として国際漢字符号標準化委員会 IRG (Ideographic Rapporteur Group) にて整理されている。

◇ 2.2. 原規格分離規則と互換漢字

UCS で最初期に標準化された漢字集合は、本来ならば統合すべき漢字も、元の規格で分離されていたれば、特例として分離符号化された (原規格分離規則)。原規格分離の例としては、「飲・飲」

(JIS X 0208 が分離して符号化) や「説・説」(CNS 11643 が分離して符号化) がある。これらは現在、ISO/IEC 10646 附属書 S の第 5 節に列挙されている。

一方、1992 年以降に制定された文字符号規格 (JIS X 0213 や CNS 11643 など) で符号化された漢字で、UCS の漢字統合規則に従えば既存の符号化済の漢字に統合すべき漢字は、「互換漢字」として統合漢字とは別に UCS で符号化され、ラウンドトリップ変換等の特定の用途のみでの使用が推奨されることになった (ISO/IEC 10646 第 18 節参照)。

◆ 2.3. 漢字異体字データベース

UCS 統合漢字の文字符号は (少なくとも建前上は) 漢字を抽象的に指示しているに過ぎず、統合基準によって区別されない細かな字形差異は文字符号では表現できない。しかし、書籍・行政・字書等の専門分野の一部では、統合漢字の基準よりも細かい字形指定をしたい場合がある。そのようなニーズに応えるために、「ユニコード技術標準 (UTS) #37…漢字異体字データベース (IVD)」が、ユニコード・コンソーシアムより提案・規格化された。特定の目的をもって異体字を利用したい団体・組織は、異体字コレクション名と、その異体字コレクションに属する異体字を、UTS#37 で定められた手続きによって IVD に登録できる。IVD に登録された文字は、UCS 第 16.5 節の規定により、統合漢文字符号の後に、異体字に対応する異体字選択子 (VS) を付加することによって、漢字異体字シーケンス (IVS) を情報交換できる。

2012 年現在、IVD には異体字コレクションとして、Adobe-Japan1 と汎用電子が登録されており、各々が 1 万字以上の異体字を登録している。

◆ 2.4. JIS の包摂基準との関係

JIS X 0208 漢字や JIS X 0213 漢字における包摂基準と、UCS 漢字の統合基準では、漢字の統合対象が異なる。例えば JIS X 0208 では、常用漢字の「叱」と「叱」や、「呑」と「呑」は区別されないが、JIS X 0213 では区別される。また、

JIS X 0213 では「間」と「間」や、「説」と「説」は区別されないが、UCS では区別される。逆に、JIS X 0213 では「隆」と「隆」は区別されているが、UCS ではこれらは統合されているため、JIS X 0213 の「隆」は UCS では互換漢字として符号化されている。

日本で普及している OpenType のグリフ集合である Adobe-Japan1 は UCS で符号化されているため、Adobe-Japan1 準拠のフォントでは、JIS では区別されない「間」と「間」を区別して扱う場合には、「間」は U+9593 で、「間」は U+9592 で符号化すると画面に正しく表示される。ただしこの「間」は JIS X 0208 には含まれないので、メールや Web ページで使う場合に注意する必要がある。

◆ 2.5. UCS の異体字構造

UCS 漢字では、統合基準で統合できない文字は異体字であっても個別に符号化される。ただし、過去の標準化における様々な事情により、本来統合すべき漢字が別に符号化されていたり、または別符号化すべき漢字が統合されていたりする。

このような異体字を UCS 漢文字符号の観点で整理すると以下ようになる。

統合基準	実際の符号化	例
分離	分離符号化	「稿」と「藁」 等多数
	統合符号化	「喞」と「喞」 等少数
	互換漢字	「蘊」と「蘊」
	IVD	「劍」と「劍」 等少数
統合	分離符号化	「説」と「説」 等数百例
	統合符号化	一般多数
	互換漢字	一般多数
	IVD	一般多数

◆ 2.6. 異体字入力・編集・検索の課題

上記のように、UCS は様々な歴史的経緯により、ある異体字は個別に符号化され、また別の異体字は統合符号化され、その基準は一部、明確化されているものの様々な例外があり、文書を符号化する際、入力者がこれらの状況を把握するのは困難である。

また、「しんによう」の点の1点・2点の差や、草冠の3画・4画の差は異体字というよりは字体の差であり、ある文章に対してその文書に含まれる「しんによう」を全て2点にする、というようなフィルタ処理を施したい場合は、1点・2点の区別をしているグリフの対応表を系統的にデータベース化する必要がある。

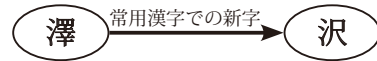
また、入力だけではなく、検索においても、表示文字と検索対象文字を分離したい場合がある。

目的語、「常用漢字表の新字」は述語になると考えられる。トリプルの表記にあたっては、一般にこれらを

〈「澤」, 常用漢字表での新字, 「沢」〉

と主語、述語、目的語の順番に並べる。

これは以下のようなグラフに表現できる。



これは字体差の表現にも活用できる。例えば、『説』の、『兌』の部分『兌』にしたものは、『説』である』をトリプルで、

〈「説」, 「兌」 → 「兌」, 「説」〉

と表記するとする。すると同様に、

〈「悦」, 「兌」 → 「兌」, 「悦」〉

とも表記できる。

これを拡張し、たとえば『説または説』の、『兌または兌』の部分「兌」にしたものは、『説』である』という論理和の表現を、

〈「説・説」, 「兌・兌」 → 「兌」, 「説」〉

と表記するとする。すると一般に、〈X,a → b,Y〉ならば、〈X・Y, a・b → b, X〉が成り立つ。さらに、Xの部品に含まれない任意のcについて、〈X, a・c → b, X〉も成り立つ。

これをIVDや互換漢字に適用するならば、『草』の、「++」(抽象文字符号)を「++」(字形)で表現したグリフは、『草』である』は以下のように表記できる。

〈「草」, 「++」 → 「++」, 「草」〉

一般に、通常の漢字が統合可能な異なる2つの部品を同時に内包することはほとんどないので、

回 3. UCS 漢字の異体字処理

◆ 3.1. 異体字のデータベース化と変換

前節で述べた解決するためには、

1. 与えられた漢字の異体字一覧、およびそれらが所属する符号化集合またはIVDコレクションの情報
2. 異体字の字体的な差異の情報

をデータベース化する必要がある。このうち1についてはすでに様々なデータベースが存在するため、特に2の字体的な差異の情報化について、データベース化の手法について説明する。

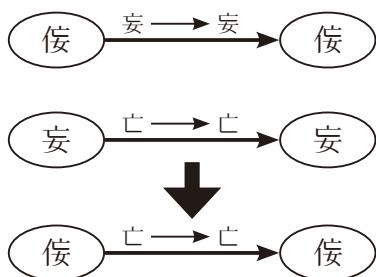
■ 3.1.1. 異体字の字体差表現

ある文字(グリフ)と別の文字(グリフ)がどう関係するかを記述する方法として、関係を「主語・述語・目的語」の3要素で表現する「トリプル」と呼ばれる記法があり、RDF等で採用されている。

たとえば、『澤』には、常用漢字表の新字の『沢』がある』という文章では、「澤」が主語、「沢」が

$\langle X, a \cdot c \rightarrow b, Y \rangle$ において、 a と c が同じ親文字の IVS ならば、 a と c は同じ抽象文字 Z に属していると考えられる ($\langle X, Z \rightarrow b, Y \rangle$)。

また、部品単位の異体字記述はより細かい部品の述語に拡張できる。例えば『『倂』の、『妄』の部分に『妄』にしたものは『倂』である』(\langle 「倂」, 「妄」 \rightarrow 「妄」, 「倂」 \rangle) ことと、『『妄』の、『亡』を『亡』にしたものは『妄』である』(\langle 「妄」, 「亡」 \rightarrow 「亡」, 「妄」 \rangle) を組み合わせると、『『倂』の、『亡』を『亡』にしたものは、『倂』である』(\langle 「倂」, 「亡」 \rightarrow 「亡」, 「倂」 \rangle) と拡張できる。すなわち、一般には、 $\langle X, a \rightarrow b, Y \rangle$ と、 $\langle a, c \rightarrow d, b \rangle$ から、 $\langle X, c \rightarrow d, Y \rangle$ が言える。



このような、 $(a \rightarrow b) \Rightarrow (c \rightarrow d)$ という述語の拡張の関係は、一般に非巡回な有向グラフをつくるので、あるトリプルの述語を調べれば、それに属する全ての述語を数え上げることができる。

述語を複数個組み合わせることで、より一般的な述語を作ることもできる。たとえば、「兂」 \rightarrow 「兂」、「++」 \rightarrow 「++」、「𠂔」 \rightarrow 「𠂔」等をすべて適用する述語を組み合わせ、「旧字形」とはどの部分字形をどのように置き換えることか、を定義することができる。

■ 3.1.2. 異体字の変換処理

上記のようなデータベースを作成すれば、これらの中から、述語が「漢字」、目的語が「旧字形」であるトリプルを検索し、その主語が述語になるような漢字の組み合わせを検索することで、漢字を旧字形にするトリプル（述語を除けばペア）の集合を求められる。

こうして得られた変換表を利用することで、例えば漢字を「旧字風」に変換することができる。ただし、漢字グリフの中にはある特定の文字の旧字形が複数あるものもあるので、その場合はユーザによる視認が必要になる。

※ 3.2. 異体字の比較・照合処理

UCS では一般に同じ文字を複数の方法で符号化できるため、文字列を検索・照合する際に単純なビット比較はできない。この問題に対処するため、Unicode は Unicode Standard Annex (UAX) #15 において「正規化」規格を提供している。UAX#10 には用途に応じて 4 種類の正規化方法が定められている (toNFC(), toNFD(), toNFKC(), toNFKD()) が、これを利用すると互換漢字を統合漢字に変換でき、ビット単位で比較できる。

ただし UAX#15 に述べられた処理では、IVS の VS を除去できない。そのため、正規化後でも、IVS が含まれる文字列に対して、VS がない文字列で正しく検索できない。VS は、デフォルト無視可能符号 (DICP, Default Ignorable Code Points … Unicode 第 5.21 節参照) である。DICP を除去するための規格として、Unicode 第 3.11 節では toNFKCCasefold() 正規化変換が定義されている。一般に、IVS を含む文字列の比較・照合にはこれを利用する。

また、文字列を比較する際に、漢字に加えてかなの濁音や長音符なども考慮する場合は、UCA (Unicode Collation Algorithm, UAX#10) を用いることができるが、UAX における DUCET (Default Unicode Collation Element Table) では、VS は [0.0.0.0] となっており、UAX を用いた比較・照合の際には一般に VS は無視される。

ただし、これらのいずれの手法で文字列を比較しても、統合漢字で別符号化された異体字や重複符号化された漢字、原規格分離の対象漢字を同一視できない。この問題に対処するには、別途、異体字のデータベースを用意して、異体字を事前に「正字」に変換するか、または HTML 等の場合は OpenType や CSS を活用して表示文字と検索文字を切り分ける必要がある。

◆ 3.3. OpenType と異体字

OpenType 規格は、現在の一般的なオペレーティングシステムやアプリケーションで広く普及しているフォント規格である。OpenType では文字コードと内部のグリフコードは分離されており、文字コードとグリフコードの対応はフォント内部に含まれる cmap テーブルに記述されている。

従来、UCS で符号化できない異体字を扱う場合は、その文字を私用領域(PUA)で符号化し、フォントとテキストを束ねて配布することが一般的であった。しかしこの手法は文字の検索ができなくなる上に、検索ソフトやテキストエディタがテキストのみ取り出すとフォントが切り離されてしまい、もとの文字が分からなくなるといった問題が生じていた。

OpenType は IVS を、cmap Format 14(cmap14) と呼ばれる cmap テーブルでサポートしている。そのため、もし利用したい異体字が IVD にある場合は、外字を PUA ではなく cmap14 テーブルで符号化することで、テキストをフォントから切り離しても正しい符号を維持できるようになる。現在は FontForge や Adobe Font Development Kit for OpenType (AFDKO) 等の多くのフォント作成ツールが cmap14 に対応している。

また OpenType には、必要に応じてあるグリフを別のグリフに変換する機能を提供する GSUB テーブルと呼ばれるテーブルがある。GSUB テーブルには、機能(フィーチャー)に応じて様々な変換テーブルがあり、各フィーチャーは4文字のタグ名を持つ。

GSUB には、異体字を指定するための多数のフィーチャーが用意されている。その中にはグリフを旧字体に変換する“trad”フィーチャーや、他の異体字に変換する“salt”フィーチャー、またはデフォルトのグリフを、「日本のグリフ」「中国のグリフ」「台湾のグリフ」等に変換できる“locl”フィーチャーがある。これらを利用すれば、文字符号を変更せずにフォントのフィーチャーを呼び出すことで様々な異体字を表示させることができる。実際に OpenType フォントの GSUB テーブル

に含まれるフィーチャーを HTML で呼び出すには、以下で述べる CSS Fonts Module Level 3 の機能が必要になる。

◆ 3.4. CSS と異体字

HTML において、表示文字と検索文字を分離したい場合は、CSS の content プロパティを使うことができる。たとえば、

```
<style type="text/css">
span.variant:before {
    content: attr (display) ;
}
span.variant {
    display:inline-block;
    overflow:hidden;
    max-width:1em;
}
</style>
```

というスタイルを記述すると、「画面上での表示は『驛』で検索時は『駅』で検索できるようにしたい」場合は、以下の様に HTML を記述できる。

```
<body>
    <p> 近 所 の <span class="variant"
display="驛"> 駅 </span> に行く。 </p>
</body>
```

また現在、W3C で次世代 Web 規格として策定されている規格の中に、CSS (Cascading Style Sheet) 3 規格がある。CSS は複数のモジュールに分割されて規格が開発されており、その中にはフォント関連の CSS プロパティを定める CSS Fonts Module Level3 (CSS3 Fonts) がある。

CSS3 Fonts には、フォントの単純な指定からフォント検索、フォントのローディングに至る多数のプロパティが定められているが、その中には、GSUB のフィーチャーを直接指定する 'font-feature-settings' プロパティがある。このプロパティを活用すれば、Web や電子書籍上で、文字

符号を維持しつつ、様々な異体字をフォントで準備して表示できる。

例えばある OpenType フォントが 'trad' GSUB フィーチャーに対応している場合、その GSUB フィーチャーを用いたフォントで、'trad' の 3 番目の異体字を表示させたい場合は、

```
<span style="font-feature-settings:
'trad' 3;">漢</span>
```

と指定すれば良い。ただし、現在ではまだ CSS3 はドラフト段階の規格であり、ブラウザでの実装も不十分で、将来的に変更される可能性がある。

回 4. まとめと課題

UCS 漢字符号を扱う際には、異体字の「入力・変換」・「検索・照合」をきちんと考慮する必要がある。

度重なる UCS 規格の拡張や、IVD への多数の異体字登録により、現在の UCS 規格は非常に多数の異体字が符号化されており、異体字を「入力・変換」するための環境は徐々に整備されつつある。

しかし、様々な歴史的経緯により、UCS 漢字符号における異体字の符号の扱いは多数の例外があり、異体字のどれが符号で区別され、またはどれが IVD で区別されているか、またはどの文字がどのレパートリに含まれているのかを、把握しつつ漢字を符号化するのは難しい。

この問題を解決するには、今後も様々な異体字データベースやそれを利用した入力・変換ツールを整備していく必要があるだろう。そのためには、異体字の字体差を表現するデータベースの整備が重要になる。

一方、異体字の「検索・照合」については、現状では互換漢字を統合漢字に変換する「正規化処理 (toNFC, toNFD, toNFKC, toNFKD)」か、または IVS における VS を除去する処理 (toNFKCCaseFold ()) しか規格化されておらず、符号として区別されている漢字を統一的に検索・照合するための規格は一般化されていない。

この問題を回避するためには、たとえば HTML や CSS を使って表示文字と検索文字を切り分けたり、または独自の異体字を考慮した検索ツールを整備する必要がある。また、まだ符号化されていない異体字を利用したい場合は、OpenType 等で独自にその文字をフォント化し、CSS3 Fonts の GSUB フィーチャー呼び出し機能などを活用する方法が考えられる。

現状では歴史的文書においては、どの文字がどの異体字になるのかは、文脈でしか判別できない場合も多く、このような文書・文脈に依存する情報をどのように検索・照合を行うソフトウェアに伝えていくかは今後の課題になる。

参考文献

1. ISO/IEC JTC1, ISO/IEC 10646:2012, Information technology -- Universal Coded Character Set (UCS)
2. Unicode Inc. Unicode Standard, version 6.1, <http://unicode.org/standard/standard.html>
3. W3C, CSS3 Fonts Module Level 3, W3C Working Draft 4, <http://www.w3.org/TR/css3-fonts/>.
4. Microsoft Corporation, OpenType Specification, <http://www.microsoft.com/typography/otspec/>
5. Mark Davis and et. al, Unicode Normalization Forms, Unicode Standard Annex #15, <http://unicode.org/reports/tr15/>
6. Mark Davis and et. al, Unicode Collation Algorithm, Unicode Technical Standard #10, <http://unicode.org/reports/tr10/>
7. Ken Lunde and et.al, Unicode Ideographic Variation Database, Unicode Technical Standard #37, Unicode Inc., <http://www.unicode.org/reports/tr37/>

注

- [1] ISO の "Publicly Available Standards" (<http://>)

- standards.iso.org/ittf/PubliclyAvailableStandards/index.html) で入手可能。
- [2] Unicode と UCS は、文字表としては実質的には同等の規格である。UCS は他の ISO 規格にあわせて規定されている等、技術的な内容には差がある。
- [3] 汎用電子情報交換環境整備プログラムは、日本の戸籍・住基・登記システムで利用されている外字を整理したものである。

東洋史学専攻の大学生による Wikipedia 検証作業の試み

— 学生の自己検証能力の育成を目的として —

小川 快之 (おがわ よしゆき)

回 1. はじめに

東洋史学専攻の大学生が卒業論文を書くにあたっては、周知のとおり、自身の研究テーマに関する先行研究を検討して、その未解明の点や問題点を発見する能力、関連史料を収集して、その内容を検証する能力、そして、史料に基づいて自己の見解を論理的に記述する能力などさまざまな研究能力が必要である。

こうした東洋史学専攻の大学生が身につけるべき研究能力の育成に関しては、従来から多くの教員がさまざまな工夫をしてきたと推察される。また、具体的な学習・研究方法について解説した書籍も出版されている^[1]。

しかし、管見の限り、実際に大学の現場でどのような授業の工夫が行われ、その授業の工夫が教育的にどれだけ有効性があるのか、ということに関しては、あまり研究が進んでいないのが現状である。

所謂「(中学校・高等学校における)歴史教育」に関しては、長い研究の歴史があり、実践報告も極めて多いが、それに比べ、大学の東洋史関連授業に関する授業研究の類は極めて少ないのが現状である^[2]。しかし、教育的に有効性が高い卒業

論文指導を行うためには、こうした面の研究も進展させる必要があると考えられる。

そこで本稿では、こうした研究を進める作業の一環として、学生の自己検証能力（主に先行研究の未解明の点や問題点を発見する能力）の育成に焦点を絞り、筆者が東洋史学専攻の大学生を対象に、『電脳中国学入門』（好文出版、2012年）の解説を活用して実施した実験授業とその教育的有効性について考察してみたい。

回 2. 今回の実験授業の概要

筆者が今回実験授業を実施したのは、A 大学文学部の 2012 年度開講の授業「中国近世史研究」である。本授業は、東洋史学専攻の 3・4 年生を対象とし、宋代から清代に関する卒業論文の準備やそれに関連した基礎知識を学ぶことを目的としている（通年、週 1 回、学生数：21 名）。

授業では、宋代から清代を中心に講義をしているが、この時代以外の中国史の各時代を研究テーマとする学生や朝鮮史を研究テーマとしている学生も受講しているため、適宜、各学生の卒業論文テーマに即した学習・研究作業も行っている。

今回の実験授業では、「中国学」の研究者が、フリー百科事典 Wikipedia（ウィキペディア）^[3]

せて、自身の研究テーマに関連したものを選ぶように指示したため、検討項目が特定の項目に集中するようなことはなく、中国史に関する項目 15 名、朝鮮史に関する項目 4 名、その他の項目 2 名という結果となった。朝鮮史に関する項目もあるため、中国史を専攻する学生だけではなく、朝鮮史を専攻する学生に対する教育的有効性も検証できる状況となった。

4. 「学生による Wikipedia (日本語版) の検証結果」の分析(1)

さて、Wikipedia (日本語版) の記述に関する学生の検証結果についてであるが、18 名の学生が、Wikipedia (日本語版) の記述を説明不足とするコメントを書いていた。例えば学生の作業プリントには以下のようなコメントが書かれていた。

●項目名：煬帝

『『アジア歴史事典』』と比べると、煬帝の歴史的評価の記述が簡易である。大運河建設のことなど暴政との関連を中心に書かれている。実際には、官制改革など、唐にも引き継がれる事業も行っていることが『『アジア歴史事典』』などからも分かる」(Yくん)。

●項目名：鄭成功

「Wikipedia には父親の鄭芝龍からの招降を何度も拒絶したことは書かれていなかった」(Sくん)。

●項目名：ドルゴン

『『アジア歴史事典』』には、ドルゴンとホーゲという人物が朝鮮を討って江華島を攻めたこと、華北の各地を攻めて、多くの捕虜を得たことなど対外的事件について触れられているが、Wikipedia には、対外的事件について一切書かれていなかったのが気になった。説明する必要がなかったのか、信憑性がないのかはわからないが、

【資料 2】 学生が選んだ検討項目 (学生数 : 21 名)

項目名	人数
項籍 (項羽)	1 名
董仲舒	1 名
郡国制	1 名
孝文帝	1 名
煬帝	2 名
マテオ・リッチ (利瑪竇)	1 名
鄭成功	1 名
三藩の乱	1 名
ドルゴン (多爾袞)	1 名
八旗 (八旗制度)	1 名
阿片戦争 (第一次鴉片戦争)	1 名
光復会	1 名
蒋介石	1 名
天壇	1 名
壬辰・丁酉倭乱 (文禄・慶長の役、朝鮮之役)	2 名
興宣大院君	1 名
韓国併合 (日韓併合)	1 名
大祚榮	1 名
シャーマニズム (巫覡宗教)	1 名

Wikipedia では対外的事件について記事がなかったのが疑問点である」(Tくん)。

●項目名：蒋介石

「Wikipedia には、第 2 次北伐以降のことが詳しく書かれていないことが気になりました」(Iさん)。

以上のコメントの内容を見ると、学生が関連辞書・専門書の記述との比較検討という作業により、Wikipedia (日本語版) の記述の説明不足な箇所を具体的に発見していることが窺える。

また、説明不足の原因は、執筆者がまとめきれなかったこと以外に、執筆者の偏向もあると考えられるが、コメントを見ると、それに関連した指摘もあることが分かる。

このことにより、さらにこういった作業が、歴史的事象を多面的に考える訓練にもなっている

ことが窺える。上記の「煬帝」に対するコメントなどは、歴史的事象を多面的に理解した上で、Wikipediaの説明が一面的であるとしている好例である。

こうした説明不足を発見する能力を習得する作業は、先行研究の未解明の点を発見するという卒業論文の作成に欠かせない能力の育成につながる可能性があると考えられる。

回 5. 「学生による Wikipedia（日本語版）の検証結果」の分析(2)

ところで、Wikipedia（日本語版）の記述に関する学生の検証結果を見ると、説明不足を指摘するだけでなく、記述内容の問題点を指摘するコメントも見られた。例えば学生の作業プリントには以下のようなコメントが書かれていた。

●項目名：孝文帝

「Wikipediaの「経歴、生まれ」の記述について、「なお、北魏では外戚の専横を避けるために皇帝の生母が殺されることが常であったため、孝文帝の生母である李氏も、この時に自殺させられており、太后と献文帝の対立の直接の原因となっている」とあるが、『アジア歴史事典』や『新編東洋史辞典』（東京創元社、1980年）の記述を見ても、「直接の原因となっている」というような記述は見られなかったので気になり、疑問に感じた」（Oくん）。

●項目名：三藩の乱

「Wikipediaでは、事前の経緯が省略されていることが多く、『アジア歴史事典』に書かれている呉三桂による独断行為が清の不安を強めることになったことや三藩の乱による争いで康熙帝が優れた政治手腕を発揮していることについても書かれていない。戦力なども書かれていない。また、Wikipediaでは「康熙帝は……中央集権体制を確立するために藩を廃止したいと願っ

ていた」と記されているが、『アジア歴史事典』には、「目にあまる独断行為が多く、清政府の三藩にたいする不満、警戒心もしだいに強くなった（ために撤藩を命じた）」と書かれている」（Oくん）。

●項目名：八旗

「(Wikipediaには)「八旗に属する旗人たちは、平時は農耕・狩猟に従事しつつ要地の警備や兵役にあたった」とあるが、旗人は農工商の営利事業に従事することは禁じられているので、Wikipediaは説明不足と思われる。また、「グサのことを中国語では「旗」と呼ぶようになった」としているが、漢字表記において「旗」と表記しているだけなので、「呼ぶようになった」という説明には疑問を感じた」（Tくん）。

●項目名：蔣介石

「『アジア歴史事典』は、「戴季陶などと上海の金融取引所で投機事業に従事し、これが彼の上海資本とのむすびつきと買弁的な性格の形成に作用したといわれる」と書いているが、Wikipediaの方には（1916～1918年の動向について）「革命資金の調達に奔走していたとされる」と書かれている。Wikipediaの方にはそれがどのように作用したのかが書かれていない。『アジア歴史事典』の方には、「彼の私的権力の強化と革命分子の活動の抑制を目的として、戴季陶の協力のもとに「孫文主義学会」を組織して、革命陣営内に対立と混乱をもちこんだ」と書いてあり、中山艦事件の陰謀は蔣介石が起こしたとしている。Wikipediaの方には、「孫文主義学会」を組織したことは書かれておらず、また、中山艦事件は蔣介石が利用したと書かれていて、実際にはどっちだったのだろうかと疑問が残った」（Iさん）。

以上のコメントの内容を見ると、Wikipedia（日

本語版)と辞書・専門書における歴史的事象の因果関係や経緯に関する記述の比較検討作業が、Wikipedia(日本語版)の記述内容の問題点の発見につながっていることが窺える。

こうした問題点を発見する作業は、先行研究の問題点を発見するという、これも卒業論文の作成に欠かせない能力の育成につながる可能性があると考えられる。

6. 「学生による Wikipedia の日本語版と中文(台湾正体)版の検証結果」の分析(1)

つぎに、Wikipediaの日本語版と中文(台湾正体)版の記述に関する学生の検証結果について考えてみたい。結果を確認してみると、11名(全て中国史関連)が日本語版より中文(台湾正体)版の方が、説明が詳しいとコメントしていた。

Wikipediaの記述内容は、一般的に、中国史に関する項目は、日本語版よりも中文(台湾正体)版の方が詳しい傾向があるので、そうした状況が反映した結果であると考えられる。例えば学生の作業プリントには以下のようなコメントが書かれていた。

●項目名：鄭成功

「中文版は、少年時代からの業績について細かい項目に分けて書かれている。また、爵位や家族についても書かれている。特に家族については、本人の高祖父から孫の名前まで記載されている。家族の名前については、日本語版は父の鄭芝龍と子の鄭經の二人しか出てきていないので、そこの部分が気になった」(Sくん)。

●項目名：三藩の乱

「中文版では三藩の兵力も記されているが、日本語版には記されていない」(Oくん)。

●項目名：八旗(八旗制度)

「中文(台湾正体)版は細分化されてい

て、組織の概説のみならず、爵位や出仕などの項目がある」(Tくん)。

●項目名：ドルゴン(多爾袞)

「中文版には、『アジア歴史事典』と同様に、1636年の朝鮮への侵攻や1638年に奉命大將軍になったことがより詳しく書かれているのに対し、日本語版にはそれらの記述は書かれていない。中文版はより詳しく(数字まで)書いてあるのに対し、日本語版にはそうした記述がないのが気になった」(Tくん)。

●項目名：蔣介石

「中文版では、西安事件以降も詳しく書かれているのに対して、日本語版では日中戦争から国共内戦で敗北して台湾へ移動するまでの経緯が簡単に書かれていて、他の記述と比べると明らかに少ないと思った」(Iさん)。

以上のコメントの内容を考えると、Wikipediaの日本語版と中文(台湾正体)版の記述の比較検討作業も、先述した日本語版と関連辞書・専門書の記述の比較検討作業と同じく、(主に中国史に関しては)日本語版の説明不足を発見する作業になっていることが窺える。

ところで、その一方で、4名(全て朝鮮史関連)は、日本語版が中文(台湾正体)版より説明が詳しいとコメントしている。

これは、Wikipediaの朝鮮史に関する項目の記述内容は、一般的に、日本語版の方が中文(台湾正体)版より詳しい傾向があるので、そうした状況を反映した結果であると考えられる。例えば学生の作業プリントには以下のようなコメントが書かれていた。

●項目名：壬辰・丁酉倭乱(文禄・慶長の役、朝鮮之役)

「日本語版の方を見ると、相手国(明・朝鮮)目線の部分があったり、その内情や

背景、その後のことがしっかりと項目があつて書かれているのに対し、中文版を見ると、少なくとも目次をみた段階では日本目線であつたり、日本の内情を伝えるような項目が一切見られないという点が気になりました」(Kくん)。

以上のような学生のコメントの内容を見ると、Wikipediaの日本語版と中文(台湾正体)版の記述の比較検討作業は、主に朝鮮史に関して言えば、中国史とは逆の状況、つまり、中文(台湾正体)版の説明不足を発見する作業になっていることが窺える。

以上の結果を見ると、中国史と朝鮮史という分野の違いにより差異が見られるものの、日本語版と中文(台湾正体)版の記述の比較検討作業自体は、歴史的事象を多面的に考える訓練、先行研究の未解明の点を発見する能力の育成につながる可能性があることが確認できる。

回 7. 「学生による Wikipedia の日本語版と中文(台湾正体)版の検証結果」の分析(2)

さらに、Wikipediaの日本語版と中文(台湾正体)版の記述の検証結果を見てみると、記述内容の具体的な問題点を指摘するコメントも見られた。例えば学生の作業プリントには以下のようなコメントが書かれていた。

●項目名：孝文帝

「中文版では、「孝文帝が推進した改革は民族の隔たりと階級矛盾を緩和することに利益があり、社会経済の回復と発展にプラスの影響があつた」とある。しかし、日本語版では、「急激な漢化政策の推進が、支配者層であつた鮮卑の不満を引き起こすことにもなつた」とあり、このことは中文版には記述されておらず、疑問に感じた」(Oくん)。

●項目名：董仲舒

「中文版の著作項目には、「《春秋繁露》は偽書」とあるが、日本語版では『春秋繁露』は時代とともに散逸しつつあつた董仲舒の著作を、六朝時代あたりに何者かが再編集したもの、と考えられる」とあり、『春秋繁露』という書物の捉え方が若干違うように感じた」(Sさん)。

●項目名：蔣介石

「日本語版と中文版の参考文献を比べてみて、日本語版の文献は少ないため、記述の信憑性を疑つてしまった」(Iさん)。

●項目名：大祚榮

「日本語版では「ツングース系民族」としているが、中文版では「粟末靺鞨部人」としている。当時の靺鞨人の詳細が明らかになっていないのに現代のツングース系民族とするのは疑問に思った」(Nくん)。

●項目名：シャーマニズム(巫覡宗教)

「日本語版では、トランス状態のシャーマンの靈魂は「靈界」に赴くと書かれているが、中文版では「天堂あるいは地獄に到る」となっている。今日は神靈と対話したいから天へ、今日は死者と話したいから地へとといったように、中国人の知るシャーマンは靈魂の向かう先を選ぶことができたのであろうかと思った」(Tくん)。

以上のコメントの内容を見ると、例えば孝文帝の漢化政策に対する評価のように、日本語版と中文(台湾正体)版では説明にかなりの相違があることを指摘するコメントが見られることが確認できる。

こうした結果から考えると、以上のような作業も、先述した日本語版の記述と関連辞書・専門書の記述との比較検討作業と同様に、先行研究の問題点を発見する能力の育成につながる可能性があると考えられる。

回 8. おわりに

以上本稿では、東洋史学専攻の大学生の自己検証能力（主に先行研究の未解明の点や問題点を発見する能力）の育成を図る作業の一環として実施した『電脳中国学入門』のWikipedia解説を活用した実験授業とその教育的有効性について、学生の作業プリントの内容（検証結果）を分析しながら考察してきた。

そして、その結果、Wikipedia（日本語版）と関連辞書・専門書の記述の比較検討作業やWikipediaの日本語版と中文（台湾正体）版の記述の比較検討作業が、先行研究の未解明の点を発見する能力を育成する作業となりうる可能性があることが確認できた。

またさらに、上記の作業は、先行研究の問題点を発見する能力を育成する作業にもなりうる可能性があることも確認できた。そして、こうした一連の作業は中国史を専攻する学生だけでなく、朝鮮史を専攻する学生にも教育的効果がある可能性があることが確認できた。

こうした結果から考えると、今回実験授業で実施した作業は、「暗記型」の歴史教育から「思考育成型」の歴史教育にすることが重要な課題となっている大学の一般教養の東洋史関連授業などでも有用であるように考えられる^[4]。

また、安易にインターネットの情報を信用しないこと、インターネットの情報には危うい点があるので別の媒体（書籍など）で検証する必要があることなどを学生に教えることは、人文情報教育上、重要な課題であるが、以上の結果から考えると、今回の実験授業の作業は、こうした点に関しても教育的効果があると考えられる。

しかし、本稿の分析では、『電脳中国学入門』のWikipedia解説の活用や比較検討作業を用いたWikipediaの記述の検証作業が、学生の自己検証能力を高める可能性があることが確認できただけで、卒業論文の作業との連動に関してより教育的有効性を高めるためには、さらに課題の出し方（作業プリントの内容など）を工夫する必要があると

考えられる。

また、さらに他のインターネット上の百科事典（中国語系の「百度百科」や「中文百科在綫」、韓国語系のNAVER知識百科など）の記述と比較検討する課題を出すことも、検討してみる余地があると考えられる^[5]。

これら点に関しては今後の課題としたい。読者の方々のご教示ご批正を賜れば幸甚である。

追記

本稿を作成するにあたっては、本誌査読者諸氏より様々な有益なご教示を賜った。記して感謝申し上げます。

注

[1] 例えば、田中比呂志・飯島渉編『中国近現代史研究のスタンダード——卒業論文を書く——』（研文出版、2005年）や漢字文献情報処理研究会編『電脳中国学入門』（好文出版、2012年）などがある。

前者は、主に中国近現代史を研究する大学生に向けて書かれた書籍であるが、研究史の整理に関する解説など、中国近現代史以外の分野を研究する大学生にも参考になる記述が多い。なお、本書の姉妹編として、大学院生を対象に、中国近現代史に関する研究のあり方（研究の方法、思想、制度にかかわる問題群）について解説した飯島渉・田中比呂志編『21世紀の中国近現代史研究を求めて』（研文出版、2006年）がある。大学院生を対象とした書籍であるが、大学生が卒業論文を作成する際に役立つ記述も多い。

また、後者132-161頁の「II-4 書籍を探す」「II-5 論文・雑誌記事の調査」（執筆・小島浩之・師茂樹・山田崇仁・佐藤仁史・千田大介の各氏）には、インターネットを活用した論文・史料の収集方法などについて書かれており、卒業論文の指導をする際に有益な記述が多い。

上記以外に、所謂「研究入門」的な書籍は、周知のように多数刊行されている。例えば、礪波護・岸本美緒・杉山正明編『中国歴史研究入門』（名古屋大学出版会、2006年）などがある。

[2] 大学の東洋史関係授業に関する研究報告としては、例えば、甘利弘樹「大学における中国史授業の新デザイ

ンの試み(1)——大門正幸氏考案の「全員先生」方式の応用——」(『大分大学教育福祉科学部附属教育実践総合センター紀要』29、2011年)などがある。

なお、筆者も、拙稿「中国語授業における異文化理解教育について——理工系大学生対象授業での試みを中心に——」(『法政大学小金井論集』8、2011年)において、「中国語文化入門」の授業における実験授業(中国史に関連した内容も含む)とその教育的有効性に関して検証したことがある。

- [3] インターネット上で利用することができる百科事典。インターネットのユーザーであれば誰でも自由に読

み、また、書くことができる形態になっている。

- [4] 大学の歴史授業を「暗記型」の歴史教育から脱却させるという問題に関しては、土屋武志「大学における「歴史教育」実践に関する一考察——愛知教育大学における教養科目「歴史学」・専門科目「史学概論」を例に——」(『愛知教育大学教育実践総合センター紀要』創刊号、1998年)など参照。
- [5] Wikipedia以外のインターネット上の百科事典については、『電脳中国学入門』98頁の解説「そのほかの中国語検索エンジン」(執筆・千田大介氏)、及び108頁の解説「日中・中日辞典」(執筆・同氏)など参照。

特集 1

もっと 『電腦中国学入門』

2012年2月、本会編として『電腦中国学入門』を刊行した。本書は幸いにして好評を以て迎えられ、再版をするまでに至っている。

本書の目次や内容については厳選した内容になっているものの、紙幅の都合もあってなくなく切り捨てた部分も少なくない。そこで、執筆時に採り上げなかったものや、さらには執筆者の専門外のジャンルに関して紹介するために、本誌の特集で採り上げることにした。

読者諸賢には、『電腦中国学入門』と併せて御一読いただきたい。

※本特集掲載の諸論放は、科学研究費補助金・基盤研究(B)「情報化時代における中国学次世代研究基盤の確立」(研究課題番号：23320010、代表者：二階堂善弘)の研究成果の一部である。

Contents	
① Mac・スマートフォンで中国語	Mac OS X で中国語 …………… 師 茂樹 … 20
	iPad&Android で中国語 …………… 田邊 鉄 … 24
② IME を使いこなす	繁体字 MS Office IME 2010 を導入する …………… 千田 大介 … 29
	ATOK で効率よく入力する …………… 山田 崇仁 … 31
③ 文書作成のテクニック	タブとインデントを使いこなす …………… 千田 大介 … 35
	アウトラインとナビゲーションウィンドウ …………… 千田 大介 … 38
	Word のコメント機能と変更履歴 …………… 千田 大介 … 43
	一太郎の異体字変換機能 …………… 山田 崇仁 … 45
	一太郎で訓点付き漢文を作成する …………… 山田 崇仁 … 46
	一太郎で個条書きと段落番号を付ける …………… 山田 崇仁 … 52
	一太郎でスタイル機能を使いこなす …………… 山田 崇仁 … 56
	文献リストを作る …………… 矢野 正隆 … 62
④ 中国学基本リソースガイド	道教 …………… 二階堂善弘 … 70
	京劇 …………… 平林 宣和 … 73
	「中国映画研究」への扉 — アナログ系研究者による Web サイト紹介 — …………… 菅原 慶乃 … 77
	博物館・美術館 …………… 小島 浩之 … 82
	中国語のコーパス — 言語研究に関わるものを中心に — …………… 山崎 直樹 … 86
	図書館・研究機関・学会・研究会など …………… 小島 浩之 … 90
⑤ 文献のデジタル化	中国での銀行口座開設 実践編 …………… 佐々木 愛 … 94
	BookDrive …………… 氷野 善寛 … 99
	中国語の透明テキスト付き PDF を作る …………… 田邊 鉄 … 107
	中国で文献の入力を委託する …………… 千田 大介 … 112

1 Mac・スマートフォンで中国語

Mac OS X で中国語

師 茂樹 (もろ しげき)

◆ はじめに

最新刊の『電腦中国学入門』を含め、これまで本会が発行してきた『電腦中国学』シリーズでは Windows における中国語関連の使用方法の解説が中心であった。数年前まで多言語・多漢字処理については Windows のほうが先行していたことや、ユーザ数、大学・企業等での普及具合などを考えると、本会の方針には一定の理があったと思うが、近年 Mac OS X をはじめとする Windows 以外の OS の普及も無視できない状況である。

現在、Mac OS X でも Windows と同じように中国語の入力、編集を行うことができるし、ほとんどのアプリケーションが多言語対応している。ここでは簡単に、Mac OS X での中国語入力方法について解説したい。

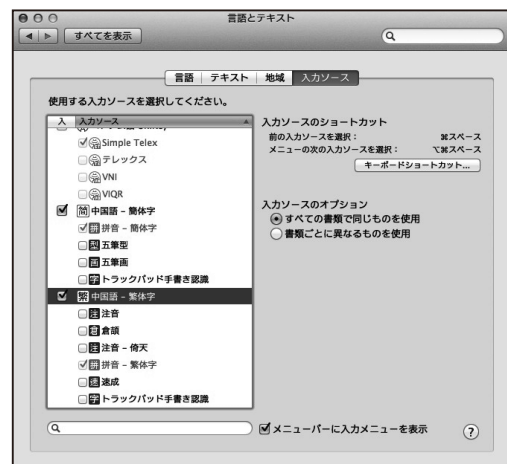
なお、対象とする OS のバージョンは、最新の 10.8 Mountain Lion とする。

◆ 中国語を使えるように設定する

◎ 入力ソースの設定

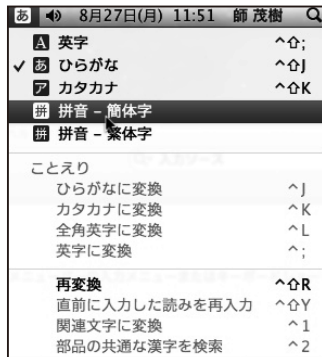
日本語入力の際に使用する『ことえり』や『Atok』などのことを、Mac OS X では「入力ソース」と総称している。Windows などと言う IME (Input Method Editor) に相当する。

入力ソースの設定は、左上の [アップルメニュー] (左上のリンゴマーク) → [システム環境設定] と選択して「システム環境設定」を開き、そのなかの [言語とテキスト] → [入力ソース] とクリックする。入力ソースの一覧が表示されるので、いちばん下にある中国語 (簡体字・繁体字) を選択する。デフォルトで [拼音-簡体字] もしくは [拼音-繁体字] が選択されているが、他にも入力方法を選ぶことができる (ただし、本稿での説明はピンイン入力と [トラックパッド手書き認識] に限る)。



右下の [メニューバーに入力メニューを表示] にチェックを入れておけば、入力ソースの切り替えなどがメニューバー上でできるようになるので、チェックしておこう。また、ショート

カットを割り当てることもできる。



◎ 追加フォントのインストール

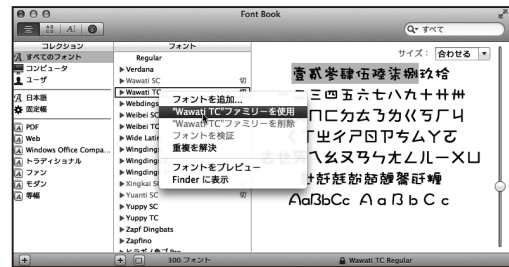
Mac OS X には元々、STSong、LiSong Pro などのフォントがインストールされているが、Mountain Lion では、「中国向けの機能」強化の一環として、新しいフォントがさらに追加されている（詳細は 197 ページの上地宏一氏によるレビューを参照）。しかし、日本語で Mac OS X を使っている場合には、デフォルトではほとんどの追加フォントがインストールされないため、フォント管理アプリケーションである「Font Book」から追加インストールをしよう。

Mountain Lion で追加された中国語フォント

簡体字 (8 種類)	繁体字 (4 種類)
Baoli SC	Langtinghei TC
Langtinghei SC	Wawati TC
Libian SC	Weibei TC
Wawati SC	Yuppy TC (インストール済み)
Weibei SC	
Xingkai SC	
Yuanti SC	
Yuppy SC (インストール済み)	

Font Book は [アプリケーション] フォルダにある。Font Book を起動したら、上表のフォント名を探してコンテキストメニューを開き (1 ボタンマウス: $\text{⌘} + \text{クリック}$ / 2 ボタン以上のマウス: 右クリック / トラックパッド: 2 本指でのタップ)、「フォント名」ファミリーを使用 (複数フォ

ントを選択した場合は [フォントを使用]) をクリックすればインターネット経由でインストールされる。



◇ 簡体字中国語のピンイン入力方法

Mac OS X でも簡体字中国語と繁体字中国語の入力方法が若干異なる。まずは簡体字中国語の入力方法から見てみよう。

メニューバーやショートカットで入力ソースを [拼音 - 簡体字] に切り替えると、簡体字入力モードとなる。ピンインを声調なしで入力すれば、変換候補が出てくるので、適当な変換候補の番号を入力すればよい。

- ① 「nihao」と入力する。
- ② 「1」を押せば「你好」で確定する (⏏ キーだとローマ字「nihao」で確定してしまうので注意)。



ピンインは、各文字の頭文字だけを入力するだけでもよい。例えば「nh」と入力すると、「你好」「年后」「女孩」などが変換候補として表示される。

「西安」と入力するつもりで「xian」と入力してみたら、「先」と変換されてしまった、という場合もあるだろう。そのような場合には「xi'an」とアポストロフィをあいだにはさめば、「西安」などの2文字の単語として変換してくれる。

変換候補ウィンドウには一度に6つまでしか表示されないが、それ以上の変換候補を表示した

い場合にはカーソルの下 (⌘) を押す。

① 「hua」と入力する。



②カーソルの下 (⌘) を押すと、追加候補が表示される。変換したい文字がある行で、数字キーを入力し確定する。



r化の「儿」は「er」と入力する。例えば「这儿」であれば「zheer」と入力する。また「ü」は「v」で入力する。例えば「旅行」であれば「lvxing」となる。

◆ 繁体字中国語のピンイン入力方法

メニューバーやショートカットで入力ソースを[拼音—繁体字]に切り替えると、繁体字入力モードとなる。簡体字と同様、ピンインを声調なしで入力すれば、変換候補が出てくるので、適当な変換候補の番号を入力すればよい。ただし、変換候補ウィンドウの形式が異なり、日本語入力と同様、変換候補が縦一列に並んでいる。

①「lamian」と入力する。

②カーソルの上下 (⇧) (⇩) で変換候補を選択し、数字キーで確定する。

簡体字のところでも述べたピンインの頭文字入力(「nh」→「你好」など)、アポストロフィによる文字の区切り(「xi'an」→「西安」)、r化の「儿」



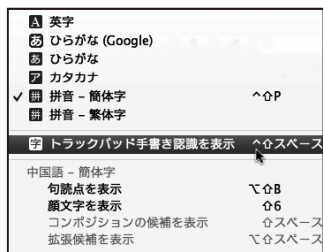
や「ü」などの入力方法は、簡体字と同じである。

◆ 「トラックパッド手書き認識」の使い方

MacBook Pro や MacBook Air 搭載のトラックパッドや、デスクトップ用の Magic Trackpad など、マルチタッチ対応のトラックパッドを使用している場合には「トラックパッド手書き認識」で簡体字・繁体字両方の中国語入力を行うことが可能である。

先に述べた入力ソースの設定のところでも[トラックパッド手書き認識]にチェックを入れていれば、「トラックパッド手書き認識」を使用することができる。使用するには、メニューバーで[トラックパッド手書き認識を表示]を選択するか、(⌘)+(⌘)+()のショートカットを押す。

なお、「トラックパッド手書き認識」が簡体字モードなのか繁体字モードなのかは、直前にどちらの入力ソースを用いていたかによって変わってくる。どちらも操作方法は同じなので、以下は簡体字モードの「トラックパッド手書き認識」で説明する。



「トラックパッド手書き認識」を起動すると、図の様なウィンドウが表示され、マウスカーソルが消える（「トラックパッド手書き認識」を使用中は、マウスを使った操作ができない）。元に戻すときには **⌘** + **⌘** + **⌘** のショートカットを押す。

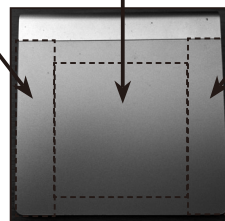
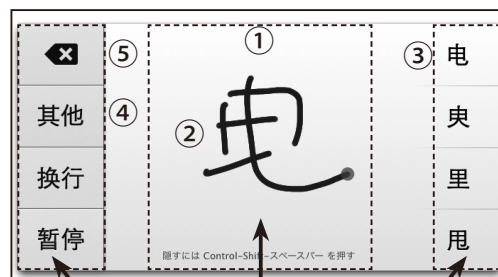


このウィンドウは、トラックパッドの位置と概ね対応している。すなわち、左下の「暂停」ボタンを押したかったら、トラックパッドの左下をタップする、という具合である。左側のボタンの機能は下表の通り。

	手書き領域をクリア
空格	半角スペースを入力（文字認識時は非表示）
其他	次の変換候補を表示（文字認識時のみ表示）
換行	改行を入力
暂停	「トラックパッド手書き認識」を一時停止（マウス操作ができるようになる）

例えば「电」という漢字を入力したい場合には、以下のように操作する。

- ①「トラックパッド手書き認識」を表示する。
- ②トラックパッドの真ん中あたりに、指で「电」と書く。
- ③右側の候補から文字を選ぶ。一番右上の候補を選ぶ場合には、トラックパッドの右上隅をタップする。
- ④右の4つに適当な候補がない場合には、左の[其他]をタップする。
- ⑤認識がうまく行かなかった場合、やり直す場合などは、トラックパッドの左上隅（相当箇所）をタップして手書き領域を消去する。



Magic Trackpad

◆ 最後に

以上、簡単ではあるが、Mac OS Xにおける中国語入力方法について概説した。Mac OS XにもWindowsと同等の中国語入力機能があることをご理解いただき、積極的に活用していただければ幸いです。

なお、本稿の執筆にあたっては、清原文代氏のサイト (<http://www.center.osaka-wu.ac.jp/~kiyohara/>) を参考にした。記して感謝申し上げます。

iPad&Android で中国語

田邊 鉄 (たなべ てつ)

◆ パソコン並みに簡単に

新しいガジェットが発売されるたびに、中国語を載せようと画策する、“デジものオタク”には、ちょっと簡単すぎて面白くないかもしれない。iPadもAndroidも、多言語表示はあたりまえ、入力もピンインや筆画はもちろん、手書きや音声まで、簡単にセットアップして使うことができる。

ここでは、iPadとAndroid端末での中国語入力環境の設定方法と、入力方法を紹介します。

◆ iPadで中国語入力を設定する

iPadは、サードパーティ製の入力システム(IME)をインストールすることができない。だが、iOSに搭載されているIMEだけでも、簡体字・繁体字の入力には差し支えない。以下、iPadで中国語を入力できるようにするための設定を示す。

①ホーム画面で「設定」をタップする。



②タップする。

③タップする。



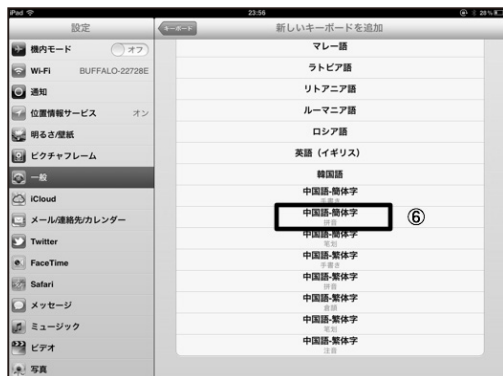
④タップする。



⑤タップする。



- ⑥追加したいキーボード (IME) を一覧から選んでタップする。ここでは「中国語—簡体字 拼音」を追加してみた。



以下、⑤～⑥を繰り返して、必要なキーボードを追加する。中国語は、簡体字と繁体字それぞれに、拼音・手書き・筆画の3種類の入力方法が用意されている。繁体字ではこれに加えて、注音入力・倉頡入力も選ぶことができる。

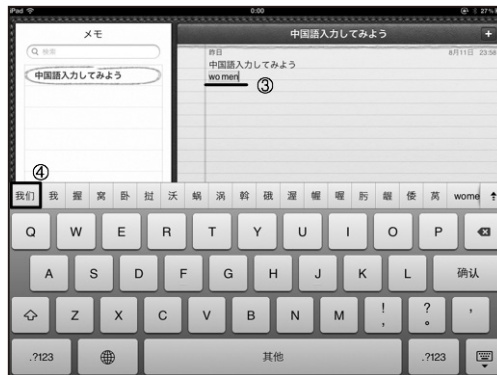
◆ iPad で中国語入力

文字を入力したいアプリを起動する (ここではメモ帳)。iPad のキーボードは、文字入力が必要とする場面で自動的に表示される。

- ①地球儀のマークを何度かタップし、中国語入力モードにする。地球儀をタップするたびにキーボードが切り替わる。
- ②この時、画面の一番下 (QWERTY キーボードの場合、スペースバーの位置) に、“简体拼音輸入”などと、そのキーボードで何を入力できるかが表示される。表示は2秒程度で消えるので注意。



- ③拼音入力では、アルファベットでピンインの綴りを入力する。
- ④自動的に候補が表示されるので、希望する語をタップすると確定・入力される。フルスペルを入力する前に、変換候補が予測表示される。「zgr → 中国人」「txm → 同学们」のように、ピンインの頭文字だけで入力できる短縮入力機能も備えている。



- ⑤手書き入力では、指やスタイラスで書き込んだ筆画が認識される。
- ⑥変換候補をタップすると、確定、入力される。



手書き入力時は、簡体字用の手書き入力で繁体字を、繁体字用の手書き入力で簡体字を書いても認識するが、挙動に違いがある。

簡体字用の手書き入力では、簡体字を書くとは簡体字が、繁体字を書くとは繁体字が候補にあがる。たとえば

- 「发」と手書き→「发」が入力される
- 「發」と手書き→「發」が入力される
- 「髮」と手書き→「髮」が入力される

といった具合である。

ところが、繁体字用の手書き入力では、繁体字

は当然そのまま入力されるが、簡体字を入力した場合には該当する繁体字の候補が表示される。

- 「发」と手書き→「發」が入力される

ただし、複数の繁体字に対応した簡体字であっても、変換候補にはひとつしか出てこない。たとえば「发」に対する変換候補として「髮」は出てこない。

◆ Android 用の中国語入力事情

Android は多言語対応されていて、中国語の表示や編集は問題なく行える。また、システム言語の変更によって、インターフェース全体を中国語に変更して使うこともできる。ただ、標準キーボードは英語 + 1 言語だけを想定しているの、言語間の切り替えが面倒だ。そのため、日本語システム上で中国語を切り替えて使う場合、サードパーティ製の IME をダウンロードして使うことがほとんどである。

Android は iPad と違い、サードパーティ製の IME を自由にインストールできる。アプリ販売ストアの Google Play にも多数の中国語 IME がラインナップされている。うれしいことに、そのほとんどが無料なので、自分の好みに合うものを探すために、気軽にインストールしてみることができる。

Android 端末は、機種やバージョンによって操作が微妙に異なる。ここでは、Android2.2 搭載の Galaxy Tab SC-01C を例として取り上げ、Android 4.0 以降での操作方法を一部補う。

なお、海外製の安価なタブレットなどで、Google Play に対応していないことがあり、本記事で紹介する IME がインストールできないことがある。

◆ Google Pinyin IME の設定

Google Pinyin IME（谷歌拼音输入法）は PC 用の IME と同様、軽さと新語への対応に提供のあ

る入力システムである。Google Play（旧 Android マーケット）からダウンロード、インストールする。ホーム画面から Google Play（またはマーケット）アイコンをタップし、「中文输入法」と入力して検索する（日本漢字でよい）。数々のアプリが表示されるので、“谷歌拼音输入法”を探してタップ、指示に従ってインストールする。

インストールしただけでは、使えるようになっていないので、日本語と切り替えながら使用できるように準備を行う。

- ①ホーム画面で設定をタップする。



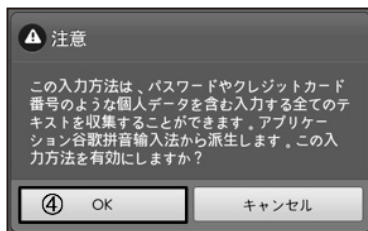
- ②タップする。



③タップする。



④セキュリティ上のリスクについて表示される。通常は OK をタップする。IME が個人情報を収集する道具として使われている、という懸念がもっともなものだったとしても、端末からの情報流出は他のルートの方がはるかに危険度は高いだろう。

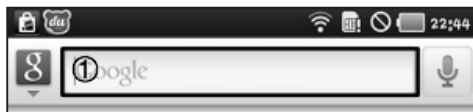


これで、Google Pinyin IME が使用できるようになった。

◆ Google Pinyin IME で中国語入力

まず、日本語入力から中国語入力へ切り替える。

①テキストを入力しようとする場所を長押しする (約 2 秒間触れ続ける)。



②タップする。



③タップして閉じる。



④QWERTY キーボードで、ピンインを入力しているところ。一番上に入力された綴りが表示され、その下に変換候補が表示されている。



変換動作が極めて軽く、スムーズに入力できる。iPad のピンイン入力同様、予測変換や短縮入力にも対応している。繁体字の入力もできるが、言語と入力の設定画面から、繁体字入力に切り替える必要があるため、簡体字と繁体字を頻繁に切り替えながら入力するような用途には向かない。普段は簡体字か繁体字、どちらか片方だけを使っている、という向きにはお勧めだ。そのほか、iPhone でなじみのフリック入力や、筆画入力、音声認識入力も使える。

◆ その他の入力システム

Google Pinyin IME と人気を二分している百度中文輸入は、多機能が売りである。入力方式では、五筆字形入力と、手書き入力が可能になっている。設定方法は、Google Pinyin IME とほぼ同じ。

常用	,	.	?	...
中文	!	,	。	：
英文				
表情	<>	'	~
网络	@	\$	+	-

図1：百度中文輸入の記号入力

インストールすると、利用開始のためのインストールアクションが自動的に起動するので、より簡単に使い始めることができるようになっているが、全てを自動設定に任せると、中国語メインで使うことになる。日本語と切り替えて使うなら、手間が大きく変わるわけではない。

ちょっと嬉しいのは、記号入力画面の、括弧入力の機能。Google Pinyin IME では、括弧は一つずつ入力するようになっているのに対して、百度中文入力では、括弧と閉じ括弧を一度に入力でき

図2：Go Keyboardのキーボード



る。それだけでなく、括弧を入力すると同時に括弧と閉じ括弧の間に、自動的にカーソルを移動してくれる。文字の選択やカーソル移動など、パソコンで容易にできることが、スマートフォンやタブレット端末では妙に面倒臭いということがある。その辺りをよくわかって作っているのだろう。

このほか、百度が提供しているクラウドサービスへのテキスト・音声・画像等のアップロード機能などもあるが、日本では必要性は薄いと思うので、解説は割愛する。

Google Pinyin IME も、百度中文輸入も、中国語を入力するには強力なツールだが、日本語との切り替え操作は、お世辞にも使いやすさとは言いがたい。iPadのように、同じキーで、自由自在に言語や入力方式を切り替えられるのとは大違いである。

iPadのように、統一されたインターフェースで次々と言語や入力方式を変えて入力したい、という場合にはGo Keyboardを使うとよい。これは、IMEの基本部分だけをインストールしておき、必要に応じて様々な言語や入力方式を、プラグインとして導入するものである。図2はピンイン入力のプラグインを使っている。手書き入力のプラグインもある。日本語ほか中国語以外の言語も揃っている。

左下の“拼”と書かれた部分をクリックすると、別の入力方式に切り替わる。個々のプラグインの性能は必ずしも高くないが、iPadの快適なキーボード切り替えに慣れているなら、試してみてもいいだろう。

② IME を使いこなす

繁体字 MS Office IME 2010 を導入する

千田 大介 (ちだ だいすけ)

◆ Windows 7 なら Office IME

Windows 7 に標準で搭載されている新注音 IME を使えば、台湾・香港などで使われている繁体字中国語を入力することができる。しかし、Office 2010 との相性が若干悪く、IME 切り替えに時間がかかるといった問題が発生することがある。また、辞書の収録語彙も若干古い。このため Office 2010 を使っているのであれば、より新しい繁体字中国語の MS Office IME 2010 を導入した方がよさそう。

◆ 繁体字中国語 MS Office IME 2010 の入手

繁体字中国語 MS Office IME 2010 は、マイクロソフト台湾のサイトから無償でダウンロードすることができる。

① <http://www.microsoft.com/zh-tw/download/details.aspx?id=3443> を開く。

② クリックする。



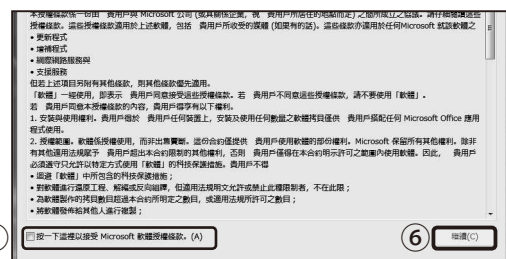
③ クリックする。



④ セキュリティ警告画面が出たら「Yes」をクリックして続行する。

⑤ クリックしてチェックする。

⑥ クリックする



⑦ クリックする。



⑧クリックしてセットアップを終了する。



MS Office IME をインストールすると、「New Phonetic 2010」（新注音）と「New Chang Jie 2010」（新倉頡）が同時に登録される。新倉頡は、漢字の字形をコード化した倉頡入力法による IME で、多くの人にとっては不要のものだろう（『電腦中国学入門』 p.23 参照）「テキストサービスと入力言語」ダイアログボックスを呼び出し、「New Chang Jie 2010」を削除しておこう。

①クリックする。

②クリックする。

③クリックして終了する。

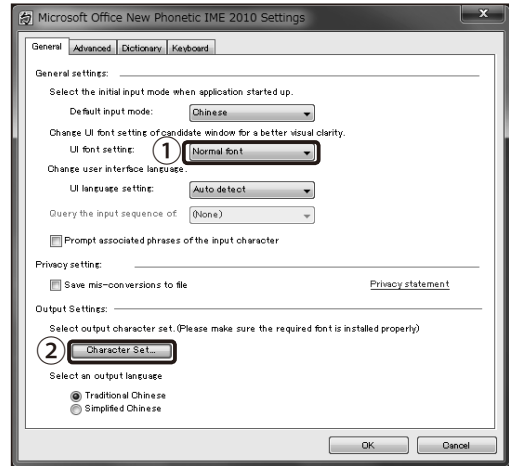


旧バージョンの IME が登録されている場合も、同様の手順で削除しよう。

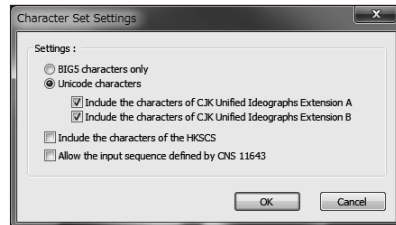
◆ IME の設定

Office IME 2010 の設定方法・項目は、新注音 IME と大差ない（『電腦中国学入門』 p.34 参照）。変換候補の表示サイズや、ローマ字によるピンイン入力などを設定しておこう。

①変換候補一覧の表示サイズを選択する。



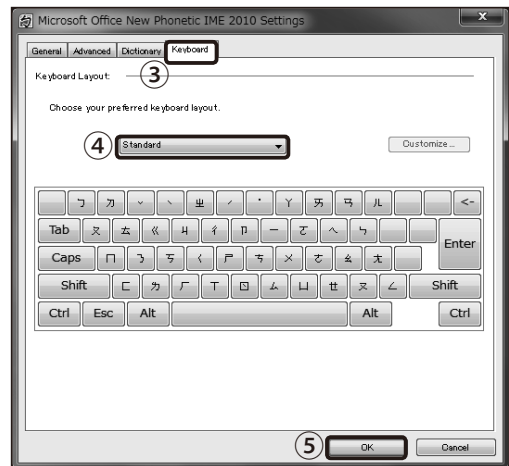
②以下のダイアログボックスが開くので、変換する漢字セットを設定する。



③クリックする。

④クリックして「Han Yu Pin yin」を選択する。

⑤クリックして終了する。



ピンイン・漢字変換のやり方や符号の入力方法などは、旧バージョンと変わらない。

ATOK で効率よく入力する

山田 崇仁 (やまだ たかひと)

◇ はじめに

老舗のIMEとしてPC-9801時代から現在に至るまで使い続けられてきたJUSTSYSTEM社のATOKシリーズは、その変換効率の高さでも定評があるが、入力を補助する機能も充実している。

本稿では最新バージョンのATOK2012を使った、効率よく入力するための補助機能である「手書き文字入力」・「単語登録」・「新しい辞書を追加する」の三つを取り上げて説明する。

◇ 手書き入力をする

読みが分からない場合、漢和辞典よりしく部首や画数から探す方法もあるが、IMEの手書き入力機能を利用した方が早い場合も多い。

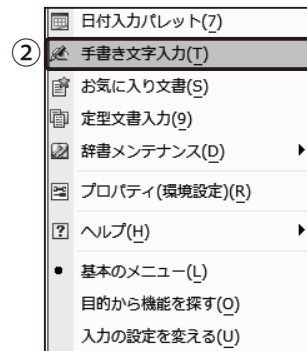
ATOKの手書き入力では、JIS X 0213 および JIS X 0212 の文字種が入力できる（漢字のみでいえば、前者に収録されるJIS第一～第四水準、後者の補助漢字が入力可能。）。

入力方法は以下の通り。ここでは「鄴」をサンプルとして採り上げる。

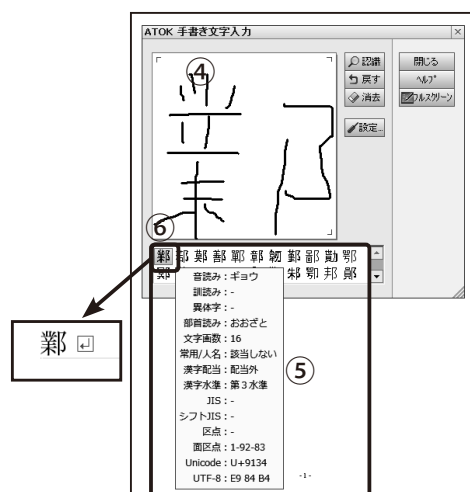
①ATOKのIMEバーから[メニュー]をクリックする。



②メニューが表示されたら、[手書き文字入力]をクリックする。



- ③手書き入力のウィンドウが表示される。
- ④マウスを使って「クリックする」→「ボタンを押したままドラッグ」→「ボタンを放す」の手順を繰り返し、文字を描画する。
- ⑤入力後、画面下のボックス（「認識一覧候補」）に認識された文字が表示される。文字にカーソルを合わせると、当該の文字の情報（読みや画数、文字コードの情報など）が表示される。
- ⑥「認識一覧候補」から目的の文字を選択してクリックすると、文字が入力される。



一画戻す場合は「戻す」を、リセットして書き直す場合は「消去」を、それぞれクリックすればよい。「フルスクリーン」をクリックすると、画面全体を入力エリアにすることができる。「設定」をクリックすると、手書き文字入力のプロパティが開き、画面の色や「認識一覧候補」の文字のフォントなどを変更することができる。

文字の認識効率は良好で、MS-IME と比べても遜色ない。ただ、手書き入力画面のインターフェイスは、MS-IME の方が使いやすいように感じる。

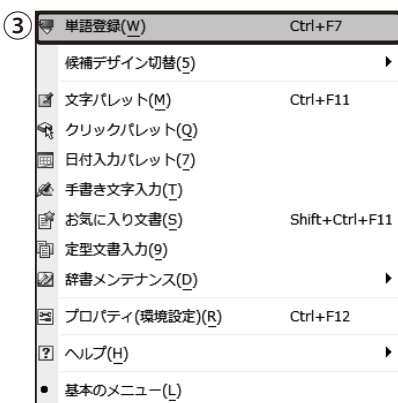
◆ 単語を登録する

通常の日本語語彙については、相当数網羅している ATOK だが、中国学など専門用語に関しては辞書に未登録のものも多い。そこで、より効率よく文書を入力するために、必要な語彙はまめに辞書に登録しておきたい。ここでは「帝嚳」を事例に説明する。

- ①登録したい文字列が文書に入力済みの場合、選択してコピーしておく（Web ブラウザに表示されている文字列も同様にコピーしておく）。
- ②ATOK のツールバーから「メニュー」をクリックする。



- ③メニューが表示されたら、「単語登録」をクリックする。



- ④「単語登録」のダイアログボックスが表示される。
- ⑤「単語」に登録したい文字列を入力する（登録可能な文字列は全角・半角問わず 100 字以内。Unicode の BMP 領域以外の文字は 2 字として計算）。①で文字列をコピー済みの場合、「単語」の部分にコピーしておいた文字列が自動的に貼り付けられる。
- ⑥「読み」に単語の読みを入力する（読みは全角・半角とわず 32 字以内。使用可能な字種は、ひらがな・カタカナ・一部の記号・アルファベットのみ）。
- ⑦「品詞」で適切な品詞を選択する。「帝嚳」は人名なので、「固有人名」を選択した。
- ⑧辞書セットを選択する。ここでは「標準辞書セット」を選択した。
- ⑨「OK」をクリックすると登録される。



通常の単語登録作業では、⑨が終わるとウィンドウが閉じるが、上記ダイアログボックス左下の「連続登録」をクリックすることで、連続して単語を登録することができる（その際、⑨の「OK」ボタンが「登録」に変化する）。

◆ 新しい辞書を組み込む

ATOK では、単語を登録する以外にも、既存の辞書を複数組み合わせた「辞書セット」を構築することができる。また、「辞書セット」は複数作成することができるため、状況に応じて辞書群を使い分けることもできる。

筆者は基本的な単語群は「標準辞書セット」に

セットし、特殊な語彙（書籍の編名や年号⇄西暦など）は専用の辞書セットを別途用意して運用している。

ここでは、新規辞書セットを作成して辞書を追加するやり方を説明する。辞書は、筆者が作成し、ネット上でも公開している「中国史用 ATOK 辞書シリーズ」の中から「元号西暦共通辞書」・「西暦元号共通辞書」の2つを利用した^[1]。

これらの辞書は、前者が中国王朝の「元号の読み+全角算用数字」を入力して変換すると該当する西暦年号が、後者は「全角の算用数字」を入力して変換すると元号が変換候補として表示する辞書である。いずれも ATOK2007 以降のバージョンで共通に使える辞書ファイル形式のため、少し古いバージョンの ATOK でも問題なく使用できる。

拙作以外にも、開発元の JUSTSYSTEM から追加用の専門用語辞書が販売され、ネット上でも VECTOR の ATOK カテゴリのように ATOK の辞書が多数登録されている Web サイトがあるので、併せてそれらも参照されたし^[2]。

①ダウンロードした圧縮ファイルを解凍し、辞書ファイルはフォルダを作ってそこに置いておく。ここでは C ドライブ直下に「ATOK 辞書」を作成し、「元号西暦共通.dic」・「西暦元号共通.dic」の二つの辞書を置いた。

②ATOK のツールバーから [メニュー] をクリックする。



①

③メニューが表示されたら、[プロパティ（環境設定）] をクリックする。



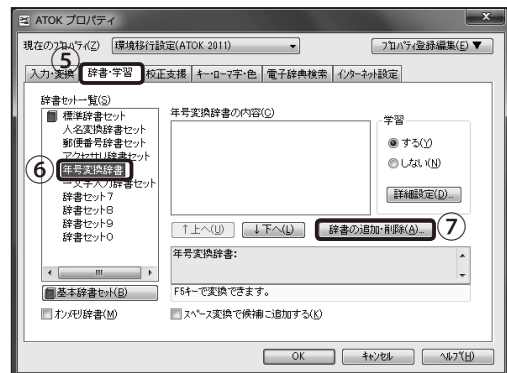
③

④[ATOK プロパティ] が表示される。

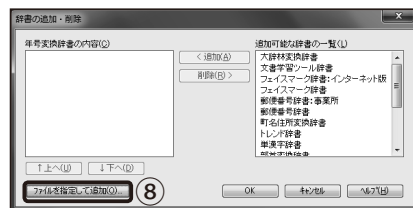
⑤[辞書・学習] のタブをクリックして画面を切り替える。

⑥[辞書セット一覧] から任意の辞書セットを選択する。その際、セット名をダブルクリックすることでセット名の変更ができる。ここでは「年号変換辞書」とした。

⑦[辞書の追加・削除] をクリックする。



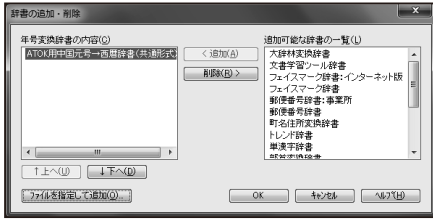
⑧[辞書の追加・削除] のダイアログボックスが表示されたら、[ファイルを指定して追加] をクリックする。



⑨ファイルの選択画面が表示されたら、先ほど辞書を保存したフォルダ（ここでは「C:\ATOK 辞書」）を選択し、辞書を選択して [開く] をクリックする。

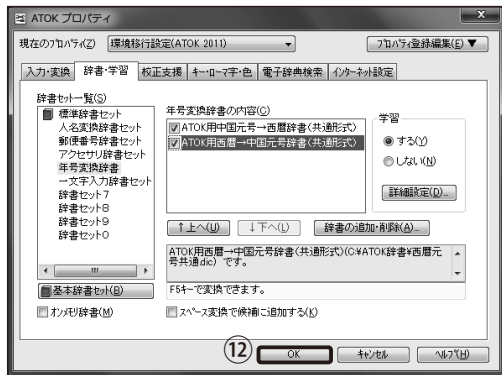


⑩辞書セットに辞書が追加された。



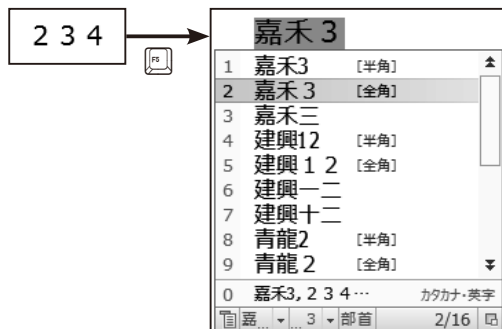
⑪⑧～⑩を必要なだけ繰り返す。1つの辞書セットには、10個まで辞書を追加できる。

⑫辞書を追加したら[OK]をクリックして、[ATOKプロパティ]に戻り、[OK]をクリックする。



これで辞書セットが作成された。

各辞書セット毎にファンクションキーが割り当てられているので(「年号変換辞書」セットは[F5]),「読みを入力」→「該当するファンクションキーを押す」ことで、辞書セットを切り替えることができる。後は目的の単語を選択して確定すればよい。



◇ おわりに

以上、ATOK での手書き入力・単語登録・辞書セットの作成について説明をした。その他にも ATOK では、「単語登録ファイルを作成して一括登録」や「単語にコメント機能を付ける」機能、さらには単語間のつながりを登録する「AI 辞書」などを登録することができる。ATOK の機能を使い倒して、より快適な入力生活を送りたいものである。

注

[1] 拙作「ATOK 用中国史シリーズ」は、以下の URL で公開している。

<http://www.shuiren.org/dic/index-j.html>

[2] JUSTSYSTEM 社の ATOK 関連サイト。

<http://www.atok.com/index.html>

VECTOR の ATOK 用辞書のカテゴリ。

<http://www.vector.co.jp/vpack/filearea/data/writing/dic/atok/>

③ 文書作成のテクニック

タブとインデントを使いこなす

千田 大介 (ちだ だいすけ)

◆ タブ機能を使いこなす

タブとは、行頭から、あるいは文字列の後から指定した位置までを空白にする機能だ。

2012/08/24	→	本日の議題	→	漢情研事務局
年度	→	普及率	→	販売数
2008	→	38.14	→	4701
2009	→	67.74	→	8349
2010	→	88.76	→	10940
2011	→	100	→	12825

上図のような、左・中央・右揃え、小数点揃えなどをスペースで表現しようとしても、どうしてもぴったりと揃えることができない。そうしたきめ細かい文字揃えを実現するのがタブ機能だ。

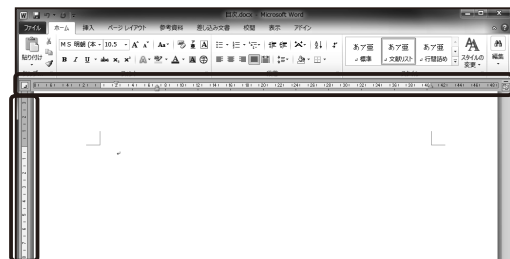
◎ タブ設定の基本

タブを使う際には、まずルーラーを表示しておく。

①「ルーラー」 ボタンをクリックする。



②ルーラーが表示される。



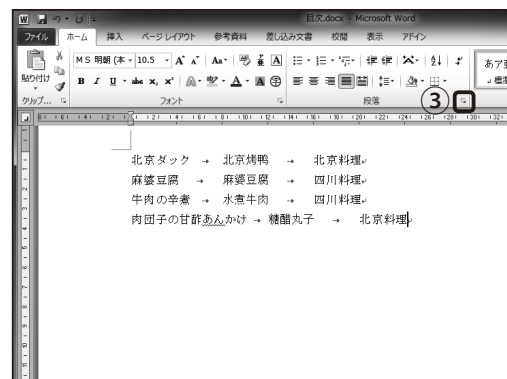
ルーラーは用紙の縦・横を計る物差しで、数字は左からの文字数、上からの行数を示す。

次にタブを入力・設定しよう。

①各項目をタブで区切りながら (⇧⇧) を押す) 入力する。標準設定では文字列の位置が揃わない。

②タブを設定する段落を全て選択する。

③「ホーム」リボン「段落」タブ右下の四角をクリック



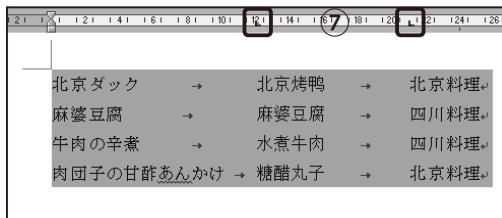
クする。



- ④「タブ設定」ボタンをクリックする。
- ⑤ルーラー上の数値（文字数）を参照しつつ、「タブ位置」に何文字目にタブを設定するか入力し、「設定」をクリックする。
- ⑥「OK」をクリックしてタブ設定ダイアログボックスを閉じる。



- ⑦ルーラーにタブのマーカーが表示され、タブの後の項目の位置が揃う。



タブの後の文字の揃え方は、いくつか種類があり、「タブとリーダー」ダイアログボックスで、前述⑤の手順の際に「配置」を選ぶことで設定できる。



- 左揃え： 文字列の左端が揃う
- 中央揃え： 文字列の中央が揃う
- 右揃え： 文字列の右端が揃う
- 小数点揃え：数値の小数点位置が揃う
- 縦線： 設定した位置に縦線をひく

下の例は、一行目が中央揃え・右揃えを併用、後のリストは、中央の列が小数点揃え、右の列が右揃えのタブをそれぞれ使っている。

2012/08/24	本日の議題		漢学研事務局
年度	普及率	販売数	
2008	→ 38.14	→ 4701	
2009	→ 67.74	→ 8340	
2010	→ 88.76	→ 10940	
2011	→ 100	→ 12325	

リーダーを設定すると、タブの位置までの空白部分に線や点線を入れることができる。下の例では、右揃えタブにリーダーを設定している。

『三国志演義』	25人
『水滸伝』	13人
『西遊記』	8人

◇ インデントを使いこなす

インデントは、段落の字下げを設定する機能だ。リボンの「インデントを増やす」「インデントを減らす」ボタンからインデントを設定する基本的

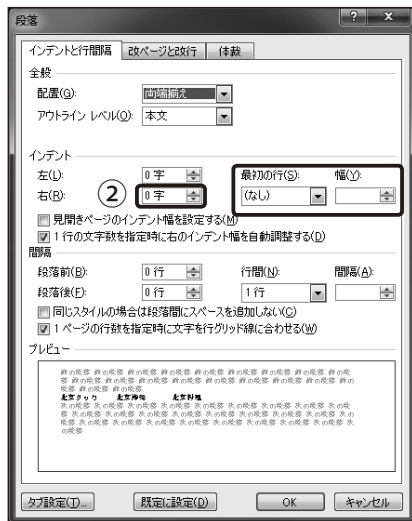
な方法については、『電脳中国学』p.50 で解説しているのですが、以下ではインデントのより高度な使い方について解説する。

インデントを設定できるのは、段落の左だけではない。右側にも設定できる。

- ①「ホーム」リボン「段落」タブ右下の四角をクリックする。

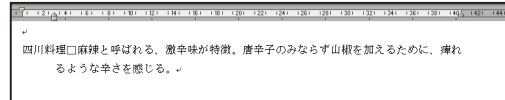


- ②「インデント」以下の「右」の文字数を設定すると、文字列の右側が設定した文字数分、空白になる。



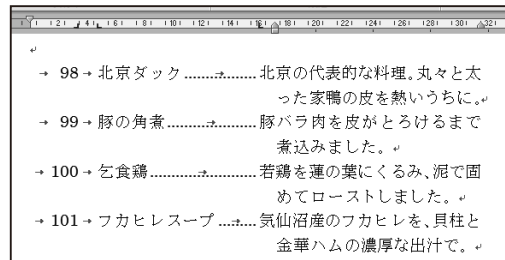
段落の初めの行だけを字下げにする、あるいは逆に2行目以降だけを字下げにしたいときがある。そんな時には、インデントの「字下げ」「ぶら下げ」を活用しよう。「最初の行」で「字下げ」「ぶら下げ」を選べばよい(左下図参照)。

例では、3字のぶら下げに設定している。



◎ タブとインデントの応用

以下は、タブとインデントを併用した例だ。



文書を美しく整えるために、タブとインデントを使いこなしてほしい。

アウトラインと ナビゲーションウィンドウ

千田 大介 (ちだ だいすけ)

◆ 文書の全体像を把握する

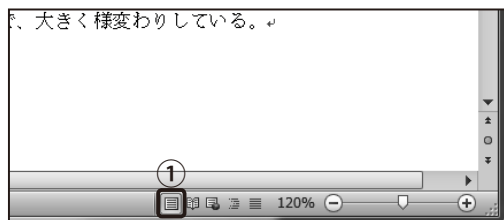
論文・レポートでは、全体の構成やバランスが大切になる。このため、執筆前には全体の章立てを考えなくてはならないし、執筆中も折に触れて全体像を俯瞰しなくてはならない。執筆の過程で、章や節の順番を入れ替えたり、あるいは大幅に削除したりする必要が生ずることもある。

こうしたときに便利なのが、Wordのアウトライン表示やナビゲーションウィンドウだ。ただしこれらの機能を使うには、本文中の章や節などの見出しをスタイル機能で設定しておかなくてはならない。まず『電腦中国学入門』p.46以下を参照して、そのやり方を身につけておいていただきたい。

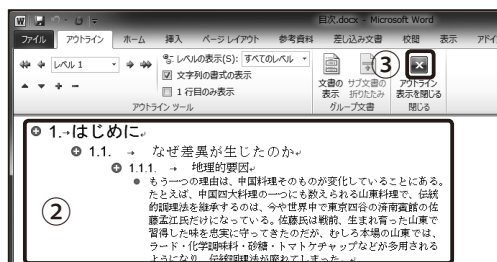
◆ アウトライン表示を使う

アウトライン表示は、文章の章立てや構成を考えるのに適した画面表示モードだ。Wordのウィンドウ右下のアイコンをクリックして切り替える。

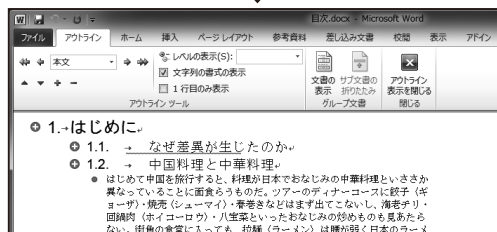
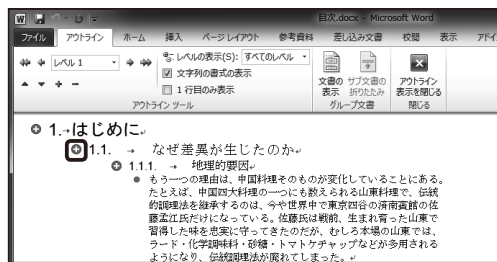
①アウトラインボタンをクリックする。



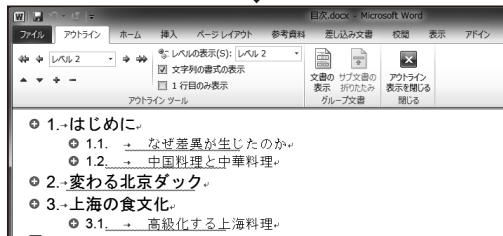
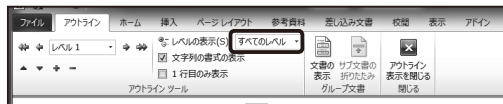
- ②アウトライン表示に切り替わる。
- ③クリックしてアウトライン表示を終了する。



アウトライン表示では、スタイルを設定した見出しのランクに従って、文章が階層構造で表示される。このとき、各見出し冒頭の「+」をダブルクリックすると、そのセクションを折りたたむことができる。

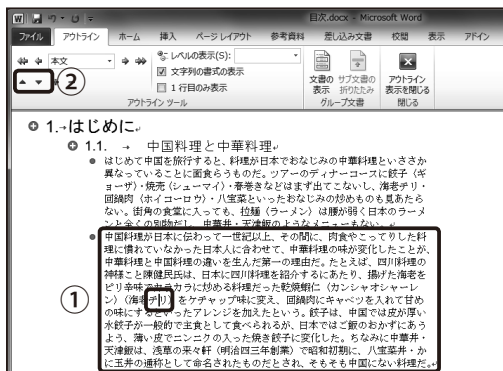


また「アウトライン」リボンの「レベルの表示」で、ある見出しレベル以下をまとめて折りたたむこともできる。

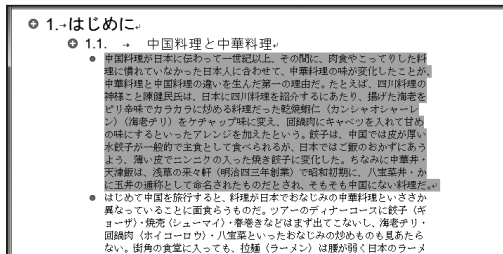


論文の構想を練ったり、執筆中の論文・レポートの全体構成を見直したりする時に便利な機能だ。アウトライン表示では、段落や章・節などのセクションを丸ごと移動させることができる。

- ①移動させるセクションにカーソルを置く。
- ②▲▼をクリックする。

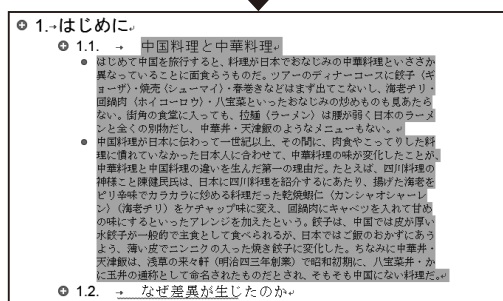
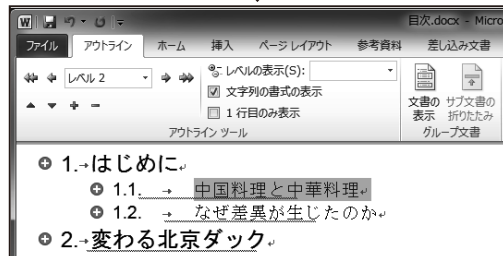
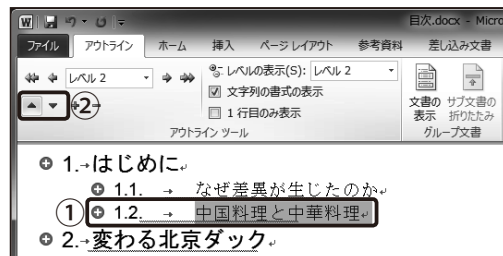


- ③セクションが移動する。



セクションを折りたたんでおくと、折りたたまれた部分を丸ごと移動させることができる。

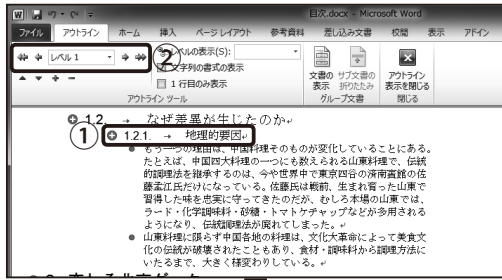
- ①折りたたんだセクションにカーソルを置く。
- ②▲▼をクリックする。



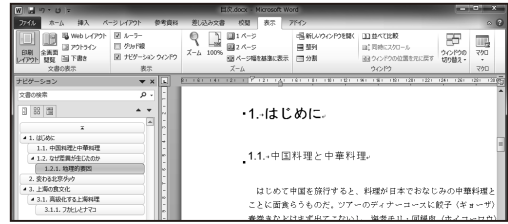
セクションを展開すると、下位見出しや段落、さらには画像・注釈などもまとめて移動してははずだ。

見出しレベルの変更もできる。

- ①変更する見出しにカーソルを置く。
- ②◀▶をクリックして見出しレベルを変更する。

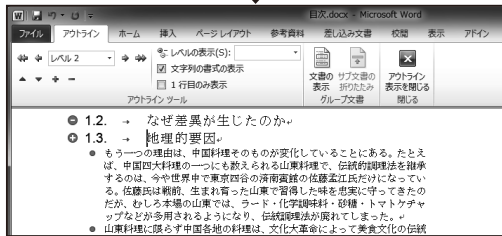


②ナビゲーションウィンドウが表示される。

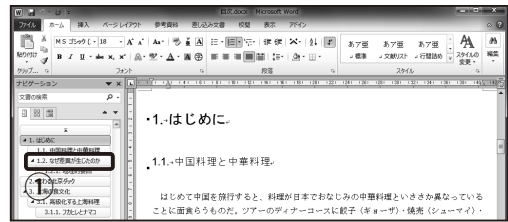


◎ ナビゲーションウィンドウの機能

ナビゲーションウィンドウの各見出し項目をクリックすると、その箇所へジャンプする。



①クリックする。



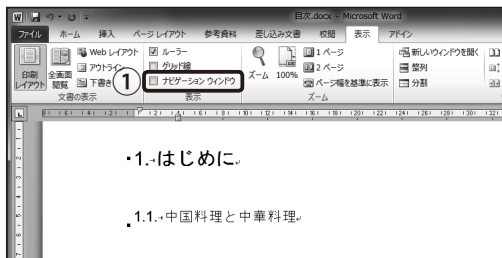
◇ ナビゲーションウィンドウを使う

ナビゲーションウィンドウは Word 2010 で新たに追加された機能だ。これもスタイル機能で見出しを設定していないと「この文書には見出しがありません」としか表示されないの、手を触れていない人が大半なのではなからうか。

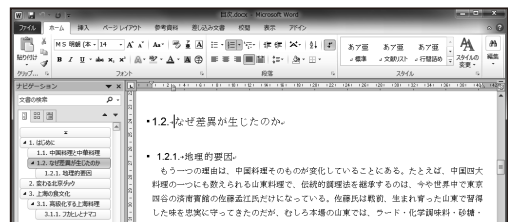
ナビゲーションウィンドウでは、印刷レイアウト表示や下書き表示したままで、文書全体の構成を参照する、セクション・見出しを移動させるといったアウトライン表示と同様の処理ができるほか、文書を検索して検索語のヒット箇所を一覧表示するといった機能もある。

◎ ナビゲーションウィンドウを表示する

①「表示」リボンの「ナビゲーションウィンドウ」をチェックする。

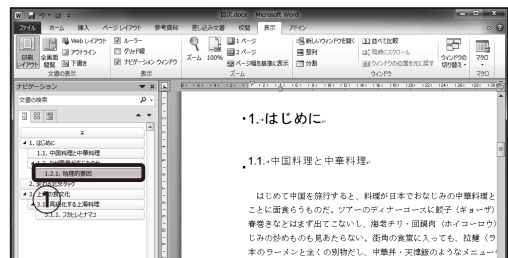


②クリックした見出しの箇所へ移動する。

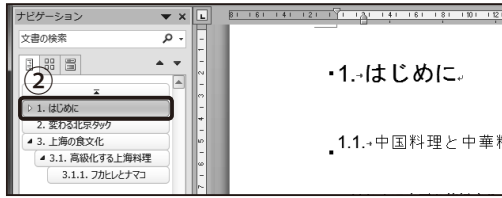


先頭に「▲」「▷」が表示されている項目上でダブルクリックすると、下位の小見出しを折りたたんだり展開したりできる。

①折りたたむ項目上でダブルクリックする。

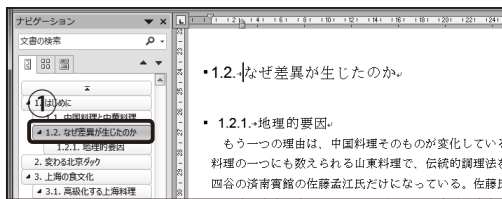


②見出しが折りたたまれる。

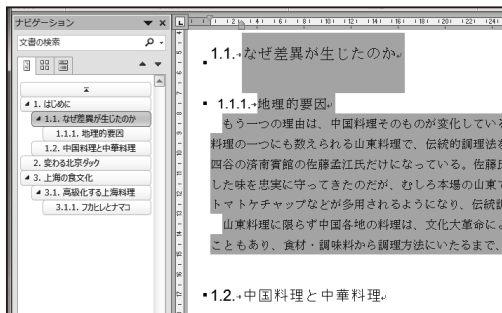


各項目をドラッグすると、そのセクションをまとめて移動させることができる。

①移動する項目をドラッグする。



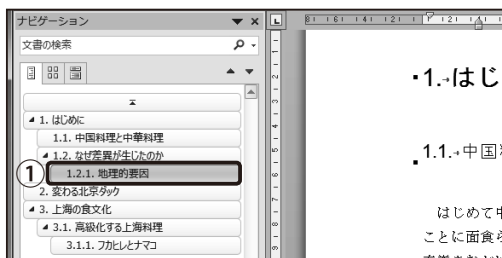
②ドラッグした箇所にセクションが移動する。



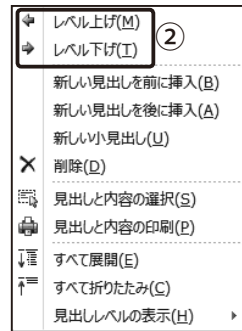
上の例のように、親見出しをドラッグすると、その下にぶら下がっている子見出し・段落などもまとめて移動する。ただし、見出し・段落といった個々の要素のみを移動させることはできない。

見出しのレベルを変更することもできる。

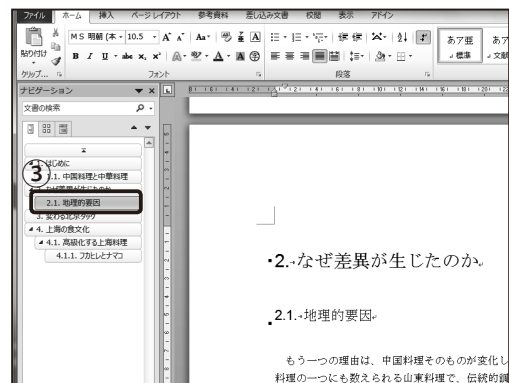
①変更する項目上で右クリックする。



②右クリックメニューの「レベル上げ」「レベル下げ」をクリックして見出しレベルを変更する。



③見出しのレベルが変わる。



親項目のレベルを変えると子項目のレベルも自動で変更される。

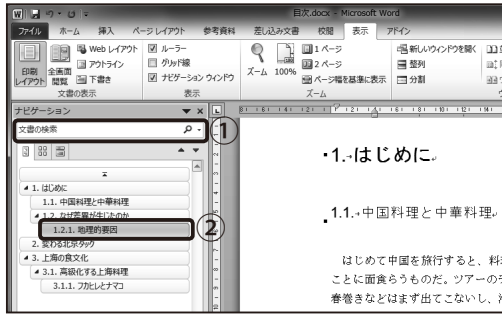
このほか、ナビゲーションウィンドウの右クリックメニューからは、見出しの挿入・セクションの削除・表示見出しレベルの設定といった、アウトライン表示と同じ処理を行うことができる。

◎ ナビゲーションウィンドウの検索機能

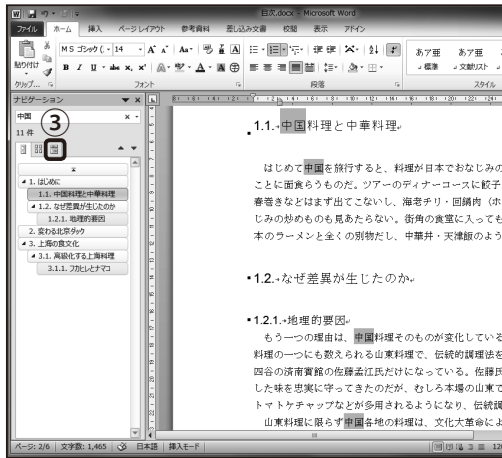
Wordの検索機能は、ナビゲーションウィンドウの追加とともに大きく変わった。従来、検索ボタンをクリックすると、検索ダイアログボックスが表示されたが、Word 2010 ではナビゲーションウィンドウが表示され、上部の「文書の検索」ボックスに検索語を入力して全文検索することになる。

①検索語を入力し  を押す。

②検索語の所在セクションが強調表示される。

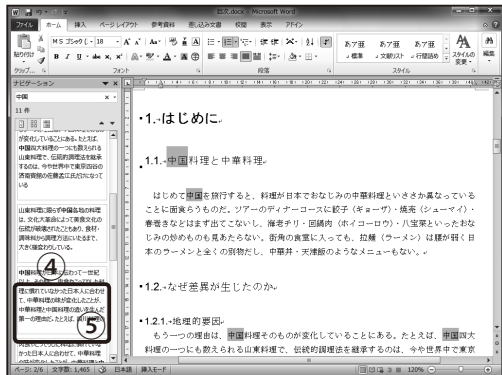


③ クリックする。

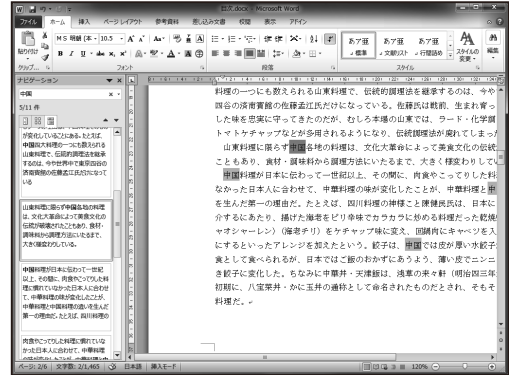


④ 検索語を含む段落が一覧表示される。

⑤ クリックする。



⑥ クリックした文にジャンプする。



図からもわかるように、ナビゲーションウィンドウの検索では本文中の検索語がハイライト表示されるので、語句の所在箇所を簡単に見つけることができる。

以上のように、アウトライン表示やナビゲーションウィンドウは論文・レポートの執筆・推敲に大変便利な機能であるが、それらを使いこなす基礎となるのがスタイル機能による見出しの設定である。スタイル機能はWord使いこなしの第一歩なのである。

Word のコメント機能と変更履歴

千田 大介 (ちだ だいすけ)

◆ 手を入れた文書をやりとりする

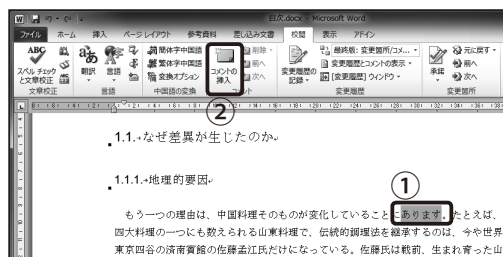
グループワーク授業や共同研究の論文・レポートの共同執筆、また論文・レポートの添削といったケースでは、コメントを入れたり、書き換え箇所がわかるように手を入れたりした文書をやりとりする必要がある。そういった時には Word のコメント機能・変更履歴機能が便利だ。

◎ 文書にコメントを付ける

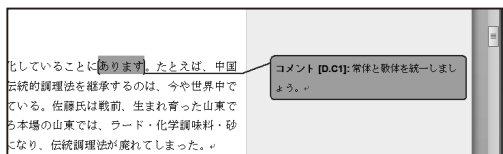
コメント機能のボタンは「校閲」リボンにある。

①コメントを付けたい文字列を選択する。

②「コメントの挿入」ボタンをクリックする。



③コメントの吹き出しにコメントを入力する。



コメントの吹き出しには、MS Office を初めに使うときに設定したイニシャルが入り、誰のコメントなのかわかるようになっている。

◎ 文書を明示的に変更する

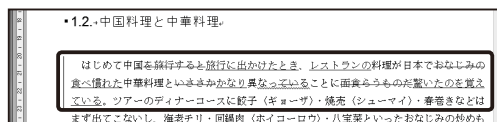
文書を添削したりグループで執筆したりする場合、誰がどのように文章を改めたのかわかると、問題点や責任の所在がはっきりするので都合がよい。Word では「変更履歴」機能を使うことで、誰がどのように文章を改めたのかを記録することができる。

変更履歴機能も、「校閲」リボンで設定する。

①「変更履歴の記録」ボタンをクリックする。



②文章を書き換えると、削除・書き換えた箇所が記録される。



「更新履歴の記録」ボタンの背景が黄色くなった ON の状態になっている間、延々と更新箇所が記録されていく。記録を終了するには「更新履歴の記録」ボタンを再度クリックすればよい。

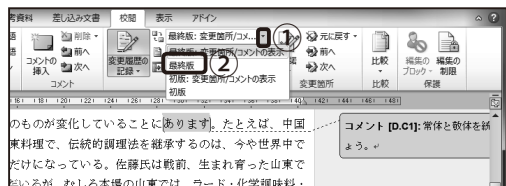
◎ コメント・変更履歴を非表示にする

コメントや変更履歴の入った文書をそのまま印刷すると、コメントや履歴まで印刷されてしまい、見づらいことこの上ないし、そのままでは最終稿とすることもできない。

そんなときには、コメント・編集履歴を非表示

に設定すればよい。

- ①「最終版：変更箇所 / コメントの表示▼」と書いてある箇所をクリックする。
- ②「最終版」をクリックする。



- ③コメント・変更履歴が非表示になる。

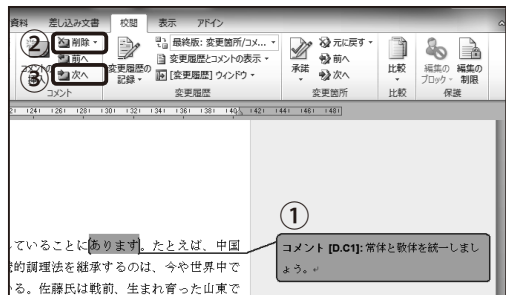


同じ手順で「最終版：変更箇所 / コメントの表示」を選べば、元通りコメント・変更履歴が表示される。「初版」を選ぶと、変更前の状態が表示される。

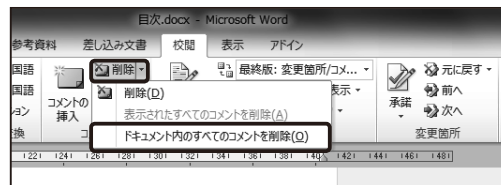
◎ コメントの削除

コメントが溜まっていくと、読みづらいエラーの原因となることもある。このため、最終版が確定したときだけでなく、添削・推敲を繰り返している途中でも、適宜、不要になったコメントを削除した方がよい。

- ①コメントをクリックする。
- ②「削除」をクリックする。
- ③「次へ」をクリックして次のコメントに移動する。



全てのコメントをまとめて削除するには、「削除」ボタンの右の「▼」をクリックし「ドキュメント内の全てのコメントを削除」をクリックする。

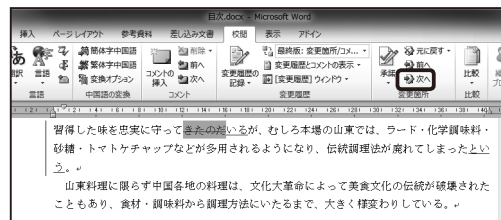


◎ 変更箇所の確定

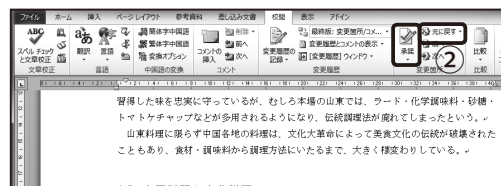
変更履歴もコメントと同様に、最終版が確定したときだけでなく、推敲中も適宜変更箇所を確定するようにしよう。

文書の変更箇所をその通りに書き換えるか、元通りにするかは、以下の手順で確定していく。

- ①「次へ」をクリックする。



- ②変更された文言を採用する場合は「承諾」をクリックする。変更前のままにする場合は「元にもどす」をクリックする。



全ての変更履歴について、以上の作業を繰り返す。また、「承諾」ボタン下の「▼」をクリックして「ドキュメント内の全ての変更を反映」をクリックすると、全ての変更箇所がまとめて承諾される。

一太郎の異体字変換機能

山田 崇仁 (やまだ たかひと)

◇ はじめに

一太郎では、既にバージョン 2008 から VS (Variation Selector: 異体字セレクタ) を含む異体字変換に対応していたが、入力にやや手間がかかっていた。しかし最新の「一太郎 2012 承」では、ツールパレットの [文字] を利用することで、簡単に異体字変換機能を利用できるようになった。

本稿では「一太郎 2012 承」の [基本編集ツールパレット] → [文字] の [異体字] 機能を使って、「辻」を「辻」に「葛」を「葛」にそれぞれ変換してみた。

◇ 異体字に変換する

- ①まず、異体字に変換する文字列を選択する。
- ②ウインドウ右側にツールパレットが表示されていない場合は、右端の◀をクリックして表示する。



- ③次に、[文字] をクリックして [文字] パレットを表示する (表示されている場合は、そのままでもよい)。
- ④ [異体字] をクリックして画面を切り替える。



- ⑤異体字が表示されるので、「目的の異体字をクリック」→ [置換] をクリック、もしくは異体字をダブルクリックすると異体字に置換される。
- ⑥プルダウンリスト選択することで入力フォントを切り替えられる (ここでは「一太郎 2012 承」付属の「ヒラギノ明朝 ProN W3」を指定)。
- ⑦同様に「葛」を「葛」に変換する。



⑦ 葛飾区・葛城市

[異体字] 機能で変換可能な異体字は、VS 以外にも JIS X 0213 収録字の中で新字・旧字関係にある文字も含まれる。それぞれの異体字は特に明区別して表示されないため、一太郎以外の文書形式で保存しようとする場合には、注意が必要となる。例えば、一太郎形式や PDF 形式での保存は問題ないが、EPUB 形式の場合は VS 相当字は画像として保存され、HTML 形式で保存した場合には、VS 相当字は親字に変換されて保存される。

一太郎で訓点付き漢文を作成する

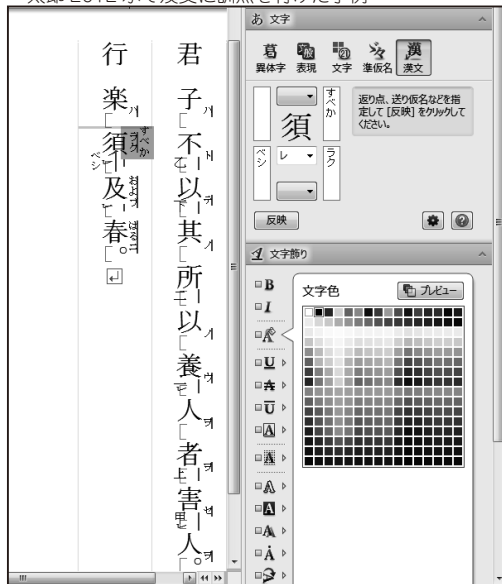
山田 崇仁 (やまだ たかひと)

◇ はじめに

我が国で、伝統的な漢字文献読書法として、「ふりがな」・「送り仮名」や「返り点」などの訓点を付けて日本語として読み下す手法を用いてきた。現在はデータ形式での入稿が主流となったため、原稿に訓点を入れる機会も少なくなったが、漢文読解の授業などでは、以前訓点も必要となる。

『電腦中国学入門』pp.52-53では、Microsoft Wordで白文に訓点を付ける方法を解説している。対して一太郎2012承(以下「一太郎」と略す)では、新規に追加された[文字パレット]の[漢文]機能を使うことで、簡単に訓点が入力できる。本稿では、この機能の使い方を説明する。

一太郎2012承で漢文に訓点を付けた事例



◎ 訓点を振る前にすること

一太郎を使って漢文に訓点を付ける前に、二つほど注意する点がある。

一つ目は訓点の大きさである。一太郎の漢文訓点機能では、初期設定で(訓点を付ける対象の字である)親字に対し、訓点のサイズがふりがな・送り仮名は40%、返り点は50%となる。そのため、親字の文字サイズによっては、訓点字が読めない大きさになってしまうため、親字はある程度大きめにしておく方がよい。

二つ目は、1ページあたりの文字数と行数である。訓点が前後の文字や行と重ならないように、行間や字間を少し広めに設定しておこう。

本稿では、A4 横向き・1ページあたり15行×10行・文字サイズを24ポイント(訓点は12ポイントで振られる)・フォントは日本語・英語ともにヒラギノ明朝 ProN W3で設定してある。

◇ 訓点を付ける

白文はあらかじめ入力しておくか、他のソース(ネット・データベースなど)からコピーして、メニューの[編集]→[貼り付け]を選択して、一太郎に貼り付けておく。

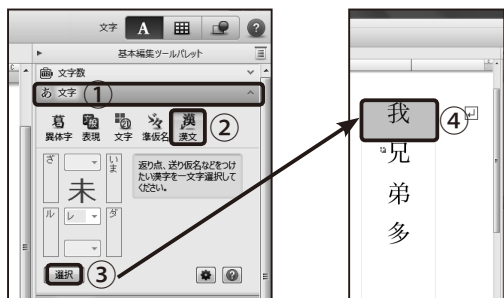
◎ ふりがな・送り仮名を入力する

「ふりがな」・「送り仮名」・「返り点」は、ツールパレットの[文字]→[漢文]で設定する。

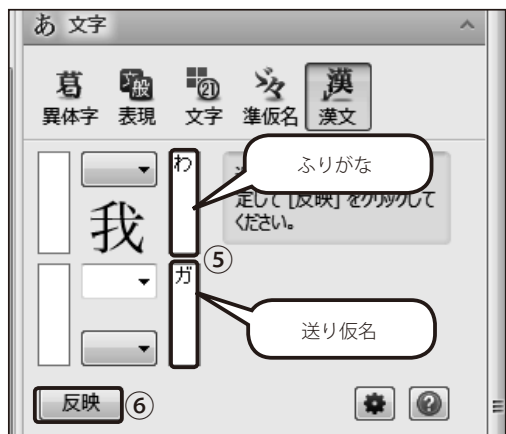
まずは、送り仮名から入力してみよう。

① ツールパレットから[文字]を表示する。

- ②[漢文] をクリックする。
- ③訓点をつける文字の直前にカーソルを移動し、[漢文] の [選択] をクリックする。
- ④文字が選択される。



- ⑤[漢文] には複数の入力・選択箇所があるが、ふりがなは右上・送り仮名は右下のボックスにそれぞれ入力する（ふりがなはひらがな・送り仮名はカタカナで自動的に入力される）。
- ⑥入力後 [反映] をクリックすると、指定したふりがな・送り仮名が反映される。



◎ タブ文字の位置の調整

右図のように、送り仮名を振った際、一行当たりの文字数・親字のサイズ・送り仮名の文字の長さなどとの関係で、次の親字との間にタブ文字が自動的に挿入される場合がある。その際、タブ文字の幅の設定によっては、右図のように文字列の配列が不自然になってしまうことがある。



それを解消するためには、タブ文字の幅を適切なサイズに設定し直す必要がある。

- ①メニューの [書式] → [インデント/タブ] → [タブ位置設定] をクリックする。
- ②ダイアログボックスが表示されたら [変更] をクリックする。



- ③タブ文字の幅を設定する。ここでは「1 カラム (半角 1 字幅)」に設定した ([C] (単位切り替えボタン) をクリックすることで [カラム]・[ミリメートル]・[インチ]・[ポイント] の4つの単位系を選択することが可能)。
- ④ [OK] をクリックする。



- ⑤ [OK] をクリックする。



これで、タブ文字の幅が設定通りに変更される。本稿では上述のように 1 カラムを選択したが、当然この値は文書の文字サイズや 1 行あたりの文字数によって異なるので、適切な値を適宜設定する必要がある。

◎ 括弧・句読点の付け方

[漢文] を使用した場合、句読点やカギ括弧の約物が、送り仮名や返り点より下に配置される。そのままでも問題ない場合はそれでよいが、字間を詰めたい場合には、[漢文] のプルダウンリストから必要な約物を選択することで、送り仮名や返り点の近くに配置することができる。

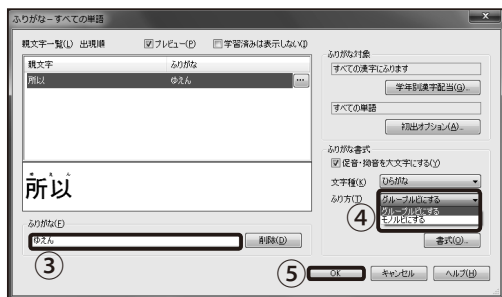
また、連続する二字以上を上から順番に読むことを指示する「|」記号は、このリストの最上部に配置される。



◎ グループルビの付け方

「漢文」機能は親字一字単位で処理するので、「所以」「庶幾う」のような複数字に一括してふりがなを振るグループルビには対応していない。グループルビを振りたい場合は、通常のふりがな機能を利用する必要がある。

- ①ふりがなを振りたい文字列を選択する
- ②メニューの「書式」→「ふりがな」→「1 単語の設定/変更」をクリックする。
- ③ダイアログボックスが表示されたら、「ふりがな」にふりがなを入力する。
- ④「ふり方」のプルダウンリストの▼をクリックし、「グループルビにする」を選択する。
- ⑤「OK」をクリックする。

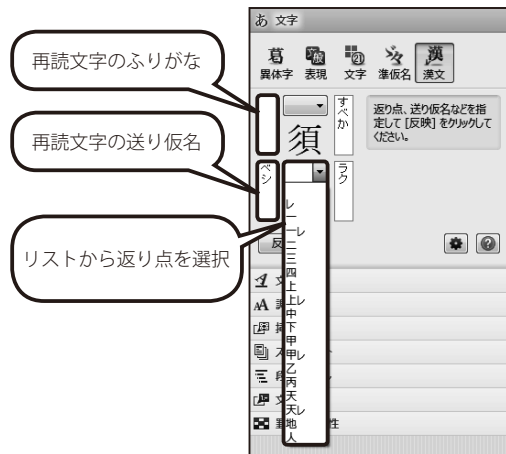


◎ 返り点を入力する

返り点の入力方法もふりがな・送り仮名と同じなので、詳しい説明は省略する。

返り点は[中央の列]→[中央のプルダウンリストから選択]、再読文字のふりがなは左上・送り仮名は左下にそれぞれ入力すればよい。

返り点は使用頻度の高いレ点や一二点の他に、ㄱ点やㄷ点といった複数の返り点の組み合わせや、甲乙丙丁天地人まで使えるので、よほどのことがない限り種類が足りないことはないだろう。




◎ リストに無い返り点を付ける

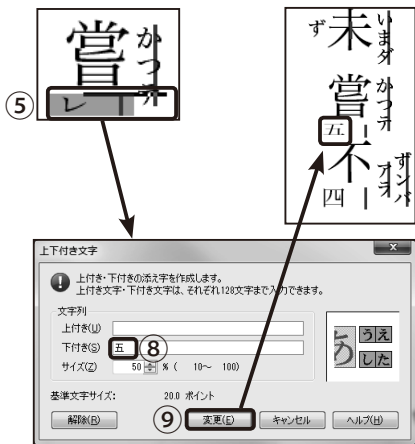
上述のように一太郎の「漢文」機能では、豊富な返り点のリストが選択できるが、一二点の五以上など、リストに存在しないものもある。その場合、裏技を利用することで入力が可能となる。

- ①返り点を入力する親字の直前にカーソルを移動し、文字パレットの「漢文」から「選択」をクリックする。
- ②親字選択後、よみがな・送り仮名などを入力する。
- ③返り点リストから適当な返り点（レ点など）を選択する。
- ④「反映」をクリックする。



ここまでは通常の入力方法だが、ここからが裏技となる。

- ⑤親字の前後でカーソルを動かし、先程作成した送り点が反転表示される所で止める。
- ⑥ をクリックする。
- ⑦[上下付き文字] のダイアログボックスが表示される。
- ⑧[下付き] のボックスに先程入力した送り点が入力されているのを確認したら、その字を削除して、正しい送り点「五」を入力する。
- ⑨[OK] をクリックする。



これで、通常ならば選択できない送り点「五」も入力できる。

◎ 訓点を訂正する

訓点を訂正する場合には、以下の手順で行う。

- ①訂正したい親字の直前にカーソルを移動し、文字パレットの [漢文] から [選択] をクリック

する。

- ②[漢文] に親字が表示されるので、必要な訂正を行い [反映] をクリックする。

◎ 訓点のカスタマイズ

訓点については、文字パレットのオプション(歯車アイコンをクリックすると表示)で、「送り仮名や戻り点のサイズ」「親字との距離」などの様々な設定をすることができる。



◎ 特殊な振り仮名と送り点の振り方

「^{ゆえん}所以」とふりがなを振り、なおかつ「所」と「以」の間に「|」と送り点「二」を付けたい場合は以下のようにすればよい。

- ①「所」の直前にカーソルを移動し、文字パレットの [漢文] から [選択] をクリックする。
- ②「ゆ」とふりがなを付ける。
- ③中央真ん中のリストから送り点「二」を選択して [反映] をクリックする。
- ④中央下の約物のリストから「|」を選択する。



⑤同様に「以」を選択し、[ふりがな]に「ん」を入力して、[反映]をクリックする。

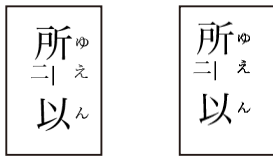


ここまでの段階で、左図のようになっているはずである。
ここから裏技を利用して送り点の横に「え」とふりがなを付ける。

- ⑥送り点の部分（「二」）を選択する。
- ⑦[文書編集]をクリックしてパレットを展開する。
- ⑧[ルビ]をクリックする。
- ⑨[ふりがな]に「え」と入力する。
- ⑩[モノルビ（一文字ごと）]を選択する。
- ⑪[反映]をクリックする。



⑪「二」の横に「え」が表示される。



但し、この方法だと、「ゆ」「ん」と「え」の振り仮名の文字サイズや親字からの距離が微妙に異なるので、ふりがなの[設定]で微調整を行う必要がある（修正前→左上図 修正後→上右図）。

◇ 書き下し文から訓点付き漢文を復元する

一太郎では、白文に訓点を付けるだけでなく、書き下し文から訓点付き漢文に戻す「復文」的な作業を行うこともできる（復文）。ただしこの機能では、漢文の本来の語順には自動的に復元してはくれないので、手作業で正しい語順に並べ替える必要がある。

①書き下し文の文章を、文字列の選択→[切り取り]→[貼り付け]を繰り返して元の漢文の語順に直す。その際、送り仮名部分も一緒に移動すること。



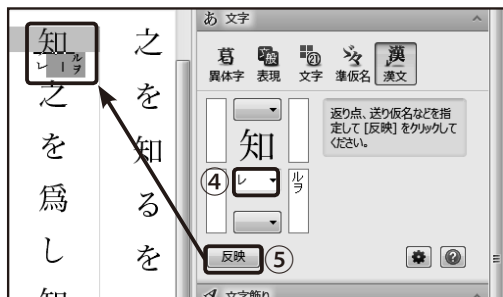
②任意の親字の直前にカーソルを移動し [選択]をクリックする。

③親字が選択され、書き下し文の送り仮名も送り仮名のボックスに取り込まれる。

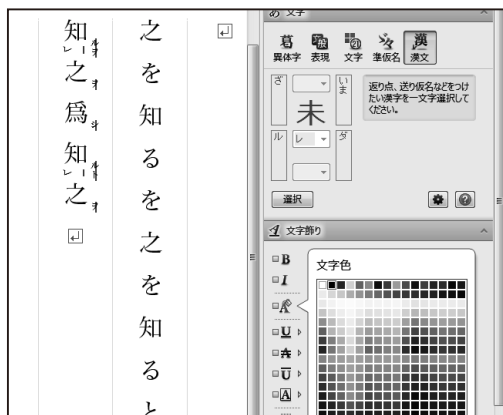


④ふりがな・返り点を適宜補う。

⑤[反映] をクリックする。



⑥後は②～⑤を必要な文字を対象に繰り返す。



ただしこの方法では、訓読上省略する文字列（『楚辞』の「兮」など）を補う必要があり、さらには、漢字からひらがなに開く助字の類（「於」「之」「者」など）なども当然ひらがなのままなので、①の段階で並べ替えたときに漢字に適宜変換し直す必要がある。

◇ 終わりに

以上、一太郎で白文に訓点を付ける方法について説明した。

Wordでは、個々の機能やマクロを組み合わせることで実現可能な訓点を、「文字パレット」の「漢文」を利用して一括して付けられ、またㄩ点やㄷ点のように細かい調整が必要な訓点も簡単に作れるのはやはり便利だ。更に訂正が簡単に行える点、実は重宝する。一太郎のユーザーには、是非とも使い倒して欲しい機能である。

一太郎で個条書きと段落番号を付ける

山田 崇仁 (やまだ たかひと)

◇ はじめに

Word や Word との互換性を重視して作られたワープロソフトの基本実装機能として「個条書き」や「番号付きリスト」がある。

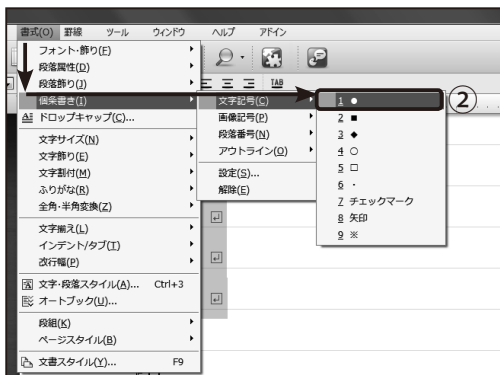
同様の機能は HTML にも定義されているが、対して一太郎では、これらの機能の実装（一太郎では「段落番号」という名称）自体が最近のことであり、加えてその適応方法や使い勝手が Word などとはかなり異なったものとなっている。

本稿では、この機能の使い方について説明する。

◇ 個条書きを付ける

個条書きの付け方は以下の通り [1]。

- ① 個条書きにしたい文字列を選択する。
- ② メニューの [書式] → [個条書き] → [文字記号] (または [画像記号]) から、目的の個条書きの行頭記号 (行頭画像) を選択する。



行頭に個条書きの記号が付いているはずである。



条書きを解除する場合は、文字列を選択後、メニューの [書式] → [個条書き] → [解除] を選択すればよい。

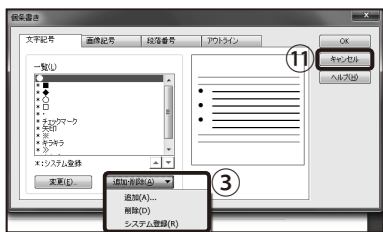
一太郎では、行頭記号の種類にかかわらず、個条書きのレベルは同一である。そのため、Word のように行頭記号を変えると自動的にインデント (字下げ) が設定されたり、インデントレベルを変更すると、行頭記号がそれに伴って変更されることはない。



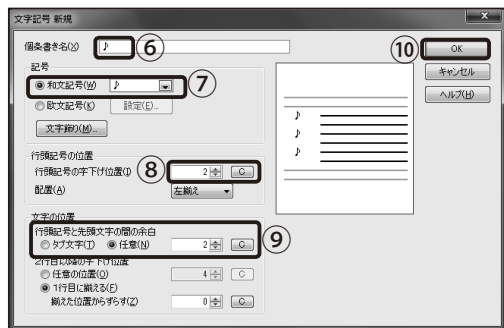
◎ 個条書き設定をカスタマイズ

上述のように、一太郎の個条書きの初期設定状態では、行頭記号とインデントレベルとの間に何も関係が設定されていない。そのため、Word と同様に行頭記号とインデントレベルとの関係を設定したい場合は、自分でカスタマイズする必要がある。

- ①メニューの [書式] → [個条書き] → [設定] を選択する。
- ②「個条書き」のダイアログボックスが表示される。
- ③[一覧] からカスタマイズしたい行頭記号を選択し、[変更] をクリックする。記号を追加 (または削除) したい場合は [追加・削除] をクリックしてリストを表示し、目的の項目をクリックする。今回は、[追加・削除] → [追加] を選択した。

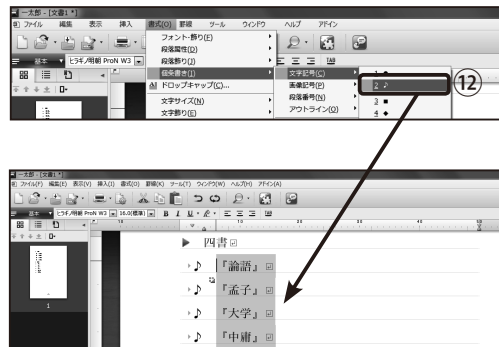


- ④「文字記号 新規」のダイアログボックスが表示される。
- ⑤各種カスタマイズを行う。今回は新しい行頭記号として「♪」を選択する。
- ⑥[個条書き名] に「♪」を入力する。
- ⑦[記号] の [和文記号] を選択後、リストから「♪」を選択する。
- ⑧[行頭記号の位置] の [行頭記号の字下げ位置] を「2 カラム」に設定する。
- ⑨「文字の位置」の「行頭記号と先頭文字の間の余白」を「2 カラム」・「2 行目以降の字下げ位置」を「1 行目に揃える」にそれぞれ設定する。
- ⑩[OK] をクリックする。



- ⑪②の画面に戻るので、[キャンセル] をクリックして終了する。

- ⑫文字列を選択し、メニューの [書式] → [個条書き] → [文字記号] を選択すると、先ほど追加した行頭記号が表示されるので、それを選択すると、新規作成した行頭記号が適応される。

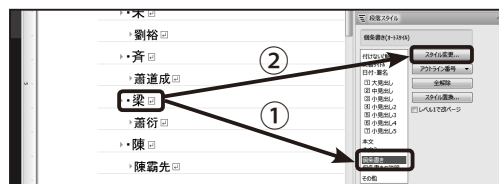


◎ 段落スタイルの「個条書き」との関係

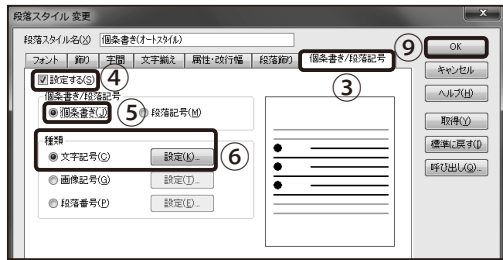
一太郎では、文字列や段落を対象に複数の装飾をまとめて適応する「スタイル」という機能がある (スタイルの使い方については p.56 を参照)。段落を対象として適応可能な「スタイル」の種類として「個条書き」があるが、メニューの [書式] から呼び出す「個条書き」と、「段落スタイル」として適応される「個条書き」との間には、特に関連性がないばかりか、後者の設定を前者が打ち消してしまうため、使い方に注意が必要となる。

「段落スタイル」の個条書きをカスタマイズするには、必ず以下の手順を実行する必要がある。

- ①あらかじめ、個条書きにしたい段落を基本ツールパレットの [段落スタイル] から [個条書き (オートスタイル)] を適応し、個条書きにしておく ([書式] から呼び出す「個条書き」は使用しない)。
- ②[個条書き (オートスタイル)] が適応された段落にカーソルを移動し、[段落スタイル] の [スタイル変更] をクリックする。



- ③「段落スタイル 変更」のダイアログボックスが表示されたら、[個条書き／段落記号]のタブをクリックする。
- ④[設定する] にチェックが入っていなかったらチェックを入れる。
- ⑤[個条書き] をクリックする。
- ⑥「文字記号」のラジオボタンをクリックし、[設定] をクリックする。



- ⑦「文字記号 新規」のダイアログボックスが表示される。大体の設定項目は、上記行頭記号のカスタマイズと同様なので、そちらを参考に設定すればよい。
- ⑧設定後 [OK] をクリックする。



- ⑨③の画面に戻るので、他の必要な設定を行った後 [OK] をクリックする。
- ⑩段落スタイルの「個条書き」がカスタマイズ(行頭記号が◆に)された。

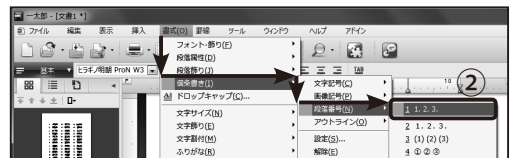


◆ 段落番号を付ける

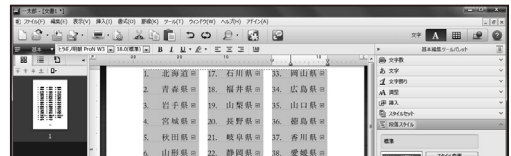
個条書きと同じような手順で連番も適応できる(上述のように、一太郎では「段落番号」という機能名なので、以下「段落番号」と記す)。

◎ 段落番号を付ける

- ①連番を付けたい文字列を選択する。
- ②メニューの [書式] → [個条書き] → [段落番号] から、目的の番号を選択する。

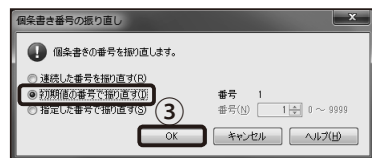


行頭に連番が付いているはずである。



番号を振り直したい場合は、以下の手順で行う。

- ①番号を振り直したい行にカーソルを移動する。
- ②メニューの [書式] → [個条書き] → [段落番号] → [番号を振り直す] を選択する。
- ③[個条書き番号の振り直し] のダイアログボックスが表示されるので、必要な選択と設定を行って [OK] をクリックする。ここでは [初期値の番号で振り直す] を選択した。



- ④カーソルより後の行の連番が 1 から振り直された。

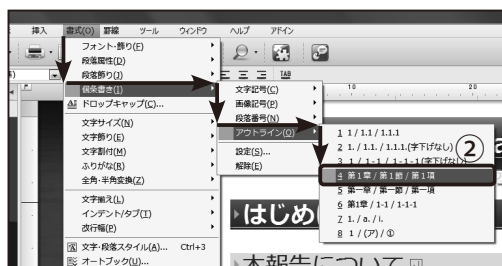


段落番号を解除したい場合は、個条書きと同様の手順を行えばよい。

◎ アウトラインタイプの段落番号を付ける

章節番号のように、長文の構造別に番号を付けることは、文章を読みやすくするために推奨される工夫である。一太郎でも、このような機能を実現するための、アウトラインタイプの段落番号を付けることができる。むしろ一太郎では、こちらの機能が昔から実装されており、Wordのような個条書きや連番機能は後から加わったものである。

- ① アウトラインの段落番号を設定したい行にカーソルを移動する。
- ② メニューの [書式] → [個条書き] → [アウトライン] をクリックし、アウトラインスタイルを選択する。



- ③ 行頭にアウトラインのスタイルが適応された。
- ④ あらかじめ、ツールパレットの [段落スタイル] で段落の見出しレベルを設定して①～③を行うと、見出しレベルに応じてアウトラインのスタイルも自動的に設定される。



◎ 段落番号のレベルを調整する

アウトラインの段落番号は、アウトラインのレ

ベルに応じて自動的に振り分けられるが、目的と異なるレベルになっていた場合、それを適切なものに訂正する必要がある。

訂正方法としては、以下のものがある。

- [段落スタイル] で見出しレベルが設定してある場合は、見出しレベルを訂正することで、段落番号も自動的に訂正される。
- [段落スタイル] を設定していない場合、メニューの [書式] → [個条書き] → [アウトライン] → [レベルアップ (レベルダウン)] を選択する。

ただし、後者の方法の場合 [段落スタイル] は元のままなので (段落番号だけ訂正される)、「段落スタイル」を別途設定し直す必要がある。

アウトラインの段落番号の数値訂正の方法も、通常の段落番号と同じく、メニューの [書式] → [個条書き] → [アウトライン] → [番号を振り直す] を選択し、必要な訂正を行えばよい。

◇ おわりに

以上、一太郎での個条書きと段落番号について説明した。Word やそれとよく似たインターフェイスを持つ文書作成ソフトや Web サービスを使っていると、一太郎を使うときに最も戸惑うのがこの辺りだと思われる。

確かに、[個条書き] や [連番] がツールバーに存在しない、あるいは記号の種類とインデントとの関係を一々手で設定する必要があったりするなど、使い勝手の悪い部分があるのは事実だが、日本語ワープロらしい章節番号の連番機能など、Word よりも優れた部分もある。

一太郎に触れる機会のある方は、是非ともこのあたりを使いこなしていただきたい。

注

- [1] 個条書きが存在する一太郎文書は、バージョン 2008 以降の形式でのみ読み書き可能なことに注意が必要となる。

一太郎でスタイル機能を使いこなす

山田 崇仁 (やまだ たかひと)

◇ はじめに

「読みやすい文書」とは、内容・構造的に読み手が理解しやすく構成する必要があることに加え、内容・構造を視覚的にも明確化するテクニックを駆使する必要がある。

そのために求められるスキルが、文字数・行数やフォント・余白の設定という文書の基本スタイルや、文中の同一の構造(章・節・項の見出しや引用文、箇条書きなど)を同一の書式で統一するという点である。

ここでは、文書全体のスタイルの設定方法と、個別の段落に対するスタイルの適応と、個々のスタイルに関する装飾の方法について解説する。

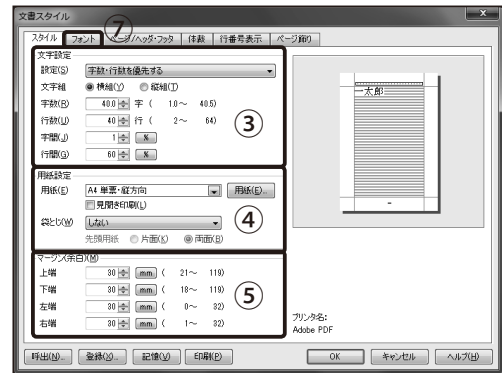
◇ 文書全体のスタイル

文書を作成する段取りとして、実際に入力する前に、文書全体のスタイルを設計しておきたい。

それは文書全体のスタイル (=基本デザイン) を設計しておかないと、個々の段落に対するスタイルの装飾を決定できないからである。

以下、その方法について説明する。

- ①メニューの [ファイル] → [文書スタイル] → [スタイル] を選択する。
- ②[文書スタイル] のダイアログボックスが表示される。



- ③「文字設定」で文字数・行数を設定する。
- ④「用紙設定」で用紙を設定する。
- ⑤「マージン」で余白を設定する。
- ⑥③～⑤の設定後、フォント関連を設定する。
- ⑦[フォント] タブをクリックする。
- ⑧フォント(和文・欧文・かな・数字)の種類をそれぞれ設定する。
- ⑨[文字サイズ]を設定する。
- ⑩その他必要があれば他のタブをクリックして設定をしておく。
- ⑪最後に [OK] をクリックする。



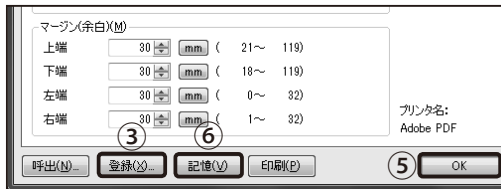
これで文書の基本スタイルが完成した。



◎ 基本スタイルを登録する

よく使う文書スタイルを登録しておくことで、Wordのテンプレートと同じように、他の文書に作成した文書スタイルを使い回すことができる。

- ①メニューの [ファイル] → [文書スタイル] → [スタイル] を選択して、[文書スタイル] のダイアログボックスを表示する。
- ②文書スタイルを適宜設定する。
- ③[登録] をクリックする。



- ④[ビジュアルスタイル登録] ダイアログボックスが表示されるので、[スタイル名] を入力して [OK] をクリックする。



- ⑤[文書スタイル] のダイアログボックスに戻ったら [OK] をクリックする。
- ⑥[文書スタイル]のダイアログボックスの[記憶] をクリックすると、作成した文書スタイルがデフォルトの新規作成文書のスタイルとなる。

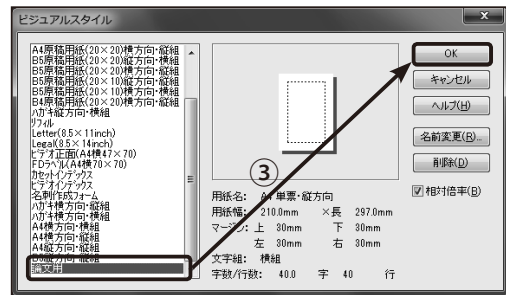
登録したスタイルを呼び出す手順は以下の通り。

- ①[文書スタイル] のダイアログボックスを表示する。

- ②[呼出] をクリックする。



- ③登録した文書スタイルをクリックして選択し、[OK] をクリックする。



- ④[文書スタイル] のダイアログボックスに戻ったら [OK] をクリックする。

◇ スタイルを適応する

冒頭に述べたように、読みやすい文書に仕立て上げるためには、文書の構造に応じて文字列や段落の装飾を統一することが必要となる。一太郎では、そのための機能として（文字列や段落を対象とした）様々な装飾機能が実装されている。

しかし、同一の装飾を適応する対象が複数ある場合、毎回個別に適応するのは面倒であり、加えて一部の装飾をし忘れてしまう可能性も存在する。

それを防止するためにも、文書中の任意の段落や文字列を特定の構造として定義し、同じ定義に同じ装飾を自動的に適応する機能がある。一太郎では、この機能を「スタイル」と読んでいます。スタイルは、段落単位・文字単位で設定することができ、また複数スタイルをまとめた「スタイルセット」を作成・利用することもできる。

このスタイルやスタイルセットは、プリンス

ツールされたものの中から選択する場合のほか、利用者が既存のスタイルをカスタマイズする、あるいは独自スタイルを定義するもでき、更にはそれらをまとめてオリジナルスタイルセットも作成可能である。

ここでは、段落を対象にしたスタイルの適応と個々のスタイルをカスタマイズする方法、およびオリジナルスタイルの作成について述べる。

◆ スタイルを適応する

◎ 段落にスタイルを反映する

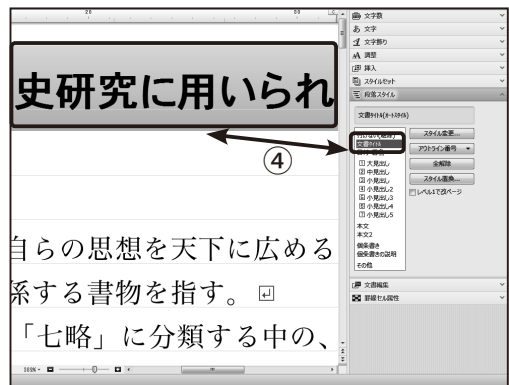
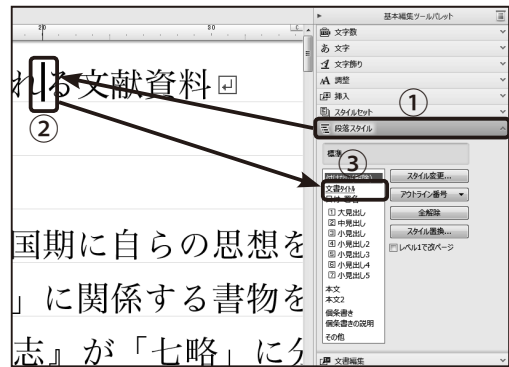
段落にスタイルを適応するには、以下の二つの方法がある。

- [基本編集ツールパレット] (以下ツールパレットと略) の [段落スタイル] から適応する方法
- メニューの [書式] → [文字・段落スタイル] から適応する方法

[段落スタイル] には、よく利用するスタイルが登録されているので、前者の方法を利用することで任意の段落に簡単にスタイルを適応することが可能だが、[段落スタイル] に載っていないスタイルやオリジナルのスタイルを適応したい場合は、後者の方法を使わなければならない。

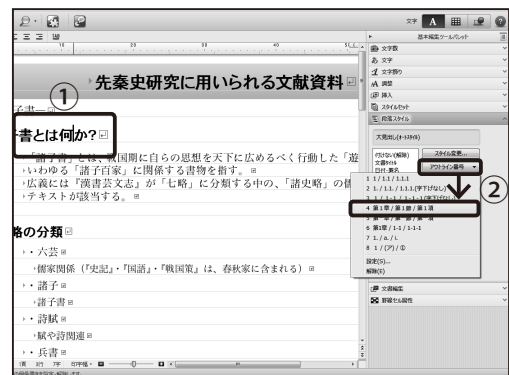
ここでは、[段落スタイル] の適応方法について説明する ([文字・段落スタイル] から適応する方法については後述)。

- ① ツールパレットの [段落スタイル] をクリックしてパレットを展開する。
- ② スタイルを適応したい文字列にカーソルを移動する
- ③ 目的の段落スタイル (ここでは [文書タイトル]) をクリックする。
- ④ カーソルがある段落に [文書タイトル] のスタイルが適応された。

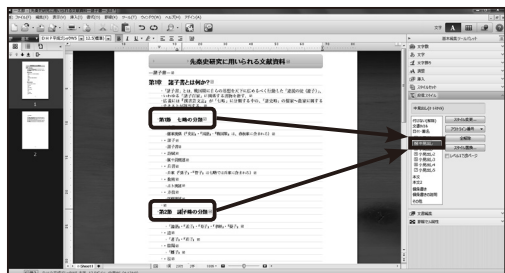


見出しレベルと章節番号とを連動することもできる (アウトライン番号)。ここでは「大見出し」に「第〇章」、「中見出し」に「第〇節」、「小見出し」に「第〇項」とする (〇の部分には連番が挿入される)。

- ① アウトライン番号を付けたいスタイルにカーソルを移動する。
- ② [アウトライン番号] をクリックし、適当な番号のスタイルを選択する。



この方法でアウトライン番号を付ける場合、個々の見出しそれぞれに上記①～②の手順を個別に適用する必要がある。



●スタイルの解除・変更

スタイルを解除したい場合には、解除したい段落にカーソルを移動後、[段落スタイル] のパレットから [付けない (解除)] を選択すればよい。

また、[全解除] をクリックすると、文書全体のスタイルがリセットされる。

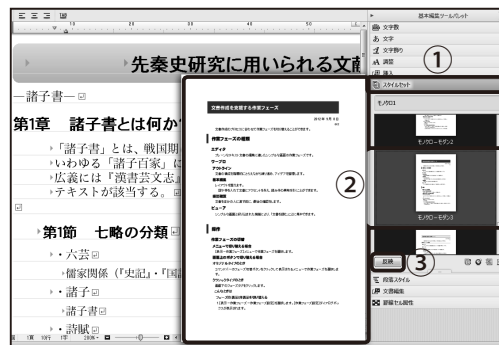
[スタイル置換] をクリックすると、スタイル同士の置き換えをするためのダイアログボックスが表示されるので、そこで置き換えたいスタイルをそれぞれ指定すればよい。

◇ スタイルのカスタマイズ

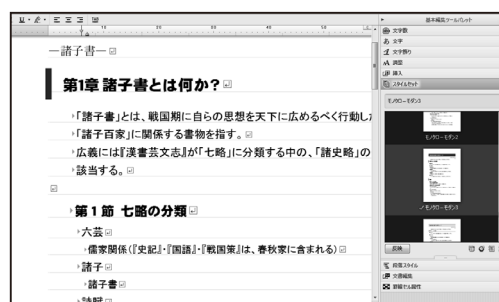
◎ プリインストールされたスタイルセットを選択する

上記の手順で設定したものは、あくまで文書の構造でしかない。一応、初期状態でも個々の段落スタイルに応じて装飾が施されているが、一太郎ではあらかじめ「複数の段落・文字スタイル」をパッケージにした「スタイルセット」があり、それを切り替えることで、異なる視覚イメージを一括して文書に反映することができる。

- ① ツールパレットから [スタイルセット] をクリックしてパレットを展開する。
- ② リストをスクロールして適当なスタイルセットを選び、クリックして選択する (スタイルにカーソルを合わせると拡大表示する)。ここでは「モノクロ - モダン3」を選択した。



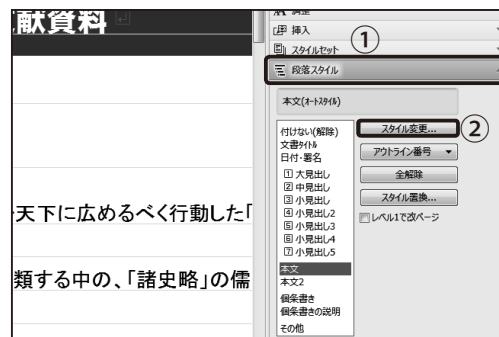
③ [反映] をクリックすると、新しいスタイルセットが適応される。



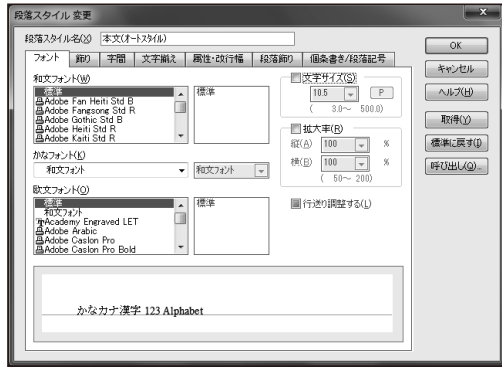
◎ 個々の段落スタイルをカスタマイズする

個々の段落スタイルの装飾をカスタマイズしたい場合には、以下の手順で行う。

- ① ツールパレットから [段落スタイル] をクリックしてパレットを展開する。
- ② 装飾をカスタマイズしたいスタイルに設定されている文字列にカーソルを移動する
- ③ [段落スタイル] パレットの [スタイル変更] をクリックする。

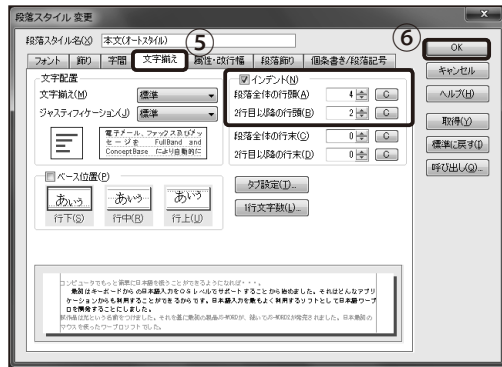


④ダイアログボックスが表示されるので、各項目を必要に応じて設定する。今回は「文書スタイル」のフォントおよび文字サイズをそのまま使用するため、フォントは「標準」を選択し、「文字サイズ」のチェックは外した。



⑤次に「文字揃え」のタブをクリックして画面を切り替え、インデントを設定する。ここでは全体を2カラム（全角1字）下げとし、1行目だけを4カラム（全角2字）下げとした。

⑥その他の装飾を設定し、終わったら「OK」をクリックする。

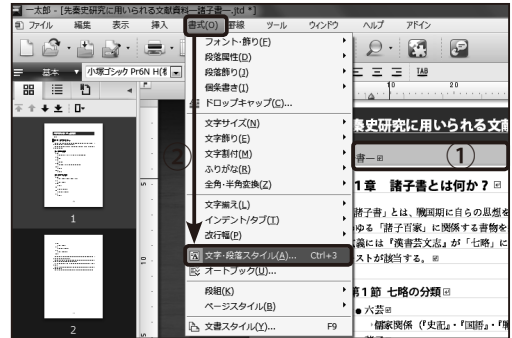


後は、他の段落スタイルについても、それぞれカスタマイズをすればよい。

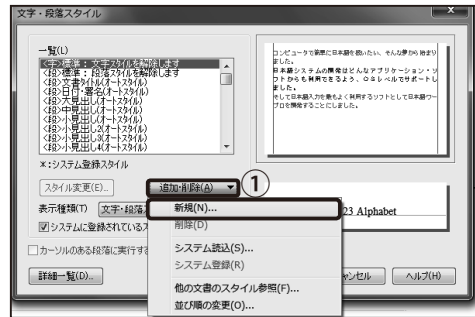
◎新しい段落スタイルを設定する

既存の段落スタイルとして存在しないスタイルについては、新規のスタイルとして設定することができる。ここでは新たに「副題」という新規スタイルを作成する。

- ①新規スタイルを適用したい段落を選択しておく。
- ②メニューの「書式」→「文字・段落スタイル」を選択する。



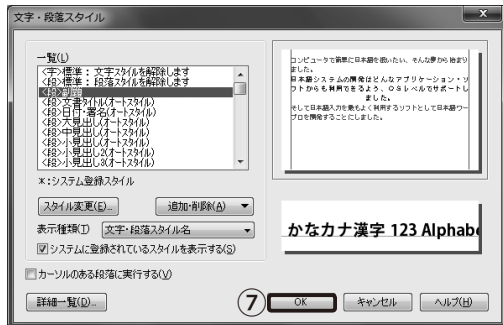
- ③ダイアログボックスが表示されたら、「追加・削除」をクリックしてプルダウンメニューを表示し、「新規」を選択する。



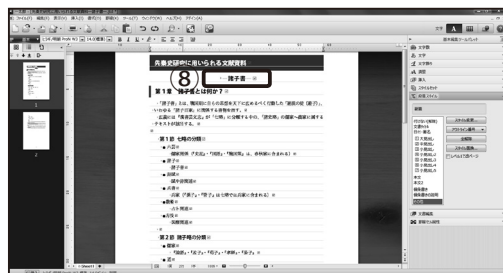
- ④新しいダイアログボックスが表示されたら、「段落スタイル名」にスタイルの名称（ここでは「副題」）を入力する。
- ⑤新規スタイルの装飾を設定する。
- ⑥設定が終わったら「OK」をクリックする。



⑦[文字・段落スタイル] のダイアログボックスに戻るので、新たに作成したスタイル名を選択して [OK] をクリックする。



⑧新規スタイル「副題」が適応される。



ツールパレットの「段落リスト」にないスタイルを適応したい場合は、メニューの [書式] → [文字・段落スタイル] をそのつど呼び出す必要がある。メニューからダイアログボックスを表示する以外にも、ショートカットキー (⌘+⌘) を利用すると簡単に呼び出すことができる。

◎ オリジナルスタイルセットを登録

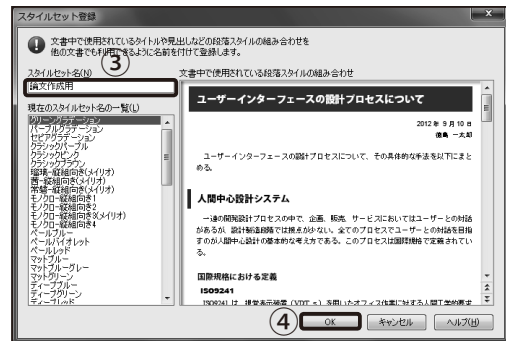
作成したオリジナルのスタイルセットは、新規スタイルセットとして登録することができる。

① ツールパレットから [スタイルセット] をクリックしてパレットを展開する。

② [登録] をクリックする。

③ ダイアログボックスが表示されたら、「スタイルセット名」に新規スタイルセット名を入力する。

④ [OK] をクリックすると新スタイルセットが登録される。



これを利用して、フォントの有無や Word との互換性重視などの環境の違いに応じて、「文書作成用」・「印刷用」・「投稿用」などの複数のスタイルセットを使い分けることもできる。

◇ 終わりに

以上、一太郎を利用した文書の基本スタイルや、個々の段落のスタイル設定およびカスタマイズについて述べた。

その他、一太郎の機能については、解説書などを参考にしていきたい^[1]。

注

[1] 一太郎の解説書は Word に比べてその出版点数は極わずかである。ここでは、井上健語・ジャムハウス編集部著『学んで作る！ 一太郎 2012 承 使いこなしガイド』ジャムハウス。2012年。を挙げておく。また、本誌レビュー (p.199) も参照されたし。

文献リストを作る

矢野 正隆 (やの まさたか)

◇ 1. 論文における文献リストとは

試みに、いくつか人文・社会科学系の日本語で記された論文を見てみると、ここで話題となる「文献リスト」が、必ず付されているとは限らないことが分かる。同じ「論文」と言いながら、その実、分野によって様々な形式があることに、まず注意しておきたい。

「論文」と呼ばれる文章形式は、一説ではパスツール (1822-1895) によって整えられたとされるように [美宅 2002:8-9]、分野で言えば理系、言語は欧文による形式がもとになっている。のちにこれが、各方面で採用されることになり、それぞれの分野において改変が重ねられ、現在、シカゴスタイル、MLA スタイル、APA スタイル等、多くの方式が存在する [Turabian 2007] [ジバルディ 2005] [アメリカ心理学会 2011]。

一方、日本の人文・社会科学系の論文では、こうした規範的なスタイルを予め設定するよりは、それぞれの学術雑誌のバックナンバーの書式に合わせるよう求められることが多い。したがって、分野や学閥により様々な書き方が見られる。

このようにスタイルは多様ではあるが、当然のことながら、基本要件は同じである。つまり、論文では、あらゆる論証について、その過程・根拠を明示することにより、誰もが検証できるようにすることが求められる。パスツールの場合は、実験の方法を詳細に記したのであるが、このような論証の過程と併せて、論拠 (資料や先行研究) の提示が非常に重要になる。これは出典、典拠という言い方もする。

論文本体のスタイルが多様であるように、この出典表示についてもいくつかの方法がある。人文・社会科学系の論文で主に用いられるのは Documentary Note System (Oxford Style とも言う) で、この方式の場合、参考文献は個々の注で示され、文献リストは付されない [John Wiley & Sons Australia 2002:208-215]。

一方、文献リストを付するタイプとしては、ハーバード方式 (Harvard referencing)、バンクーバー・システム (Vancouver System) がよく用いられる。ハーバード方式は、著者名・発行年方式 (author-date system)、挿入法 (parenthetical system) とも呼ばれ、出典の書誌事項を、本文や注に直接書かず、最後に文献リストとして列挙し、本文には当該文献の著者名と発行年のみを記述して出典を示す方式である。参照・引用ページがはっきりしている場合は、これも記述する。現在では、理系の多くの分野でこの方式が採用されている [John Wiley & Sons Australia 2002:188-208]。

バンクーバー・システムは、ハーバード方式を Documentary Note System 的に変形したもので、文献リストの並びは著者名順ではなく参照順とし、各文献にナンバリングすることにより注と同様の仕方で本文と関連付ける。これは主に医学系で用いられている [John Wiley & Sons Australia 2002:215-218]。

近年では、日本の人文・社会科学系でも、このような文献リストを用いる方式が散見されるようになった。特に参照の数が多い場合には注が煩瑣になるため、典拠を一括して掲載するこの方式の方が、より見やすく合理的であると思われる。

◆ 2. Excel で文献リストを作る

論文を作成する際には、文献リストを付する形式であれ、注記する形式であれ、参照文献の表示は必ず求められる。このため、特に文献が多くなる場合には、予め書誌事項をデータベース化しておくといよい。ここでは、Excel によるリスト作成の一例を示すが、このソフトを用いる理由としては、並べ替えが容易であること、また、先に述べたような様々な書式に対応して加工できること、そして、そのまま管理用データとして蓄積できることが挙げられる。

以下、リスト作成にあたって必要な項目を、大きく 3 つに区分して説明する。【図 1】

- ①書誌情報
- ②言語種別
- ③並べ替え用キー

最終的に、文献リストに載る情報は①のみ。②③は整形に必要な情報である。

◎ ①書誌情報

●A. 著者

主に個人であるが、団体の場合もある。

●B. タイトル

論文あるいは単行書の標題。

●C. 所収情報

これは、B を載せている物理単位を特定する項目である。従って、単行書の場合は改めて記す必要はないが、個体特定のための情報として出版者及び刊行年月を記す。場合によっては、版表示、出版形態（例・中公文庫）やシリーズ名（例・東洋史研究叢刊）を記すこともある。アルファベット使用言語では出版者と併せて出版地を記すが、和文の場合は省略することが多い。

雑誌論文の場合は掲載雑誌名と巻号および刊行年月を記すが、刊行月と出版者は省略することが多い。単行本に収録された論文の場合は、その論文集名とその編集者および出版者、刊行年月を記す。

ページ数は、人文・社会科学系の場合には記さないことが多いが、掲載媒体や編集者によっては求められることもあるため、データベースを作成する段階ではチェックしておくといよい。

●D. その他

雑誌等に掲載された論文の中には、別の編著書に再録されるものもある。この場合、①初出バージョンと、②引用者が実際に引用したバージョンの区別を明確にすることが肝要である。

特に②が明確でないと、他者が参照することが困難になる。従って、C に示すのは、実際に引用したバージョンの情報とし、仮に初出バージョンが別に存在する場合には、備考に記しておく。この段階では煩を厭わずデータベース化しておくことを勧める。

図 1

②	③	①A	①B	①C	①D						
言語	著者読み	著者	論文タイトル	単行書・雑誌タイトル	編著者	版	巻号・ページ	シリーズ	出版者	刊行年月	備考
e	Wolters, O.W.	Wolters, O.W.	Lê Văn Hù's treatment of Lý Thần Tôn's reign (1127-1137)	Southeast Asian history and historiography: essays presented to D.G. Hall	Edited by C.D.Cowan and O.W.Wolters		p.203-226		Ithaca; London: Cornell Univ. Press	1976	
2	J	トウダイシケン	唐代史研究会	隋唐帝国と東アジア世界					汲古書院	1979.09	
3	J	キュウカイ	編	唐代政治社会史研究				東洋史研究叢刊40	同朋社出版	1986.02	
4	J	トナミマモル	磯波謙	ベトナム紅河デルタの開拓史	福のアジア史2		p.235-276		小学館	1987.05	
5	J	サクライユミオ	桜井由朝雄	ベトナム村落の形成	渡部忠世責任編集				創文社	1987.06	
6	J	サクライユミオ	桜井由朝雄	The "Harvard system": a mystery dispelled	BMJ: British Medical Journal		297(6655): 1062-1063			1988.10	
7	e	Chemin, Eli	Chemin, Eli								
8	J	トナミマモル	磯波謙	唐の三省六部	唐の行政機構と官僚		p.162-199	中公文庫629	中央公論社	1998.08	初出は[唐代史研究会1979]、のち[磯波1986]に収録
9	e	Australian Government Publishing Service	Australian Government Publishing Service		Style manual for authors, editors and printers		6th ed		Canberra: John Wiley & Sons Australia	2002	
10	J	ミタクシキ	美宅成樹	分子生物学入門				岩波新書777	岩波書店	2002.03	

◎ ② 言語種別

ハーバード方式の場合、文献リストは著者ファミリーネームの順に並べるため、和文^[1]とアルファベット使用言語を分けるのが一般である。また、この両者では、約物（句読点やコンマ、ピリオドなど）や字体（イタリック）使用の慣行が異なるため、リストの整形は別に行う必要がある。特にイタリックは、アルファベットの書名・雑誌名に使われることが多いが、Excelのセル内で変換しても、Wordに貼り付ける際には反映されないため、一工夫が必要になる。

この他、同じアルファベット表記でも、言語によって慣行の異なる部分は少なくない[家部2002]。本稿で取り上げるのは、日本語と英語のみなので、それぞれ「j」「e」と表示したが、例えばフランス語のリストを別に作るのであれば、「f」と記すなどして区分できるようにする。

◎ ③ 並べ替え用キーワード

リストを著者名順・発表年代順にする場合に、①Aをキーとしてはうまく並べ替えができないため、和文の著者名については、読みを記す^[2]。また、同一著者が同一年に複数の論文を発表する場合も考慮して、①C「刊行年月」は、並べ替え用キーとしても機能するよう桁数を揃えておく。具体的には、セルを「文字列」設定にし、年と月を区切るピリオド以下は2桁とする。

◇ ◇ ◇

文献リスト作成に必要と考えられる書誌情報は

以上である。普段からこうした形で、入手した文献を管理しておけば、必要の際にデータを取り出す助けになるとともに、読書記録としての役割も果たすであろう。次節では、このデータベースから、論文に付する文献リストの加工方法を示す。

◇ 3. Excel 文献リストの整形作業

実際に整形をおこなう前段階として、作業をよりスムーズに進めるために、項目名の行を固定し、フィルタ機能を使えるようにしておく。それぞれ、リボンの「表示」タブ【図2】、[データ] タブの部分で設定できる【図3】。

次に並べ替えをおこなう。並べ替えのキーは、「言語」「著者読み」「刊行年月」の順とする【図4】。

以下、和文と英文に分けて整形の実例を示す。

◎ 3.1. 和文

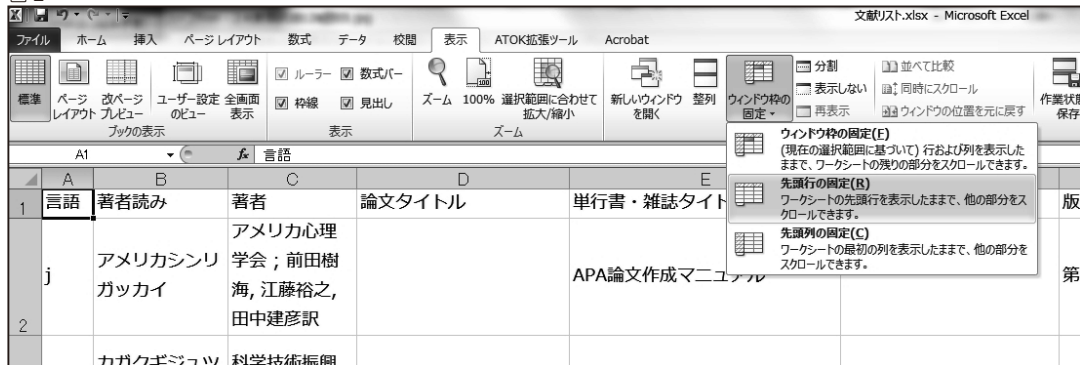
まず、本誌も含め人文科学系の論文で一般に採用されている書式による整形事例を示す。

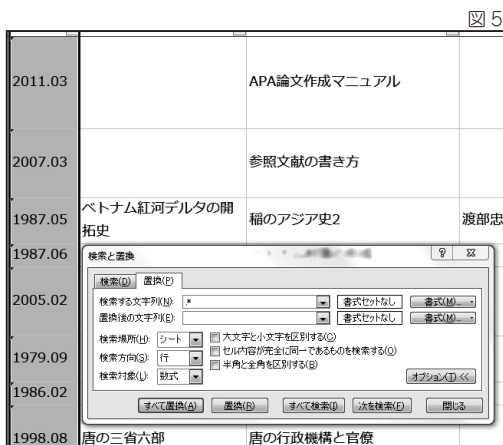
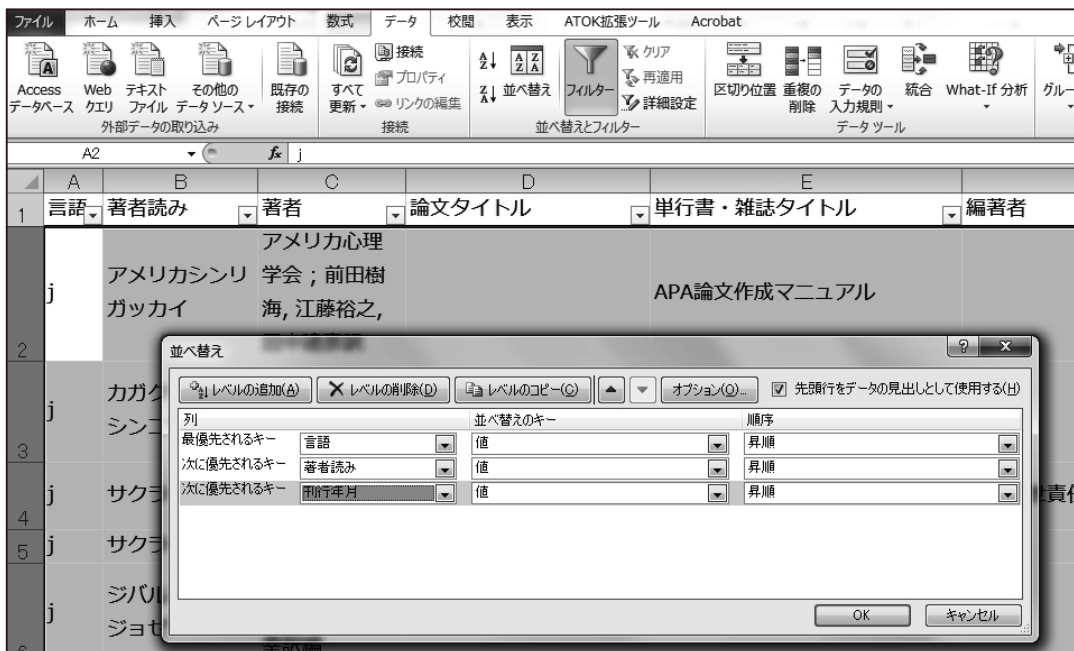
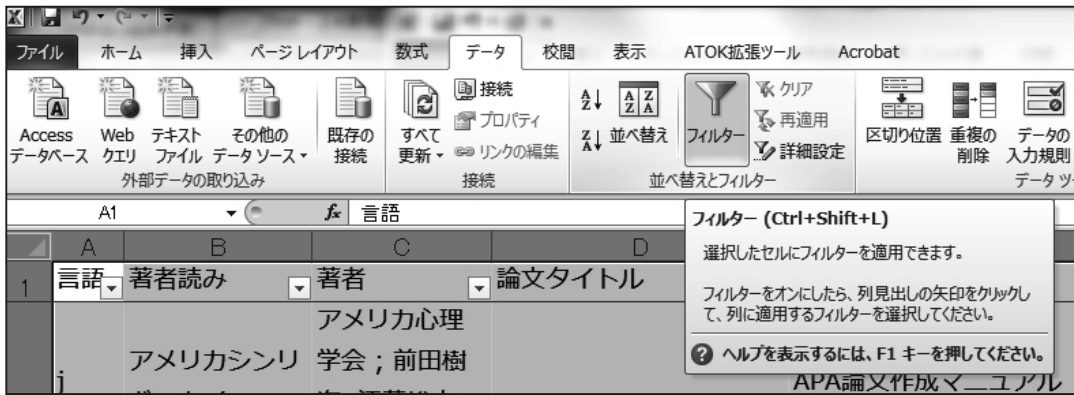
● ① 必要項目を選定し、並べ替えをおこなう

著者名の後に、発表年を記す方式であれば、「刊行年月」を切り取り、「著者」と「論文タイトル」の間に挿入する。次に、月の部分を省略する。これはExcelの置換機能により一括変換できる。「刊行年月」を列ごと選択し、[検索と置換] ボックスの「検索する文字列」を「.*」として^[3]、[すべて置換] をクリックする【図5】。

刊行年が同じ場合は、1987a、1987bのように区別ができるようにする【図6】。

図2





●② 約物を付す

まず「論文タイトル」の前後に鉤括弧を挿入する。具体的には、「論文タイトル」の前後に1列挿入し、フィルタ機能で空白セル以外を抽出【図7】、その上で、カギ括弧を入力する【図8】。

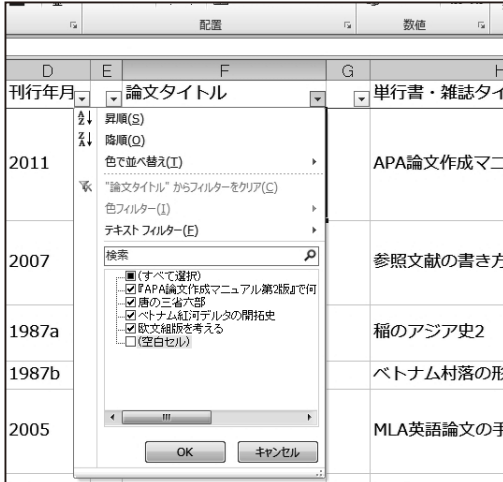
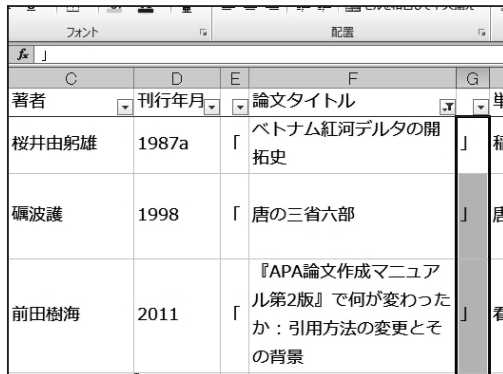


図7

図8



同様に「単行書・雑誌タイトル」の前後に二重鉤括弧、「備考」の前後に丸括弧を挿入する【図9】。

図9



あとは、必要に応じてコンマやピリオドあるいは読点を、同様の仕方でも挿入する（この例では、コンマ等は省略した）。

●③ Word に貼り付ける。

エクセルの該当部分を選択、コピーして、Wordにカーソルを置いて右クリック、[テキストのみ保持]を左クリックする【図10】。

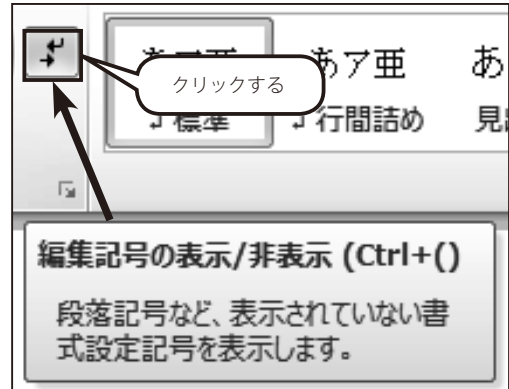


図10

●④ 不要部分を除去する

Wordで整形をする前に、[ホーム] タブの [段落] グループにある [編集記号の表示 / 非表示] をONにする【図11】。

図11



まず括弧、二重括弧、丸括弧とタブ（編集記号では [→]）が連続している部分のタブを消去する。

[検索と置換] ボックスの [検索する文字列] に [^t] ¹⁴⁾、[置換後の文字列] に [] を入れ [すべて置換] をクリックする【図12】。

以下、二重鍵括弧、丸

括弧についても同様に置換する【図 13】。

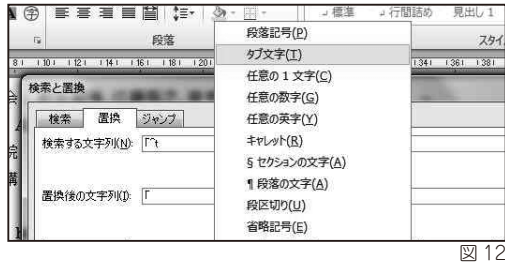


図 12

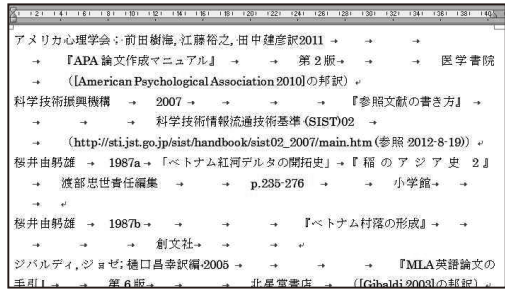


図 13

次に、タブを半角スペースに置換し、スペースが複数連続するところは一つにする【図 14】。

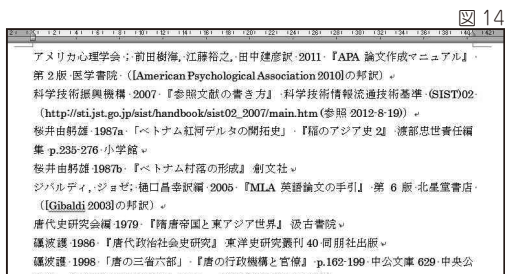


図 14

最後に、ぶら下げインデント【図 15】等で適宜形式を整え、一通りの整形は完了である。本稿末尾に付した「参考文献一和文」は以上のような手順で作成したものである。

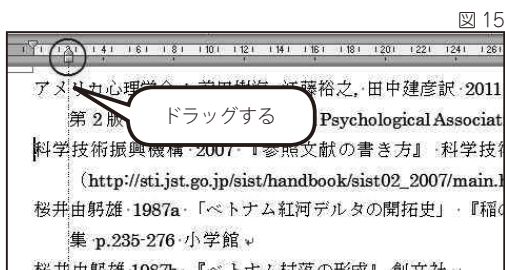


図 15

和文の理系論文で一般に使われる科学技術情報流通技術基準 (SIST) の方式も、上と同様の仕方では整形することができる [科学技術振興機構 2007]。約物の使い方はこちらの方が厳密である。この方式では、雑誌論文と単行書で、書誌事項の順番が変わるため、予め Excel のリストにおいて項目を追加して種別を区分し、整形を別々に行えるようにしておくといよい (例えば、単行書 a、雑誌論文 b という具合に) [5]。

◎ 3.2. 英文

● ① 必要項目を選定し、並べ替えをおこなう

和文の場合と同様に必要項目を選定し、並べ替える。

ここも、著者名の後に、発表年を記す方式とする【図 16】。

	A	B	C	D	E
1	言語	著者読み	著者	刊行年月	論文タイトル
2	e	American Psychological Association	American Psychological Association	2010	Publication of the American Psychological Association
3	e	John Wiley & Sons Australia	John Wiley & Sons Australia	2002	Style manual for authors and editors

図 16

● ② 約物を付す

アルファベット表記の場合も、コンマやピリオドといった約物の使用方法は各方式でまちまちであるため、仮に「EU 公文書ルール」に従ってコンマで区切り、末尾にピリオドを付することとする [家辺 2002]。これも、和文の場合と同様に、フィルタ機能を使って挿入する【図 17】。

	I	J	K	L	M	N	O	P
1	雑誌タイトル	編著者	版	巻号	ページ			
2	Publication manual of the American Psychological Association		6th ed.					
3	Manual for authors, editors, and printers		6th ed., revised by Snooks & Co.					
4	British Medical Journal				297(6655): 1062-1063			
5	Handbook for writers of		6th ed.					

図 17

次に「単行書・雑誌タイトル」をイタリックにするために前後に記号を入れる。ここでは仮に●▲とする【図 18】。

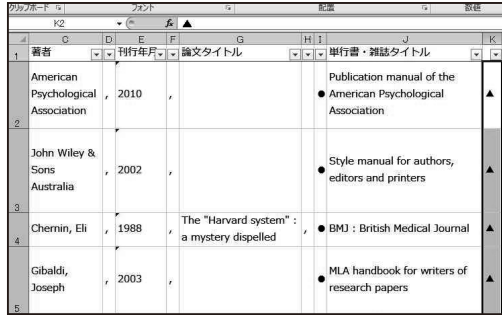


図 18

●③ Word に貼り付ける

前節で説明したとおり、右クリックして [テキストのみ保持] を左クリックする【図 19】。

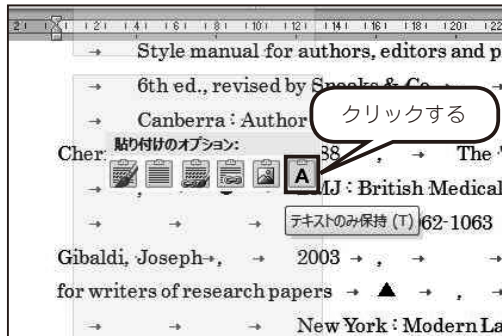


図 19

●④ 間の文字をイタリックに変換する

[検索と置換] ダイアログボックスの [ワイルドカードを使用する] にチェックを入れ、[検索する文字列] に「●*▲」と入力し、[置換後の文字列] にカーソルを置いて書式ダイアログボックスでフォントを選択、スタイルで「斜体」を選択して OK をクリックする。【図 20】。

[すべて置換] をクリックする【図 21】

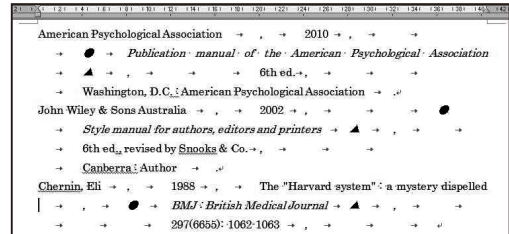


図 21

最後に、和文と同様に置換機能を使い、●▲およびタブを消して、形式を整えると、本稿末尾の「参考文献—欧文」のようになる。

以上、文献リスト作成の手順を示したが、これはあくまで一例に過ぎない。先述の通り、論文のスタイルも、文献リストの形式も、各言語・各分野で様々である。実際に論文を作成するにあたっては、まず、そこで定められている方式を確認することを忘れないようにしたい。

図 20



参考文献

和文

- アメリカ心理学会；前田樹海，江藤裕之，田中建彦訳 2011 『APA 論文作成マニュアル』第2版 医学書院（[American Psychological Association 2010] の邦訳）
- 科学技術振興機構 2007 『参照文献の書き方』科学技術情報流通技術基準（SIST）02（http://sti.jst.go.jp/sist/handbook/sist02_2007/main.htm，参照 2012-8-19）
- ジバルディ，ジョゼフ；樋口昌幸訳編 2005 『MLA 英語論文の手引』第6版 北星堂書店（[Gibaldi2003] の邦訳）
- 美宅成樹 2002 『分子生物学入門』岩波新書777 岩波書店
- 家辺勝文 2002 「欧文組版を考える」（http://www.ne.jp/asahi/yabe/masafumi/a_batons_rompus/a020520.html 参照 2012-8-19）

欧文

- American Psychological Association, 2010, *Publication manual of the American Psychological Association*, 6th ed., Washington, D.C. : American Psychological Association.
- John Wiley & Sons Australia, 2002, *Style manual for authors, editors and printers*, 6th ed., revised by Snooks & Co., Canberra : Author.

- Gibaldi, Joseph, 2003, *MLA handbook for writers of research papers*, 6th ed., New York : Modern Language Association of America.
- Turabian, Kate L, 2007, *A manual for writers of research papers, theses, and dissertations : Chicago style for students and researchers*, 7th ed., Chicago : University of Chicago Press.

注

- [1] 中国語の文献が含まれる場合は、著者名をどのように読むかが1つのポイントになる。例えば、漢籍のように伝統的な日本語の読みが定着しているものについては、和文と並べても特に問題はないであろう。しかし、現代中国語の文献が大量に参照される場合、ピンインの順に並べる方がよい可能性もある。この時には和文とは別のリストにする。
- [2] 中国語文献のリストを、ピンイン順の並びにする場合には、ここに著者名のピンインを記す。
- [3] *（アスタリスク）は Excel で用いられるワイルドカード文字の一つで、任意の数の文字を示す。つまり[*] はピリオド以降の文字列を指すことになる。
- [4] [^] は Word の検索で用いられる特殊文字で、タブのこと。[^t] は鍵括弧とタブが連続している部分を指す。
- [5] 雑誌論文は「著者名. 論文名. 誌名. 出版年, 巻数, 号数, はじめのページ-おわりのページ」、図書は「著者名. 書名. 版表示, 出版地, 出版者, 出版年, 総ページ数」の順となる。また、この方式の場合、図書の総ページ数が求められる。

4 中国学基本リソースガイド

道教

二階堂 善弘 (にかいどう よしひろ)

◆ はじめに

中国の道教や民間信仰などの研究においては、情報量が以前とは全く異なる状況になっている。『老子』や『莊子』などの道家文献はもとより、『道蔵』をはじめとする重要な道教経典についてもデジタル化が行われ、ネットにテキストデータがアップされているのは当たり前になった。『道蔵』それ自体も、DVDなどで「画像+テキストデータ」が購入できるようになっている。

またかつては道観や廟の情報については、その都市や農村に赴かなければ所在すら不明確であったものが、ネット情報の発達により、住所や地図、経緯などが容易に調べられるようになっている。道教研究や布教のためのサイトも増加しており、かつての情報過疎がウソのような状況となってい

る。しかし情報が増えて便利になった反面、鵜呑みにすると危ない情報もあって、かえって厄介になっている面もある。いずれにせよ、ネットの情報と他の情報を付き合わせた上で調査する必要がある。

ここでは幾つかの道教研究関連サイトを紹介することとする。

◆ 道教研究関連サイト

まず、世界中の道教研究者が研究情報を交換しているサイトとしては「Daoist Studies」(<http://www.daoiststudies.org/dao/>)がある。むろん英語が主体であるが、道教の研究動向、研究書や論文の紹介、学会や研究会の開催、データの利用などについて毎日のように情報がアップされている。クイーンズ大学(カナダ)のジェームス・ミラー氏が中心になって運営されているサイトである。

日本では「日本道教学会」(<http://www.taostic-research.jp/>)のサイトがあるが、こちらは学術大会や雑誌『東方宗教』の情報が掲載されている程度である。

中国では、「中国道教協会」(<http://www.taolist.org.cn/>)があり、そこには雑誌『中国道教』の内容や、道教の経典や儀式に関する紹介など、トータルに道教を理解するための記事が多く載せられている。ただ、経典などのテキストデータの量などはそれほど多いとは言えない。むしろ中国にお

Daoist Studies



ける学会や研究会の動向の情報が充実している。

◆ 道教関連団体・廟のサイト

この他にも、中国では各地に道教関連の団体が存在し、それぞれのサイトに様々な情報がアップされている。その数は膨大なものがあり、紹介しきれものではない。試みに、筆者が最近利用したことのあるサイトを幾つか挙げるだけでも、以下のようにかなりの数になる。

- 「道教網」(<http://www.djwmh.com/>)
- 「河北省道教協会」(<http://www.hebdj.com/>)
- 「湖北省道教協会」(<http://www.hbdjxh.com/>)
- 「湖南道教網」(<http://www.hunandj.com/>)
- 「上海道教」(<http://www.shtaoism.com/>)
- 「寧波道教網」(<http://www.nbdjw.com.cn/>)
- 「北京市道教協会」(<http://www.bjtaoism.net/html/folder/2345900-1.htm>)
- 「雲南道教網」(<http://www.yndjw.com/>)
- 「中国武当道教教会」(<http://www.zgwddjw.com/>)

台湾の場合は、各廟が独自にサイトを開設して様々な情報をアップしている場合が多い。筆者が最近利用したサイトの幾つかを挙げると以下の通りである。

- 「艋舺龍山寺」(<http://www.lungshan.org.tw/>)
- 「大龍峒保安宮」(<http://www.baoan.org.tw/>)
- 「鹿港天后宮」(<http://www.lugangmazu.org/>)
- 「鹿耳門天后宮」(<http://www.luerhmen.org.tw/>)

ある特定の神について網羅的に情報を集めた



中国道教協会



鹿港天后宮

サイトなどもある。例えば、「関公網」(<http://guangong.net/>)は、関帝(関羽)について、中国や台湾のみならず、シンガポール・マレーシアといった世界中の関帝や関帝廟にかかわる情報を集めている。

いまや各地の道教協会から、各道観や廟までが多様なサイトを有する時代になっており、このような各個の情報については、「百度」(<http://www.baidu.com/>)などで直接関連ワードを入力して検索した方がよいと思われる。



関公網



道教学術資訊網站

◆ 道教經典について

道教經典を集めた『道蔵』については、愛如生や凱希メディアなどによって販売されているデータベースがある。ただ、道教を専門にする研究者でもなければ、やや高額であるこういったデータを購入することは難しいと考えられる。

『道蔵』などの道教經典のデータも、上で取りあげた各地の道教協会においてテキスト化し公開

されているものも多い。しかし断片的なものが大半である。例えば、「道学修身網」(http://www.dxx99.com/index_0.htm)には多くの經典が収録されているが、網羅的とは言い難い。

『道蔵』をまとめて公開しようとしているサイトには、台湾中央研究院「漢籍電子文獻」(<http://hanji.sinica.edu.tw/>)がまず挙げられる。データ量はそれほど多くないとはいえ、『道蔵』の相当部分が検索出来るようになったことは大きい。

しかし『道蔵』全体を使いたいということであれば、「道教学術資訊網站」(<http://www.ctcwri.org/>)にアクセスすべきであろう。台湾の道士である洪百堅道長によって運営されているサイトで、『道蔵』の他にも様々な經典類、また研究論文などがアップされている。その情報量は膨大であり、今後もさらに増加していくものと予想される。ただ、情報量が多い反面、インターフェイスは使い勝手が悪く、自分の欲する情報が見だしにくいという面も持っている。

京劇

平林 宣和 (ひらばやし のりかず)

◇ はじめに

京劇は三百種以上ある中国伝統演劇の一種であり、その歴史は二百年程と必ずしも長くはない。しかし中国社会の近代化の波に乗り十九世紀後半から二十世紀にかけて隆盛を極め、また早くから海外公演が行われたため国際的知名度も高く、内外で中国伝統演劇の代表格と見なされている。文化大革命の時代に、革命宣伝のための「模範劇」として盛んに上演されたのも、大半が京劇であった。こうした歴史的背景から、京劇は中国の伝統文化のみならず、近現代中国の文化史を知る上でも、格好の素材であると言ってよい。以下、京劇の概要と現代中国での位置づけを知るために有用なサイトを日本語、中国語の順に紹介する。

◇ 京劇関係の日本語サイト

◎ 京劇城 (日本語)

<http://www.geocities.jp/cato1963/KGJ.html>

京劇に関する著書を複数刊行している明治大学教授、加藤徹氏のサイトである。日本語で書かれた京劇のサイトとしてはおそらく現時最も大規模なものであろう。京劇城の「中庭」の部分が「京劇についての基礎知識を提供するページ」となっており、ここから京劇に関する一般的な知識が得られる。また「本丸」には著者の観点や興味関心を反映したエッセイや論文が多数収められている。

このほか日本語で書かれたものとして、在日の

京劇俳優が主宰する劇団のサイトを二つ挙げておく。関連知識を得るのみならず、現代日本における京劇受容の状況を知るうえでも興味深い情報源といえるだろう。

◎ 新潮劇院 (日本語)

<http://www.shincyo.com/>

元北京京劇院所属の俳優、張春祥氏が主宰する新潮劇院のサイト。公演や教室に関する情報のほ

京劇城

京劇城のウェブサイトのスクリーンショット。ページの上部には「Home」「中国語」「English」「Esperanto」の言語選択メニューがあり、「Kastelo de Pekino-opero」および「Jingju Cheng」の表示があります。中央には「京劇城」という大きなタイトルがあります。その下には「最近の更新箇所」のリストがあり、N.W. 京劇台座座公演ミニレクチャー、「徐信空 謝馬駝」のワレシ(Word)、京劇掲示板、京劇カレンダーが挙げられています。右側には「わざわざお越しくださり、ありがとうございます。ここは加藤徹のホームページの一部です。ご意見、ご感想、京劇情報など、お気軽に「京劇掲示板」にお書きください。お気軽に「京劇掲示板」にお書きください。お気軽に「京劇掲示板」にお書きください。」というメッセージと、電子メール: sangatakou-jugyou@yahoo.co.jp、本サイトへのリンク・引用については、こちらを御覧ください。という連絡先が記載されています。下部には「清朝時代の茶園(旧式劇場)のにぎわい」という写真があり、その下に「目次」のメニューがあります。目次の左側には「京劇城・門前」の「はじめてきた人はどうぞ」のリンクがあり、京劇城Q&A、京劇城のあらしを問答体で記述、京劇アルバム、筆者の個人的な写真、京劇の古い写真集がリストアップされています。右側には「京劇城・中庭」の「京劇について情報を紹介するページ」のリンクがあり、京劇掲示板、京劇カレンダー、京劇ニュース(更新休止中)がリストアップされています。



CSC 企画京劇団

か、張氏一家のルーツなど、かつての北京梨園の様子も紹介されている。

◎ CSC 企画京劇団 (日本語)

http://www.csc-kikaku.jp/event/kyougeki_csc.html

元中国京劇院所属の俳優、張紹成氏が主宰するCSC 企画京劇団のサイト。サイト内の京劇概説のうち、特に衣裳や被り物の紹介は写真入りで親切

中国京劇芸術網



である。また京劇のほか武術や気功に精通した張紹成氏は、中国の伝統的身体文化を一身に体現しており興味深い。

◇ 京劇に関する総合情報サイト

さて中国語で書かれた京劇関係のサイトは数多いが、総合的な知識を得つつ、直近の公演情報、劇界の現状に関する論評など、多方面の情報が集められるサイトとして、以下の二つを挙げておく。

◎ 中国京劇芸術網 (簡体字中国語)

<http://www.jingju.com/>

現代京劇界の様々なベクトルを俯瞰するには大変便利なサイトで、国外にいながら大陸における京劇の「今」を十分実感できる。京劇ニュース、京劇知識、京劇公演、京劇チャンネル(視聴覚資料)など多岐にわたるコーナーがあり、特にトップページ上方は公演や文化イベント、それらに関する論評などリアルタイムの情報が豊富に掲載されている。

◎ 咚咚鏘中華戲曲網 (簡体字中国語)

<http://www.dongdongqiang.com/>

京劇関係のサイトとしては老舗的存在である。京劇関連の情報が中心ではあるが、昆劇や越劇など他の主要劇種にも目配りが利いている。北京、上海をはじめとするリアルタイムの劇界情報のほか、関連する多数の評論が掲載されており、劇壇の現況をうかがい知るには大変便利である。

◇ 兩岸の代表的京劇団

次に京劇に関わる個別の情報源として、大陸と台湾の代表的京劇団のサイトをひとつずつ紹介しておきたい。

◎ 中国国家京劇院 (簡体字中国語)

<http://www.cn poc.cn/>

国家京劇院は、かつて中国京劇院と呼ばれた国立京劇団である。全国選りすぐりの俳優を集め、

古典的レパートリーに加えて、旧作の復活や改作、新作の上演なども盛んに行われている。最新の公演情報のほか、文化政策に関連する記事も多く掲載され、大陸における京劇の文化的位置づけを窺い知ることが出来る。2008年秋に北京の西城区官園橋にオープンした梅蘭芳大劇院は、国家京劇院のホームグラウンドである。

◎ 国光劇団 (繁体字中国語)

<http://www.kk.gov.tw/>

かつて台湾の国軍内にあった陸・海・空軍所属三つの国劇隊を統合して設立された、台湾の国立京劇団である。芸術監督制度を採用し、現代演劇の手法を採り入れた新編京劇をコンスタントに創作するほか、一般向けの普及活動も盛んに実施している。現代台湾社会における大陸とは異なった京劇の方向性を垣間見ることのできるサイトである。



中国国家京劇院

文武双全の京劇俳優、李少春の記念館のサイトである。李少春の本籍地河北省霸州県にあり、展示スペースのほか古典的な舞台を模した小劇場が敷設されている。霸州にはこれ以外にも李少春大劇院、中国戯曲大観園 (伝統演劇テーマパーク) などがあり、伝統演劇の郷として地域振興を目指している様子がサイト内の情報からもうかがえる。

◆ 代表的名優の記念館サイト

近代化を模索し続ける現代の京劇だが、実質的には今も依然として俳優の芸を最も重視する演劇であることに変わりはない。以下、20世紀を代表する京劇俳優二人の記念館のサイトを紹介します。

◎ 梅蘭芳紀念館 (簡体字中国語)

<http://www.meilanfang.com.cn/>

北京市中心部の西北寄り、徳勝門内護国寺にある梅蘭芳の故居を利用して設立された記念館のサイトである。名優というタイトルを超えて現代中国を代表する「偉人」と見なされている梅蘭芳だが、近年は愛国人士としてのイメージも強化されており、この記念館も愛国主義教育基地に指定されている。サイト内には梅蘭芳の事跡のほか、かつての戯単 (プログラム) など一部収蔵品の紹介ページがある。

◎ 李少春紀念館 (簡体字中国語)

<http://www.lishaochunjinianguan.net/>

新旧中国の京劇界で活躍し、文革期に他界した

◆ おわりに

以上、京劇についての基礎知識や現代中国社会における位置づけを知るための代表的サイトを紹





梅蘭芳紀念館

介した。日本の伝統演劇とは美学的に共通するところも多いが、一方で社会的ポジションや目指す方向性はお互い相当に異なっていることも、以上のサイトからうかがい知れると思う。中国社会を映し出す鏡ともいえる京劇をより多面的に認識するために、これらの情報を活用してほしい。

年会費の納入についてのお知らせ

年会費が未納の方は、下記口座にお振り込み下さい。年会費は 2003 年度分が 1,000 円、2004 年度以降は BBS 会員は 1,000 円、一般会員は 3,000 円になります。

郵便振替

口座番号：00120-1-91107

口座名称：漢字文献情報処理研究会

三菱東京 UFJ 銀行 京都駅前支店

口座番号：普通 4571788

口座名称（漢字表記）：漢字文献情報処理研究会代表 師茂樹
 （機械振込等カナ入力）：カンジブンケン モロシゲキ

ゆうちょ銀行

ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキュウ）店

（金融機関コード：9900 店番：019）

預金種目：当座

口座番号：0091107

カナ氏名：カンジブンケンジョウホウショリケンキュウカイ

「中国映画研究」への扉

アナログ系研究者による Web サイト紹介

菅原 慶乃（すがわら よしの）

◆ 0. フィルム・スタディーズとしての「中国映画研究」のために

Web 世界のスピード感と情報量の多さが自らの情報処理能力をとうに越えてしまった筆者にとって、「中国の映画研究の入り口となるような Web サイトの紹介と解説」という本稿に与えられた課題は、大いなる難題である。幸いなことに、研究の導入となるようなサイトと、「情報通」のためのそれとでは、性質は大きく異なる。本稿では前者の立場から「中国映画研究」をマクロな視点でとらえ、研究の入り口となるいくつかのサイトを紹介するという仕事に徹したい。

「中国映画研究」とはいったい如何なる学問なのかという根源的な問いが、近年国際シンポジウム等でしばしば言及されている。本論に入る前に、本稿ではまずこのことの意味を確認しておきたい。

最近この学問領域の対象を指して「華語電影」と称することも多くなったが、この名称は単に対象地域の複数性を示唆するだけでなく、それに切り込む研究視角や立場の多様性をも指している。

しかし、目覚ましい多様化を見せる「中国映画研究」の姿は、日本ではあまり注目されていないのではないか。そもそも日本では、あちこちで映像系学部・学科が林立した映像バブルが落ち着きつつある現在もなお、映画が学術研究の対象となりうることに對する理解が進んでいない。

筆者はかつて、ある大先生が「映画研究なんて素人でもできる」とおっしゃったのを耳にしたことがある。この言葉は、日本における映画研究の質が、少なくともこの老先生のお眼鏡にかなうレベルに達していないことを暗に意味していることはもちろんだが、そこには同時に、日本の学術界を覆う根源的な「誤認」が反映されているように感じてならない。

この「誤認」には少なくとも二種類がある。

まず、「映画とは、何も知らない学生を専門のムズカシイ研究に導いていくための便利な教育ツールである」といった類の認識である。これは、そもそも映画を研究対象として見なしていない。

次に、映画研究とは、あらずじにそって作者（この場合監督）が如何なるメッセージを発していたかを考えたり、あるいはそこに中国のどのような現実が反映されているかをまとめるものだ、とする認識である。ここで筆者は、そのような「読み」の手法を批判しているのではなく、それが映画研究の唯一の手法であるとするこの問題を指摘しているのである。したがって、筆者が小論でまずとりあげるべきは、「中国映画研究」を、より広い学術的文脈に置き、相対化するようなサイトである。



図1: Screening Modern China のトップページ

◎ Screening Modern China: Chinese Film and Culture

<http://www.courses.fas.harvard.edu/~chlit130>

日本と同様、アメリカにおいても「中国映画」を学べる授業の多くは、中国文化・文学系学部のカリキュラムに組み込まれているが^[1]、多くの場合、それらの科目はフィルム・スタディーズへも架橋されている点において、日本の状況と決定的な差異がみられる。

例として、アイリーン・チョウ氏（周成蔭、デューク大学）が、ハーヴァード大学東アジア言語・文明学科で開講していた講義科目 Screening Modern China: Chinese Film and Culture を取り上げたい。

この講義では、毎回の授業で作品を1つ取り

図2 「上海年華」の「中国現代電影期刊全目書」で、『電影春秋』（1925年）第1期の目次を表示した所

期名	種類	作者
第一期 (1925-3)		
1・影界甘苦(影(封面))	图片	
2・秀影集	图片	
A 影界杂俎	图片	
B 影界佳话	图片	
C 影界杂生	图片	
D 影界物语	图片	
E 影界杂闻	图片	
3・风正树息	文字	亚光
4・月窟宝盒之一幕	图片	
5・新片试映日之导演者	文字	文农
一 影界杂闻	文字	陈寿南
二 影界杂闻	文字	陈寿南
三 影界杂闻	文字	陈寿南
四 影界杂闻	文字	陈寿南

上げ、スクリーニング授業を実施した後に、その作品においてナショナル・アイデンティティをめぐる諸問題が、映画の美学上の形式を用いてどのように表象されているのか、を分析するものだった。このテーマは、この科目が、「中国映画研究」を、中国文学・文化研究とフィルム・スタディーズを横断するものであると明確にアイデンティファイしていることを物語っている。

したがって、トップページ以下に設定されたサブカテゴリには映画学の専門用語にかんするキーワード辞典が用意され、また期末レポートの「ライティング・ガイド」の項目では映画学としてのレポート執筆の注意点がコンパクトに解説されている等、学生に対する目配りのよい細やかな配慮に溢れている。

以下、本稿では「中国映画研究」の初歩的な情報を得るためのサイトを紹介するが、それらが常にフィルム・スタディーズへと開かれた文脈の上で参照されることを望む次第である。

◇ 1. 資料への誘い

中文系学部・学科の新入生で「中国映画」に興味を持つ学生が、まずどのような本を読むべきか訊ねてきた場合、一昔前ならば『中国映画史』（程季華主編、森川和代訳、平凡社）等が挙げられていたことだろう。

しかし、Webの学術リソースが格段に進化した現在、ある特定の領域についていえば、書籍よりもWeb情報の方が有効である場合も少なくない。Webの普及とともに育ってきた彼（女）らに対する最初の一步としてWebサイトを紹介するという方法は、決して奇抜なやり方ではないだろう^[2]。

◎ 1-1. 上海図書館 電影年華

<http://memoire.digilib.sh.cn/SHNH/>

民国期に発行された雑誌へのアクセシビリティは、今日飛躍的に高まっている。

映画雑誌も同様で、影印や復刻、マイクロフィルム・デジタル化が急速に進んでいるが、その一

方で、映画関連記事を網羅した雑誌記事データベースはあまり見あたらない。そこで、上海図書館が提供する『電影年華』を利用することが多くなる。

「電影記憶」と「図片上海」の二部構成のうち、「電影記憶」はさらに「民国電影明星録」と「中国現代電影期刊全目書」に分けられている。前者はいわゆる映画スターのデータベースで、画像・音声資料がアーカイブされている。後者は、雑誌記事データベースに相当する。民国期に発行された映画雑誌のうち、上海図書館所蔵の多くについて、目次がデータベース化されている（図2参照）。

現在、国家図書館「民国期刊」<http://mylib.nlc.gov.cn/web/guest/minguoqikan> や大成老旧刊全文数据库 <http://www.dachengdata.com/> 等、民国期発行の大型雑誌データベースは複数あるが、いずれも映画雑誌は断片的な収録にとどまるため、「上海年華」の雑誌記事データベースは時に大変重宝することになる。

残念ながら、当該サイトの画像は本稿執筆現在、すべて閲覧できない仕組みになっているようだ。雑誌のカラー画像にかんしてのみいえば、同データベースを基盤とした書誌『中国現代電影期刊全目書志』（上海図書館編、上海科学技術文献出版社、2009年）に一部が収録されているので、併せて参照されたい。

◎ 1-2. 財団法人川喜多記念映画文化財団

<http://www.kawakita-film.or.jp>

筆者の経験上、学生たちは意外にも戦争映画や戦時下で制作されたプロパガンダ映画に少なからぬ興味を持っているようだ。東アジアについていえば、とくに戦中の日本が植民地や中国に対して行った映画政策を卒業論文のテーマとする学生は散見される。

昨今歴史研究において「越境」や「交渉」がキーワードとして定着した感があるが、映画史研究においてもそれは同様である。日中の映画関係史を対象とする場合、当然ながら中国側の資料と日本側の資料の双方に目を通すことが必要となる。

そのような時に有用なのが、川喜多記念映画文

化財団の映画雑誌データベースである。ここには、『キネマ旬報』、『活動之世界』、『活動写真雑誌』等日本映画創生期に刊行されていた映画雑誌から、戦時中の『映画旬報』、『日本映画』、さらには戦後発行の新しい雑誌にいたるまで、日本で発行された主要な映画雑誌の目次がカバーされた雑誌記事データベースである。

日本で発行された映画雑誌の記事索引としては牧野守編『日本映画文献書誌（明治・大正期）』（雄松堂書店、2003年）等あるが、昭和期の雑誌は対象外であるため、当該データベースは実に有益である。「雑誌名」、「出版社」、「出版年月」、「特集」の4項目からの検索が可能である（「特集」が実質上雑誌記事のキーワード検索窓となっている）。

戦前、戦中ではもとより、戦後の雑誌も対象となっているので、たとえば戦後日本で紹介された中国映画について調べる等といった際にも有用である。

なお、同財団ではコピーサービスも行っているため、複写を希望する場合は事前に電子メール等で連絡をされたい。

◇ 2. 研究動向を知る

すでに述べたように、「中国映画研究」の手法は、映画のあらすじをまとめたり、感想を書いたりすることだけが唯一の方法ではない。

今やその手法は多岐に渡り、国際シンポジウム等では実に多くの分科会が立ち上げられるのが常である。したがって、「中国映画研究」の導入として、学会のトレンドを概観し、自分が採用する研究アプローチを決定する必要がある。そこで有用なサイトをピックアップしてみたい。

◎ 2-1. 『電影芸術』

<http://filmart1956.com/movie/>

雑誌『中国電影』を前身とする『電影芸術』は1956年の創刊以来、長きにわたって中国の映画研究の中核的地位を保っている雑誌である。

このサイトでは、『電影芸術』に掲載された2007年以降の記事の抄録を読むことができる。

雑誌記事のオンライン閲覧ならばCNKIが有



図3：台湾電影網 トップページ



図4：香港電影評論学会ホームページのトップ

用であるのはいうまでもないが、そのあまりに膨大な情報の海はまさに玉石混淆で、取捨選択にはときに予想を超える時間と労力を要することもある。

その点、研究者の間で定評のある『電影芸術』誌の記事だけを効率よく検索できる本サイトは、研究動向の概要を把握するには有用である。本サイトではまた、『中国電影』創刊号以来の目次一覧も閲覧、検索できる。通常のCNKIではカバーしない年代も含まれるので、時に重宝する。

◎ 2-2. 台湾電影網

<http://www.taiwancinema.com/>

「台湾電影網」は、映画の基本データベースのみならず、映画人へのインタビュー、評論、産業の動向、台湾における映画祭情報や映画関連法規の紹介まで、台湾映画にかんするあらゆる情報が

網羅されているサイトである。

前身である台湾文化建設委員会のプロジェクト「台湾電影筆記」旧 URL：<http://movie.cca.gov.tw/> における秀逸な映画、人物データベースは、写真等を除きこのサイトにもある程度引き継がれている。

最新の話題はトップページ以下のサブカテゴリ「專題文章」で読める。また、「電影出版物」のカテゴリでは、『電影年鑑』を始めとする政府刊行の映画関連書籍をオンラインで閲覧したり、PDF版をダウンロードしたりすることができる。こうしたデジタル資料も、研究動向を知るためには有益だろう。

◎ 2-3. 香港電影評論家協会

<http://www.filmcritics.org.hk/>

香港電影評論学会は、1995年に設立された学術団体である。当該学会のウェブサイトの情報発信力は優れており、質の高い評論や各種活動の情報が頻繁に提供されている。

当該学会発行の機関誌で、戦後香港映画史の話題が数多く取り上げられる『HKinema』のバックナンバーもダウンロード可能だ。多くの情報量を掲載しているにもかかわらず、すっきりとしたブログ風のインターフェイスによって閲覧性が高く、シンプルなキーワード検索の使い勝手も軽快である。香港で開催されているあらゆる映画関連イベントのリンクが充実している点でも特筆すべきサイトである。

◇ 3. インディーズ映画

インターネットでこそ動向が把握できるムーブメントとして、昨今隆盛のインディーズ映画に関連するサイトを紹介しよう。

栗憲庭電影基金 <http://site.douban.com/lxtff/> や現象芸術中心（現像工作室）<http://site.douban.com/fanhall/> は、かつては独自サーバで運用されていたが、何度か閉鎖に追い込まれ、現在ではSNSサイト「豆弁」内に拠点を移している。現像工作室が発行していた『中国独立電影年度報告

書』などのダウンロード配信は停止されたままだが、両者が運営する中国記録片交流周や中国独立電影論壇の最新情報は更新されている。

中国も含めた世界のインディーズ映画の動向や評論を中国語で運営しているサイト迷影網 Cinephilia <http://cinephilia.net/> も、この分野にかんする有益な情報が得られるだろう。このサイトには、しばしば秀逸な映画評論が投稿されている。

インディーズ系サイトは星の数ほど存在し、またその盛衰や継続状況にも差がある。この領域を研究するためには、関係者に対する継続的なインタビューも、Web 情報と同様重要な研究リソースとなる。

◇ ◇ ◇

最後に、現在推進中のプロジェクトについて若干の紹介をしておきたい。

現在、関西大学アジア文化研究センター (CSAC) による「東アジア文化資料のアーカイブズ構築と活用法の研究拠点形成」(文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業)において、映画興行関連データベースの構築が準備されている。

これは、『申報』等の新聞に掲載された映画興行の広告・記事をデータベース化するものである。研究成果の一部はすでに CSAC Web サイト <http://www.csac.kansai-u.ac.jp/> 等で公開されており、今後の進捗も順次公表される計画である。



図5：栗壳庭電影基金（豆弁内）トップページ

このデータベースが、「中国映画研究」の新たな地平を拓くことを願っている。

注

- [1] 2000年代初頭の米国における中国学教学体制については次が詳しい；黄英哲「アメリカの大学における中国言語・文化・文化研究と教学の現状」『中国研究月報』659号（2003年）
- [2] とはいえ、本格的な資料検索に際しては、やはり『中国現代文学期観目録新編』（上海人民出版社、2008）や「老上海電影期刊經典」シリーズ（上海社会科学院出版社）等の出版リソースも大いに活用すべきであろう。

博物館・美術館

小島 浩之（こじま ひろゆき）

◇ はじめに

博物館・美術館は資料を収集・保管し、展示によって公開する施設である。図書館や文書館と異なり、公開方法が展示に限定されるため、研究者といえども所蔵資料へのアクセスは容易ではない。しかし、近年は博物館・美術館も展示・公開の一手段としてデジタルアーカイブ化に力を入れている。このため収蔵品の検索から利用までが以前に比べて格段に便利となっている。

◇ 国立系博物館

◎ 国立博物館系

戦前の皇室博物館の流れを汲む東京、京都、奈良（東博・京博・奈良博）の3博物館に加え、2005年に開館した九州国立博物館（九博）がある。東博・京博・奈良博は伝統的に美術系博物館の趣が強く、美術品を中心に広くアジアの文物を収集している。また、九博は古代対外外交の中心地であった太宰府に所在することもあり、アジア

九州国立博物館収蔵品デジタルアーカイブ



関係資料の収集に力を入れている。

● e 國寶

<http://www.emuseum.jp/>

国宝・重要文化財の高精細デジタルアーカイブ。画像の質は素晴らしいが、収録内容は国立博物館4館の所蔵品に限られる。このため国指定の文化財全般を網羅したい場合には、文化庁の以下のデータベースを利用する必要がある。

● 国指定文化財等データベース

http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index_pc.asp

● 文化遺産オンライン

<http://bunka.nii.ac.jp/Index.do>

前者は国指定文化財のデータベース、後者は全国の博物館・美術館等から提供された指定文化財以外の文化遺産も含んだデータベースとなっている。

◇ ◇ ◇

各博物館ごとの収蔵品データベースとしては次のものがある。

● 東京国立博物館情報アーカイブ・データベース

<http://webarchives.tnm.jp/archives/cat/database>

● 京都国立博物館収蔵品データベース

<http://www.kyohaku.go.jp/jp/syuzou/index.html>

● 奈良国立博物館収蔵品データベース

<http://www.narahaku.go.jp/collection/>

● 九州国立博物館収蔵品デジタルアーカイブ

<http://d-archive.kyuhaku.jp/>

これらのデータベースを検索してみると、美術品が中心とはいえ、アジア関係資料は意外と多いことが解る。画像・解説等の有無や精粗については各データベースにより差があるが、これらにより国立博物館の所蔵品が通覧できるようになったのは大きな進展だろう。国立博物館 4 館の統合検索システムがあればなおありがたい。

上記で紹介したうち e 國寶は、iOS (iPad や iPhone) 用に専用アプリが出ており、こちらの方が使い勝手が良いという意見もある。このほか東博は「法隆寺宝物館 30 分ナビ」や「トーハクナビ」といったアプリも配信している。こういった携帯情報端末アプリへの進出は、利用者に博物館を身近に感じさせる手段として有効であろう。

◎ 大学共同利用機関系

● データベースれきはく

<http://www.rekihaku.ac.jp/database/index.html>

歴史系をメインとした国立歴史民俗博物館(歴博)の収藏品データベース。複数のデータベースのうち中国に関係するのは「館蔵資料(画像)」があり、「使用地」の項目に「中国」と入力して検索すると 522 件がヒットする(画像があるものは 10 件のみ)。

● 国立民族学博物館データベース

<http://htq.minpaku.ac.jp/menu/database.html>

国立民族学博物館(民博)は、民俗学・文化人類学を中心とした博物館施設である。こちらも収集資料の画像データベースが充実している。「地域」の項目でキーワード「中国」を入力して検索すると、標本資料目録データベースで 14,508 件、衣服・アクセサリーデータベースで 2,571 件がヒットする。

◇ 私設博物館・美術館

国内には中国やアジアの資料を収集・公開する



久保惣美術館デジタルライブラリー

私設博物館が多くある。しかしその多くは、所蔵情報の公開に積極的ではなく、実態はブラックボックスに近い。その中でも、以下の3館はデジタルアーカイブやデータベースがある程度充実している。

● 泉屋博物館収藏品紹介

<http://www.sen-oku.or.jp/collection/>

● 大阪市立東洋陶磁美術館収藏品紹介

<http://www.moco.or.jp/products/index.php>

● 和泉市久保惣美術館デジタルライブラリー

<http://www.ikm-art.jp/cgi-bin/library/index.cgi>

cgi

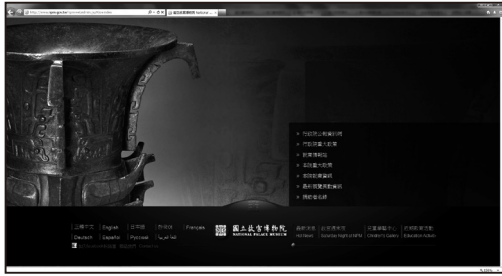
泉屋博物館は、財閥の住友家が収集した美術品を保存・展示する施設。特に中国古代の青銅器や銅鏡のコレクションは質・量ともに充実しており、世界的に知られている。収藏品紹介は名品ギャラリーのレベルではあるが、画質が良く解説も丁寧である。

東洋陶磁美術館は個人旧蔵の東洋陶磁(安宅コレクション)を中心とする中国・朝鮮陶磁器の専門博物館である。収藏品紹介はデータベースとなっており、中国陶磁は 60 件がアーカイブ化されている。

久保惣美術館は、綿織物業の久保惣株式会社およびその経営者である久保氏旧蔵の美術品を中心に展示している。デジタルライブラリーにおいて中国関係は 1,022 件ヒットする。

◇ 海外博物館・美術館

海外の博物館・美術館としては、台湾と韓国が



故宮博物院トップページ



韓国国立中央博物館収蔵品データベース日本語版

ら3館を採り上げておこう。

● 國立臺灣歷史博物館

<http://www.nmth.gov.tw>

● 國立故宮博物院

<http://www.npm.gov.tw>

臺灣歷史博物館と故宮博物院は日本人観光客が多いこともあり、日本語サイトが充実している。ただし、収蔵品データベースは中文版しか公開されておらず、日本語サイトからはリンクも張られていない。臺灣歷史博物館は中文版トップページ下部のメニューのうち [典藏] → [藏品目録] を選択することで、[蒐藏品查詢] (収蔵品検索) にアクセスできる。

世紀在线中国艺术网



故宮博物院は中文版トップページ上部のメニューから、[典藏資源] → [院藏資料庫] を選択すると、収蔵品検索のトップページに移動する。検索システムは器物、書画、図書文献、図像などに大別され、16種類が用意され、うち14種がフリーアクセス可能となっている。具体的には、[先秦銅器紋飾資料検索系統] や [書畫典藏資料検索系統] など考古、美術研究に有用なデータベースから、家譜や清朝档案、善本古籍といった文献史学に必要なデータベースまでが用意されている。

また故宮博物院では、『故宮魅力遊』行動導覽APP という iOS 用のアプリを配信していることも付け加えておく。

臺灣歷史博物館、故宮博物院ともにデジタル画像が附されている場合、画像の品質は良く、目録のメタデータも丁寧に記述されている。

● 韓国国立中央博物館

<http://211.252.141.1/main/index/index001.jsp>

韓国国立中央博物館は、歴史的には朝鮮皇室博物館、朝鮮総督府博物館の流れを汲むものであり、中国関係資料も多数所蔵している。この博物館も日本語サイトが充実しており、収蔵品データベースも日本語版が用意されている。ただし、画像は小さく不鮮明で研究に利用できるレベルのものではない。なおかつメタデータも最低限の情報しかなく、簡易収蔵品目録としての機能しか果たしていないのが残念である。

日本語サイトへの移動は、トップページ右側のドロップダウンリストから [Japanese] を選択し、[GO] をクリックする。収蔵品データベースへは、日本語トップページ上部メニューから、[収蔵品] → [収蔵品データベース] をクリックする。

◆ その他

● 世紀在线中国艺术网

<http://www.cl2000.com/index.php>

美術館によるサイトではないが、中国における芸術・美術に関するポータルサイトとして世紀在

线中国艺术网がある。存命の芸術家のデータ一覧や、展覧会情報、芸術批評、美術雑誌既発行分からの精選アーカイブなど各種情報を網羅している。

●Google アートプロジェクト

<http://www.googleartproject.com/>

Google が提供する美術作品観賞の Web サービス。高解像度画像による電子展示のほか、博物館・美術館内のストリートビューも用意されている。

日本からは東博ほか 5 館が、中国からは香港文化博物館ほか 2 館 1 組織が、台湾からは故宫博物院が参加している。

◇ ◇ ◇

このほか美術関係では東京大学東洋文化研究所が提供する各種データベースがある。これについては 90 頁からの「図書館・研究機関・学会・研究会など」で採り上げるので併せて参照されたい。

中国語のコーパス

— 言語研究に関わるものを中心に —

山崎 直樹 (やまざき なおき)

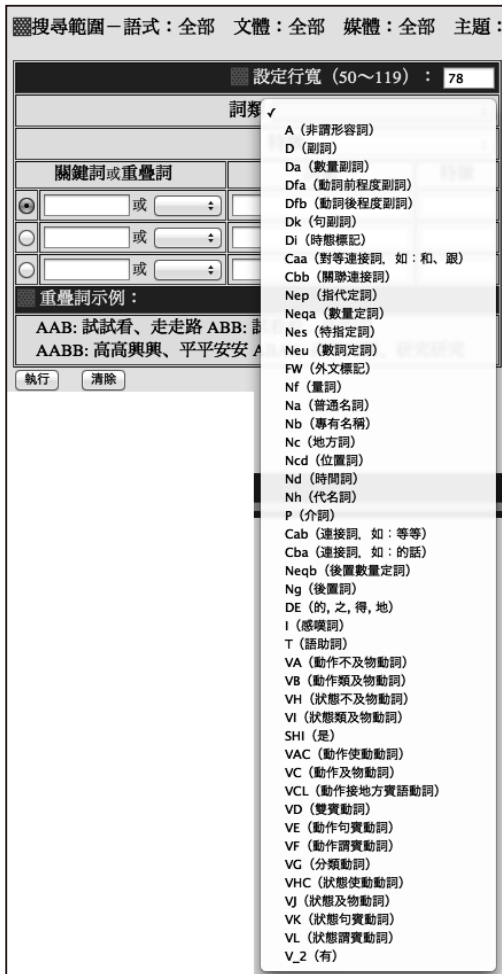


図1：現代漢語標記語料庫

◇ 0. ここで紹介するコーパス

この文章では、中華民国(台湾)で構築されているコーパス/データベースのうち、言語研究に関わるものを中心に紹介する。現在、この国では、国家的プロジェクトとして、あるいは、大学などの研究機関をあげてのプロジェクトとして、さまざまなコーパス/データベースが構築され、ウェブ上で公開されている。そのすべてを紹介することは勿論できないので、言語研究に関わるものを中心に、特色のあるコーパス/データベースを紹介することとする。

◇ 1. 文法研究に役立つコーパス

◎ 現代漢語標記語料庫 (4.0 版) (中央研究院)

<http://db1x.sinica.edu.tw/kiwi/mkiwi/>

これは、さまざまなジャンルの現代漢語のデータを集めた大規模平衡コーパス (balanced corpus) である。単語単位に分割され、品詞情報を含むさまざまなメタデータが付与されている。

検索に際しては、かなり詳細な条件設定が可能であり、多品詞語が多く形態的变化に乏しい漢語を効率的に検索できるような条件設定になっている (図1を参照)。

仕様については詳細なドキュメントが用意されており^[1]、参考になる。

◎ 近代漢語標記語料庫 (1.0 版) (中央研究院)

<http://db1x.sinica.edu.tw/cgi-bin/kiwi/pkiwi/pkiwi.sh>

唐・五代より後の時代の戯曲・小説を中心にしたコーパスである。上述の“現代漢語標記語料庫”と同じく詳細な条件設定で検索ができる。

◎ 上古漢語標記語料庫 (中央研究院)

http://old_chinese.ling.sinica.edu.tw/

先秦～前漢の文献を収録したコーパスである。やはり、詳細な条件設定で検索できる。上古漢語でこのような検索を可能にしたこと (= 詳細なメタデータを付与したこと) は賞賛に値する。

◎ 中文句結構樹資料庫 (中央研究院)

<http://turing.iis.sinica.edu.tw/treesearch/>

これは、中央研究院の現代語のコーパスの中から 1,000 文を選んで、品詞情報のみではなく、いろいろなメタ情報 (機能範疇のラベル、述語との関係における意味役割、依存関係の情報、そして階層構造の情報など) を付与したコーパスである。検索語を含む文を樹構造で描画して表示するのが特徴である (図 2 を参照)。

樹構造の情報をもつコーパスとしては、The Penn Treebank Project^[2] のそれが有名であるが、この中央研究院のデータは、Penn のそれよりもメタ情報の種類が多い。

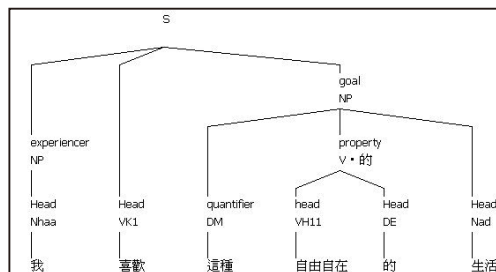


図 2：中文句結構樹資料庫

◎ 中英雙語知識本體詞網 (中央研究院)

<http://bow.sinica.edu.tw/>

これは、WordNet^[4] の枠組みで開発された中英 2 言語コーパスである。WordNet とは一種の概念辞書で、この中では、語彙は synset と呼ばれる類義語のセットに分類され、synset 同士は、上位・下位などのさまざまな概念で関係付けられている。このコーパスは、中英 2 言語が関連付けられている WordNet である (図 3 を参照)。

◇ 3. 談話分析に役立つコーパス

◎ 現代漢語主題對話語音語料庫 (中央研究院)

http://mmc.sinica.edu.tw/mtcc_c.htm

特定のトピックについての知人同士の会話を記

◇ 2. 語と語のネットワークに関する情報をもつコーパス

◎ 中文詞彙特性速描系統 (中央研究院)

<http://wordsketch.ling.sinica.edu.tw/>

これは、“Sketch Engine” というアプリケーション^[3] を用いて、ある語と有意な共起関係にある別のある語を、両者の文法的関係とともに提示することにより、その語の特性をデータでもって描き出すコーパスである。なお、このシステムを利用するには、利用者登録をする必要がある。

図 3：中英雙語知識本體詞網

④ Sense (詞義) 1: coffee	
Sense map with other version 同義詞集和其他版本對應	WordNet1.6
咖啡 map with synset of other version 該詞義中的咖啡和其他版本對應	咖啡@WordNet1.6
Domain 領域	General(一般) 建議領域值
POS 詞類	Noun(名詞)
Explanation 解釋	a beverage consisting of an infusion of ground coffee beans
Translation 翻譯	java , coffee
Synset 同義詞集	咖啡飲料, 咖啡
Substance meronym (整體) 成分詞	caffeine ^[0.75] , caffeine ^[0.75] , coffee ^[0.75] , coffee_bean ^[0.75] , coffee_berry ^[0.75]
Hypernym 上位詞	potable ^[0.75] , beverage ^[0.75] , drink ^[0.75] , drinkable ^[0.75]
Hyponym 下位詞	espresso ^[0.75] , mocha ^[0.75] , coffee_capuccino ^[0.75] , demitasse ^[0.75] , cafe_au_lait ^[0.75] , iced_coffee ^[0.75] , Turkish_coffee ^[0.75] , decaffeinated_coffee ^[0.75] , capuccino ^[0.75] , chicory_root ^[0.75] , coffee_royal ^[0.75] , Irish_coffee ^[0.75] , decaf ^[0.75] , chicory ^[0.75] , cafe_royale ^[0.75] , ice_coffee ^[0.75] , cafe_noir ^[0.75]
Examples 示例	• he ordered a cup of coffee

録しメタデータを付与したマルチメディアコーパスである。

◎ 現代漢語連續口語對話語音語料庫 (中央研究院)

http://mmc.sinica.edu.tw/mcdc_c.htm

これは、面識がないインフォーマント間での自然会話のマルチメディアコーパスである。

◎ 現代漢語地圖導引口語語音語料庫 (中央研究院)

http://mmc.sinica.edu.tw/mmhc_c.htm

これは、対話者間でのインフォメーションギャップがある場合の対話（この場合は、情報量が異なる地図をもつ対話者がそのギャップをどう埋めるかという、談話分析の分野では非常にポピュラーな課題）を記録し、メタデータを付与したマルチメディアコーパスである。

◆ 4. 学習者コーパス

◎ 中介語料庫 (台湾師範大学)

<http://chinese.mtc.ntnu.edu.tw/moodle/mod/forum/discuss.php?d=210>

英語話者の中国語学習者の中間言語コーパス。惜しむらくは、まだ分析が終っていないとのことで、公開されていない。

言語学習者の産出したデータを集積したコーパスとしては、下記もある。

図4：台湾手語電子資料庫



◎ 台灣多國語言學習者語料庫系統 (成功大學)

<http://corpora.fild.ncku.edu.tw/index.pl>

このコーパスは、第2言語として日本語／スペイン語／ドイツ語／漢語を学ぶ学習者が産出した、それぞれの言語のデータである。惜しむらくは、学習者の母語のデータが表示されない。

◆ 5. 標準華語以外の言語のコーパス

中正大学の“臺灣人文研究中心”の“臺灣人文資料庫”には、“台灣手語資料庫”“台灣閩南語語料庫”が含まれるとのことである（下記参照）。

◎ 臺灣人文資料庫 (中正大学)

http://tih.ccu.edu.tw/tih_97/integration.html

閩南語のコーパスも貴重だが、手話のデータベースはさらに貴重である。上記のURIのページからリンクが張ってあるわけではないが、下記のサイトがおそらくこの研究の成果であろうと推測される。

◎ 台灣手語電子資料庫

<http://signlanguage.ccu.edu.tw/index.php>

このページから台湾手話のデータベース（地名と姓氏を表す手話のデータベースがある）を利用することができるほか、手話のオンライン辞書(図4を参照)も利用できる。

◆ 6. 先住民族の言語のコーパス

台湾の先住民族の言語のコーパスも公開されている。

◎ 台大台灣南島語多媒體語料庫 (台灣大學)

http://corpus.linguistics.ntu.edu.tw/index_zh.php

現在のところ収録されている言語は、Kavalan, Saisiyat, Amis, Tsou, Sakizaya である。このコーパスのユニークなところは、Chafe1980 で試み



mani a[-inamə	patoʔo:	"maʔ-itolo-tolo[o-nomi" m-ia.
就 動態.非限定:拿-我們.斜格	動態.虛擬式:告訴 相互-重疊-來源-你們.主格	動態.虛擬式-這樣
01.001.e 		
我們萬山人(才)知道「原來咱們是(屬於魯凱族)。」		
mani [ihoʔo-nai	ʔina ʔoponoho	"ka-iʔa-ta aanai" m-ia-nai.
就 動態.非限定:知道-我們.主格	這 萬山	原來-動態.非限定:一樣-咱們.屬格 那 動態.限定-這樣-我們.主格
01.001.f 		
日本人還沒來之前, 我們不知道我們和魯凱族同宗。		

図5: 台湾南島語數位典藏

られた方法を使って採集された談話のマルチメディアコーパスである点である。英語や漢語からでも語彙の検索ができる。

先住民族の言語のコーパスには、下記のものもある。

◎ 台湾南島語數位典藏 (中央研究院)

<http://formosan.sinica.edu.tw/m/ch/intro.htm>

収録されている言語は、Rukai, Yami, Tsou, Saisiyat, Atayal, Paiwan, Bunun, Amis, Puyuma, Pazih, Kanakanavu, Saaroa, Seediq, Kavalan である。検索語を含む文や段落を、IPA による転写、漢語訳、漢語によるグロスなどを添え、音声資料へのリンクとともに表示してくれる(図5を参照)。

◇ 7. 幼児言語のコーパス

台湾閩南語の話し手である幼児の言語のコーパスもある。

◎ TAICORP

<http://www.ccunix.ccu.edu.tw/~lncorp/Taicorp-Homepage1/>

これは、幼児言語のコーパスの共通規格である CHILEDS (Child Language Data Exchange System) ^[5] の仕様に沿って構築されたコーパスである。ただし、まだ未完成であり、公開はされていない。

参考文献

- Chafe, Wallace L. 1980. *The Pear Stories: Cognitive, Cultural, and Linguistic Aspects of Narrative Production*, N.J.: Ablex.

注

- [1] <http://db1x.sinica.edu.tw/kiwi/mkiwi/98-04.pdf>
- [2] <http://www.cis.upenn.edu/~treebank/>
- [3] <http://www.sketchengine.co.uk/>
- [4] <http://wordnet.princeton.edu>
- [5] <http://www.ccunix.ccu.edu.tw/~lncorp/Taicorp-Homepage1/>

図書館・研究機関・ 学会・研究会など

小島 浩之（こじま ひろゆき）

◇ はじめに

『電脳中国学入門』では、図書館、研究機関、各種学・研究会が公開する多くのデータベースやポータルサイトを採り上げている。しかし、原稿執筆時期とシステムリプレイスが重なり、執筆内容と実際のデータベースに多少の齟齬が出たものや、重要なサイトとは認識しつつも紙幅の関係でやむなく割愛したものもある。

本稿では補遺としてこういったサイトの中からいくつかを紹介してみたい。

◇ 図書館

◎ 近代デジタルライブラリー

<http://kindai.ndl.go.jp/>

◎ 国立国会図書館デジタル化資料

<http://dl.ndl.go.jp/>

国立国会図書館（NDL）は2012年1月、つまり『電脳中国学入門』編集の真っ最中にシステムリプレイスを行い、それまでのサイト構成を一新した。『電脳中国学入門』ではできる限り最新情報を載せることに務めたが、その後の更新で多少の変更が出てきている^[1]。

ところで、平成21年の著作権法改正により、NDLは所蔵原本の滅失等を避けるために、著作

権者の許諾を得ることなく所蔵書籍のデジタル化が可能となった^[2]。ただしWebを通じて一般公開できるのは、著作権保護期間が満了したものか、許諾を得たものである。このためNDLがデジタル化した資料には、インターネットで広く公開されるものと、NDL館内でのみ公開されるものに大別される。

こういった中、2012年5月に近代デジタルライブラリーは、国立国会図書館デジタル化資料に統合された。当該サイトはNDLにおけるデジタル化資料へのポータルであり、これまで古典籍や内部公開用のデジタル化資料などの閲覧用インターフェイスとなっていた。

従来の近代デジタルライブラリー用インターフェイスも残されてはいるが、インターネットで閲覧可能な図書・雑誌を検索・閲覧するサービスに限定された^[3]。また、機能面では国立国会図書館デジタル化資料と同じ仕様となり、フルスクリーン表示やJPEG表示機能が追加された。

『電脳中国学入門』では、国立国会図書館サーチと近代デジタルライブラリーの検索を比較して、前者が著者名の統制をとっているのが異名同人をほぼ網羅できるが、後者はそれができないことを指摘した（176-177頁）。この点は特に改良されておらず、近代デジタルライブラリーや国立国会図書館デジタル化資料での検索に際しては注意されたい。

◎ レファレンス協同データベース (レファ協)

<http://crd.ndl.go.jp/jp/public/>

レファ協はNDLが全国の参加を希望する図書館とともに協同で構築しているデータベースである。図書館では利用者等からの質問に対して回答する業務を参考調査(レファレンス)と呼んでおり、その調査・回答内容をデータベース化したものがコンテンツの中核に据えられている。

加えて、参加図書館の特別コレクション(個人文庫や貴重書など)の情報や、特定テーマに関する調べ方ガイドなどもデータベース化されている。つまりレファ協は、調査準備のためのポータルサイトとでも言えようか。

レファ協を検索することで簡単に疑問が氷解し調査の道筋が示される場合もあれば、逆に専門家の見地からすれば物足りない回答しか得られない場合もある。こういった図書館におけるレファレンスサービスのサイトを利用するにあたっては、本誌12号掲載の矢野正隆氏による「図書館におけるレファレンスサービスの本質とは」を一読することをお薦めする。

また、NDLでは、関西館のアジア情報室がアジア関係の参考調査に特化した次のようなページも開設している。併せて参照されたい。

◎ アジア諸国の情報をさがす

<http://rnavi.ndl.go.jp/asia/>

◆ 研究機関

◎ 唐代人物知識ベース

<http://tkb.zinbun.kyoto-u.ac.jp/pers-db/>

京都大学人文科学研究所におけるCOEプロジェクト「漢字文献ナリッジベース構築」の一環として作成されたもの。

唐・五代の人物4,636人について、人名(姓、諱、字、排行、名号、諡、廟号)、関係地(生地、貫籍、郡望、寓居、卒地)、在世時(在世時、生年、没年)、



国立国会図書館デジタル化資料

家系(祖、父、祖先、子孫、家族、姻戚)、経歴(科挙、官職、著作、記事)のデータが網羅されている。

唐代史を研究する際には人物索引として使用できるほか、唐詩など中唐文学の研究にも有用であろう。興味深いのは「著作」と「記事」の2つの項目で、「著作」は総集、別集を問わず本人の著作を、「記事」は当人の評伝含まれる作品を列挙する。前者には、一部墓誌など近年出土した成果も含まれており、後者には正史の伝や総集の小伝のみならず、近現代の事典類も例示されている。これらから我々はデータの内容をいつでも再検証することができ、安心してこのデータベースを使えるのである。

歴史学とは人間の営みの総体を客観評価する学問だといえるから、唐・五代の知識人の人間関係をハイパーリンクで構造化したこの試みは、歴史研究の基礎データとして大変興味深い。

◎ 『電子くずし字字典データベース』『木簡画像データベース・木簡字典』連携検索

<http://cliouz39.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/ZClient/W34/>

唐代人物知識ベース





『電子くずし字字典データベース』『木簡画像データベース・木簡字典』連携検索

東京大学史料編纂所の「電子くずし字字典データベース」と奈良文化財研究所の「木簡画像データベース・木簡字典」を統合検索できるもの。中国研究、なかでも中国史の場合は、抄本、古文書、石刻といった手書きもしくは手書きに準ずる史料を読解しなければならないことも多い。特に石刻は碑文や墓誌が大量に発見され続けており、その中には行書や草書によるものも含まれ、漢字の崩し字に四苦八苦させられる。

こういった文字の確定は、文字の崩し方と、文脈における使用例を根拠にしなければならない。当該データベースは日本における用例ではあるが、文字の崩し方の用例として中国研究においても十分参考となる。

こういった手書きもしくは手書きに準ずる史料には異体字も多く使われる。異体字の確定には、ひとまず台湾教育部による異體字字典を参照されたい。ただし、部首と画数から検索しなければならないので使い勝手はあまり良くないのが難点である。

中国絵画所在情報データベース



◎ 異體字字典

<http://140.111.1.40/main.htm>

崩し字や異体字の文脈における使用例は、『電腦中国学入門』193頁で採り上げた京都大学人文科学研究所の「拓本文字データベース」などが参考となる。

ところで史料編纂所というと、日本の古文書というイメージが強いが、中国に関わる古文書も所蔵されている。原本から写真記録まで媒体は様々だが、所蔵史料目録データベース (<http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller>) からは、名家伝来の古文書の中に中国関係の古文書を見出すこともできる。

◎ 東京大学東洋文化研究所東アジア美術研究室

<http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/index.html>

東京大学東洋文化研究所東アジア美術研究室では次の三種のデータベースを公開しており、中国美術研究のための基礎ツールとなっている。

- ①中国絵画所在情報データベース
- ②東アジア絵画史研究文献目録
- ③江戸後期中国絵画所在情報目録

①は『中国絵画総合図録』正編5冊・続編4冊(1982-2001年)のための調査カードをデータベース化したもの。「18世紀初期以前の中国絵画に限定したが、一部にそれ以降の中国絵画、或いは書蹟等も含まれる。但し、羅漢図・十王図等の研究の現状に鑑み、我国あるいは朝鮮のものを目される作品もあえて収録の範囲に加えた」(凡例より)という。

調査カードに附された絵画の写真についてもデジタル化を進めているとのことだが、現状では目録のみで写真のアーカイブは公開されていないようである。

②は日本語による東アジア絵画史関連の文献リスト、③は現存しない中国絵画に関する目録で、具体的には江戸時代に日本で作成された中国絵画

の模本や粉本のデータベース (一部)。

◆ 学会・研究会

◎ 戦後日本における台湾関係文献目録

<http://www.koryu.or.jp/taiwanstudies.nsf>

日本台湾学会が提供する文献データベース。台湾研究のためのインフラ作りとして作成された。研究文献に限らずガイド類や写真集など、台湾に関する多くの文献を収録している。

◎ 唐・五代十國時期墓誌・墓碑データベース

<http://sekkokuken.mind.meiji.ac.jp/doc/find.htm>

中国石刻文物研究会が提供する石刻資料の目録データベース。氣賀澤保規『唐代墓誌所在総合目録』、高橋繼男「中國五代十國時期墓誌・墓碑綜合目録稿」、明治大学大学院東洋史研究室ゼミ『『西安碑林全集』所載「唐代墓誌目録」』のデータがまとめられている。唐・五代時期の歴史研究には有用なデータベースで、検索システムはNamazuを使用している。

ただし JIS 表示できない文字が「■」扱いになっている点は、多言語データベースが一般的になった今日、少し時代遅れの感も否めない。



唐・五代十國時期墓誌・墓碑データベース

注

- [1] 今回のリプレイスでNDLの図書館システムはイスラエルのEx Libris社製となった。実は中国国家図書館、台湾国家図書館のシステムもEx Libris社製品が導入されており、奇しくも日中台の国立図書館のシステムが同一企業のものとなった。
- [2] この改正について詳しくは、石岡克俊「学術情報のデジタル化：国立国会図書館の新たな役割」、大場利康「著作権法改正と国立国会図書館のデジタル化を巡って」、拙稿「著作権をめぐる最近の動向：Googleブック検索問題と著作権法改正案」（いずれも本誌第10号掲載）を参照のこと。
- [3] 統合前までは、明治から昭和初年の図書・雑誌について内部公開のものも目録検索することは可能であった。

中国での銀行口座開設 実践編

佐々木 愛 (ささき めぐみ)

◇ はじめに

『電腦中国学入門』173頁には、中国での銀行口座開設を「中国旅行の空き時間にでもチャレンジしてみても」と勧めるコラムがある。

確かに中国では旅行者にも銀行口座の開設が認められているし、何の情報を得るにせよ、対価の支払いが必要な場合、中国の銀行に口座があってネットバンクで決済できれば便利だ。中国現地で活動するのであれば、なおのこと口座が必要になるだろう。

そうえ、中国での口座開設は非常にスピーディーだ。

日本の銀行の場合、手続き自体はその場で済むにしても、キャッシュカードは1週間から10日後、カードにクレジット機能をつけた場合は2～3週間後に自宅宛に郵送されるまで待たねばならない。

いっぽう中国の銀行では、銀行カード（「銀聯

筆者が取得した銀行カード・USB ドングル及び通帳



カード」機能付き）やネットバンク用のUSBドングルなど、貰うべきものはすべて口座開設手続きをしたその場で貰うことができる。さらに手続きに要する時間も20分程度（待ち時間は除く）。

また中国の銀行の営業時間は日本より長い。営業日時は銀行や支店によって違うかもしれないが、私が口座を作ったある銀行の場合、平日は朝9時から5時まで、土日でも9時から4時まで営業している。確かにこれなら旅行の空き時間にでも口座開設ができるというものだ。

しかし中国語会話に自信があるという人でないかぎり、不安が先に立ってしまい、なかなか口座開設までは踏み切れないのではないだろうか。

さて、私は2012年4月から1年間、上海の大学に勤務することになり、到着当初の中国にも中国語にも全く不慣れな中で口座を開かなくてはならなかった。様々な成り行きから、結局三つの銀行—中国銀行、中国工商銀行、中国農業銀行—で口座を開いたので、中国四大銀行のうち三つを制覇(?)したことになる。

本稿では私の体験をお伝えしたい。口座を作るのは特に難しいことではなく、また中国語が話せなくても問題ないことがわかりいただけることと思う。

◇ 口座を開くタイミング

もちろん「銀行口座が必要だと思った時」がそのタイミングなのだが、もし中国で携帯電話やスマートフォンを購入する予定があるのなら、そちらの購入を先にすることをおすすめする。

理由は以下の通り。

- ①どここの銀行でも、携帯番号が口座の開設申請書での必須記入項目になっている。
- ②現在中国では携帯端末を利用したモバイルバンキング「手机銀行」が普及している。我々が通信端末で銀行を活用しようとする場合、通常はPCによるネットバンキング（网上銀行）を利用するが、もし中国国内からの利用が主でかつ携帯をもっているのであれば、より簡便な手机銀行を利用することもできる。
- ③中国工商銀行では、「网上銀行」にアクセスするさい、本人確認をより厳重化するため携帯端末のコードを入力するという方法がとれるようになっている。

以上、現在の中国で生活するさい、携帯は不可欠な存在になっているが、銀行という局面においても同様ということだろう。

◆ 口座開設のために必要なもの

パスポートは必須。そのほか想定外のことだったが、网上銀行を利用したい旨を伝えたところ、中国農業銀行では「中国での勤務先の職員証」の提示を、中国工商銀行では「日本での身分証明書番号」を求められた。中国農業銀行の時は、中国での勤務先の職員証はたまたま持っていたし、ちらりと見せる程度のもので済んだ。

しかし持っていなければ事は面倒になる。日本の身分証を求められた中国工商銀行で「今持っていないし、番号も思い出せない」と言ったところ、「それでは身分証明書をもっともう一度出直してきてください」といわれてしまった。中国の職員証はもっていたので、これではダメなのかと食い下がって見たが、ダメだという。

仕方なくいったん自宅にもどり、日本の職員証を出してみたが、職員番号的なものは書かれていなかったため、結局「共済組合員証（健康保険証）」を提示した。日本の健康保険証など中国で使うことなどないだろうと思っていたのだが、まさかの活躍となったわけである。

ただ共済組合員証の表面には、私の個人番号のほかに発行機関番号も書かれているので、行員から「どれがあなたの番号ですか？」と聞かれ、「これ」と指さして、ようやくこの件をクリアできた。

一方、中国銀行ではパスポートだけで事足りた。ただ、こういったことは支店によって、あるいは担当者によって状況は変わってくる可能性がある。

どの銀行で口座を開くにせよ、必要になる可能性のあるもの、特に日本の身分証明書（何らかの番号つき）は、持って行くことをおすすめする。

◆ 銀行に足を踏み入れる

銀行に入り、さて、とキョロキョロしていると、だいたいさっと行員が寄ってきて、「どのようなご用件でしょうか？」と聞かれる。あるいは入り口を入ったところへすぐ案内カウンターが設置してあって、まずは用件をカウンターの人に言う仕組みになっているところもあった。

そこでその行員に「口座を開きたいです」というと、口座開設の申請書を出してくれ、記入必須項目にチェックを入れてくれたり、タイミングをみはからって「整理券発行機」を操作し整理券をとってくれる等、お世話をしてくれる。

中国の銀行の「整理券発行機」は日本のものとは少し違っている。

日本ではただ整理券を引き抜きさえすればよいのだが、中国の銀行の「整理券発行機」はタッチパネル式で、個人なのか企業なのか、用件の内容は何か等について画面をタッチして選択していくと、入力内容に応じた整理番号の書かれた紙が出てくる仕組みになっている。これは顧客の用件に応じて受付窓口を別にしていることによるのだろう。「整理券発行機」の操作は銀行の人がやってくれるので、おまかせしよう。

◆ 申請書に記入する

申請書の様式はもちろん各銀行でそれぞれ異なるが、各行共通して必ず記入を求められた項目は、姓名・身分証明書の種類（我々の場合はパスポート）

トなので「护照」と記入）・パスポート番号・携帯電話（手机）番号だった。

住所については、正確な記入が必要な銀行もあるが（中国工商银行）、所属単位名を書いておくだけでもよかったり（中国農業銀行）、「街道」や「小区」までの記入となっていたり（中国銀行）、と、さすがに旅行者でも口座開設が可能な中国だけあって、住所が重要視されていないことがうかがえる様式となっている。旅行者の場合はホテルの住所を書いておけばよいと聞いた。

なお、『電腦中国学』のコラムでは「メールアドレスが必要になることが多い」と書いてあったが、中国工商银行と中国農業銀行ではそもそもメールアドレスの記入欄がない。中国銀行ではメールアドレスの記入欄は一応あったが、欄はひどく小さくて到底書き込みそうな感じがしないうえ、もちろん必須項目でもなかった。

また日本の銀行では記入必須と思われる「家庭電話」も必須項目ではなかった。銀行側が想定している連絡先はあくまでも携帯電話であるように感じられた。

さて、次に、どのような口座にするか、希望する項目について申請書のチェック欄にチェックを入れていく。私の希望は、日本でいうところの普通預金口座を開設することと、ネット利用（网上银行）したいということなので、それに沿ってチェックを入れていった。

まず「普通預金口座」だが、三行とも、最初に書いてあるのがそれにあたる。中国農業銀行なら「普通卡」、中国銀行なら「長城電子借記卡」、中国工商银行なら「靈通卡」。ここにチェックを入れる。

さらに「活期一本通」という項目にチェックをいれると、この口座一つで米ドルや日本円など外国貨幣も入金して管理運用することができる。私は中国銀行の口座を「活期一本通」にした。

「活期一本通」は日本にはない仕組みなのでピンと来にくいのが、授業料や不動産契約など、中国現地である程度まとまったお金が必要になる予定がある人は、「活期一本通」にしておくとうまいかもしれない。というのも、日本からまとまったお

金を中国にもちこもうとする場合、外貨両替や国際送金にはそれなりに手数料がかかる。そういった費用が最も安くなる方法として、ネット上では「FXの会社を利用して日本円を米ドルに両替」→「両替した米ドルをシティバンクの口座に入れる」→「シティバンクから中国の銀行口座に米ドルを海外送金」→「中国の銀行の窓口で米ドルを中国元に両替」という方法が紹介されている。この方法で様々な手数料が実際どれだけ安くなるのかは私自身未確認だが、もしこの方法をとりうるなら、中国の銀行口座を「活期一本通」にして、ドルを受け取れるようにしておく必要がある。

次に网上银行のところチェックを入れる。网上银行の項目にはどのような方式でアクセスするか等申請書には色々チェック欄があるが、もし分からなければ（というか普通は分からないと思うが）、何もチェックをいれなくても、「ネット上で決済したい」旨さえ行員にきちんと伝われば、適宜対応してくれるので大丈夫だ。

これで申請書の記入は完了。なお、中国工商银行では申請書とあわせて、顧客台帳の用紙も渡されたので、こちらにも記入することになった。記入内容は申請書と同様で、姓名、パスポート番号、住所、携帯番号など、申請書と同じだった。

さて、申請書の記入も済んで、後は自分の整理番号が呼ばれるのを待つばかりである。

◇ 口座をつくってもらう

自分の整理番号が呼ばれたら、窓口へ行き、「我要开户」と言いながら記入済みの申請書とパスポートを渡す。

なお、口座開設のさい、日本の銀行の場合だと、幾らかでも預金をすることになっているが、中国の銀行の場合は預金をする必要はなく開設手数料を払うことになっている。よって、受付してくれた行員がまず発した言葉は「口座開設には15元かかりますが、いいですね？」だった。

次に姓名や証明書類のチェックがされる。私の場合、旧姓を使用しているため、パスポートでの姓の表記は戸籍姓に続けて旧姓がカッコをつけて

併記される形になっており、この点について質問を受けたりした。

ちなみにこの件については三行すべて対応が異なった。中国農業銀行では何の質問もされず、パスポートの表記通りに両姓が併記された。中国銀行では「これはどういう意味か？」と質問があり、答えたところ、出来てきた口座は戸籍姓だけの表記になっていた。中国工商銀行では「この二つの姓は両方とも書かなくてはいけないか？」と質問され、「もし何か面倒だったら、旧姓のほうは書かなくてかまわない」と答えたら、「それなら姓名を戸籍姓のほうだけにして、申請書を書き直してください」といわれて、また全部一から書き直す羽目になった。中国工商銀行、なかなか厳格である。

次に網上銀行について。たとえ申請書で「网上银行」のところにチェックを入れていても、ネット上で決済できるようにしてもらえとは限らなかった。注意が必要だ。

私が最初に口座を作ったのは中国農業銀行だったが、申請書の网上银行のところにチェックを入れたものの、ネット上で出入金記録を見るだけの設定になっていた。(後日、機能追加の手続きをしに行った。)

中国銀行に行った際は、网上银行のところにチェックを入れたうえで、网上银行を利用したい、と念押ししたところ、「それはネット上で決済したいということですか？」と確認され、そうだとしたら手続きをしてくれた。

一方、中国工商銀行では、申請書の网上银行のところにチェックを入れただけで、当然のようにネットでの決済が可能ないように手続きを進めてくれた。

このように様々な対応があり得るようなので、「ネット上で決済できるように設定してもらえているか」について注意しておいたほうがよい。なお、网上银行の開設の手数料は、中国銀行は無料だったが、中国農業銀行と中国工商銀行では40元必要だった。

後は行員が手続きを進めてくれるのを待つ。しばらくして「请输入密码(パスワードを入力して

ください)」と行員が言うか、もしくは機械の音声流れるので、手元のテンキーでパスワードを入力する。パスワードは6ケタなのだが、どの銀行の行員からも「6ケタで」という説明はなかった。どうやら常識らしい。予め6ケタの番号を考えておくとよいだろう。

さて、6ケタのパスワードを入力し、緑色の確認ボタンを押す。すると、確認のためにもう一度入力してくださいという表示がテンキーに出るので、もう一回入力して確認ボタン。このように、パスワードを入力する時は必ず二回入れることになっているようだ。この作業を何回か行っていく。

次に「签名(サインして下さい)」と何枚か書類を渡される。サインする場所には行員がマルをつけてくれているので、そこにサイン。それから网上银行開設に関する手続きの一環のようだったが、行員が銀行の台帳に色々書き込んだり印を押したりした後で、「ここにサインしてください」といわれるので、サイン。

これで終了。いろいろな紙と銀行カード、ネットバンク使用時のUSB Dongle等を渡されて「再見！」。

通帳は中国農業銀行や中国工商銀行では渡されなかったが、中国銀行では通帳も貰った。表に「長城借記カード対帳簿 活期類交易」と書いてある。私の中国銀行の口座は「活期一本通」なのだが、この口座に入れた外貨額は、通帳記入をすればもちろん表示されるが、銀行カードを使ったATMの残高照会では表示されず、中国元分のみ表示となる。外貨預金額の確認は、ネット上で見るか、通帳記入で確認しよう。

◆ 中国語会話に自信がない、あるいは全く喋れないという人のために

たとえ中国語が喋れなくても、口座は開くことができる。こちらの要望が、必要なものとともに相手に伝わりさえすれば、あとは行員が口座を作ってくれるというだけのことだ。以下のようにしよう。

- ①「我要开户」と紙に書いておいて、入店したら行員にその紙を見せる。
 ②行員に申請書を貰い、必要事項を書き込む。
 ③メモを準備する。

紙に「我要开户。我想要利用网上银行转账缴费等等。」と書いておく。紙に書いてあればこちらの希望を確実に行員に伝えられる。

- ④手数料を準備する。
 必要な手数料をはじめから相手に渡してしまえば余計な会話をしなくても済むし、こちらの意図もはっきり伝わる。開設手数料は三行ともに 15 元。それに加え、中国農業銀行や中国工商銀行では网上银行の開設手数料が 40 元必要なので、準備しておく。

- ⑤準備したメモを行員にみせながら、申請書とパスポート（および念のために日本の身分証）、準備した手数料をまとめて行員に渡す。

ここまですれば、行員はあなたの意図を理解して手続きしてくれるだろう。

後は「请输入密码」とか「密码」というのが聞こえたら、6ケタのパスワードを入力し、「签名」というのが聞こえて書類を渡されたら、サインをするだけ。これで口座は作れる。

なんと言っても、あなたは銀行にとって「お客様」なのだ。何か言われて分からなくても臆することはない。元気をだして、さあ、行ってみよう。

会員の皆様へ

従来からの会員の皆様で、BBS 会員から一般会員への変更を希望される方は、会員資格変更の届けを下記フォームから送信していただけますようお願いいたします。

また、登録情報の変更がありました方も、同様にお願いします。

❖ 会員資格・会員情報変更フォーム

<http://jaet.gr.jp/JAET-BBS/change.html>

※アクセスには漢情研 BBS の ID・パスワードが必要です。

5 文献のデジタル化

BookDrive

氷野 善寛 (ひの よしひろ)

◆ ブックスキャナ

BookDrive について

BookDrive はアメリカの Atiz 社が開発した V 字型ブックスキャナで、装丁済みの本などの資料をスキャンするための装置である。撮影台、撮影装置としてのデジタル一眼レフカメラ、カメラを操作するためのソフトウェアとコンピュータ、そして撮影した画像を編集するソフトウェアから構成されている。撮影台は V 字型のクレードルを採用しているため通常のフラッドヘッドスキャナやオーバーヘッドスキャナのように資料を開ききることなく撮影することができ、撮影の際に資料自体へ与える影響が少なく済む。そのため古書の撮影にも適している。このタイプの製品としては BookDrive Pro (以降 Pro)、BookDrive DIY (以降 DIY)、BookDrive Mini (以降 Mini) の 3 種類が販売されており^[1]、筆者が所属する関西大学アジア文化研究センターでは、このうち Mini と DIY を利用して資料の撮影を行っている。また同シリーズでは 2011 年には V 字型タイプではない BookDrive N (以降 N) というオーバーヘッドスキャナタイプの撮影台も販売を開始している^[2]。詳細は後述するが、実際に運用した DIY と Mini では撮影できるサイズ自体は Mini のほうが制限されるものの、安定性、撮影品質については Mini のほうが優勢であった。これは先に DIY が

販売開始され、そこで蓄積されたフィードバックや経験をもとに Mini が開発されたことに起因するようであり、必ずしも上位機種が良い製品であるとは限らないことを示している。今回は実際に導入しているこの 2 つの BookDrive について利用方法や実際の運用上で気が付いたことについて特にレビューをまとめたい。

図 1 : BookDrive DIY



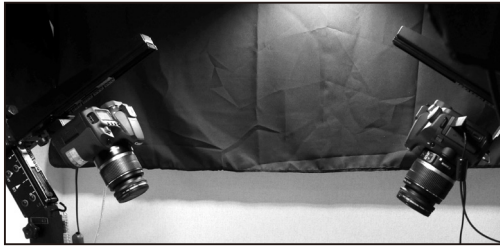
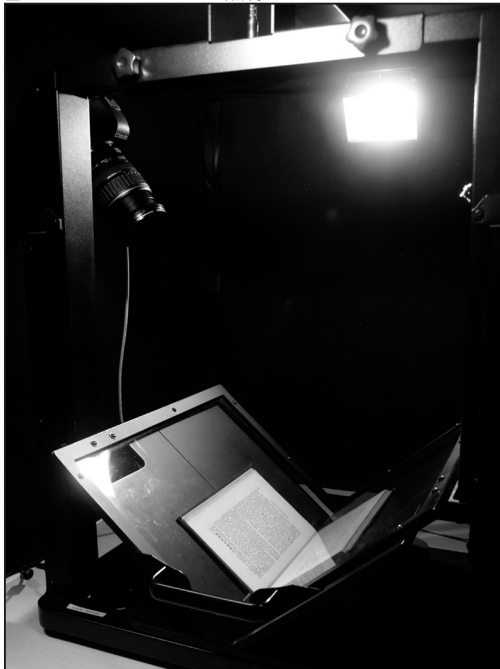


図2：BookDrive DIYのカメラの配置



図3：BookDrive Mini

図4：BookDrive Miniの照明



◇ 4つのBookDriveと機材の構成

Mini、DIY、Proはそれぞれ仕様が異なるが、いずれも2台のカメラを左右のカメラ設置台に設置し、V字型に開いた資料を斜めから片面ずつ撮影する方式が共通している。

それぞれの機種を順番に見ていくと、まずMiniは小型で片面25cm×38cmの資料の撮影が可能である。照明設備としてはLEDライトを採用している。カメラの設置台については可動部分が少なく、左右の移動と少しの傾斜調整以外はほとんど動かすことができない。

一方DIYは40cm×59cmまでの資料を撮影することができる。カメラの設置台についても稼働ポイントが多く、撮影に際して細やかな調整が行える。具体的には資料のサイズによってカメラの位置を平行にスライドできるほか、カメラを設置するバー自体を上下にスライドさせることも可能であり、かなり細やかな調整ができる。逆に言えば可動箇所が多い分、調整に習熟するまで一定の時間がかかるとも言える。また照明装置はMiniとは異なりLEDライトではなく蛍光灯を採用している。以前はライトの設置位置に難があり、大きな資料を撮影する際には照明の映り込みが少し問題となったこともあったが、その後の改良で現在は改善されている¹³⁾。その他カメラのレンズのズームや焦点距離によって被写体との距離を調整することもできる。

ProとNについては実物を見たことがないので手元の資料に基づいて説明すると、Proはカメラ位置の調整が簡便容易とあり、42cm×60cmの資料の撮影が可能とされている。DIYでは準備から撮影開始までのカメラの位置調整という作業が非常に煩雑で、慣れるまである程度の時間がかかっていた点と比較してこのような説明がなされているのではないかと考えられる。また照明についてもLEDが採用されておりMiniとDIYの長所を採用したモデルであると考えられる。Nについては垂直方式の撮影台が採用されているものの、撮影台の半分を上下に動かすことができ、地図の

ようなフラットな資料から書籍タイプの資料まで撮影することが可能なモデルとなっているようである。

撮影用のカメラについてはNを除く全ての撮影台では同じカメラを2台別途購入する必要がある。一方Nはカメラ一体型になっており、Pentax645Dが組み込まれている。N以外のシリーズでは、カメラ設置台の形状や撮影用のアプリケーションであるBookDrive Captureとの相性などからCanon EOSシリーズの利用が推奨されている。関西大学ではDIYを採用した際にはCanon D50とEF-S18-55mm F3.5-5.6 ISズームレンズとEF50mm 1:1.8 IIの単焦点マクロレンズを採用し、Miniを採用した際には本体にはCanon EOS 5D Mark IIを、レンズにはEF-S28-135mm F3.5-5.6 ISUSMとEF50mm F1.4 USMというズームレンズと単焦点レンズを採用している。レンズについては撮影する対象のサイズによって使い分ける必要があるが、これらの機材で撮影できる資料の範囲では、このクラスのレンズを2本、あるいはズームレンズを1本用意しておけば十分である。

BookDriveの購入方法については日本では安全貿易有限会社がAtizs社の日本総代理店となっているが^[4]、実際の販売及び保守は、関東では(株)国際マイクロ写真工業社が関西では(株)堀内カラーが行っている^[5]。

BookScanの構成は、先にも述べたように機材本体とアプリケーションソフトウェアであるBookDrive Capture、BookDrive Editor Proからなる。前者は撮影するためのソフトウェア、後者は撮影した画像を編集するためのソフトウェアである。機材本体は鉄の骨組やガラスやばねを組み合わせただけのものである。そのため画素や画質、画像の歪み具合などについては全て使用するカメラの能力に依存する。またカメラを制御するために別途WindowsPCを用意し、2台のカメラをUSBケーブルで接続する必要がある。



図5：BookDrive DIYのカメラ設置台

図6：BookDrive DIYの照明



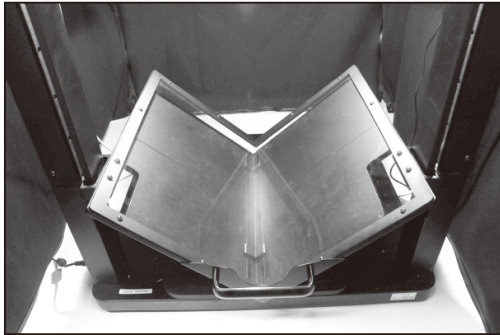


図7：資料を設置する前の状態

◆ 撮影の手順

撮影手順は各機材共通する。まず機材本体にあ

図8：資料を設置した状態

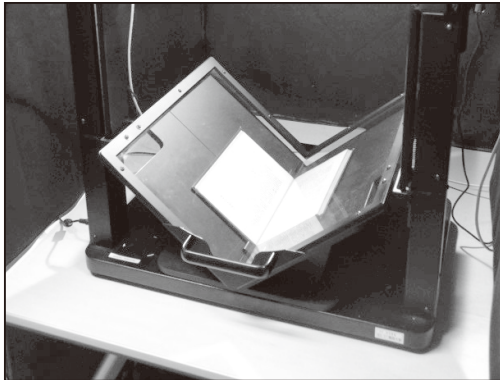


図9：資料固定用磁石

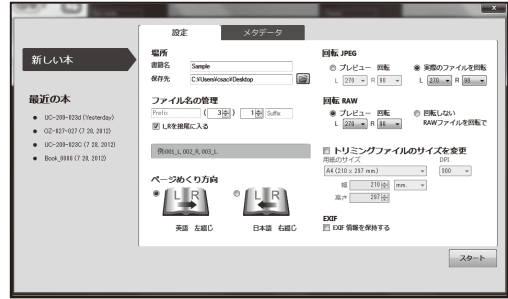


図10：BookDrive Capture

る電源スイッチを入れると照明がつく。次にカメラを USB ケーブルでつないだコンピュータを起動し、カメラの電源を入れる。準備が整ったら撮影対象となる資料を撮影台に設置する。撮影台のガラスを上押し上げ、ガラスと台座の間に挟み込むように撮影対象となる資料を入れる。その際、資料のページをめくるたびに資料の位置がずれるのを防ぐために、固定用の磁石を資料の上下に置

図11：メタデータ入力欄

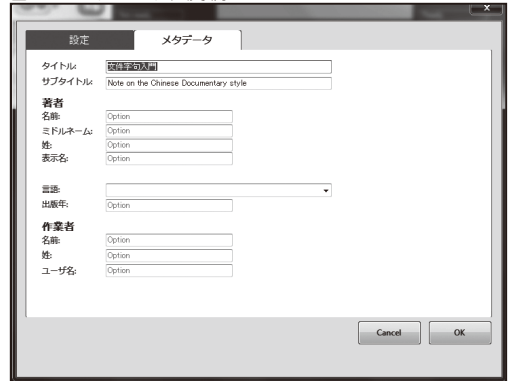


図12：BookDrive Capture 初期画面の表示

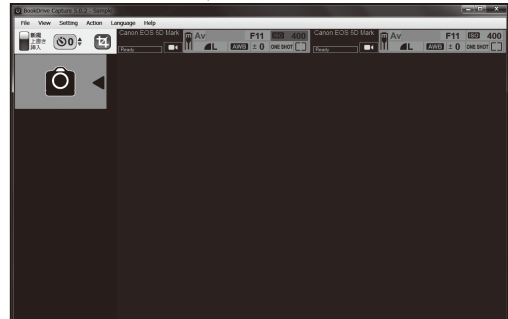


図13：カメラの接続状態が表示される



き資料を固定する。資料設置後カメラの位置調整を行うため、まずは中ほどのページを開いて作業台の中央の線に合わせて載せる⁶⁾。

次にコンピュータから BookDrive Capture を起動する。ソフトウェアが起動したら最初に書籍名、保存先、ページめくりの方法やメタ情報を入力するためのウィンドウが開く。書籍名が保存先フォルダの名前になるので、できるだけ半角英数で入力するように心掛ける。ページめくりについては一般的には和書であれば「日本語右綴じ」、洋書であれば「英語左綴じ」を選択すれば良い。さらにタブを切り替えメタ情報の入力をする。ここに入力する情報については撮影開始後でも登録できるので後に登録しても構わない。

メタ情報では資料のタイトルや著者、撮影した作業者の名前などを入力できる。これらの情報を一通り入力し「設定」ウィンドウの「スタート」をクリックすると、図 12 のような画面が表示される。

カメラの電源を入れている状態だと、図 13 のように接続されているカメラの情報が左右個別に表示される。ここにはシャッター速度や ISO などカメラの詳細設定が表示されており、このソフトウェアを通じて直接調整することもできる。

カメラの接続の確認ができたならカメラレンズの焦点設定が AF (AutoFocus) になっていることを確認して、この状態でカメラと資料の位置関係の調整を行う。ライブビュー表示の機能がついているカメラであれば「ビデオカメラマーク」をクリックすることで、ライブビューモードになりリアルタイムに映し出される映像を見ながら調整することができる。この機能が無い場合は、テスト撮影モードに切り替え、テスト撮影をしながら資料とカメラの位置関係を調整する。DIY では大きいサイズの資料ほど高い位置から撮るようにし、逆に小さいサイズの本は低い位置から撮るようになる必要がある。一方 Mini では主にカメラレンズのズームの倍率を利用して調整する。同時に見開きページの左右別々に同時に撮影するため左右カメラの高さや倍率などを調整し、左右のサイズができる限り等しくなるように調整する必要があ

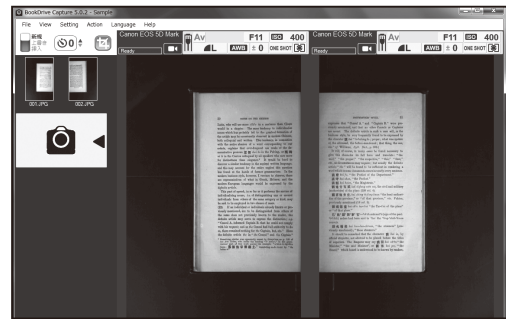


図 14: BookDrive での撮影画像の表示

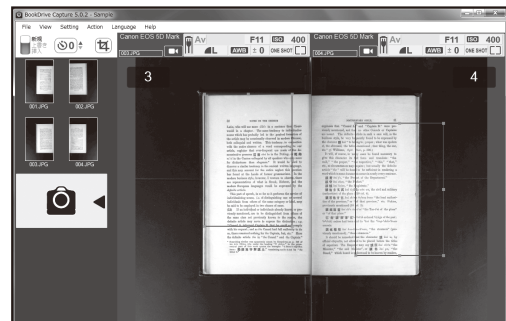


図 15: 赤い囲みライン

図 16: トリミングされた画像

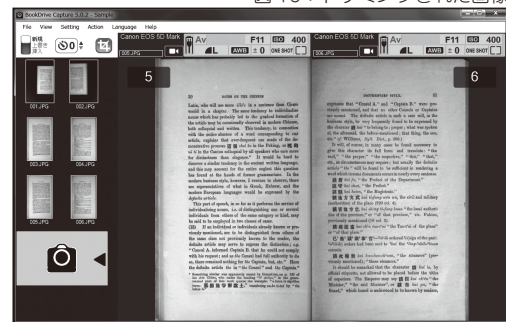


図 17: トリミングボタン



図 18: タイマーボタン



る。準備ができたならテンキーの \square を押してテスト撮影を行う。

撮影資料の品質や倍率に問題がなければ本番撮影に入る。その際は \square キーで撮影することができる。 \square キーを押すと左右のカメラが順番にシャッターを切り、撮影した画像が



図 19：保存先フォルダ

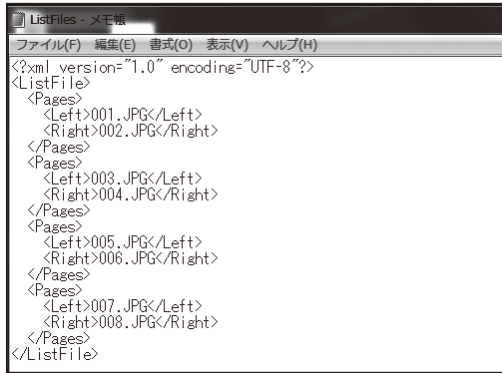
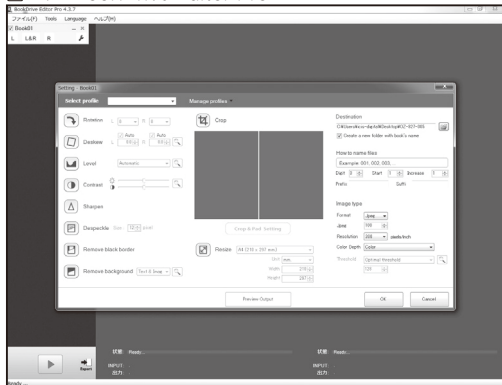


図 20：設定ファイル

図 21：BookDrive Editor Pro



BookDrive Capture に表示される。

さらに図 15 のような赤い囲みラインが表示されるので、これを資料の範囲に合わせるように大きさを調整する。その状態で左上のトリミングアイコンをクリックした上で、C ボタンあるいは次のページをめくって ENTER キーを押して撮影を続けると赤い囲みに合わせて画像がトリミングされる。

後はひたすらページをめくっては ENTER キーを押していだけで撮影は終了する。またトリミングアイコンの隣にあるタイマーアイコンをクリックすると、指定した時間置きに自動的にシャッターを切ることも可能である。他にもセンサー利用したオートスイッチというオプション部

品があり、これを機材に取り付けると、ガラスを下に降ろすと同時にシャッターを切ることができる。またフットスイッチなどを利用する方法などもある^[7]。基本的にズームレンズを使用する場合は Auto フォーカスにしておけばスムーズに撮影できるが、白紙のページやレンズの焦点が当たっている箇所にも文字や画像もないような資料であればデジカメでは焦点を合わせることができない。そのため、何か書いてあるダミーの紙をガラスの上において、焦点を合わせ、その状態でフォーカス設定をマニュアル操作に切り替えてから撮影をしなければならない。

撮影時の注意点としては、ガラスと本の間少しでも隙間があるとボケた写真になる原因となってしまうので、ガラス全体に力がかかるように力加減を調整して資料を抑える必要や、ノドの部分が少し出ている本であれば、どうしても撮影時に撮影面がガラスに対して斜めになってしまうので、下に段ボールなどを敷いて高さの調整をする必要がある。

撮影時の撮り直しや撮り忘れについては、該当する箇所まで左のカメラマークを持っていき、左上の「新規」「上書」「挿入」と書かれたボタンをしたい操作に合わせてから撮影をする必要がある。その際操作に応じて自動的にファイル番号がつけなおされる。撮影開始と同時に最初に設定したファイル名のフォルダが作成され、そのフォルダの中に画像が保存されていく。保存フォルダには撮影した画像以外にも BookDrive Capture や BookDrive Editor Pro に画像を読み込む際に必要となる XML ファイルやメタ情報を記したファイルが保存される。

◆ 撮影画像の編集

BookDrive Editor Pro

画像編集用として BookDrive Editor Pro (以下 Editor Pro) というソフトウェアがついている。以前は撮影した画像のトリミング処理は撮影後この Editor Pro を利用して行う必要があり重宝したが、BookDrive Capture のバージョンが 5 にアッ

アップデートされて以降は撮影と同時にトリミング作業ができるようになったため、基本的に写真をそのまま使うのであれば利用する必要はなくなった。ただし、古い本によく見られる変色した茶色の背景色を削除したり、撮影した画像をきれいな白黒画像に変換したいといった特殊な希望がある場合、あるいは、専用の画像編集ソフトウェアがない環境では、画像の編集からPDF化までの一連の工程を一つのソフトで行えるので便利である。筆者の環境では画像の微調整には Photo Shop を使っており、編集したものについては全て Adobe Acrobat Pro を利用して PDF に変更してバンドルしている。この点についてはどういった完成画像を求めているかにより必要度やソフトウェアの選択は変わってくるが、撮影したままの画像を利用するのであれば撮影時のカメラのセッティングに気を付けておけば、特に編集ソフトは必要ない。古書を撮影する場合、経年の変色も資料の状況を見るためには必要なものなので、あえて除去する必要も感じられない。

◆ BookDrive の問題点

この数年間実際に BookDrive を使用してきた結果、実際様々な問題点やエラーに遭遇した。特に BookDrive DIY を導入した頃は、日本国内で導入されている場所がほとんど無く、日本語 OS の環境下でのテストが行われていなかったため非常にバグが多かった。しかしその都度 ATIZ 社ではバグの検証を行ったうえで修正可能な点についてはすぐにソフトウェアのアップデートという形式で対応してくれている。ここで述べる問題点は 2012 年 7 月現在、筆者の環境下で感じているものであると限定しておく。

まず一度撮影し終わった資料で、後にページの撮影漏れなどが発覚して撮り直す必要が生じた場合、直近に撮影した 4 冊までの情報しか呼び出すことができない。そのため少し時間が経ってから撮影しなおす必要が生じた場合非常に面倒である。この場合、現状では再撮影したい資料と同じタイトルでひとまずフォルダを作成し、そのフォ

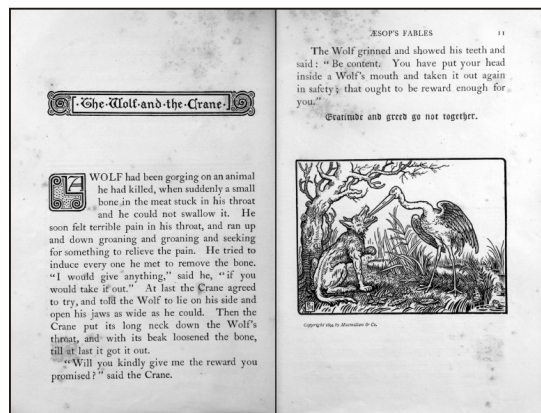
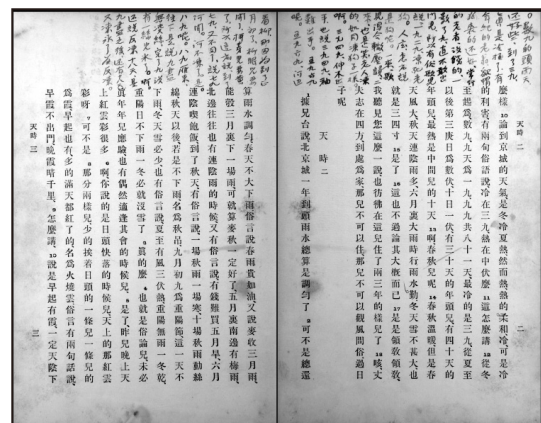


図 22 : [撮影サンプル] The fables of Aesop

ルダごと、以前撮影したフォルダと置き換えた上で、ファイルを読み込ませる必要があり非常に面倒である。次にカメラの位置調整に慣れるまでに一定の時間がかかることがあげられる。さらにソフトウェアのメモリの問題で撮影枚数が 500 程度を超えると撮影を続けることができず、ファイルを分割しなければならない。またかなりのページを撮影した後に、ソフトウェアを閉じ、続きから撮影を始める場合、それまでに撮影した画像を読み込んだ上でないと続きの撮影できないため、読み込みに膨大な時間がかかり、時間のロスが発生するなど、メモリ周りのさらなる改善が必要である。次にメンテナンス系の問題として、古書を撮影するとガラスの部分の汚れが目立つ。特に細かい破片が中央の V 字の狭間にはまってしまい、

図 23 : [撮影サンプル] 『官話北京事情』



ACI	ACT	ACT	ADJ
Acid 酸	Acquaint 知其詳 詳解詳狀	Admirer 崇拜者 崇拜者	Admirable 可敬的 可敬的
Acidic 酸性的	Acquaintance 交際 交際	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
Acidity 酸性	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
Acidulate, to 酸化 酸化	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
Acknowledge 承認 承認	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
to acknowledge a crime 認罪 認罪	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
to acknowledge a favour 謝意 謝意	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
to acknowledge an error 認錯 認錯	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
to acknowledge a letter 寫信 寫信	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
Acknowledgment 謝答 謝答	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
Acne 瘡 瘡	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
Acron 縮字 縮字	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
Acquaint, to 通知 通知	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
to acquaint him with it 說教 說教	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
Acquaintance 親戚之人 親戚之人	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
an old acquaintance 舊識 舊識	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
a short acquaintance 新識 新識	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
Acquainted with 親熟 親熟	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
Acquit 免 免	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
Acquiesce, to 默認 默認	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
an acquiescence in your proposal 默認 默認	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
Acquisitive 貪婪 貪婪	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
Acquire 獲得 獲得	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
Acquire, to 獲得 獲得	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
to acquire great fame 聲名大振 聲名大振	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
to acquire additional knowledge 增廣見識 增廣見識	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
Acquiescence 才學 才學	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
Acquiescence 才學 才學	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
Acquisition 得 得	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認
Acquit, to 釋放 釋放	Acquire 獲得 獲得	Admission 承認 承認	Admission 承認 承認

図 24：[撮影サンプル]『華英辞典集成』

中々取ることができない。またガラスが割れてしまった場合特殊な加工をしているため市販のガラスでは対応できず別途 5 万円程度の費用が発生することや、交換に時間がかかり、その間撮影することができないなどがデメリットとしてあげられ、運用に際してはメンテナンス費用も考慮しておかなければならない。

こういった問題はあるものの、メリットも大きい。第一に V 字型の撮影台のため二方向から撮影を行うためゼロックスコピー機など水平に広げて撮影する機材に比べて撮影時の資料破損度が非常に少ないこと、次に一度撮影を始めるとまさに高速で撮影できるうえ、画像自体はカメラの性能に依拠するためカメラさえ良ければ、非常に良い写真を撮影することができる点などがあげられる。ただしこの機材では線装本などの背の部分が出ている資料は撮影に適しておらず、もっぱら洋装本を撮影する機材として利用を考えたほうが良いだろう。

◇ おわりに

筆者が所属する関西大学アジア文化研究センターでは BookDrive のほか線装本撮影用の機材を自作し、線装本と洋装本をそれぞれ撮影している。撮影対象は内藤文庫や長澤文庫、増田文庫等の関

西大学個人文庫に収められている貴重書類である。今年度後半から BookDrive を利用して撮影した文献画像を当センターのウェブサイト^[8]から公開していく予定だが、ひとまず本稿に BookDrive を利用して撮影した文献画像のサンプルを数点掲載する。

注

- [1] 日本国内で購入する場合は、Pro が 250 万円、DIY が 130 万円、Mini が 86 万円（それぞれ税別）かかる。基本構成は撮影台と BookDrive Capture と BookDrive Editor Pro という二種類のソフトウェアからなり、カメラやソフトウェアを動かすための PC は別途用意する必要がある。設置や設定には 30 分～1 時間程度かかり、購入時に設置を委託すると 3 万 5 千円程度別に必要になる。筆者は DIY を初めて導入した際、一人で設置した経験があるが、実際にやってみた感想としては「経費節約なんて考えず委託すれば良かった」というものであった。ちなみに 1 年間の保証中はソフトのアップデート・アップグレードが含まれるが 1 年経過後は適時保証を延長する必要がある。
- [2] 国会図書館と Atiz 社との共同開発製品でカメラと機材が一体型になっている。金額は 300 万前後だとか。
- [3] 購入した当時は映り込みが激しく実用に耐えなかったが、2011 年に照明の設置位置を変更する追加ユニットが導入され、以前よりは映り込みの問題がなくなったように思える。
- [4] Atiz 社の日本語サイト Atiz.jp は安全貿易有限会社が運営している。
- [5] その他の地域での購入については安全貿易有限会社に直接確認する必要あり。
- [6] 分厚い本では、最初のページと最後のページではカメラと本との距離が数センチ以上になり、設定段階にその中間の位置で行うことで後々の撮影に簡便になる。
- [7] オートスイッチについては実際に導入したもののカメラの焦点が合いにくいなどの問題が発生していたのであまりお勧めしない。
- [8] 関西大学アジア文化研究センター <http://www.csac.kansai-u.ac.jp/>

中国語の透明テキスト付き PDF を作る

田邊 鉄 (たなべ てつ)

◆ 「自炊」してみたものの…

電子書籍が注目されているにもかかわらず、電子化された書籍はまだ少ない。専門書など電子化が期待できない書籍もある。そんなわけで、本をバラバラにして富士通 Scan Snap のようなドキュメントスキャナを使ってパソコンに取り込み、PDF ファイルに加工する、いわゆる「自炊」を考えている人も多いだろう。

ところが、スキャナで撮っただけの PDF ファイルは、本のページを写真に撮ったのと同じで、単なる画像なので、ページをめくって読むことはできても、「本文を検索する」とか「外部の Web ページにジャンプする」といった、電子書籍ならではの、の便利機能は使えない。これでは自炊する甲斐がない。

◆ 透明テキスト付き PDF とは

紙の本同様にページをめくりながら読める、というメリットはそのままに、電子テキストの利便性を加えたのが、透明テキスト付き PDF である。各ページは画像として保持され、その上に同じ内容の電子テキストが貼り付けられている。電子テキストの色は透明なので、見た目には元のページと変わらない。PDF ソフトの機能を利用して、文章を選択してコピーしたり、文の一部に線を引いたり、URL やメールアドレスの文字列にリンク

を設定したりすることも簡単だ。

透明テキスト付き PDF を作るには、テキスト認識機能を持つソフトを使って、画像から文字に変換する必要がある。最近の PDF ソフトには、テキスト認識機能を内蔵しているものがあり、原稿のスキャンから PDF 化、テキスト認識、透明テキスト付き PDF 作成までをワンタッチでできる。

ここでは、富士通 Scan Snap S1500 と付属ソフトを用いて、中国語の文献から透明テキスト付き PDF を作ってみる。

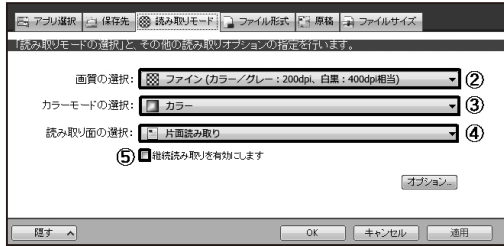
◆ Scan Snap Manager の操作

中国語透明テキスト付き PDF 作成のための Scan Snap の設定は、付属ソフトウェア Scan Snap Manager で行う。スタートメニューの「すべてのプログラム」から、「Scan Snap → Scan Snap Manager の設定」の順にクリックして、Scan Snap Manager を起動する。その後、以下の手順で設定を行う。

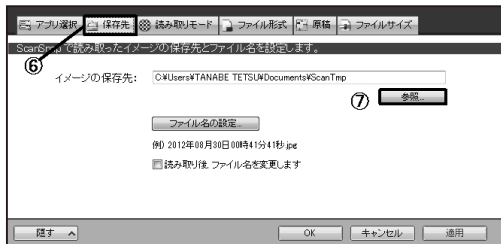
①クリックする。



- ② クリックして、「ファイン」を選択。
- ③ クリックして、「カラー」を選択。
- ④ クリックして、「両面読み取り」を選択。
- ⑤ クリックする。



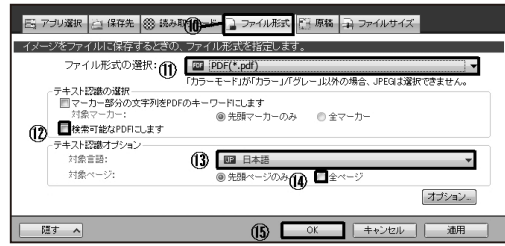
- ⑥ クリックする。
- ⑦ クリックする。



- ⑧ クリックして、「デスクトップ」を選択。
- ⑨ クリックして閉じる。



- ⑩ クリックする。
- ⑪ クリックして、「PDF (*.pdf)」を選ぶ。
- ⑫ クリックする。
- ⑬ クリックして「中国語 (簡体字)」または「中国語 (繁体字)」を選ぶ。
- ⑭ クリックする。
- ⑮ クリックして終了する。



このあと、スキャナ本体のボタンを押して、原稿を読み取る。原稿を読み終わると、自動的にテキスト認識が行われ、透明テキスト付き PDF が出来上がる。

なお、⑬で中国語が選べるのは Windows 版だけ。Mac を使っている場合は、次項の Adobe Acrobat を使おう。

◆ Adobe Acrobat を使う

上の手順では、原稿の読み取りからテキスト認識までを一気にできるので手軽ではあるが、既にスキャンした PDF がたくさんある場合に、後からテキスト認識させることはできない。Scan Snap には Adobe Acrobat が標準添付されているので、既存の PDF でテキスト認識させたい場合は、こちらを使う。

Adobe Acrobat は有償の PDF 編集ソフトである。PDF を見たり、作ったり、加工したりするための、様々な機能を含んでいるが、その一つにテキスト認識機能がある。Scan Snap S1500 には、最新版の Acrobat X が、Mac 専用の S1500M には、Acrobat 9 が付属する。ここでは、Windows 版の Acrobat X での操作を紹介する。

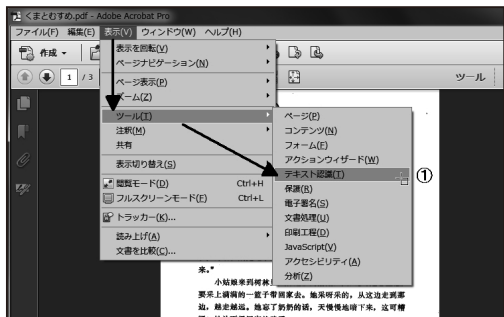
まず、PDF ファイルのバックアップをとっておくことを「強く」お勧めする。もとの PDF が「くまとむすめ.pdf」だったら、「くまとむすめ_元.pdf」という名前で作って置くといい。Acrobat ではテキスト認識するとき、ファイルを小さくするために、画像の画質を落とす。この機能はオフにできるのだが、オフにしなかったままテキスト認識を実行し、保存してしまうと、元に戻せない。

また、将来、Acrobat のバージョンアップなど

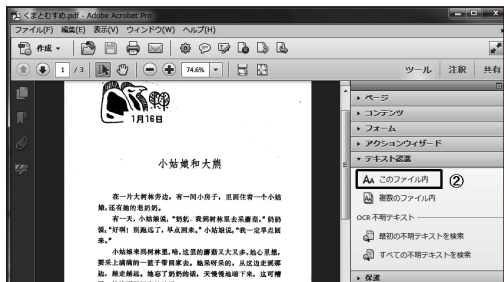
で、画期的なテキスト認識技術が搭載されたときには、元のファイルから、もう一度やり直したくなるだろう。そのためにも、「スキャンしたまま」のファイルを捨てずにとっておこう。

以下、Acrobat Xでのテキスト認識の手順である。まず、AcrobatでPDFファイルを開く。

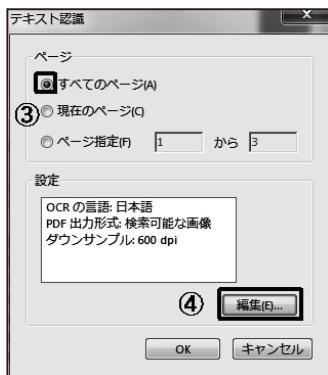
- ①メニューの「表示」をクリックし、「ツール」にマウスカーソルを合わせ、「テキスト認識」をクリックする。



- ②「テキスト認識」パネルが開くので、「このファイル内」をクリックする。



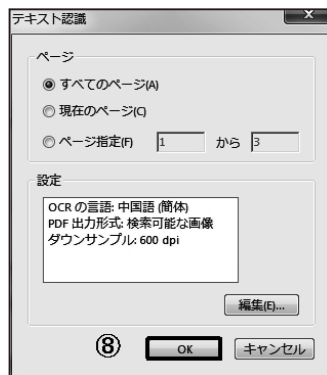
- ③クリックする。
- ④クリックする。



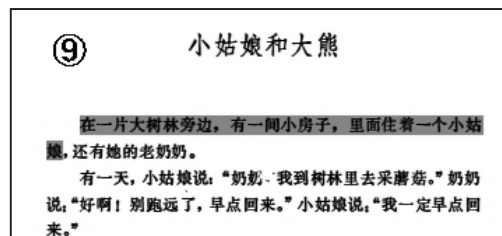
- ⑤クリックして「中国語 (簡体字)」または「中国語 (繁体字)」を選ぶ。
- ⑥クリックして「検索可能な画像」を選ぶ。
- ⑦クリックして閉じる。



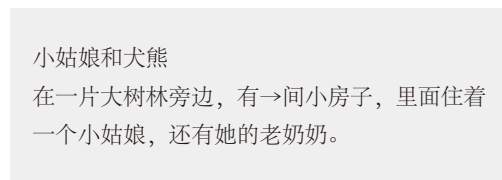
- ⑧クリックして終了。自動的にテキスト認識が始まる。



- ⑨このように、一文字単位で選択でき、コピー&ペーストや、検索に対応したPDFになる。



読み取り結果をコピーペーストすると、以下のようになった。



有一天，小姑娘说“奶凯、我到树林里去采蘑菇。”奶奶说产好啊！别跑远了，早点回来。
“小姑娘说z”我一定早点回来。”
(※下線は筆者。読み間違えている部分。)

たかだかこの程度の文章で、5カ所の読み間違いをしているようでは、精度に難があるとは思いますが、読み間違えたところは、かすれや汚れのあるところなので、原稿の品質を考えると致し方ないだろう。

⑩同じ部分を、MS-Word にコピー&ペーストしたところである。

<p>小姑娘和犬熊 ⑩</p> <p>在一片大树林旁边，有一间小房子，里面住着一个小姑娘，还有她的老奶奶。</p> <p>有一天，小姑娘说“奶凯、我到树林里去采蘑菇。”奶奶说产好啊！别跑远了，早点回来。”小姑娘说z”我一定早点回来。”</p>
--

中国語を指定してテキスト認識したにもかかわらず、POP体と明朝体の日本語フォントが使われているところがある。どうも、言語の指定と関係なくシステムにインストールされているフォントが割り当てられているようだ。テキストだけ正しく保持されていればよいようなものだが、「自炊」した書籍から文章を引用して、テストを作る、といった場合には大幅な修正が必要になるので、ちょっと骨だ。

⑪また、透明テキストは、システムにある等幅フォントまたはプロポーションナルフォントを、サイズだけ変えて、無理矢理原稿の文字位置付近に配置しているため、原稿の文字と、透明テキストの文字の位置がずれることがある。これは“到这”の2文字を選択しているところだが、半文字ずれていることがわかる。

<p>急，忽然一阵沙拉、沙拉的</p> <p>“小姑娘，你到这儿来干什么</p> <p>采蘑菇，迷路了。” ⑪</p>

この問題を解決し、透明テキスト付きPDFの利便性を大きく高める工夫として、Acrobat 9以降のバージョンにはClear Scanという機能が搭載されている。これは「元の画像と同じ形のフォントを生成して、画像と置き換える」機能である。主としてPDFファイルのサイズを小さくするために用いるが、画像そのものをフォント化するので、選択の時にずれが生じにくくなる、というメリットもある。

⑫特筆すべきは、Clear Scanを利用するときには、理由は不明だが、⑩であげたフォントの問題も解決していることだ。これはClear Scanでテキスト認識した結果をMS-Wordにコピー&ペーストものである。Adobe Acrobatに付属する、宋体フォントで統一されている。

<p>小姑娘和犬熊。 ⑫</p> <p>在一片大树林旁边，有一间小房子，里面住着一个小姑娘，还有她的老奶奶。</p> <p>有一天，小姑娘说“奶凯、我到树林里去采蘑菇。”</p> <p>奶奶说产好啊！别跑远了，早点回来。”小姑娘说我一定早点回来。”</p>
--

Clear Scanを利用するには、前述の手順⑥で「検索可能な画像」ではなく、「Clear Scan」を選ぶだけでよい。

それなら初めから全てClear Scanで認識させればよいだろう、と思われるかもしれないが、デメリットもある。「検索可能な画像」と比べて、処理に時間がかかるし、画像をフォントに変換する処理の精度がまだ十分でなく、特に大部の文書では表示が大きく乱れることがある。今のところは、ページを区切って適用するか、メールなどでやり取りする場合のサイズ圧縮技術というところまでとどめて置く方がいいかもしれない。

◆ 繁体字・縦書きもOK

日本語と中国語については、縦書きの原稿も問題なく認識できる。

- ⑬このような伝統的なスタイルの文書であっても、また、罫線が含まれていても、ちゃんとレイアウトを認識できる。



ただ、簡体字の資料に比べると画数が多いこと、かすれたように薄い筆画があることなどから、精度は一層低い。以下、認識結果の一部を上げる。

觀堂信附林志第九汁
海南五司緣

戰彌叫時，泰用梅、又六萬別古文說 EJUI，
人い-

余前作文結為政孝今從戰禹時，泰用偽儒、又
六萬用古文 J 并且

奈勝。古文這又在之後反覆漢人書長，如此
託之不可多也班一

◇ おわりに

中国語テキスト認識ソフトは、これまでもいくつか発売されたが、書籍を丸ごと一冊、いっぺんに認識させる、といった用途に用いるためには、相当の出費を覚悟しなくてはならなかった。一方、安く手に入るエントリーレベルのソフトでは、満足な結果が得られなかったり、操作が煩雑だったりした。

今回紹介した二つのソフトウェアは、いずれもスキャナでの画像取り込み→PDF化という手順に、テキスト認識がすっきりと組み込まれている。精度は必ずしも大満足ではないが、本に付箋を貼る、あるいは、文章にタグを付ける感覚で、検索用テキストを追加できる。いわばテキスト認識というテクノロジーを「文具」のようにイージーに使えるようにした、という点で秀逸である。スキャナにただで付いてくるものでもあるし、気軽に試してみたいはかがだろう。

中国で文献の入力を委託する

千田 大介 (ちだ だいすけ)

◆ 中国学文献入力なら中国

ある文献から必要な語彙や構文を抽出したり、パターン分析したりするには、その文献を電子テキスト化しなくてはならない。そして、文献データベース製品やネット上に必要な文献の電子テキストが見つからない場合、自分で電子テキストを用意しなくてはならない。

電子テキストの作成方法としては、手打ち・OCR（文字認識ソフト）などが考えられるが、分量が多い場合、研究者が個人的に作業するのは時間的にも作業量的にも難しいので、電子テキスト化の業者委託が有力な選択肢となる。

機関やプロジェクトで大規模な文献データベースを構築するようなケースでも、画像データならば学生バイトにもこなせるだろうが、電子テキスト化となるとやはり業者に委託することになる。

しかし日本国内のこの種のサービスは、キーパンチャーの手打ちに依存しているところが大半であり、いわゆる JIS コードの第一・第二水準に含まれない漢字や、中国の簡体字などの入力に対応したところは多くない。また価格も、一般的な文書であっても 500 円 / 1,000 字程度かかってしまう。

そこでお勧めしたいのが、中国の文献情報処理企業への電子テキスト化委託という方法である。中国では『四庫全書』全文検索版を嚆矢として、様々な大規模文献データベースが開発されているが、それらの開発を担った企業には電子テキスト化のノウハウが蓄積されており、活字本のみならず版本や抄本の入力にも対応する。

漢字についても Unicode のURO 収録の約 20,000 字はもとより、企業によっては Ext.A・B にまで対応している。フォーマットもプレーンテキストのほか、XML などに加工してもらうこともできる。価格も、20～25 円 / 1,000 字とリーズナブルだ。

以下、中国の業者への電子テキスト化委託の実際について、筆者の実体験に基づいて解説しよう。

◆ 業者委託の実際

◎ 中国の人文情報処理企業

中国で大規模な文献の電子テキスト化などのサービスを提供する企業としては、以下の 3 社がある。

- 書同文社 <http://www.unihan.com.cn/>
- 中易中標社
<http://www.china-e.com.cn/main/>
- 創新力博社 <http://www.ilibo.com/>

書同文社は中国のミレニアムプロジェクトであった『四庫全書』全文検索版の制作チームが中核となって設立された企業である。中易中標社は、Windows 標準の中国語フォント「SimSun」の開発元である。創新力博社は書同文社のエンジニアが独立して設立した企業だ。

なお、『中国基本古籍庫』で知られる愛如生社も文献電子化サービスを提供していると聞けが、実際に試したことがないので、ここでは取り上げない。

上記3社の技術は、それぞれに特徴がある。

	入力	対応漢字集合	XML加工
書同文	OCR	CJK+(URO+外字)	専用ソフト
中易中標	手打	URO ~ Ext.B	手打
創新力博	OCR	URO ~ Ext.B	専用ソフト

いずれも、OCRや手打で入力したテキストを、専用ツールなどを駆使して二重三重に校正し、1/1万未満の錯誤率に仕上げてくれる。テキストの精度をより高めることもできるが、それに比例して価格も高くなる。

書同文社は『四庫全書』プロジェクト時に確立された技術を使っているため、UnicodeのExt.Bの規格をとりまとめた企業であるにもかかわらず、BMPの範囲しか扱えない。近年は文献デジタル化業務にはさほど熱心ではない。中易中標社は、数年前に取材した際には手打入力であったが、Webサイトによると、近ごろはOCRも導入しているようである。手打ち入力であるため、状態の悪い版本や鈔本にも柔軟に対応できる。XMLタグの付加は人力で行っており、専用ソフトを持たない。同社の技術的特徴は、PDFによって版面画面を再現するとともに検索可能にする加工技術で、中国国家図書館の地方誌データベースなどに採用されている。

創新力博社の文献デジタル化システム「青典」は、書同文社のデジタル化システムの機能を別のプログラミング言語で作り直し改善・強化したもので、XMLタグは専用ソフトで付加する。その技術力は高く評価されており、愛如生・北大方正などが同社の文献デジタル化システムを採用しており、また中国の国家的文献デジタル化プロジェクト、中華フォントプロジェクトのシステム開発を担当している。また、Webサーバ上で動作する文献データベースシステムも提供している。

3社の文献電子化コストはほぼ同等であるので、それぞれの技術的特徴に留意しつつ、目的に合った企業を選んで欲しい。連絡先メールアドレスは、各社Webサイトに記載してある。中易中標社と

創新力博社は、日本語でのやりとりにも対応できる。

◎ 打ちは合わせは入念に

入力の委託では、事前の詳細な打ち合わせが最も大切になる。筆者のようにお得意様になっていると、ネットを通じたやりとりだけで委託することもできるのだが、しかしこちらの要求を詳細に伝え打ち合わせる必要があるの、直接訪問して委託することにしている。

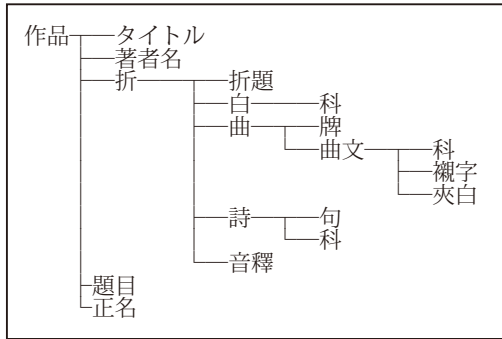
打ち合わせでは、こちらが文献をどのような形式のデータに加工して欲しいのか、詳細に伝えなくてはならない。

オンラインやDVDのデータベースを作成してもらうのであれば、提供する機能・サーバの仕様などを打ち合わせなくてはならない。プレーンテキストに加工してもらう場合でも、見出し前後の空行を入力するか否か、原文の一行ごとに改行するのか段落ごとに改行するのか、注釈や注釈参照番号・割り注などをどう処理するか、図表をどうするか、異体字をできるだけそのまま入力するのか代表的字形に置き換えるのか、ファイルの文字コードや文字集合はどうするのか……などなど、事前に伝えておかななくてはならない項目は多岐にわたる。

筆者は、章立て・見出し・本文・署名といったテキストの論理構造をマークアップしたXMLテキストに加工してもらうことが多い(XMLタグ付けのコストは2元/1,000字程度)。その際には、文書の論理構造を構成する要素をXMLのタグとして定義したDTDを作製しなくてはならない。そして、例えば「章見出し」というタグを定義した場合、それが原書のどういった書式の部分に対応するのか、例えば「文字サイズが大きく二字下げ・ゴシックの標題」というように指示しなくてはならない。XMLのタグ付けを行う作業員は、文献の内容を読んで判断するという知的作業は一切行ってくれないので、書式という誰が見てもわかる物理的構造がこちらの考える論理構造とどう対応するのか、わかりやすく説明しなくてはならない。原書の何ページかを入力したサンプル

XML ファイルを作って渡しておけば、より完全だろう。

ところで文献によっては、割り注が使われている上に、ページ末のみ出した本文を割り注で追



『元曲選』の論理構造

```
<!ELEMENT 雜劇 ( 雜劇題 , 作者 , 折 * , 題目 , 正名 ) >
<!ELEMENT 雜劇題 (#PCDATA) >
<!ELEMENT 作者 (#PCDATA) >
<!ELEMENT 折 ( 折題 , 白 * , 曲 * , 音釋 ) >
<!ELEMENT 折題 (#PCDATA) >
<!ELEMENT 白 (#PCDATA | 科 ) * >
<!ELEMENT 科 (#PCDATA) * >
<!ELEMENT 曲 ( 牌 , 曲文 ) >
<!ELEMENT 牌 (#PCDATA) >
<!ELEMENT 曲文 (#PCDATA | 科 | 夾白 ) * >
<!ELEMENT 科 (#PCDATA) * >
```

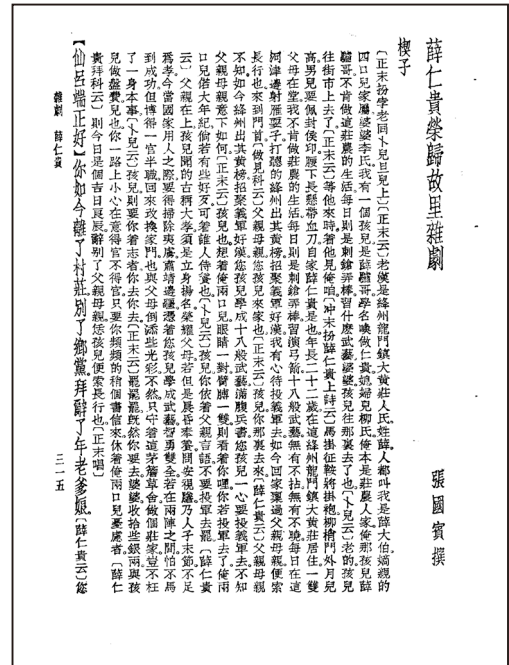
『元曲選』のDTD (部分)

『元曲選』のXML (部分)

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
< 雜劇 >
  < 雜劇題 > 薛仁貴榮歸故里雜劇 </ 雜劇題 >
  < 作者 > 張國寶 撰 </ 作者 >
  < 折 >
    < 折題 > 楔子 </ 折題 >
    < 白 >< 科 > [ 正末扮李老同卜兒旦兒上 ] </ 科 >< 科 > [ 正末云 ] </ 科 > 老漢是絳州龍門鎮大黃莊人氏。姓薛。人都叫我是薛大伯。嫡親的四口兒家屬。婆婆李氏。我有一個孩兒。是薛驢哥。學名喚做仁貴。媳婦兒柳氏。俺本是莊農人家。俺那孩兒薛驢哥。不肯做這莊農的生活。每日則是刺鎗弄棒。習什麼武藝。婆婆。孩兒
```

い込んでいる箇所がある、あるいは傍点「、」が句読点と強調点、両方の意味で使われている、というように、1つの文献の中で同じ書式が複数の意味で使われている例がしばしば見受けられる。そうした部分を区別してタグを付けることは、文献の解釈が関わってくるため業者にはできないので、こちらで最終的に文脈を判断して確定しなくてはならない。

こうしてDTDを指定しても、書籍・版本には



『元曲選』底本画像

どうしても例外的なレイアウトの箇所があったり、見落としがあったりするので、委託時に詳細に説明するとともに、随時先方と連絡を取り合う必要がある。

原書の画像については、書籍やコピーのほか、スキャンした画像データを渡しても構わない。スキャンする場合は、600dpiのグレースケール程度の解像度が必要になる。画像フォーマットはjpegで構わない。

こうして委託作製したXMLファイルの例として、『元曲選』を挙げておく(前ページ。入力は創新力博社)。

代金の支払いは、完成後、中国の指定銀行口座への振り込みになる。日本から振り込む場合はかなり高額な手数料が必要になるので注意されたい。

また、完成したテキストについても、異体字の統一・書式の整形といった作業が欠かせない。



「白袍記」底本画像

◆ 対応する文献

◎ 版本の対応

これらの中国企業は、中国古典のデジタル化を専門としているため、排印本(活字本)はもとより版本、しかもかなり状態の悪い版本にも対応する。ただし版本の状態によっては、5元/1,000字程度の特典料金が加算されることもある。

例は、創新力博社に委託入力した明代伝奇『白袍記』の版本画像と業者の完成テキスト、その校訂版である(見やすさを考慮し、テキストのタグは削除した)。

原本は『宋元以来俗字譜』の収録典拠にもなっている通俗的な版本で多数の俗字が使われているが、「音湏節柳」などのそうした俗字が業者の完成テキストでは原本の通りに起こされている。校訂作業は、これらの異体字をある程度一括置換した上で行い、句読点を付けている。

版本を校訂して信頼度の高い電子テキストを作製する作業は、実質的には版本・鈔本から活字本への翻刻と何ら変わるところがない。企業委託により原本を電子テキストすることで、翻刻の作業

完成テキスト

新刻出像音註薛仁貴跨海征東白袍記上卷
金陵 書坊 富春堂 梓
第一折 開場

【西江月】〔末白〕一段新奇故事。湏交羽省馳名。三千里在腹中存。正是華筵開四座驚動五靈神○論此一本傳奇。諸人皆曉所遇。君臣有義夫婦有節。為子有孝。今日般演一回。正是一回般動一回新。

校訂版

新刻出像音註薛仁貴跨海征東白袍記 上卷
金陵 書坊 富春堂 梓
第一折 開場

【西江月】〔末白〕一段新奇故事，須交羽省馳名。三千里在腹中存。正是：華筵開四座，驚動五靈神。 論此一本傳奇，諸人皆曉所遇。君臣有義，夫婦有節，為子有孝。今日般演一回，正是：一回般動一回新。



を効率的に進めることができる、と言い換えることもできよう。特に、一括置換による異体字の統一、全文を検索しながら翻字を検討する、といったことができることは特筆されよう。

◎ 日本語への対応

これらの企業は、日本語文献にも対応している。中国学関連の著作を国内で入力する場合、日本であまり使われない漢字の入力がネックになるが、これらの企業ではそうした問題がクリアできる。筆者のサイトに公開している著作権切れ漢和辞典『字源』のXML版は、書同文社に委託入力したものである (<http://wagang.econ.hc.keio.ac.jp/zigen/>)。

ただし、日本語を母語としない人が作業しているため、「つ」と「っ」、ひらがな・カタカナの「へ」など、仮名文字の誤認識は免れ得ず、日本人による校正が必要となる。

◇ おわりに

他者に作業を委託する際に事前の入念な打ち合わせが大切になるのは、電子テキスト化に限らずあらゆる仕事に共通しているが、こと相手が中国企業ともなると、少々精神的ハードルが高いかも

しれない。しかし、前に紹介した企業はいずれも日本からのテキスト入力委託実績を積んでおり、誠実に対応してくれることだろう。思い切って初めの一步を踏み出してほしい。

また、こうして入力した電子テキストは、是非ともネットなどを通じて公開していただきたい。自分のデータは自分だけで囲い込んで研究に活用するものだ、と考える人がいるかも知れないが、囲い込みテキストを分析したデータに基づいて論文を執筆したところで、それは第三者による検証が不可能な非科学的論文にしかならない。

最後に、こと文献の電子テキスト化技術については、中国に比して日本は立ち後れた状況にある。国内の学術デジタル化サービス企業や研究機関にも、これらの中国企業からのシステム購入などを通じて、入力可能文献の範囲を広げてもらいたいものである。ちなみに、『中国基本古籍庫』の愛如生社、方正国際社などのほか、複数の大学・研究機関が導入し、中国のこの分野でスタンダードとなっている創新力博社の青典システム（OCR・校正システム・工程管理システム・サーバソフトなどを含む）の価格は、入力作業員30人の基本パッケージで100万円となっている。

特集2

中国学向け情報スキル アンケート追加調査&分析

本誌12号の特集1において「中国学情報化への対応に関するアンケートーパソコンの中国学利用実態調査ー」と題したアンケート調査を行い、その集計結果及び内容についての簡単な報告を行った。

その際、母集団が100人強ということもあって、2011年下半期に追加調査を行うことを約束した。本特集はその追加調査（500人弱）及び結果の分析である。

※本特集掲載の諸論攷は、科学研究費補助金・基盤研究(B)「情報化時代における中国学次世代研究基盤の確立」(研究課題番号：23320010、代表者：二階堂善弘)の研究成果の一部である。

Contents

中国学情報化への対応に関するアンケート（続）	
— パソコンの中国学利用実態調査 —	漢字文献情報処理研究会 118
アンケート結果の分析 — 2項間の関係を中心に —	師 茂樹 134

中国学情報化への対応に関するアンケート（続）

— パソコンの中国学利用実態調査 —

漢字文献情報処理研究会

■ 今回の追加調査について

昨年度本誌の特集1において「中国学情報化への対応に関するアンケート—パソコンの中国学利用実態調査—」（以下前稿）と題して、実際に中国学・中国語学に携わる研究者や学生の情報化に関する意識や各種スキルについて、アンケート調査を行い、その集計結果及び内容についての簡単な報告を行った。

その際、前稿では集計人数が100名余りと少なかったこと、また母集団の偏りという問題もあったため、2011年秋に再度アンケート調査を行う旨を末尾にお断りした。

本稿は、その追加調査の報告である。なお、アンケートの実施方法やアンケートの前文などについては、前稿を併せてご覧いただきたい。

また、次稿以下に、アンケート分析結果について採り上げたので、そちらも併せてお読みいただければ幸いである。

■ アンケートの実施方法

アンケートに参加した大学は、前稿の慶應義塾

大学・中央大学・早稲田大学の三大学に加え、大谷大学・関西大学・関西学院大学・花園大学・立命館大学でそれぞれ新たに実施をした（合計で500名弱）。

但し、前回のアンケートに参加した大学が中国文学セクションを中心としているのに対し、今回の母集団は人文学系の学生が対象であるという点に違いがある。その辺りを踏まえて、アンケートの数値を御確認いただきたい（数値は前稿と同じく百分率で表記）。

アンケートの実施方法は、基本的に前稿に引用したものと同様のプロセスであるが（実施は2011年10月～11月）、各大学共有PCのソフトウェア環境に応じて、設問に若干の補足を加えている（但し、選択肢や項目数の変更は無い）。

以下、実際のアンケートとその集計結果を引用するが、文体がですます調になっているのは、前稿と同じく配付したアンケート本文の文体をそのまま用いたためであることをお断りしておく。

◇ アンケート本文

ここから、アンケートの質問になります

◎ 氏名・番号など

- 氏名・番号の記入は必要ありません。
- 記入年月日を西暦で記入してください。
- 氏名欄の下の空欄に、ご所属（大学・学部（研究科）名等）をご記入ください。

◎ 個人情報について

● 質問 1

- ◆ 学年（回生）・職業をお知らせ下さい。
マークシート問【1】

回答	割合
①学部 1 年	21.0%
②学部 2 年	21.8%
③学部 3 年	38.8%
④学部 4 年以上	7.4%
⑤学部聴講生（科目等履修生を含む）	0%
⑥大学院修士課程（聴講生・科目等履修生を含む）	4.2%
⑦大学院博士課程（オーバードクター・聴講生・科目等履修生を含む）	3.8%
⑧大学非常勤教員（非常勤研究員を含む）	0.8%
⑨大学専任教員（有期専任・常勤研究員を含む）	2.2%
⑩その他の職業の研究者	0%

● 質問 2・質問 3

- ◆ 生年（西暦）の下二桁をお知らせください。
10 の位をマークシート問【2】に
1 の位をマークシート問【3】に
※編集部注：ここでは集計結果を年代別に整理したものを提示した。「誤記入・未記入」は、記入漏れや意図的な選択の結果、通常想定されない年齢（例：111 歳等）が記入されているものをまとめたもの。

年代別	割合
10 代	20.9%
20 代	68.9%
30 代	1.8%
40 代	0.8%
50 代	0.8%
60 代	0.4%
誤記入・未記入	6.4%

● 質問 4

- ◆ 性別をお知らせ下さい。
マークシート問【4】

回答	割合
①男性	47.7%
②女性	52.3%

● 質問 5

- ◆ 出身国・地域をお知らせください。
マークシート問【5】

回答	割合
①日本	94.2%
②中国本土	3.2%
③台湾・香港・マカオ	0.4%
④大韓民国・北朝鮮	0.4%
⑤その他アジア地域	1.0%
⑥ヨーロッパ	0.2%
⑦アフリカ	0%
⑧北米	0.6%
⑨中南米	0%
⑩オセアニア	0%

中国学向け情報スキル
アンケート追加調査&分析

●質問6

- ◆あなたの専攻分野（あるいは専攻を考えている分野）をお知らせください（複数回答可）。

マークシート問【6】

※編集部注：以下、「複数回答可」の質問については、基本的に有効回答者の人数を母集団として百分率を導きだした。

回答	割合
①文学・言語学・語学	50.6%
②歴史学	21.8%
③哲学・宗教学	7.8%
④文献学・図書館学	1.4%
⑤美学・芸術学・表象メディア	2.2%
⑥社会学・地域文化論	10.2%
⑦社会科学（経・政・法・商等）	1.0%
⑧理系（理工・情報・医・薬等）	1.8%
⑨その他	9.4%
⑩未定	2.0%

●質問7

- ◆あなたが研究対象とする（あるいは対象とする予定の）時代・地域をお知らせください（複数回答可）。

回答	割合
①日本	18.8%
②江戸時代以前の日本	4.6%
③近現代日本	7.6%
④中国	25.0%
⑤清代以前の中国	9.8%
⑥近現代中国	10.6%
⑦日本・中国以外のアジア	6.2%
⑧その他	12.8%
⑨未定	12.0%
⑩時代・地域とは無関係	10.0%

●質問8

- ◆中学・高校・大学で履修経験のある英語・日本語以外の外国語を挙げて下さい（複数回答可）。

マークシート問【8】

回答	割合
①中国語	56.8%
②韓国・朝鮮語	10.0%
③ドイツ語	10.4%
④フランス語	13.8%
⑤スペイン語	6.6%
⑥ポルトガル語	0.2%
⑦イタリア語	2.6%
⑧ロシア語	2.0%
⑨アラビア語	0.4%
⑩その他	5.2%

◎ 情報環境・行動について

● 質問 9

- ◆ パソコンを持っていますか？
マークシート問【9】

回答	割合
①持っている（自分専用）	79.4%
②持っている（家族・同居人と共用）	19.4%
③持っていない	1.2%

● 質問 10

- 質問 9 で①または②と答えた方のみお答えください。

- ◆ あなたのパソコンのオペレーティングシステムとバージョンをお知らせ下さい（複数回答可）。

マークシート問【10】

※編集部注：質問 9 で①または②を答えた人数を母集団として百分率を導き出した。

回答	割合
① Windows 7	44.4%
② Windows Vista	29.6%
③ Windows Xp	22.7%
④ Windows（98,Me 等、バージョン不明）	3.9%
⑤ Mac OS X	3.2%
⑥ Unix 系（Linux,FreeBSD 等）	0.6%
⑦ Android	1.8%
⑧ iOS	2.0%
⑨ その他のオペレーティングシステム	0%
⑩ よくわからない	7.1%

● 質問 11

- ◆ Microsoft Office についての質問です。あなたが現在お使いのバージョンをお知らせ下さい（複数回答可）。

マークシート問【11】

回答	割合
① Office 2010	31.0%
② Office 2007	36.6%
③ Office 2003 以前	7.8%
④ Office 2011 for Mac	1.2%
⑤ Office 2008 for Mac	1.6%
⑥ Office 2004 for Mac 以前	0.6%
⑦ 使っているがバージョンが分からない	20.2%
⑧ 使っていない	5.2%

● 質問 12

- ◆ よく使う Microsoft Office アプリケーションソフトをお知らせください（複数回答可）。

マークシート問【12】

回答	割合
① Word	89.2%
② Excel	27.8%
③ PowerPoint	16.2%
④ Access	1.0%
⑤ Publisher	0.4%
⑥ OneNote	0.6%
⑦ InfoPath	0%
⑧ 特に無い	6.2%

中国学向け情報スキル アンケート追加調査&分析

●質問 13

◆以下からよく使うソフトを選んで下さい（複数回答可）。

マークシート問【13】

回答	割合
① Internet Explorer	77.2%
② Mozilla Firefox	14.2%
③ Google Chrome	18.4%
④ OpenOffice.org	5.2%
⑤一太郎	3.8%
⑥テキストエディタ	4.6%
⑦ Skype	27.2%
⑧ Google Earth	8.8%
⑨ Adobe 社製品（Photoshop・Illustrator・InDesign など）	11.2%
⑩プログラミングソフト	0.2%

●質問 14

◆インターネット（電子メール・ホームページ閲覧・Twitter等）を利用する際に、よく使用する情報機器をお知らせ下さい（複数回答可）。

マークシート問【14】

回答	割合
①携帯電話（伝統的な携帯電話：ガラケー）	45.2%
②スマートフォン	37.6%
③ iPad などのタブレットマシン	7.2%
④パソコン	72.0%
⑤ゲーム専用機	2.4%
⑥その他	0.6%

●質問 15

◆パソコンで電子メールをチェックする頻度はどの程度ですか？

マークシート問【15】

回答	割合
①週に1～2回	26.7%
②週に数回	19.3%
③ほぼ毎日	23.1%
④毎日何回も	9.0%
⑤パソコンの電子メールは使わない	21.9%

●質問 16

◆パソコンで電子メールを読み書きするとき、メール専用のソフトを使いますか、それとも、ウェブブラウザを使って（ホームページ経由で）行いますか？

マークシート問【16】

回答	割合
①メールソフト	17.2%
②ウェブブラウザ上のメールサービス	45.2%
③両方使う	10.8%
④よくわからない	14.8%
⑤パソコンの電子メールは使っていない	12.0%

●質問 17

- ◆パソコンでウェブページ（ホームページ）やオンラインサービスを利用する頻度はどのくらいですか？

マークシート問【17】

回答	割合
①週に1～2回	9.6%
②週に数回	21.2%
③ほぼ毎日	37.7%
④毎日何回も	25.5%
⑤ほとんど利用しない	6.0%

●質問 18

- ◆以下の日本語のウェブページ（ホームページ）・ウェブサービスから、よく利用するものを選んでください（複数回答可）。

マークシート問【18】

●質問 19

- ◆質問 18 の続きです（複数回答可）。

マークシート問【19】

※編集部注：この2設問は、マークシートの選択肢が10個しかないので、同じ質問に二つのマークシート欄を使うことで対応したため、①～⑩が2回繰り返されている。

以下、同様のスタイルの設問は全て同じである。

回答	割合
①所属大学の Web サイト	51.8%
②所属学部・学科（専攻・専修・ゼミ等）の Web サイト	7.4%
③所属大学の OPAC(蔵書検索)	21.8%
④他大学・研究機関の OPAC(蔵書検索)	6.2%
⑤ニュースサイト（新聞社等）	12.6%
⑥オンラインジャーナル（学術系電子雑誌）	4.2%
⑦ Google	51.8%
⑧ Yahoo!	58.8%
⑨百度（日本）	2.8%
⑩動画共有サイト（Youtube, ニコニコ動画等）	54.0%
①ソーシャルネットワークサービス（mixi, FaceBook 等）	53.0%
②掲示板（2ch 等。閲覧のみ）	21.6%
③掲示板（閲覧と書き込み）	6.8%
④ブログ（閲覧のみ）	23.6%
⑤ブログ（閲覧と書き込み）	15.8%
⑥ Twitter（閲覧のみ）	9.6%
⑦ Twitter（閲覧と書き込み）	29.6%
⑧翻訳サービス（Excite, 英辞郎等）	11.4%
⑨通販サイト（Amazon, 楽天, 価格 com 等）	39.0%
⑩データ保存サービス（EverNote, DropBox, SkyDrive, Yahoo! ボックス等）	9.8%

中国学向け情報スキル アンケート追加調査&分析

●質問 20

- ◆以下の言語・文字のウェブページ（ホームページ）を閲覧した事がありますか（複数回答可）？

マークシート問【20】

回答	割合
①英語	72.4%
②中国語（簡体字）	38.8%
③中国語（繁体字）	20.8%
④韓国・朝鮮語（ハングル）	13.2%
⑤ラテンアルファベット系（ドイツ語・フランス語・イタリア語・スペイン語等）	10.8%
⑥ロシア語・キリル文字	2.4%
⑦アラビア語・アラビア文字	1.6%
⑧タイ語	0.8%
⑨チベット語・チベット文字	0.4%
⑩その他の文字・言語	3.6%

◎情報教育・学習歴について

●質問 21

- ◆高校の「情報」科目は、何年生の何学期に配当されましたか？（複数回答可）

マークシート問【21】

回答		割合
一年	①一学期（前期・春期）	46.2%
	②二学期（後期・秋期）	40.8%
	③三学期	27.0%
二年	④一学期（前期・春期）	22.2%
	⑤二学期（後期・秋期）	22.6%
	⑥三学期	12.4%
三年	⑦一学期（前期・春期）	13.8%
	⑧二学期（後期・秋期）	13.6%
	⑨三学期	9.0%
⑩高校で「情報」を履修していない（履修漏れ、「情報」科目設置以前の卒業）		14.0%

■質問 22～質問 24 は、質問 21 で ◎ 以外を選んだ方のみお答えください。

●質問 22

- ◆高校で履修した情報の科目の種別は何ですか？

マークシート問【22】

回答	割合
①情報 A	33.0%
②情報 B	10.7%
③情報 C	9.3%
④わからない	47.9%

●質問 23

- ◆高校の情報授業で学習した内容をお知らせください（教科書を全て学習した人は①のみをマーク。その他の人は複数回答可）。

マークシート問【23】

●質問 24

- ◆質問 23 の続きです（複数回答可）。

回答	割合
①教科書を全てやり終えた	17.0%
②他の受験科目の授業になっていた	1.9%
③覚えていない	37.0%
④インターネットを通じた情報の検索と収集	24.0%
⑤インターネットを通じた情報の発信（ウェブページの作成など）	20.2%
⑥インターネットを通じたコミュニケーション（BBS・メール・ブログ・SNS など）	6.7%
⑦コンピュータの仕組み	15.1%
⑧デジタルデータ（文字・画像・圧縮ファイルなど）の仕組み	22.3%
⑨ネットワークの仕組み	14.2%
⑩ネットワークのセキュリティ	15.1%
①個人情報や知的財産権の保護	37.0%
②情報化と社会について	27.9%
③画像・映像・音声などマルチメディアの活用	20.7%
④ Word（ワープロソフト）の使い方	44.9%
⑤ PowerPoint（プレゼンテーションソフト）の使い方	42.8%
⑥ Excel（表計算ソフト）の使い方	48.1%
⑦データベースの仕組み・使い方（Access など）	3.0%
⑧モデルとシミュレーション	1.6%

マークシート問【24】

※編集部注：質問 23・24 については、質問 21 で④以外を選んだ有効回答者の人数を母集団として百分率を導き出した。

●質問 25

- ◆以下のソフトウェアの使い方を小学校～高校で習いましたか？該当するものを全て選んでください（複数回答可）。

マークシート問【25】

Word	
回答	割合
①小学校で習った	16.0%
②中学校で習った	44.4%
③高校で習った	35.6%
Excel	
回答	割合
④小学校で習った	5.4%
⑤中学校で習った	33.0%
⑥高校で習った	42.8%
PowerPoint	
回答	割合
⑦小学校で習った	6.0%
⑧中学校で習った	29.2%
⑨高校で習った	39.0%

中国学向け情報スキル アンケート追加調査&分析

●質問 26

- ◆今までに学習または使用経験のあるプログラミング言語を全て選んでください（複数回答可）。

マークシート問【26】

●質問 27

- ◆質問 26 の続きです（複数回答可）。

マークシート問【27】

回答	割合
①ない	56.4%
② C	5.8%
③ C++	3.8%
④ C#	1.0%
⑤ Objective-C	2.2%
⑥ VisualBasic	7.0%
⑦ VisualBasic.NET	0.4%
⑧ JAVA	7.0%
⑨ アセンブラ	1.2%
⑩ Pascal	0.8%
① BASIC (VisualBasic を除く)	6.0%
② FORTRAN	4.8%
③ Perl	3.0%
④ Ruby	1.4%
⑤ PHP	2.2%
⑥ javascript	7.6%
⑦ Python	0.4%
⑧ Lisp	0.8%
⑨ TeX	1.8%
⑩その他	7.8%

●質問 28

- ◆あなたの所属する（卒業した）大学では、情報処理入門科目が設置されていますか？

マークシート問【28】

回答	割合
①必修科目として設置されている	29.6%
②選択科目として設置されている	49.4%
③設置されていない	3.4%
④わからない	17.5%

●質問 29

- ◆あなたの所属する（卒業した）大学では、1年生に文献の調査方法、レポート・論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを教える科目（いわゆる初年時教育科目）が設置されていますか？

マークシート問【29】

回答	割合
①必修科目として設置されている	51.1%
②選択科目として設置されている	26.7%
③設置されていない	5.3%
④わからない	16.9%

●質問 30

- ◆あなたの所属する（卒業した）大学・大学院に、情報処理の人文学や東洋学への応用を専門に教授する科目が設置されていますか？
マークシート問【30】

回答	割合
①必修科目として設置されている	7.4%
②選択科目として設置されている	30.7%
③以前設置されていたが現在は設置されていない	1.4%
④設置されていない	6.1%
⑤わからない	54.4%

●質問 31

- ◆質問 30 で①②③を選んだ方のみお答えください。その科目を履修（受講）しましたか？
マークシート問【31】

回答	割合
①既に履修して単位を取得した	38.9%
②履修したけれども、単位を落とした	5.7%
③今年度履修中（履修予定）	29.5%
④来年度以降、履修するつもりだ	10.9%
⑤履修するつもりはない・履修していない	47.7%

◎パソコンのスキルと使い方について

●質問 32

- ◆以下の Word の機能のうち、使いこなせるものを全て選んでください（複数回答可）。
マークシート問【32】

回答	割合
① 1 ページの行数・文字数・余白・フォント・文字サイズを設定する	91.4%
② 文末脚注とページ脚注を使い分ける	39.0%
③ ページ番号を自動で付ける	62.2%
④ 章・段落番号を自動で付ける	37.4%
⑤ 目次を自動で生成する	15.2%
⑥ 返り点を付けた訓点文を作成する	8.8%
⑦ 中国語のピンインのふりがなを自動で振る	8.0%
⑧ MS ゴシックの文字だけを検索・置換する	14.0%
⑨ 文書のタブやインデントを設定する	22.0%
⑩ マクロを使う	3.4%

中国学向け情報スキル
アンケート追加調査&分析

●質問 33

- ◆以下の Excel の機能のうち、使いこなせるものを全て選んでください（複数回答可）。
マークシート問【33】

回答	割合
①四則計算（+ - * /）ができる	59.6%
②簡単な関数（sum, average, max, min 等）が使える	48.2%
③グラフを作成できる	52.4%
④セルの文字方向を縦方向（縦書き）に設定できる	24.4%
⑤並べ替え機能が使える	23.6%
⑥氏名の記入されたセルの個数を数える計算式を作成できる	13.2%
⑦60点以上は合格・それ以外は不合格の計算式を作成できる	17.2%
⑧vlookup 関数が使える	5.6%
⑨ピボットテーブルが使える	4.8%
⑩マクロが使える	3.0%

●質問 34

- ◆パソコンで入力したい漢字が変換候補に表示されない場合、どうしていますか（複数回答可）？
マークシート問【34】

回答	割合
①該当箇所を空白で印刷し、手書きで補う	16.2%
②外字を作成する	6.8%
③IME の文字パレットで検索する	52.4%
④Word の「記号と特殊文字」で探す	16.6%
⑤ CHISEIDS 漢字検索を使う	3.0%
⑥今昔文字鏡を使う	4.6%
⑦ GT 書体を使う	0.8%
⑧入力したい漢字の前後の文字をサーチエンジン等で検索し、検索結果からコピーして貼り付け	22.0%
⑨画像を貼り付ける	5.0%
⑩その他	10.8%

●質問 35

◆Windows・Mac 標準搭載のフォントでは、2011年6月現在、何文字の漢字が使用可能だと思いますか？参考までに『大漢和辞典』の見出し字は約50,000字、『漢語大字典』は60,370字です。

マークシート問【35】

回答	割合
①約 10,000 字	5.9%
②約 25,000 字	23.6%
③約 50,000 字	19.1%
④約 60,000 字	13.7%
⑤約 70,000 字	17.0%
⑥約 80,000 字	11.9%
⑦約 90,000 字	8.8%

●質問 36

◆あなたが学習・研究・教育で使用する言語・文字等を以下から選んでください（複数回答可）。

マークシート問【36】

●質問 37

◆質問 36 の続きです（複数回答可）。

マークシート問【37】

回答	割合
①中国語	49.6%
②中国語のピンイン	34.8%
③金文・甲骨文字	2.4%
④漢文訓読	21.8%
⑤変体仮名	4.4%
⑥韓国・朝鮮語（ハングル）	6.8%
⑦モンゴル文字	2.2%
⑧アラビア文字	1.0%
⑨チベット文字	1.4%
⑩中国少数民族言語・文字（彝語など）	1.0%
①満州語	5.2%
②中国の歴史的言語・文字（パспа文字・西夏文字など）	2.8%
③キリル文字	1.8%
④チェノム	1.8%
⑤タイ語・東南アジア言語	3.8%
⑥サンスクリット	3.2%
⑦英語	39.6%
⑧英語以外のヨーロッパ諸語	4.6%
⑨ IPA	1.4%
⑩その他	5.2%

中国学向け情報スキル
アンケート追加調査&分析

- 質問 38～質問 42 は、質問 36 で①・②を選んだ方のみお答えください。

※編集部注：質問 38～42 については、質問 36 で①②を選んだ有効回答者の人数を母集団として百分率を導き出した。

● 質問 38

- ◆ パソコンで中国語が入力できますか？（複数回答可）
マークシート問【38】

回答	割合
①できる（簡体字：ピンイン入力）	43.2%
②できる（繁体字：ピンイン入力）	22.6%
③できる（繁体字：注音入力）	3.3%
④できる（簡体字・繁体字問わず：その他の入力方式）	6.0%
⑤できない	47.3%

● 質問 39

- ◆ 中国語が入力できるように、自分でパソコンを設定できますか？
マークシート問【39】

回答	割合
①できる	43.5%
②できない	56.5%

● 質問 40

- ◆ どのような中国語入力ソフトを使っていますか（複数回答可）？
マークシート問【40】

回答	割合
① 微軟ピンイン IME	16.0%
② 微軟新注音・倉頡 IME	5.7%
③ ChineseWriter・J 北京（含 Chinese WriterLT）	6.0%
④ cWnn	0.5%
⑤ 中文起稿	0.5%
⑥ GoogleIME	8.7%
⑦ 搜狗 IME	2.4%
⑧ 百度 IME	1.4%
⑨ Mac の中国語入力	1.9%
⑩ その他	19.8%

● 質問 41

- ◆ 声調符号付きピンインを入力できますか？
マークシート問【41】

回答	割合
① できる	18.1%
② できない	81.9%

●質問 42

- ◆以下の中国語インターネットサービスのうち、閲覧・利用した経験のあるものを全て選んでください（複数回答可）。

マークシート問【42】

回答	割合
①検索エンジン（中国語版 Google, 百度, 愛問, 搜狗等）	42.1%
②オンライン書庫（国学網等）	12.5%
③百科事典（WikiPedia 中国語版, 百度百科等）	27.2%
④SNS（QQ 等）	9.2%
⑤BBS（西陸, 天涯等）	3.5%
⑥ブログ・マイクロブログ（新浪微博等）	7.9%
⑦動画共有サイト（Youku, 土豆网等）	35.3%
⑧通販サイト（卓越 AMAZON, 当当網, 孔夫子等）	6.0%
⑨ニュースサイト（人民網, 新浪等）	17.4%
⑩中国政府, 省庁公式サイト	7.6%

◎ データベースなどの利用経験に関する質問です

●質問 43

- ◆授業やレポート・論文執筆などで調べ物をする際、あなたがよく利用する方法はどれですか？（複数回答可）

マークシート問【43】

回答	割合
①辞書・事典・目録・索引などを引く	53.2%
②研究入門書・文献リストを読む	28.4%
③研究誌や論文誌を探す	27.0%
④図書館に行って本や論文を探す	69.8%
⑤図書館司書に相談する	3.4%
⑥ OPAC やオンライン論文データベースを検索する	28.2%
⑦ Google など検索エンジンで検索する	53.6%
⑧先生に聞く	17.2%
⑨先輩や友人に聞く	14.0%
⑩その他	1.4%

中国学向け情報スキル
アンケート追加調査&分析

●質問 44

- ◆以下の OPAC・論文検索サービスのうち、使ったことのあるものを全て選んでください（複数回答可）。

マークシート問【44】

回答	割合
①国立国会図書館	24.8%
② Nacsis WebCAT	17.2%
③国会図書館の雑誌記事検索	13.0%
④北京国家図書館	4.2%
⑤台湾国家図書館	2.4%
⑥漢籍データベース	13.2%
⑦ China3（東洋学文献類目検索）	3.8%
⑧ CiNii	36.6%
⑨ CNKI	10.0%
⑩万方	2.6%

●質問 45

- ◆以下のオンラインデータベースのうち、使ったことのあるものを全て選んでください（複数回答可）。

マークシート問【44】

回答	割合
①国会図書館近代デジタルライブラリー	10.4%
② JapanKnowledge	9.0%
③漢籍電子文献	11.6%
④ SAT	2.4%
⑤文物図象研究室資料庫	0.8%
⑥中國哲學書電子化計劃	2.0%
⑦寒泉	4.8%
⑧国学網	3.4%
⑨超星数字図書館	2.2%
⑩その他	10.6%

●質問 46

- ◆以下のデータベースソフトのうち、使ったことのあるものを全て選んでください（複数回答可）。

マークシート問【45】

回答	割合
①『四庫全書』	12.6%
②『四部叢刊』	5.8%
③その他書同文社製品（『歴代石刻』、『十通』等）	1.0%
④中国基本古籍庫	5.2%
⑤拇指数拠庫（北京愛如生）	0%
⑥その他愛如生社製品（『明實録』、『清實録』等）	1.2%
⑦雕龍——古籍全文検索叢書シリーズ	2.0%
⑧『漢語大詞典』	9.2%
⑨その他	3.8%
⑩使ったことはあるが名称がわからない	10.2%

以上でアンケートは終わりです。
ご協力ありがとうございました。

◇おわりに

以上で、追加アンケートに関しての事前作業やアンケート本文及び集計結果を挙げた。

次稿に、アンケートの分析結果について述べる。

末筆になるが、アンケートに協力していただいた方には、深く感謝を申し上げたい。

アンケート結果の分析

— 2 項間の関係を中心に —

師 茂樹 (もろ しげき)

■ はじめに

本稿は、「中国学情報化への対応に関するアンケート —パソコンの中国学利用実態調査—」の結果について、質問項目のあいだに何らかの関係が見られるかどうかについて分析したものである。ただし、すべての質問項目間の分析は膨大になるため、今回はごく一部にとどめている。

分析方法として、今回はクラスタ分析を採用し、回答間の共起関係の分析を試みた。まず回答結果を、各質問の各回答番号（質問1の①など）に回答されていれば1、回答されていなければ0とする行列に変換する（下表）。

回答者	質問1						…
	①	②	③	④	⑤	⑥	…
A	0	1	0	0	0	0	…
B	1	0	0	0	0	0	…
C	0	0	1	0	0	0	…
D	0	0	1	0	0	0	…
E	0	0	1	0	0	0	…
F	1	0	0	0	0	0	…
…	…	…	…	…	…	…	…

次に、各回答番号を1つのベクトルとみなしてクラスタ分析を行う。回答数の多少に影響され

ないようにするために、各ベクトルは長さ1に正規化する。クラスタ分析における距離の計算方法はユークリッド距離とウォード法を用いた。よく知られている通り、クラスタ分析は計算方法の違いによって結果が大きく変わる。本分析もまた、あくまで一つの計算結果にすぎないことを強調しておきたい。

なお、クラスタ分析と樹形図の作図には、R 2.15.1 を用いた（データの整形と整理には Excel と Perl を用いた）。

■ Word・Excelのスキルと教育課程との関係

ここでは、Word・Excelのスキルに関する質問（質問32・33）が、高等学校の「情報」科目、大学の情報法処理入門科目、大学の初年次教育科目、大学における人文学や東洋学への情報処理の応用についての科目（以下「人文学情報処理科目」とする）とどのような関係にあるのかについて見ていきたい。

ちなみに、Word・Excelのスキルを問う質問と選択肢、回答数（後の考察でも必要となるので、回答数もあげておく）は以下のとおりである。なお、表や図にある「X32.9」等の符号は、「質問32の回答⑨」を意味する（以下同じ）。

質問 32 「以下の Word の機能のうち、使いこなせるものを全て選んでください（複数回答可）。

	選択肢	回答数
X32.1	① 1 ページの行数・文字数・余白・フォント・文字サイズを設定する	457
X32.2	② 文末脚注とページ脚注を使い分ける	195
X32.3	③ ページ番号を自動で付ける	311
X32.4	④ 章・段落番号を自動で付ける	187
X32.5	⑤ 目次を自動で生成する	76
X32.6	⑥ 返り点を付けた訓点文を作成する	44
X32.7	⑦ 中国語のピンインのふりがなを自動で振る	40
X32.8	⑧ MS ゴシックの文字だけを検索・置換する	70
X32.9	⑨ 文書のタブやインデントを設定する	110
X32.10	⑩ マクロを使う	17

質問 33 「以下の Excel の機能のうち、使いこなせるものを全て選んでください（複数回答可）。

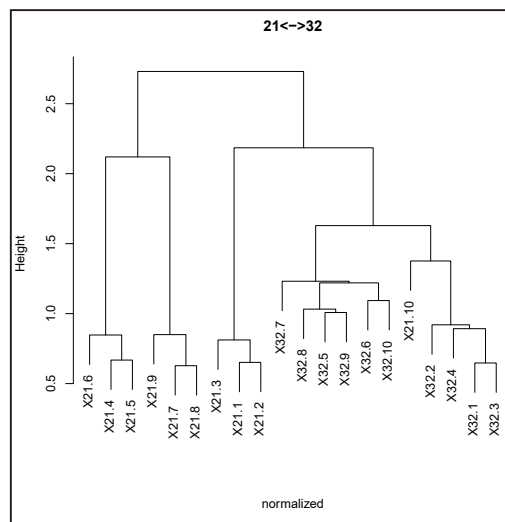
	選択肢	回答数
X33.1	① 四則計算（＋・－・＊・／）ができる	298
X33.2	② 簡単な関数（sum, average, max, min 等）が使える	241
X33.3	③ グラフを作成できる	262
X33.4	④ セルの文字方向を縦方向（縦書き）に設定できる	122
X33.5	⑤ 並べ替え機能が使える	118
X33.6	⑥ 氏名の記入されたセルの個数を数える計算式を作成できる	66
X33.7	⑦ 60 点以上は合格・それ以外は不合格の計算式を作成できる	86
X33.8	⑧ vlookup 関数が使える	28
X33.9	⑨ ピボットテーブルが使える	24
X33.10	⑩ マクロが使える	15

＊ 高等学校の「情報」科目

質問 21 は「高校の「情報」科目は、何年生の何学期に担当されましたか（複数回答可）？」という質問に対して、次の選択肢から回答するものである。

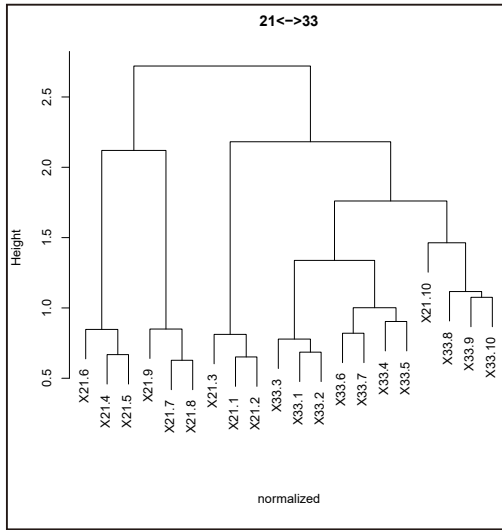
	選択肢	回答数
X21.1	① 一年一学期（前期・春期）	231
X21.2	② 一年二学期（後期・秋期）	204
X21.3	③ 一年三学期	135
X21.4	④ 二年一学期（前期・春期）	111
X21.5	⑤ 二年二学期（後期・秋期）	113
X21.6	⑥ 二年三学期	62
X21.7	⑦ 三年一学期（前期・春期）	69
X21.8	⑧ 三年二学期（後期・秋期）	68
X21.9	⑨ 三年三学期	45
X21.10	⑩ 高校で「情報」を履修していない（履修漏れ、「情報」科目設置以前の卒業）	70

質問 21 ⇄ 質問 32（Word スキル）の樹形図は以下のとおりである。



質問 21 ⇄ 質問 33（Excel スキル）の樹形図は以下のとおりである。

中国学向け情報スキル
アンケート追加調査&分析



両樹形図とも、ほぼ同じ傾向を見せている。すなわち、高校一年生のときに「情報」を履修したクラスタ (X21.1、X21.2、X21.3) が Word・Excel のスキルに関するクラスタと結びついており (右側)、それ以外の学年のクラスタはそこから独立している (左側)。

学習指導要領によれば、高等学校の「情報」科目は、Word などのスキルの向上を主眼とするものではなく、メディアリテラシー的な内容の「社会と情報」^[1] および情報科学入門的な「情報の科学」^[2] から構成されている。しかしながら、本アンケートの質問 24 の結果を見ればわかるように、実際には多くの学生が Word・Excel・PowerPoint の使い方を「情報」のなかで学んでいる。大学受験には関係がない「情報」については、高校一年生のときに Word・Excel・PowerPoint の使い方を中心に学習してしまう、ということであろうか。

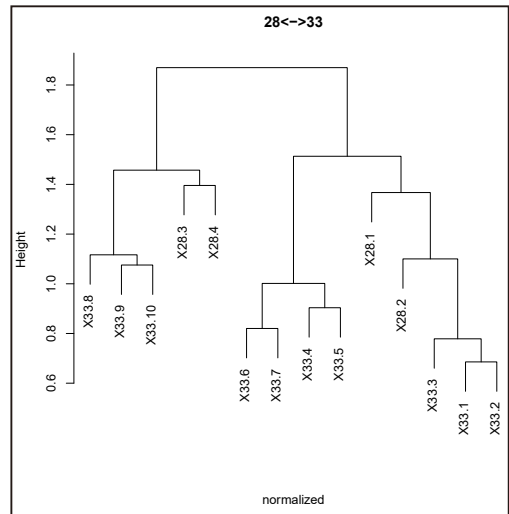
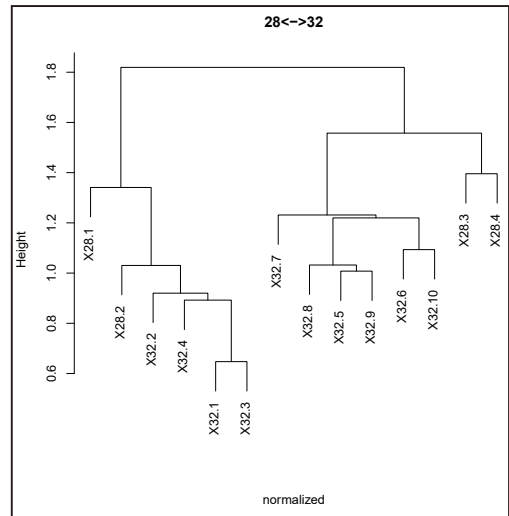
✳ 大学の情報処理入門科目

次に、大学の情報処理入門科目との関係について見てみよう。質問 28 は「あなたの所属する (卒業した) 大学では、情報処理入門科目が設置されていますか?」という質問に対して、次の選択肢から答えるものである (厳密に言えば、質問

28 では当該科目を履修したかどうかはわからない)。

	選択肢	回答数
X28.1	①必修科目として設置されている	147
X28.2	②選択科目として設置されている	245
X28.3	③設置されていない	17
X28.4	④わからない	87

質問 28 ⇄ 質問 32 (Word スキル)、質問 28 ⇄ 質問 33 (Excel スキル) の樹形図は、それぞれ以下のとおりである。



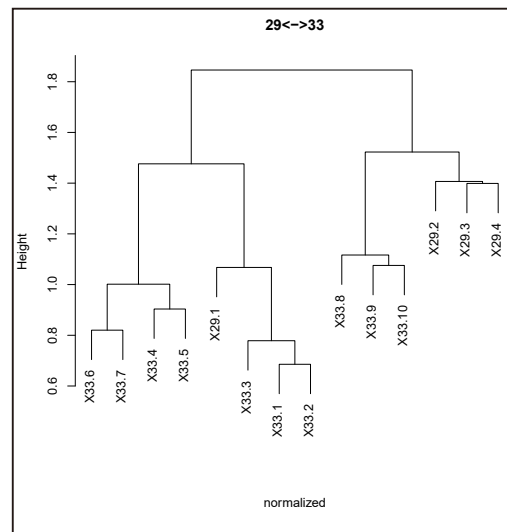
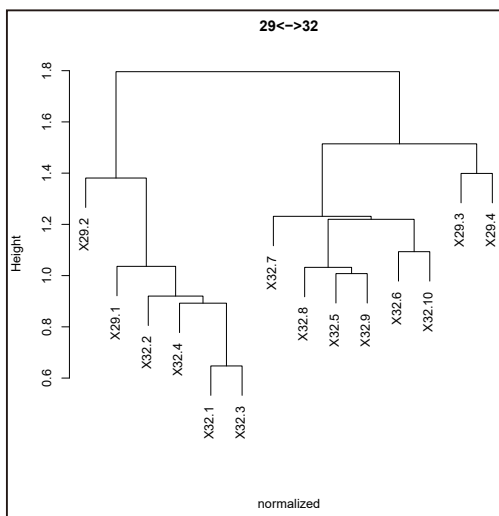
質問 28 の「①必修科目として設置されている」(X28.1) と「②選択科目として設置されている」(X28.2) が Word・Excel の入門的なスキルとクラスタを形成しており、それ以外の回答数が少なかった項目がもう一方のクラスタを形成している。大学の情報処理入門科目が、Word・Excel の入門的なスキルの習得に貢献しているものの、一方でそれらのスキルに授業内容が限定されていることが予想される。

✳ 大学の初年次教育科目

質問 29 「あなたの所属する（卒業した）大学では、1 年生に文献の調査方法、レポート・論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを教える科目（いわゆる初年次教育科目）が設置されていますか？」の選択肢、回答数は下表のとおり。

	選択肢	回答数
X29.1	①必修科目として設置されている	251
X29.2	②選択科目として設置されている	131
X29.3	③設置されていない	26
X29.4	④わからない	83

質問 29 ⇄ 質問 32（Word スキル）、質問 29 ⇄ 質問 33（Excel スキル）の樹形図は、それぞれ以下のとおりである。



Word については、上の大学の情報処理入門科目と同様、質問 29 の「①必修科目として設置されている」(X29.1) と「②選択科目として設置されている」(X29.2) が入門的なスキルとクラスタを形成しており、それ以外の回答数が少なかった項目がもう一方のクラスタを形成している。

一方 Excel の場合は、質問 29 の「①必修科目として設置されている」(X29.1) のみが入門的なスキルとクラスタを形成しており、「②選択科目として設置されている」(X29.2) はそれ以外のクラスタに含まれている。

この結果は、初年次教育において、レポート作成などのための Word のスキルが重視されている傾向を示しているように思われる。

初年次教育とよばれるカリキュラムは大学によって様々であるが、キャリア教育や大学生活の指南、友だち作りなど、スタディスキルズ（大学での学び方入門）とは関係がない内容を盛り込むところも多い。またスタディスキルズ関連でも、ノートテイクの方法、読書のしかた、グループワークの方法など、必ずしも Word や Excel を触らなくてもよい内容も多数含まれている。そのなかで、比較的多くの大学で行われているレポート作成の基礎授業が、上のような結果に反映している可能性がある。

✦ 人文学情報処理科目

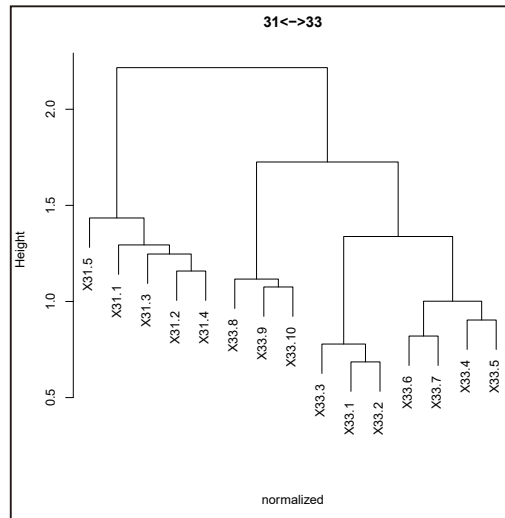
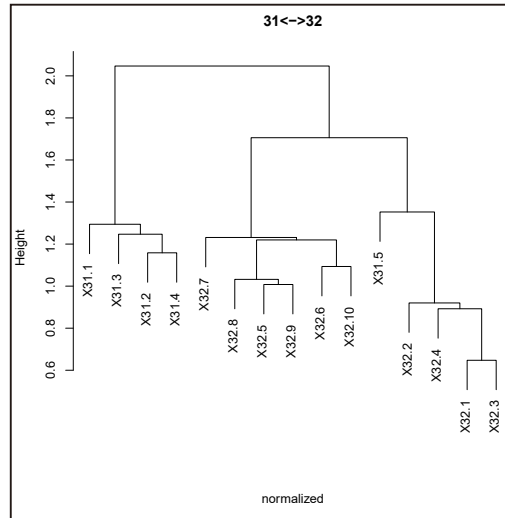
次に人文学情報処理科目であるが、アンケートでは二つの質問から構成されている。質問 30 は「あなたの所属する（卒業した）大学・大学院に、情報処理の人文学や東洋学への応用を専門に教授する科目が設置されていますか？」という質問に対して、次の選択肢から回答するものである。

- ①必修科目として設置されている
- ②選択科目として設置されている
- ③以前設置されていたが現在は設置されていない
- ④設置されていない
- ⑤わからない

これに対して質問 31 では「質問 30 で①②③を選んだ方のみお答えください。その科目を履修（受講）しましたか？」として、以下の選択肢をあげる。

	選択肢	回答数
X31.1	①既に履修して単位を取得した	75
X31.2	②履修したけれども、単位を落とした	11
X31.3	③今年度履修中（履修予定）	57
X31.4	④来年度以降、履修するつもりだ	21
X31.5	⑤履修するつもりはない・履修していない	92

ここでは、人文学情報処理科目の履修がスキルに影響しているかどうかを見たいので、質問 31 との関係进行分析する。樹形図は以下のとおり。



どちらの図でも質問 31 の各回答のうち、X31.1 ~ X31.4 は、スキルのクラスタとは別のクラスタを形成している。人文学情報処理科目が Word・Excel のスキル向上につながっていない可能性を示唆している。

■ 調べ物スキルと教育課程との関係

次に、レポート執筆などの際に必要な調べ物スキルと、高等学校の「情報」科目、大学の情報法処理入門科目、大学の初年次教育科目、人文学情報処理科目との関係を見ていきたいと思う。調べ

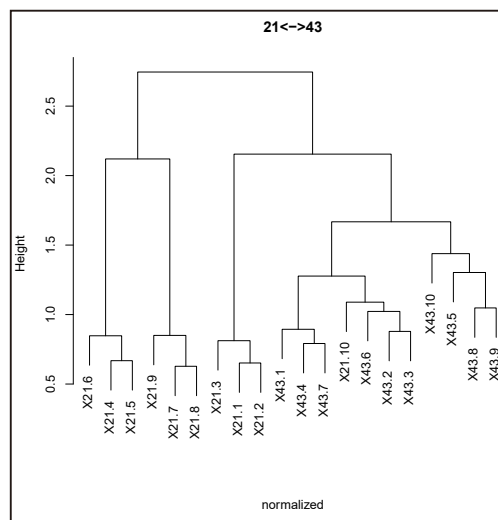
物スキルに該当する質問 43 は「授業やレポート・論文執筆などで調べ物をする際、あなたがよく利用する方法はどれですか？（複数回答可）」という質問に対して、次の選択肢から回答するものである。

	選択肢	回答数
X43.1	①辞書・事典・目録・索引などを引く	266
X43.2	②研究入門書・文献リストを読む	142
X43.3	③研究誌や論文誌を探す	135
X43.4	④図書館に行って本や論文を探す	349
X43.5	⑤図書館司書に相談する	17
X43.6	⑥ OPAC やオンライン論文データベースを検索する	141
X43.7	⑦ Google などサーチエンジンで検索する	268
X43.8	⑧先生に聞く	86
X43.9	⑨先輩や友人に聞く	70
X43.10	⑩その他	7

近年、中教審などが「主体的な学び」を強調しており、大学^[3]だけでなく、小学校から高等学校においても「総合的な学習の時間」などが推進されている。質問 43 や質問 21（高等学校の「情報」科目）、質問 28（大学の情報法処理入門科目）が「主体的な学び」と十全に対応するわけではないが、無視できない視点ではないと思われる。

✳ 高等学校の「情報」科目

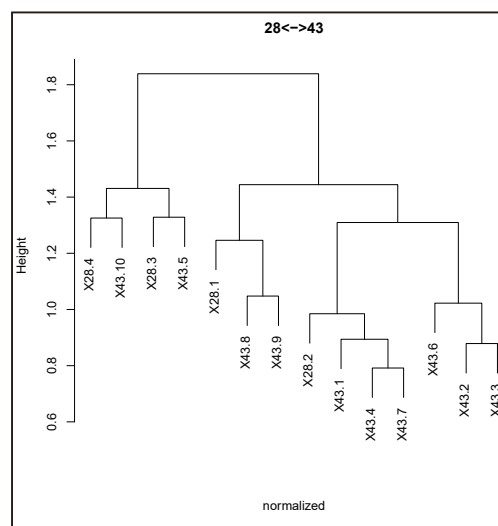
質問 21 ⇄ 質問 43 の樹形図は以下のとおりである。



「①辞書・事典・目録・索引などを引く」(X43.1)、「④図書館に行って本や論文を探す」(X43.4)、「⑦ Google などサーチエンジンで検索する」(X43.7) などの基本スキルは、一年生のときに「情報」を履修した者とやや弱いクラスターを形成しているものの、それ以外はスキルと履修学年との対応は見られない。

✳ 大学の情報法処理入門科目

質問 28 ⇄ 質問 43 の樹形図は以下のとおりである。

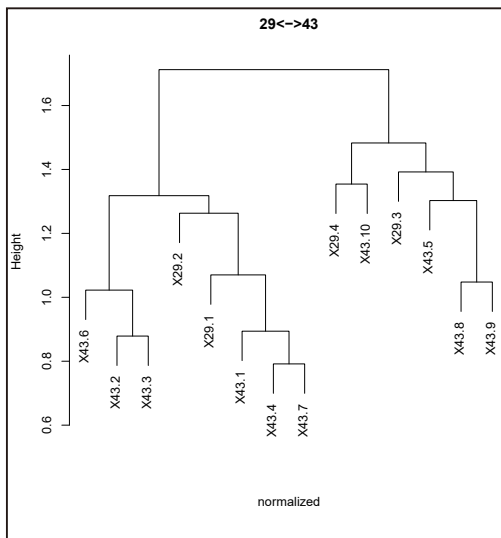


大学で情報法処理入門科目が「②選択科目として設置されている」(X28.2)とこで、「①辞書・事典・目録・索引などを引く」(X43.1)、「④図書館に行って本や論文を探す」(X43.4)、「⑦Googleなどサーチエンジンで検索する」(X43.7)などの基本スキルや、「②研究入門書・文献リストを読む」(X43.2)、「③研究誌や論文誌を探す」(X43.3)、「⑥OPACやオンライン論文データベースを検索する」(X43.6)などの大学らしいスキルと同じクラスタを形成しているのが興味深い(右側)。一方「①必修科目として設置されている」(X28.1)は、これらのスキルと結びつきが弱い。

これは、必修科目よりも選択科目のほうが高度な内容を教授しやすいという事情が反映しているのかもしれない。

✳ 大学の初年次教育科目

調べ物スキルや「主体的な学び」と最も関連が深いのが、質問43(大学の初年次教育科目)であろう。しかしながら、先ほどのWord・Excelスキルの場合と同様、質問29⇔質問43の樹形図は以下のとおりである。

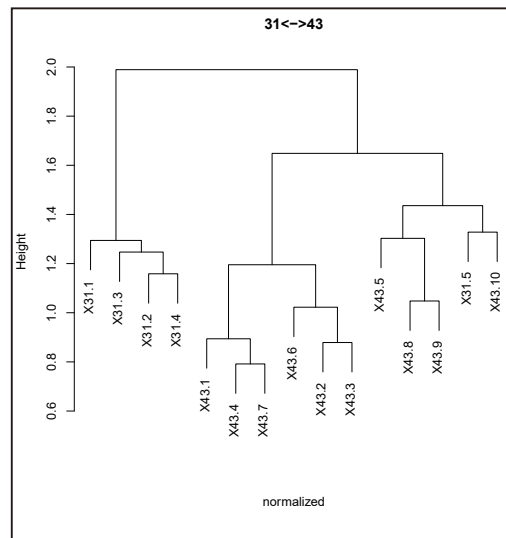


「①必修科目として設置されている」(X29.1)と「②選択科目として設置されている」(X29.2)が、ともに「①辞書・事典・目録・索引などを引く」(X43.1)、「④図書館に行って本や論文を探

す」(X43.4)、「⑦Googleなどサーチエンジンで検索する」(X43.7)などの基本スキルとクラスタを形成し、やや離れて「②研究入門書・文献リストを読む」(X43.2)、「③研究誌や論文誌を探す」(X43.3)、「⑥OPACやオンライン論文データベースを検索する」(X43.6)などの大学らしいスキルと同じクラスタを形成している。初年次教育の内容とほぼ一致した結果であると言えるのではないだろうか。

✳ 人文学情報処理科目

質問31⇔質問43の樹形図は以下のとおりである。



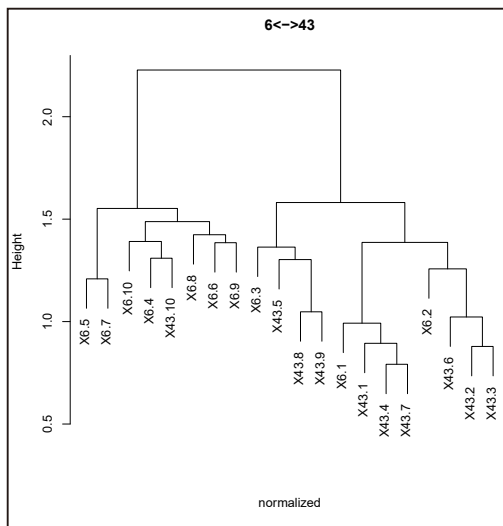
上の図では、人文学情報処理科目の履修状況に関するクラスタ(X31.1～X31.4)と、スキルに関するクラスタ(X43.1～X43.10)がほぼ分裂しており、人文学情報処理科目が調べ物のスキル形成に貢献していない可能性を示唆している。

✳ 専攻との関係

最後に、専攻と調べ物のスキルとの関係について見てみたい。専攻については、質問6「あなたの専攻分野(あるいは専攻を考えている分野)をお知らせください(複数回答可)」に対して、以下のような選択肢があげられているが、回答数については大きな偏りがある。

	選択肢	回答数
X6.1	①文学・言語学・語学	253
X6.2	②歴史学	109
X6.3	③哲学・宗教学	39
X6.4	④文献学・図書館学	7
X6.5	⑤美学・芸術学・表象メディア	11
X6.6	⑥社会学・地域文化論	51
X6.7	⑦社会科学（経・政・法・商等）	5
X6.8	⑧理系（理工・情報・医・薬等）	9
X6.9	⑨その他	47
X6.10	⑩未定	10

質問6⇔質問43の樹形図は以下のとおりである。



「①文学・言語学・語学」(X6.1)が「①辞書・事典・目録・索引などを引く」(X43.1)、「④図書館に行って本や論文を探す」(X43.4)、「⑦Googleなどサーチエンジンで検索する」(X43.7)などの基本スキルとクラスタを形成し、近いところで「②歴史学」(X6.2)が「②研究入門書・文献リストを読む」(X43.2)、「③研究誌や論文誌を探す」(X43.3)、「⑥OPACやオンライン論文データベースを検索する」(X43.6)などの大学らしいスキルと同じクラスタを形成している。少し離れて「③哲学・宗教学」(X6.3)が「⑤図書館司

書に相談する」(X43.5)、「⑧先生に聞く」(X43.8)、「⑨先輩や友人に聞く」(X43.9)とクラスタを形成している。言い換えれば、文献を重視する文・史・哲の伝統的な領域と、調べ物スキルとの相性の良さが結果として出ているのではないかと思われる。

中国語情報処理スキルとの関係

ここで言う「中国語情報処理スキル」とは具体的に質問38の中国語入力スキル、質問45・46で聞かれている中国学関連データベースについてのスキルである。これらのスキルと、専攻や人文学情報処理科目とのあいだで何らかの関係は見いだせるだろうか。以下、分析を試みたい。

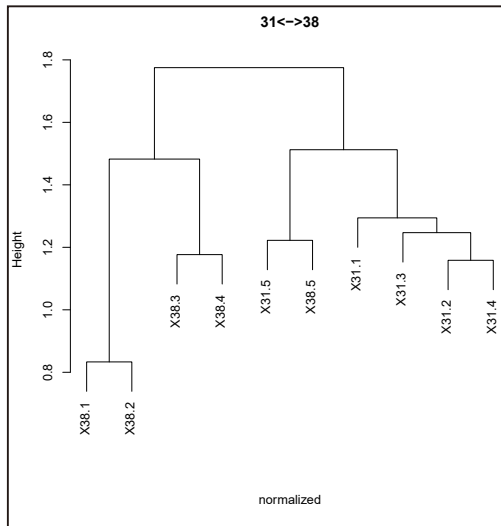
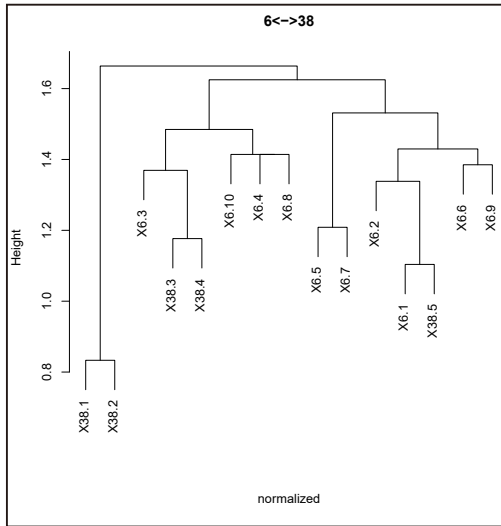
中国語入力スキル

質問38は「パソコンで中国語が入力できますか（複数回答可）？」という質問に対して、次の選択肢から回答するものである。

	選択肢	回答数
X38.1	①できる（簡体字：ピンイン入力）	159
X38.2	②できる（繁体字：ピンイン入力）	83
X38.3	③できる（繁体字：注音入力）	12
X38.4	④できる（簡体字・繁体字問わず：その他の入力方式）	22
X38.5	⑤できない	174

質問6（専攻）⇔質問38と質問31（人文学情報処理科目）⇔質問38の樹形図は以下のとおりである。

中国学向け情報スキル
アンケート追加調査&分析



一見してわかるように、どちらも中国語入力スキル（特にピンイン入力のスキル）とは別のクラスタを形成しており、両者のあいだに関係がないことが予想される。ただし、中国語入力が「⑤できない」（X38.5）は、専攻では「①文学・言語学・語学」（X6.1）と、人文学情報処理科目では「⑤履修するつもりはない・履修していない」（X31.5）とやや強く結びついている。

＊人文学情報処理科目と中国学関連データベースのスキル

質問 45 は「以下のオンラインデータベースの

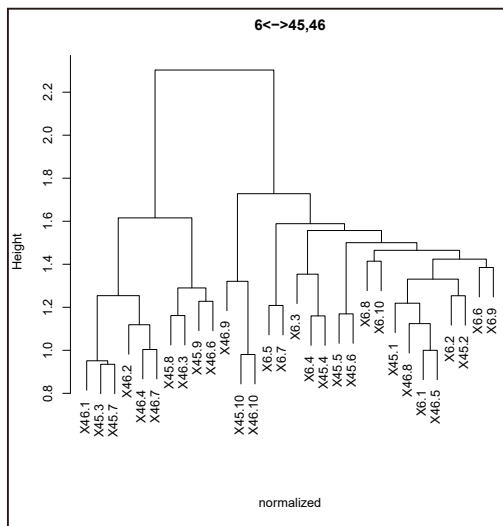
うち、使ったことのあるものを全て選んでください（複数回答可。）」という質問に対して、次の選択肢から回答するものである。

	選択肢	回答数
X45.1	①国会図書館近代デジタルライブラリー	52
X45.2	② JapanKnowledge	45
X45.3	③漢籍電子文献	58
X45.4	④ SAT	12
X45.5	⑤文物図象研究室資料庫	4
X45.6	⑥中國哲學書電子化計劃	10
X46.7	⑦寒泉	24
X45.8	⑧国学網	17
X45.9	⑨超星数字図書館	11
X45.10	⑩その他	53

また質問 46 も同様に「以下のデータベースソフトのうち、使ったことのあるものを全て選んでください（複数回答可。）」という質問に対して、次の選択肢から回答するものである。

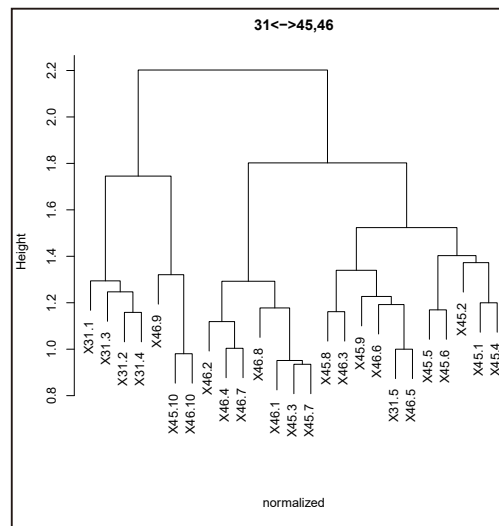
	選択肢	回答数
X46.1	①『四庫全書』	63
X46.2	②『四部叢刊』	29
X46.3	③その他書同文社製品（『歴代石刻』、『十通』等）	5
X46.4	④中国基本古籍庫	26
X46.5	⑤拇指数抛庫（北京愛如生）	0
X46.6	⑥その他愛如生社製品（『明實録』、『清實録』等）	6
X46.7	⑦雕龍—古籍全文検索叢書シリーズ	10
X46.8	⑧『漢語大詞典』	46
X46.9	⑨その他	19
X46.10	⑩使ったことはあるが名称がわからない	51

質問 6 ⇄ 質問 38 と質問 6 ⇄ 質問 45 + 質問 46 の樹形図は以下のとおりである。



まず、専攻とデータベースとの関連を見てみると、「①文学・言語学・語学」(X6.1)が「⑧『漢語大詞典』」(X46.8)や「①国会図書館近代デジタルライブラリー」(X45.1)と、「②歴史学」(X6.2)が「② JapanKnowledge」(X45.2)とクラスタを形成し、さらにその二つが「⑤文物図象研究室資料庫」(X45.5)、「⑥中国哲学書電子化計画」(X45.6)とクラスタを形成している。そこから少し離れて「④文献学・図書館学」(X6.4)と「③哲学・宗教学」(X6.3)が「④ SAT」(X45.4)とクラスタを形成している。そして、これらをまとめたクラスタに「⑤美学・芸術学・表象メディア」(X6.5)などがくっついている、という具合である。

「①『四庫全書』」(X46.1)や「③漢籍電子文献」(X45.3)をはじめとする上記以外の主要なデータベースは、専攻の各項目とのあいだでクラスタを形成しておらず、各専攻とのあいだで強い共起関係が認められない、ということになる。



一方、人文学情報処理科目は中国学関連データベースのスキルと別のクラスタを形成しており、両者のあいだに関係がないことが予想される。

まとめ

以上、ごく大ざっぱな分析結果を見てきた。今回の分析結果はあくまで一つの計算方法に基づくものである、ということを再確認したうえで簡単に総括してみたい。

まず、WordやExcelの、特に入門的なスキルについては、現在の大学におけるカリキュラム(初年次教育、情報法処理入門科目、人文学情報処理)はうまく機能していると言えるかもしれない。しかし、それ以上のスキル、特に中国語の入力やデータベースの活用については、大学の一般的な授業(特に人文学情報処理)はあまり貢献していない可能性がある。ただし、データベースのスキルについて専攻との関係がある程度見いだせるということは、ゼミや研究室の先輩後輩関係など、一般的な授業以外において(場合によっては、卒論などの必要に迫られて)学んでいる/教えている可能性がある。

大学においては、授業外の学びが授業と同様に(あるいはそれ以上に)重要であることを考えると、このような傾向を一概に否定することはでき

ない。しかしながら、日本の人文諸学における情報処理の教育の大勢が、結局のところワープロと表計算の使い方にとどまるのであれば、研究・教育のICT化を進めている諸外国との差はますます広がるのではないだろうか。

注

[1] 学習指導要領には「情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる」とい

う目標が掲げられている。

- [2] 同じく学習指導要領では「情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させるとともに、情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得させ、情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる」とある。
- [3] 最近では、中央教育審議会が平成24年8月28日の第82回総会でとりまとめた「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm) など。

理想の中国学的人文情報スキルとは？

山田 崇仁（やまだ たかひと）

■ はじめに

本会の設立目的の一つとして「研究・教育現場でのコンピュータ活用・普及の促進」を掲げている。

2012年で13号に至る本誌や、3冊の『電腦中国学』シリーズを初めとする各種書籍類についても、中国学に関わる者に求められる情報スキル向上を目的として編まれたものである。

今日に至る情報化社会の発展に伴い、「Webブラウザで受講登録をする」・「PCでレポートを作成する」・「教員とメールで連絡をとる」のように、大学生活を過ごす上でもPCやネットのスキルはもはや必要不可欠なものとなっている。

筆者は大学で人文的情報教育に長年携わってきたが、情報化社会の進展や変化に伴い、当然教授する情報スキルも少しずつ変化している。実際、10数年前のマルチメディアやインターネットブームの頃は、電子メールの書き方やWebブラウザの使い方といった基礎中の基礎から授業を始めたが、今日では大学入学時までにWWWブラウザを利用した閲覧・入力を当たり前のように利用できるようになっていたり、Word, Excel, PowerPointなどを使ってデータを作成したりする作業などについては、みなそれなりに使えるようになっている（本号特集2に掲載したアンケートの集計結果や、師氏の論考を参照されたい）。

そのため、最近の大学レベルでの初年度教育の中での情報教育は、上記のような情報スキルの保持を前提とし、大学生活を行う上での（各大学基準での）スキル標準化が重要視されるように感ずる。

では、受講生がそのような（読み書きそろばんレベルとしての）最低限の情報スキルを身につけている前提で、専門教育としてそこに何を上乗せ

すればよいのか、という部分が問題となる。

例えば心理学や地理学などの場合、統計ソフトを使う、あるいはGISを使いこなすなど、それなりに身につけるべきスキルが思い浮かぶ。無論これらのソフトウェアも中国学でも利用できるものだが、中国学の分野としては身につけるべき優先順位はそれほど高くはない。

では、身につけるべき「理想の中国学的人文情報スキル」とは何か。このコラムではそれについて少し考えてみることにしたい。

■ 理想の中国学的人文情報スキル

初めは個別具体的なスキルを採り上げようかと考えたが、それはやめた。それは、情報スキルが時代と共に変わってくるものであることと、『電腦中国学入門』+本誌の特集やレビューで紹介しているスキルやWebサイトを使える」と、理想のスキルを簡単に言えてしまえるのが理由である。

そこでここでは、もう少し長い時間軸でも有効な、多少概念的な内容を採り上げることにした。それは、「問題の切り分けと適切なスキルの選択」・「複数の情報を比較する」・「アナログとデジタルのスキルを融合する」の3点である。

● 問題の切り分けと適切なスキルの選択

一つ目は、「IMEで変換できない文字を入力するにはどうしたらよいか？」といった、個別具体的な問題を解決できるかどうかという部分である。

要は「問題が発生」→「それを解決するために問題を切り分け」→「切り分けた内容を解決する手段を知る」→「手段に従って問題を解決」という一連の手順ができるか否かである。

これについては、問題を解決するためのソフト

コラム

ウェアや各種 Web サービスを知っていて、それを適切に利用できるのであれば問題無いが、「問題を解決するためには、何で調べればよいか」を知っているだけでも構わない。極端に言えば、「手元にある『電腦中国学入門』を調べ物の最初に関連する習慣がある」だけでも構わない。後は、それを繰り返して実際のスキルを身につければよいのだ。

●比較検討という視座

研究を行う上で、複数の資料を比較してより客観的に物事の分析を行う手法がよく使われる。それはネットの情報でも同じである。むしろネットは「自分が見たいものしか見ない」傾向が強くなるため、意識的に複数の情報を比較すべきである。

例えば、ネットの情報検索の感覚として、調べ物→ネットで検索（往々にして Wikipedia や検索結果の上から 3 つ目までしかクリックしない）のレベルで止まってしまうことが多い。少なくともそれを改めよう。

例えば複数のサーチエンジンを使う。検索結果も 2～3 ページ先まで確認する。それだけでも得られる情報が多くなる。Wikipedia の場合でも、既存の紙の百科辞典や他の情報との比較検討をすることは当然だし、Wikipedia の日本語以外の他言語版や中国語（やそれ以外の言語）のネット百科辞典の同一・関連項目などと比較する、さらには Wikipedia の同一項目の編集履歴を追いかけるだけでも、情報の量と質を大幅に高めることができるはずだ（本誌 p.11 の小川氏論考を参照されたし）。

●デジタルとアナログの融合

実は一番身につけて欲しいのがこれである。特に調べ物について、デジタルだけ、アナログだけで止まらない、両者を車の両輪の如く使いこなして欲しいのだ。

例えば、古典系中国学の学生だと日常的にお世話になるはずの漢和辞典。昨今は学生が電子辞書を使うのは珍しくないが、デジタル化された漢和辞典の選択肢は実は少ない。『大漢和辞典』はもと

より、ハンディタイプの従来の定番である角川『新字源』や最近の定番となりつつある三省堂の『全訳漢辞海』は、未だ紙の書籍版しかないのだ（大学院生レベルでは、『漢語大詞典』を使いこなして欲しいが、当該品の DVD-ROM 版は紙版の語彙の全てが収録されているわけではない）。加えて東洋学学専門の辞典もデジタル化されてはいない。

また、調べ物にしても例えば書籍を探す際、OPAC を駆使して所蔵先を調べ、大学図書館経由で図書の取り寄せを御願ひする以外にも、Google ブックスや国会図書館を初めとするデジタルライブラリーで画像データを探す、という手段も今後は積極的に使うべきだろう。論文探しも同様である。

この分野の情報化は、中国や台湾が遙かに進んでいる。従って、アナログだけではもはや研究は完結し得ないが、かといってアナログ的な手法も使えないと研究が深化することはない。そのため冒頭の発言に戻るが、アナログとデジタル両方のスキルを使いこなすことが肝要となる。

■おわりに

ここまで、思いつくままに書き連ねてきた。翻って、自分自身がその理想をどこまで体現できると問い直すと、所々怪しいところもある。

実際、自分の専門領域の外になると、『電腦中国学入門』編集時に始めて知った Web サイトも多いし、筆者が編集長を勤めている本誌でも、毎号の編集作業を行う過程で勉強になることが多い。

IT 関係の情報更新の速度は尋常ではないので、追いかけるのも大変であるし、その世界が広がっている現状、特に SNS や携帯サイトを中心として教員と受講生の間に、情報スキルのずれが相当のレベルで存在するようにも思う。

しかし、専門分野の教員を名乗っている以上、そこから逃げるのもしゃくである。先導にはなれないのかもしれないが、振り落とされないよう、できうる限り追いかけて行くべく、努力を重ねたい。『大学』の「日に新たに」ではないが、学び続けることが大事なのだと信じて。

デジタル書籍・ 著作権に関する最新動向 —— これからの東アジアにおけ るデジタル文化のために ——

本会における著作権関係イベントも今回で 10 回目を迎えた。

最初のイベントが 2003 年なので足掛け 10 年続いたことになる。第 1 回目のイベントは懐かしくも、はや昔日の感すらある。

この 10 年間、我々は法学という東洋学とは全く別の分野の学問と対峙してきた。それはひとえに、東洋学のデジタル化のために必要に迫られたからと言っても過言ではない。しかし外国語と同じで、切羽詰まってやらされたものは逆に実になるのである（と信じたい）。これを本会としてどう結実させるか、現在思案しているところである。

今回は 3 年ぶりに改正された著作権改正のポイント解説、フランスにおけるデジタル書籍の価格規制について発表、討論がなされた。

本記事は、当日の内容を参加者の目線でまとめたものである。東洋学の電子化を標榜する本会のシンポジウムに、なぜフランスの話題が盛り込まれたのか、そのあたりも含め是非一読いただきたい。

※本シンポジウムは当会と科学研究費補助金・基盤研究(B)「情報化時代における中国学次世代研究基盤の確立」(研究課題番号:23320010、代表者:二階堂善弘)との共催、関西大学アジア文化研究センター(CSAC)の協賛で開催された。

※漢情研公開シンポジウムの日程・会場等の詳細については、彙報(P.220)を参照していただきたい。

Contents

2012 年公開シンポジウム報告「デジタル書籍・著作権に関する最新動向 —— これからの東アジアにおけるデジタル文化のために ——」参加レポート

.....設楽 舞... 148

2012年公開シンポジウム報告

「デジタル書籍・著作権に関する最新動向

——これからの東アジアにおけるデジタル文化のために——」

参加レポート

設楽 舞（したら まい）

◇ はじめに

本稿では、2012年7月28日、関西大学において開催された漢字文献情報処理研究会2012年度夏期公開シンポジウム「デジタル書籍・著作権に関する最新動向——これからの東アジアにおけるデジタル文化のために——」の簡単な報告をしたい。

このシンポジウムでは、まず小島浩之氏（東京大学講師）による平成24年著作権法改正の概要についての報告があり、続いて石岡克俊氏（慶應義塾大学准教授）から「デジタル書籍と定価と文化」という題にて、フランスにおいて近年制定されたデジタル書籍の定価販売を後押しする法律がどのような文化・歴史背景で進められてきたのかについて講演があった。

ところで、漢字文献情報処理研究会における石岡氏の講演・報告・解説等は2003年から始まり今年で10回目に及ぶ。次に並べてみよう。

- 2003年夏期公開講座 東洋学情報化と著作権問題

- 2004年夏期公開講座 東洋学情報化と著作権問題Ⅱ
- 2005年夏期公開講座 東洋学研究と著作権問題
- 2006年夏期公開講座 国際化時代のデータベースとコンプライアンス
- 2007年夏期公開講座 “版面権”とは何か
- 2008年度公開講座 著作権侵害訴訟と裁判制度
- 2009年度公開討論会 著作権をめぐる最新動向——Googleブック検索と著作権法改正案（石岡氏は解説として参加）
- 2010年度公開シンポジウム 電子出版の動向と諸問題（石岡氏は報告者として参加）
- 2011年度夏期公開シンポジウム 電子書籍時代のプラットフォームとコンテンツ（石岡氏はパネリストとして参加）
- 2012年度夏期公開シンポジウム デジタル書籍・著作権に関する最新動向——これからの東アジアにおけるデジタル文化のために——

このような企画が長期間に渡って開催されるに

至ったのは、文献のデジタル化の進展を背景とした東洋学分野での法知識の必要性から、法律の専門家である石岡氏と会員との間での積極的な意見交換により、それぞれの講座や会が充実した内容となったからだと聞いている。

興味のある方は、本誌各号の報告を参照していただきたい。

本会代表の師茂樹氏（花園大学准教授）の当日の挨拶の中にも、法学についてそれぞれの会員が問題意識を持ちながら毎回学び続けてきたという発言があり、ここからもこれまでの企画の充実を思わせる。

既にここまで育んできた法学と東洋学との緊密な学術的交流を前に、法律に疎い筆者が初めてそれに参加しレポートを書くのはかなりのところ荷が重いと感ずる。

しかし、ここは敢えて無知を曝け出して、素人目に映った様子を読んでいただこうと覚悟した次第である。

筆者の本来の専門は日本文学と教育史であり、現在は大学資料室にて資料の調査・保存業務に従事している。

勤務先では様々な時代の資料を受け入れているものの、筆者が日常の中で法律、特に著作権法に抵触するか否かを判断するような場面はごく僅かである。痛んだ本を前に、専ら紙や綴じ糸の材質、最も適当だと言える糊の濃さについて悩むことの方が多し。

◆ 著作権法改正の概要

平成 21 年度以来 3 年が経過し、ようやく行われることとなった我が国の著作権法一部改正^[1]の概要について、主な改正点は次の通りである。

- ①いわゆる「写り込み」（付随対象著作物としての利用）等に係る規定の整備
- ②国立国会図書館による図書館資料の自動公衆送信に係る規定の整備
- ③公文書等の管理に関する法律等に基づく利用に係る規定の整備

④著作権等の技術的保護手段に係る規定の整備

⑤違法ダウンロード刑事罰化に係る規定の整備

小島氏による報告は文化庁による公開資料を基に進められた。

①は、これまで著作権者の許諾なく利用できる場合を公益性の確保の観点等から、教育・障がい者福祉・試験・報道という目的に限定していたところを、改正後は著作権者の利益を不当に害しない程度で、著作権者の許諾無く著作物を利用できる場合をある程度包括的に定めたものである。

ある程度包括的とは、具体的には次の 4 項目である。

- 付随的対象著作物としての利用（例えば、写真に偶然写ってしまったアニメキャラクター）
- 許諾を得るための検討等の過程に必要と認められる利用（社内会議の企画書といった承諾前の資料の作製等）
- 技術の開発又は実用化のための試験に用いるための利用（実験・検証のために撮影したビデオ画像等）
- 情報通信の技術を利用した情報提供を円滑かつ効率的に行うための準備に必要な情報処置を行う際の記録媒体への記録（サーバー内で行われるインターネット上の各種複製等）

②は、国立国会図書館が著作権者の許諾なく公共及び大学図書館を通じた利用者の求めに応じてインターネット送信を可能とし、更には一部複製を作ることが出来ることとしたもの。これまで現物で行われてきた図書館間の相互貸借が、デジタルデータのやりとりで済ませられるようになった。

③は、公文書館が移管を受けた公文書を永久保存するために権利者の許諾なく複製物を作成することとともに、国民の利用に応じるため権利者への許諾無しに著作物を公表・複製できる

こととしたものである。これにより利用者にとっては、公文書館での資料の複写が図書館での複写と同程度まで法的に裏付けられたことになる。

そして④は、これまで技術が先行したことで生じたコピーコントロールという新たな問題について調整を加えたもの。

⑤は違法ダウンロードに関して、これまで認められていた私的使用目的についても親告罪ではあるが刑罰の対象としたことである。

このような改正の背景には社会におけるデジタル化・ネットワーク化が進んだことが挙げられる。また、シンポジウム当日も複数から指摘があったように、巨額の予算とともに進められた近年の国立国会図書館におけるデジタルアーカイブの取り組みをバックアップする側面があったのも事実であろう。

一方で、国立国会図書館や公文書館が、利用・公開機関であると同時に保存機関でもあり、そのための最低限の措置として保存のための複製が合法的に認められ、学術資料や公文書の利用を促進することとなったことは歓迎すべきことである。

小島氏は、著作権法に係る課題は山積していると指摘する。にもかかわらず、前回と今改正との間に3年もの間隔が開いた理由として、一つに政権交代で多くの法改正審議がストップしてしまったこと、そして二つめには日本版フェアユースが検討されるに当たり議論が紛糾、長期化したことを特に列挙した。

ネットユーザー間の話題では違法ダウンロードにおける刑事罰化ばかりがクローズアップされているものの、実際のところ、文化審議会においては、フェアユースをめぐる議論にこそ時間が費やされたのである。

事実、違法ダウンロード問題は国会審議の過程において、野党議員からの提案で突如盛り込まれたもので、文化審議会でも時間をかけて議論した結果ではなかったのである。

◆ 日本版フェアユース

フェアユース^[2]とは、端的に言えば、公正な

利用であれば著作権侵害に当たらないという考え方である。そして、その「公正な利用」が何を意味するのかについては、最終的に司法にその判断を委ねることとなる。

慣習法・判例法が主流である米国著作権法に規定されたこの考えが、大陸法の流れを汲む成文主義を中心とした日本の著作権法に、どこまで馴染むのであろうか。今回の改正で文化審議会でのこのフェアユース議論がある程度反映されたとすれば、それは先に挙げた改正点の①にあたる。

しかし、小島氏によって今改正が（本来あるべきフェアユース的な要素を）「骨抜き」にしてしまったと評されたように、実際にはフェアユース導入を期待する人々にとっては、時間を費やしてきたこれまでの議論が十分に反映されたとはとても言えなかった。

結局、写真に偶然「写り込」んでしまったミッキーマウスを自分のブログにアップしたとしても著作権侵害には当たらないのだ、とわざわざ説明出来るように、日本版フェアユースは現行法の曖昧だった部分を殊更に成文化したものへと変質してしまったわけである。

◆ 著作権法の目的とは

フェアユースというキーワードに注目して今改正を見ていると、何故だろうか、権利者の権利擁護を締め付けと見え、そこからどうやって我々利用者の權益を拡大させていくかという、いささか利用者寄りの視点で法律を見てしまう。

このような偏りから離れるためにも、ここで筆者を納得させた石岡氏のコメントに触れたい。

石岡氏は小島報告後のコメントにおいて、まず著作権法の目的は文化の発展に寄与すること、そして、この目的のために行われる方法は二つであると解説した。

一方では著作者の権利保護を目的として利用に制限を加えることと、そして他方では公正な利用促進のために著作者の権利に制限を加えること。これら双方によってうまくバランスを取ることで、著作権法は文化の発展に寄与することができる。

社会の進展によって変化しながら、文化の発展という目的に沿うように更に改正を繰り返す、つかみ所の無い著作権法のこの性質を目の当りにすると、当然ながら複雑な現実がまず存在し、次にその世の中を一方に偏らないよう整備するために法律があるという本来の姿に気づかされるのである。

つまり、この視点で5つの改正点を整理し直すと、①・④は現行法が現在の社会に合うように整備したもの、②・③では利用促進のために著作権者の権利に制限を加え、⑤にいたっては著作権者の権利保護を目的として利用に制限を加えたこととなる。物足りなく感じたフェアユースの課題もまた、今後の整備如何と言えるだろう。

さて、小島報告の後に行われた質疑応答では、著作権に係るそれぞれの身の周りでの疑問がここぞとばかり飛び交い、他の来場者も同じ問題に頭を悩ませ意見を出していた様子が印象に残っている。これが長きに培われてきた本会による学術交流の姿なのであろう。

中でも、「書きこみがある図書のデジタル化を検討しているがこれは著作物に当たるのか否か」という質問がなされ、このやり取りを特に興味深く思い起こしている。筆者もこの質問にあるような書き入れ本の保存に加わった経緯があるからだ。

この問いに対して小島氏からは書誌学的な側面からの指摘、つまり単なるメモ書きを“書きこみ”と称し、それ相当の学識者による思想的記述の場合は“書き入れ”と呼ぶ¹³⁾という前提で、その図書に施されたのを“書き入れ”と考えるならばその図書は著作物とみなされる可能性がある、と言及がなされた。

また、石岡氏は著作権の保護期間に触れ、著作権者の死後50年が経過していない場合は書き入れの公表が著作人格権中の公表権に抵触する恐れがあることを指摘した。

本件で筆者が抱いた疑問は、著作者から既に譲渡された著作物である書き入れ本の公開又は非公開に当たり、著作権者の意図と「文化の発展に寄与」という著作権法の目的が相容れないこともあるのではないかということである。

そして、著作者と著作権者が異なる場合や、所

有権者という著作権法とは別の法規に基づく権利者の存在があり、公開に対するそれぞれの思惑が相反したならば、「文化の発展に寄与」という著作権法の目的との間にも、幾重もの相違があることになる。このような複雑な権利関係は、何を以て解決できるのだろうか。

かつて2004年に開催された夏期公開講座「東洋学情報化と著作権問題Ⅱ」の報告¹⁴⁾の中で小島氏は時に著作権法を包括する存在でもある民法の重要性に触れつつ次のように述べている。

そもそも著作権法も、民法の規定する無対物に関する特別法（こういった言葉は正しいかどうか解らないが）に値するものではないか。所有権、契約など様々な民法上の問題を理解して、はじめて著作権問題と向き合えるのかもしれない。

もしそうならば、筆者がこの疑問を解決するためには、もう一度、本会講座の最初にもどって、民法を含めた各種権利義務関係の整理から始めなければならぬことがよく解った。同時に、本会講座の最初が民法上の所有権と著作権の相違から始められていたことは、法学の専門家である石岡氏のアドバイスがあったであろうとはいえ、誠に慧眼であった。

◇ デジタル書籍と定価と文化

シンポジウム後半では、石岡氏から、2011年5月に定価販売を後押しする目的で制定されたフランスの「デジタル書籍の価格に関する法律」¹⁵⁾（石岡氏配布された講演メモより）の報告と同時に、欧州文化・歴史との関連について講演がなされた。

今回はこれまでとは異なり話題の中心は欧州である。しかし、以下に述べるようにフランスのこの政策は決して現在の日本やアジア諸国とも無関係ではないのである。

講演では、書籍再販売価格維持制度（以下、再販制度）を保持する日本との違いに触れられた。

再販制度とは商品の価格を販売元（書籍であれば出版社）が決定し、各小売店にその価格での販売を遵守させる制度のことである。日本では1953年の独占禁止法改正と同時に、著作物の再販制度を認めている¹⁶⁾。

一般的に独占禁止法の規定上、再販の対象となるのはモノである。デジタル書籍はモノではなく情報であり、日本において再販制度の対象とはなりえない。

よって、今回フランスが印刷物の書籍の再販制度（ラング法¹⁷⁾）に加えて、更にデジタル書籍についても価格規制を行うことを決定したことは、日本の制度と比較して大変興味深い。話題の中心は欧州ではあるものの、その内容は東洋にも深く関係するのである。

石岡氏による講演の要点は次の通りであった。

- ラング法は、国民があらゆる場所で均一の価格で書籍を購入できるという国民の平等を謳っている。
- ラング法は、国民の平等と同時に、販売網の維持と書籍の創作・出版の多様性の保持を意図し、一定の成果と共に国民の信頼をも受けている。
- ラング法以後、急速に進展する音楽配信市場の規制に後れをとったフランス政府は、その価格支配獲得において失敗をした。
- 音楽配信市場の価格支配獲得の失敗によって、市場には音楽以外の他企業が参入し、その結果「おとり販売」¹⁸⁾といった弊害も生まれ、フランスの音楽市場の質を大きく低下させることとなった。
- ラング法の一定の成功と音楽配信市場における失敗とを教訓としたフランス政府は、この度、デジタル書籍の価格規制を行うことを決定した。
- このデジタル書籍の価格規制制度はフランス国内向けに販売を行う外国の小売業者をも対象とし、EU法抵触の可能性が指摘されている。

デジタル書籍という新しい文化維持のために、フランスは、ラング法の肯定的評価とその成果をデジタル書籍市場においても実現したいと考えた。具体的には、ラング法の目的（書籍による国民の平等・販売網の維持・創作と出版の多様性）を実現しようとしていたと思われる。

また、音楽市場において広まった「おとり販売」を懸念し、デジタル書籍の価格決定権をAmazonやApple、そしてGoogleといった外国のプラットフォーム企業ではなく、デジタル書籍の発行者（出版社）に付与しようとした。このように、フランスは、書籍・音楽といった両市場で学んだ教訓をもとに、デジタル書籍の価格規制に踏み切ったと言えるよう。

これらを踏まえて、会場では、日本においてもデジタル書籍の価格規制は可能であろうかという検討がなされた。

結論から言えば、日本で同様の施策を実施するのは困難であろうというのが石岡氏の見解である。

なぜならば、現行の再販制度をみても、日本が、フランスのように、国民の信頼を得て文化の成立維持に寄与しているとは言えないからだ。

日本の出版関係者がデジタル書籍への再販制度を望んでいるのは、文化維持よりも流通時におけるマージンの確保である。ラング法に学ぶ「あらゆる場所で均一の価格で購入できること」という平等の観念は日本にとっては建前でしかない。

更に、難解な文芸作品や専門書の創作・出版を通して文化の多様性を維持する姿勢についても、果たして日本がフランスほど重きを置いているとは思えないだろう。

このように、両国の文化維持に対する温度差はかなり異なっており、一見似通って見える日本とフランスの違いは明らかである。ここに石岡氏がこの題材を選んだ意図もあるのだろう。

今後、フランスとは異なる日本に相応しい課題が明らかにされ、その解決の手法が見えてくることに、期待していきたい。

◇ おわりに

シンポジウム後に当日の内容を整理し、何とか本稿をまとめているところで、今回の企画が特に2010年公開講座「電子出版の動向と諸問題」での報告を踏まえて進められていることを知った。

本稿は今回の企画に限ってまとめているが、昨年までの報告を併せて読むことで、フランスのデジタル書籍における価格規制の法案を取り上げた石岡氏の主張が改めてはっきり見えてくることも付け加えたい。

また、本来ならば、シンポジウム報告として全体を網羅して紹介すべきところ、自分の興味関心のおもむくままに筆を走らせてしまっている、この点はどうかご容赦いただきたい。

最後に、普段痛んだ本ばかりに気を揉んでいた筆者が、ふとしたきっかけでこのような報告を書く機会を与えられたこと、そして身の周りにある複雑な現実を目を向けるきっかけを得たことに感謝をしている。

なお、このシンポジウムは科学研究費補助金・基盤研究(B)「情報化時代における中国学次世代デジタル研究基盤の確立」(代表者 二階堂善弘氏(関西大学教授))との共催、そして関西大学アジア文化研究センター(CSAC)との協賛となっており、当日は大変よい環境の会場で講演を聞くことが出来た。

末筆ながら、主催・共催・協賛の各位に謝意を述べて擱筆する。

注

- [1] 改正の詳細は、文化庁ホームページより「平成24年通常国会 著作権法改正等について」を参照のこと。
<http://www.bunka.go.jp/chosakuken/24_houkaisei.html> (2012年8月20日参照)
- [2] 「Fair use doctrine (公正使用の理論)、著作権の排他性を制限するため、著作権のある著作物の無許諾使用を、一定の条件のもとに適法とするアメリカにおいて判例法上確立された理論」(『英米法辞典』,1991.5,東京大学出版会) p.331
- [3] 「日本の書誌学で、ころごしの無いメモ書きは本を汚すだけで、「書き込み」と称し、学ある注記の「書き入れ」と区別するものだ」(高橋智『書誌学のすすめ:中国の愛書文化に学ぶ』2010.9,東方書店) p.69
- [4] 小島浩之「法理論と実務の狭間「東洋学情報化と著作権問題II」から」(『漢字文献情報処理研究』5,2004.10,好文出版)
- [5] Loi n° 2011-590 du 26 mai 2011 relative au prix du livre numérique (デジタル書籍の価格に関する2011年5月26日の法律第2011-590号)、当法律について以下の論文および抄録を参考とした。
服部有希「フランスにおける電子書籍の価格規制——電子書籍と再販制度について——」(『外国の立法』252,2012.6,国立国会図書館) <http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_3497224_po_02520011.pdf?contentNo=1> (2012年8月20日参照)
- [6] 公正取引委員会ホームページの質問コーナーには独占禁止法と再販制度についての関係について説明がされている。<<http://www.jftc.go.jp/dk/qa/index.html#Q14>> (2012年8月20日参照)
「Q13. メーカーが、販売店の販売価格を指定し、守らない場合に取引を停止することは、独占禁止法に違反しますか。また、新聞や書籍などは定価販売されていますが、これは独占禁止法上問題にならないのですか。
A. 小売業者等に自社商品の販売価格を指示し、これを守らせることを再販売価格維持行為といえます。再販売価格維持行為は、競争手段の重要な要素である価格を拘束するため、原則として禁止されています。また、指定した価格で販売させるために、これに従わない小売業者に経済上の不利益を課したり、出荷を停止することも禁じられています。ただし、著作物(書籍、雑誌、新聞、音楽用CD、音楽テープ及びレコード盤の6品目)については、例外的に独占禁止法の適用が除外されています。これを著作物再販適用除外制度といえます。」
- [7] Loi n° 81-766 du 10 août 1981 relative au prix du livre (書籍の価格に関する1981年8月10日の法律第81-766号)、この法は当時整備した文化大臣(ジャック・ラング)の名を受けてラング法と呼ばれる。
- [8] おとり販売とは、顧客誘引を目的として、通常よりも安く商品を販売し、実際には、商品とは関係のないサ

ービス販売から得る収入（例えば広告収入）で利益を出すという戦略のこと。（以上、前述に引用した服部

有希氏の解釈を参考とした）

『法学と東洋学の対話』（仮）の出版にむけてのお願い

小島 浩之（こじま ひろゆき）

本会執行部を中心メンバーとする科学研究費補助金（「情報化時代における中国学次世代研究基盤の確立」（研究課題番号：23320010、代表：二階堂善弘））による研究班では、2013年度にむけて『法学と東洋学の対話』（仮）の出版準備を進めている。この経緯については本誌前号（第12号）特集2の拙稿で概述したが、現在は目次案など具体的な内容の検討に入っている。

この本は単なる人文系のための法律解説書ではなく、書名案にあるように「対話」を重視した内容にしたいと考えている。このため主たる構成を、東洋学の側から法学者に対して多くの事例を示しつつ、その法学的な考え方を探る形式にするつもりである。

例えば本会でこれまで取り扱ってきたような、著作権と版面権、校訂の法的位置付け、書体・デザイン・フォントと著作権、電子出版と電子書籍などがトピックとなろう。また具体的に学習・研究を進める上で我々はどんな法令に注意すべきなのかについても、個別事例から考えてみようと思っている。

そこでこの紙面を借りて、会員諸氏に情報の提供をお願いしたい。具体的には東洋学（もう少し広く人文科学でも可）の研究において、法令との関係で困った事例や、迷った事例、もしくは疑問点など、BBSや本会事務局宛のメールでお寄せいただきたい。なお事例として採り上げる場合は、情報源が特定されないよう細心の注意を払うので、安心して情報をお寄せいただきたい。



実践レポート

クラウド時代にふさわしい、新しい学びの形は、どうあるべきだろうか。かつて中国語の授業は、「まだ見ぬ異国への興味関心」によって、単調な反復練習への動機付けを、かろうじて支える「苦行」であった。その後「いつか必ず仕事の役に立つ」という道具的な外国語観が、興味関心にとって代わった。どちらも幻想にすぎない、と看破してしまったネット時代の教師や学生は何を求めて教え、学べばよいのか。おそらく中国語そのもの、学習そのものをもっと丁寧に味わうこと、すなわちラーナー・エクスペリエンスを豊かにすることでしか活路は開けないのではないか。そんな「ICT とともにあるほかない教師／学生の不幸」を乗り越えるためのヒントがここにある。

日本中国語 CAI 研究会について

日本中国語 CAI 研究会は、2007 年をもって研究会活動を休止した。本コーナーも、研究会の編集協力ではなく、有志の企画となる。なお、情報交換のためのメーリングリストは引き続き運用しているので、興味のある方は世話役:田邊 (ttanabe@ec.hokudai.ac.jp) まで連絡してほしい。

Contents

iTunes U による講義の発信と受講	氷野 善寛	156
ウェブカメラで学ぶ中国語発音入門		
— 効果的な自習のために、授業の発音模範として —	郭 修静	164
ゲームもできる音声付き単語カードを無料で作る — Quizlet の使い方 —		
	清原 文代	169
中国語でクローズテストを作ってみる	山崎 直樹	176

iTunes U による 講義の発信と受講

氷野 善寛 (ひの よしひろ)

❖ はじめに

筆者は 2006 年から中国語会話動画「Chinese Station」シリーズの制作及び配信を行っている。この動画は当初ポッドキャスト番組として配信し、その後 YouTube、Flash など様々な媒体を利用して配信してきた。2012 年から、この動画を関西大学の iTunes U のページから公開することになった。そこで本稿では、その公開過程から知った iTunes U の現状や利用方法、配信されている中国語関係の講義などについて解説したい。

❖ iTunes U とは

iTunes U は Apple 社から提供されている大学

図 1 : iTunes U のページ (関西大学)



の講義を配信、視聴するためのプラットフォームである。ユーザーは iTunes がインストールされているコンピュータもしくは iTunes U アプリがインストールされている iPhone や iPad を利用することで、文字通り大学で行われている講義を「受講」することができる。これらの端末を通して講義の様子を映した映像を視聴ことができ、同時にテキストや画像などの講義に関連する資料を閲覧し、レポートの提出を行うこともできる。このようにコンピュータ、iPhone、iPad など様々な端末に対応している iTunes U は学びのスタイルを大きく変える可能性を秘めている。さらに今年の 1 月に登場した iOS 版のアプリからは動画や音声だけではなく、ePub 形式のファイルなど講義に関する様々な資料などパッケージ化されたものをまとめて利用することができるようになるなど、常に進化を続けている。アメリカから発信されたこの iTunes U は多くの有名大学の講義を取り込み 2010 年には日本の大学も参加を表明することになった。最初に東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学、明治大学が講義の配信をはじめ、続いて関西大学など数校が参加を表明した。

❖ 日本の大学における iTunes U の利用状況

現在 iTunes U では、講義を配信する際、「コレクション」と「コース」という 2 種類の配信

形式を選択することができ、ユーザーはそれぞれの形式で受講することができる。「コレクション」は一つのトピックやコンセプトに焦点を当てたオーディオ、ビデオ、PDF、ePub ファイルをまとめたものである。たとえば「中国語会話」という多数のビデオや付随する資料をまとめて配信するにはこの形式が利用しやすい。受講者としては同一トピックにまとめられたコンテンツ群から特に順序を気にせず、好きな順番に視聴することができる。そのため受講者はコレクションを利用することであるトピックに関するコンテンツを集中的に学習することができる。一方、「コース」はこれらのコンテンツを講義単位で構築したものである。そのためコースでは講義の担当教員がおり、受講に必要な目標受講期間の設定や各回のアウトラインや各回ごとにまとめられた資料などが提示され、さながら大学講義のシラバスと実際の講義受講時に利用される LMS を併せ持ったような機能を有している。そのためコースを受講することで設定された目標期間内に大学の講義さながら、回数ごとに設定された動画、資料を閲覧しながら理解を深めていくことができるのである。

日本の大学では上述の通り、東京大学、慶応義塾大学、関西大学など数校の参加が見られ講義コンテンツの配信を行っている。ただし 2012 年 7 月現在コース形式の講義の配信を行っているのは東京大学のみで、それ以外の大学ではいずれもコレクション形式による配信のみ行われている。またアメリカの大学の多くは長時間の大学の講義を配信しているのが、日本の大学のほとんどが、公開講座など大学外に向けに行われた講義の配信や、時間的に短い講義、大学の広報ビデオの配信を行っているなど、本来の iTunes U のコンセプトから少し離れた利用方法をしている大学が多いように思われる。これは現状では配信コンテンツについては明確なガイドラインが無く、各大学の判断に委ねられているためこのような状況が生み出されていると考えられる。ただし自由度が高い分、シンポジウムの配信や学生インタビューの配信などアメリカの大学では配信されないようなコンテンツを見ることができる。

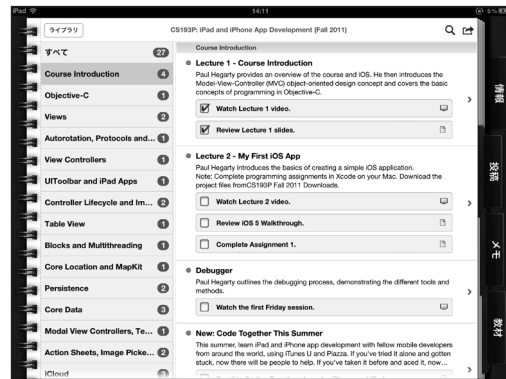


図 2 : iPad アプリ版の「受講」画面

ちなみにどういった番組がよく受講されているかと言うと、全体としては、長期間にわたってスタンフォード大学の iPhone アプリの作成講義「iPad and iPhone App Development」やハーバード大学の Michael J.Sandel 教授の講義などが人気を博しているが、英語をはじめとした語学系コンテンツが多くランキングの上位に上がってきていることが分かる。また中国語のコンテンツも少量であるが見られる。ちなみに関西大学で現在配信されている中国語会話はコレクションランキングの 3 位～10 位前後の位置を推移しているが、この位置で一日におおよそ 500～1000 件程度のダウンロード数が記録されている。ただ残念ながら実際にどういう人が利用しているか、ユニークユーザーが何人いるのかといったユーザーに関する詳細情報については開示されていないためユー

図 3 : YouTube のアクセス解析画面

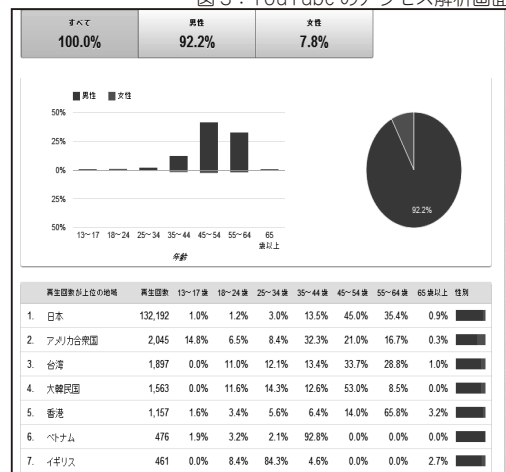




図 4 : iTunes U Course Manager の画面

ザーごとの細かい利用状況については全く不明である。一方、同じ中国語会話の動画コンテンツを動画配信サイト YouTube にも掲載しているが、こちらについては細かい情報を取得することができ、掲載している動画がどういった年齢層、性別、地域のユーザーが利用しているかという点について確認することができる。iTunes U でもこういった情報の提供が望まれる。ちなみに、iTunes U で公開している同動画の YouTube での視聴者は男性が 9 割を占め、年齢層も 35 歳以上が 9 割以上を占めており、本来のターゲットである大学生はあまり視聴していないことが判明している。このことからどういったユーザーをターゲットに講義の配信をする必要があるのか、また目標ターゲットに視聴させるにはどのような工夫が必要なのかという点について iTunes U を利用する際には考えておく必要があるとそう。

❖ iTunes U の配信方法

次に iTunes U の配信方法について見ていく。iTunes U への参加は大学単位で申請を行う。申

図 5 : 教材管理画面



請した後から配信に至るまでの期間、個別に準備すべき機材は特に無い。ネットにつながるコンピュータが一台あればすぐに配信することが可能である。ただし動画を編集したり教材を作成したりするために一般的なソフトウェアは必要であるが、特にこれを使わなければいけないといったような条件は無い。ただし、現在と昔とでは異なる可能性もあるが、2010 年の時点では、参加条件として初期公開時にある一定の数のコンテンツの準備が必要であった。この一定数については時間の合計ではなく、あくまでコンテンツの数であるため、90 分の講義動画でも 1 分の会話動画でも同等に扱われる。

なお、配信するための動画や教材については iTunes U では各コンテンツにアクセスするためのパスを提供するだけでコンテンツ自体を iTunes U のサーバーなどに置くことはできないので、自前でウェブサーバーを用意するか、レンタルサーバーなどを利用してコンテンツをアップロードする場所を準備する必要がある。関西大学では以前 Podcasting を配信していたことがあり、その際設置した Podcasting 配信用サーバーをコンテンツのアップロード先として利用している。実際に配信をする際には、動画ファイルが多くを占めるため一つ一つのファイルのサイズが非常に大きいものになる。そのためハードディスクの容量や通信速度はできるだけ確保しておきたいところである。

iTunes U の配信に際しては、管理者^[1]が全てのコンテンツの公開権限や登録権限を持ち、基本的にはコレクションの登録は管理者が行う。コースについては、担当する教員が自らアウトラインを書いたり、教材を配置したりと、細かい調整を行う必要があるため、管理者は公開作業のみを行い、コースの編集は教員が行う。そのため管理者は教員に対して「iTunes U Course Manager」という iTunes U 管理用のウェブサイトへアクセスするためのユーザー権限を付与することができる。

この際利用される ID については、Apple ID を利用するため、事前に Apple ID を取得する必要がある。この付与されたユーザー権限ではコース

の管理ができ、自ら講義を文字通りデザインすることができる。

ここからこの iTunes U Course Manager の使い方を説明する。ここでは教員のプロフィールのほか、教材リストとコースを作成することができる。教材リストにはコースで利用する教材を一元的に管理する。登録できる教材の種類はオーディオ、ビデオ、ブック、書類、APP、イメージ、WEBリンクの8種類である。教材を追加するには自分のコンピュータからファイルを直接アップロードして追加する方法、iTunes Store の各コンテンツのリンクを取得して入力する方法、WEBアドレスを直接入力する方法などがある。そのため自分のホームページ上に資料をアップロードしておき、そのページに対してリンクを貼ることもできる。この方法を利用することで資料の内容をリアルタイムに変更することや、講義のフィードバック用のページを iTunes U の外に設け、フィードバックを得ることも可能である。次に実際にコースを作ってみる。Course Manager のトップにある「新規コースの作成をクリックし、コースに必要な項目を入力していく。新規コースの設定画面ではコース名やコースの提供機関、カテゴリ、配信言語やコース全般の概要などコースの基本情報を入力することができる。またコースの種類では「セルフベース」形式の講義なのか、それとも「インセプション」形式の講義なのかを選択することができる。前者は、受講者は好きな時に受講の開始、完了を選択することができ、教員はこのコースの受講の目安となる期間を指定するだけで良い。後者はリアルタイムに講義が進行し、カレンダーに沿って課題の提示や教材の提示が行われていく。最後にライセンスに関する選択があり、Creative Commons に基づいたライセンスを選択提示することができる。ここまですべて保存すると図4のような画面になり Course Manager のトップページにコースが表示される。この段階ではまだコースの概要を登録しただけで、中身は空の状態である。コース名をクリックし詳細画面を表示すると、情報、投稿、教材の3つの情報を登録できる画面が表示される。順番に見ていくと、情報では、コー

図 6：新規コースの設定

ス概要、講師、アウトラインの登録ができる。コース概要はコース作成時に登録した情報が表示されており、さらに講師にはこのコースを担当する講師の情報を入力することができる。アウトラインには講義のアウトラインを「第1回○○」、「第2回○○」という箇条書きの形式で入力していく。ここに入力される内容がそのまま講義の詳細でトピックとして利用されるので、正確に入力する必要がある。

「情報」で入力する内容についてはこれで全て終わりだが、ページを追加できるため、この3つの基本ページ以外にも自由記述形式でページの追加が可能である。次に「投稿」に切り替えて、先ほどのアウトラインに基づいて各回の講義の詳細を記述したり、教材の提示を行う。

図 7：アウトライン

中国語基礎講座		情報	投稿	教材
概要	1. 中国語の概要			
情報	2. 中国語の発音			
アウトライン	3. 中国語の単語			
	4. 中国語の文法			
	5. 基礎会話			
	6.			



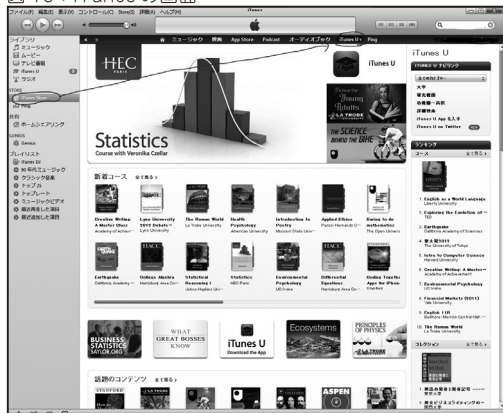
図8：講義の詳細登録画面



図9：「投稿」画面の「メッセージ」と「課題」

先ほどアウトラインで箇条書きした項目は、ここではトピックという名称で表示され、講義の詳細や課題の提示は「投稿」という形式で行うこと

図10：iTunesの画面



になる。編集したいトピックを選択し、「投稿」の追加を行う。一つのトピックに対して複数の投稿を行うことができ、それぞれに「メッセージ」と「課題」を添付することができる。

一通りのコースのデザインが完成したら管理者に連絡して公開を待つ。これは最終的な公開作業自体は管理者しか権限を持たないためである。ただし管理者による公開作業が終了すると、即端末を通して利用可能な状態になるわけではなく、管理者の公開設定から実際に端末で表示できるようになるまでにはおおよそ一日程度の時間がかかる。このように iTunes U の公開用の仕組みというのは非常にシンプルで洗練されており、特に説明書が無くても簡単に講義を配信することができる。また独自にアップロード用のサーバーを持たないことも Podcast と仕組みが共通しており、実際に作業した感想としては Podcast と異なり XML ファイルを自分で書かなくて良い分非常に直観的で作業がしやすかったように感じられた。

❖ iTunes U の利用方法

iTunes U はコンピュータ、iPhone、iPad で視聴することができる。コンピュータでは Apple から無償で提供されている iTunes^[2] を利用することで視聴することができるが、ここでは iPad の専用アプリである iTunes U での利用方法を解説したい。何より一つの講座全体をこの一つのアプリで全て視聴できるところが便利である。

ここではスタンフォード大学の講義「iPad and iPhone App Development」を例にしながら確認していきたい。アプリを起動すると「カタログ」が表示される。ここでは「おすすめ」「ランキング」「カテゴリ」という画面が表示され、それぞれの画面から「コース」と「コレクション」を確認することができる。

気になる講義があれば名前をクリックすると講義の詳細が表示される。ランキングタブに切り替え「トップコース」に掲載されているコンテンツを1ページか2ページめくると「iPad and iPhone App Development」という講座が表示さ

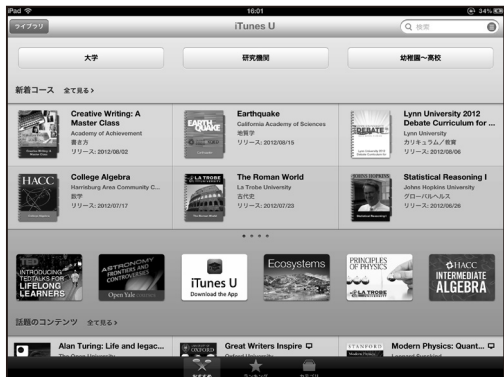


図 11 : iTunes U の画面

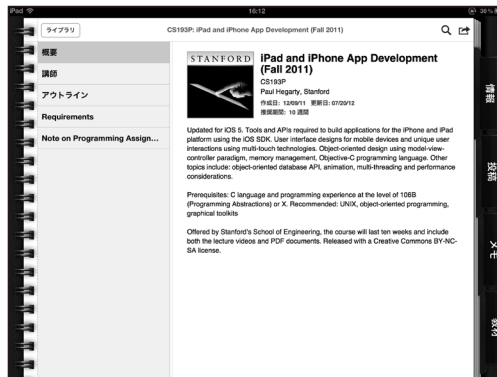


図 13 : ライブラリから購読した講義を開く



図 12 : 講義の詳細画面

れるので、クリックすると、講義の詳細、コースアウトライン、評価が一つになった画面が表示される(図 12)。さらに「題材」と書かれたボタンを押すとその講義に登録されている「投稿」や「教材」の一覧を見ることができ、ここで試聴することができるが、正式な受講には講義画像の隣にある「購読」というボタンをクリックする必要がある。「購読」すると、コースが「ライブラリ」に登録され先ほど iTunes U Course Manager で入力した画面と同じ構成の画面で見ることができる(図 13)。実際に学習するには左の端にある「投稿」タブをクリックし、順に講義映像の視聴、資料の確認などを行っていく(図 2)。この画面では見終わった動画や資料などをチェックするボタンがついており、一目で自分がどこまで進んでいるかを確認することができる。

基本的にはこの画面を通じて順番に従って映像、資料を閲覧していくわけだが、それ以外に「メモ」



図 14 : 講義の進捗チェック

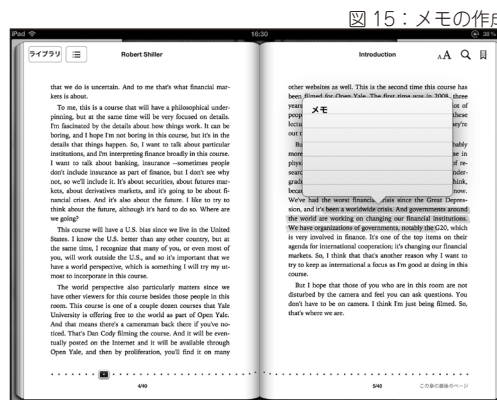


図 15 : メモの作成

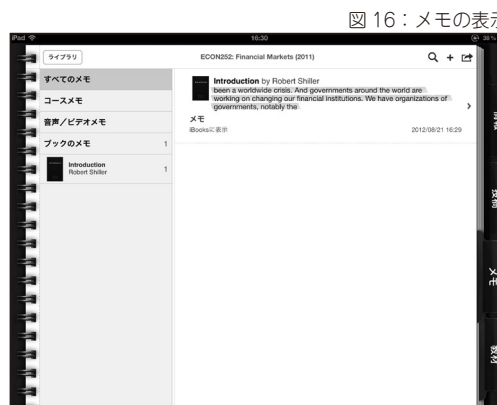


図 16 : メモの表示



図 17：徹底学習中国語会話 ChineseStation3

機能というがあるので最後に紹介しておく。このメモ機能では、コース全体に対するメモをつけたり、配布資料にメモをつけたりすることができる。たとえば ePub 形式の資料が付いている場合は、図 15 のようにメモを付きたい箇所を選択して、メモを入力すると、iTunes U の「メモ」欄にハイライトを引いた箇所が表示されるような仕組みになっている。講義資料の中から重要なところを自分で抜き出して一覧を作成することができるなど受講者にとっては非常に使いやすい仕組みになっている。今後のさらなる発展に期待したい。

❖ iTunes U で見られる中国語関連番組

それでは最後に現在 iTunes U で見ることができる中国語の関連番組をいくつか紹介する。

手前味噌で申し訳ないが、関西大学では 2012

図 18：漢外語彙教学概論—漢語詞彙教&学



年から「ICT を利用した中国語教材の開発」という学内プロジェクトで様々な中国語オンライン教材や学習素材の開発を行っている。その一つとして行っているのが、これまで蓄積された Podcast 配信用動画 Chinese Station シリーズの iTunes U での展開である。この教材は簡単な会話スキッドに解説や字幕を加えただけのものであり 1 本 4、5 分程度のものである。2011 年公開当初はこれまでに配信済みの ChineseStation2 のコンテンツ^[3]を 2012 年 7 月からは新番組「徹底学習中国語会話 ChineseStation3」^[4]を配信している。特に本シリーズから単語の学習をした上で、中国語会話の動画を見るような構成となっているので、初級者や会話の表現の幅を広げたい人におすすめの講義である。今後 1 か月に 20 本～40 本程度配信していき、最終的には 300 本程度のコンテンツがこのコレクションに登録される。

他に「漢外語彙教学概論—漢語詞彙教&学 (2011 年度中国語学講義)」^[5]と題した実際に関西大学外国語教育研究科で 2011 年に開講された科目を配信している。全て中国語で行われる語彙関係の専門科目のため中級以上の人におすすめの講義である。

また高校生や中国語入門者を対象とした 1 講義 30 分程度の「中国語基礎講座」を現在撮影中で、今回解説した「コース」形式を利用して今年度中の配信を計画している。他にこの夏北京で撮影した中国語会話の動画についてもこの場を利用して公開していく^[6]。

また関西大学以外にも iTunes U では中国国内の大学が発信している中国語関連の講義を見ることができるのでその一部を一覧として次のページに示す。

この一覧では目についたものの中からほんの一部を紹介しただけだが、孔子学院や中山大學、香港公開大学などいくつかの大学や機関が海外向けの中国語講座のコンテンツを配信していることが分かる。また語学関連の講座に限らなければ、これらの大学以外にも中国国内の大学で講義を配信しているところがあるのでぜひ色々探索してもらえればと思う。日本にいながらにして文字通り生

表：中国語関連講義一覧

番組名	配信機関	アドレス
中国课堂	中国教育电视台	http://itunes.apple.com/jp/itunes-u/zhong-guo-ke-tang/id387132803
看电影学汉语	中国教育电视台	http://itunes.apple.com/jp/itunes-u/kan-dian-ying-xue-han-yu-fei/id486195482
汉语乐园	网络孔子学院	http://itunes.apple.com/jp/itunes-u/han-yu-le-yuan/id486195652
论语三百讲	网络孔子学院	http://itunes.apple.com/jp/itunes-u/lun-yu-san-bai-jiang/id487098131
读新闻学汉语	网络孔子学院	http://itunes.apple.com/jp/itunes-u/du-xin-wen-xue-han-yu/id487098135
对外汉语 (外景篇)	中山大学	http://itunes.apple.com/jp/itunes-u/dui-wai-han-yu-wai-jing-pian/id387178733?mt=10
对外汉语	中山大学	http://itunes.apple.com/jp/itunes-u/dui-wai-han-yu/id386591294
Basic Chinese 1	香港公开大学	http://itunes.apple.com/jp/itunes-u/basic-chinese-1/id388835552

の中国語の講義に触れることもできる iTunes U をこの機会にぜひ利用してもらえればと思う。

注

- [1] 関西大学では IT センターが管理している。
- [2] iTunes ダウンロード <http://www.apple.com/jp/itunes/download/>
- [3] 「中国語会話 Chinese Station2」 <http://itunes.apple.com/jp/itunes-u/zhong-guo-yu-hui-hua-chinese/id438131100>

- [4] 「徹底学習中国語会話 Chinese Station3」 <http://itunes.apple.com/jp/itunes-u/che-di-xue-xi-zhong-guo-yu/id542614365>
- [5] 「漢外語彙教学概論——漢語詞彙教&学」 <http://itunes.apple.com/jp/itunes-u/han-wai-yu-hui-jiao-xue-gai/id514889803>
- [6] 関西大学中国語教材研究会のホームページ CH-TEXTS で今後の情報については公開する。 <http://www.ch-texts.org/>

図 19：北京广播电视大学



図 21：香港中文学院



図 20：网络孔子学院



図 22：中山大学



ウェブカメラで学ぶ 中国語発音入門

効果的な自習のために、授業の発音模範として

郭 修静 (かく しゅうせい)

❖ 1.はじめに

本稿では、大阪大学世界言語研究センターで開発された「ウェブカメラで学ぶ中国語発音入門」^[1]を紹介したい。これは、同センターの主要なプロジェクトである「社会人を対象とした学士レベルの外国語教育プログラムの提供事業^[2]」の下、平成20～23年度にわたり大阪大学中之島センターにおいて開講された初級中国語講座用に開発された様々なコンテンツの一部である。

図1: コンテンツサイト



◎ 1.1. 開発に至る経緯

筆者は、大学で中国語を主専攻として学ぶクラスと第二外国語として学ぶクラスを担当しており、本学（大阪大学）では、主専攻の1年時初級クラスは週6コマ学習し、主専攻でない選択科目としての中国語は、週1コマないし3コマの範囲で選択することになっている。

また更に筆者は、社会人に向け開講される短期集中講座も担当していた。この講座はコンピュータを活用したもので、週2コマないし4コマ開講されていた。仕事の合間を縫い中国語を学ぼうとする社会人のクラスは学習意欲が高く、また主専攻の学生は学習効果に対する要求が厳しい。そのような中、我々は、復習に役立ち授業数不足を補う、教師と学生両者に有用な音声教材の重要性を痛感していた。

実際、現在使用されているメディア教材の中には、更なる開発の余地を残すものが少なくない。学習者の目的、目標は様々であるが、入門段階におけるつまずきや問題点は概ね一致している。我々が開発する教材は、そのような入門期につまずきを解消する、コンピュータを活用した補助教材としての先駆的存在と言えよう。

この教材が大学等の各課程における多様な学習者の多様なニーズに応じ、授業において教師をサポートし、学習者の自宅学習の一助となることを願っている。

◎ 1.2. 自宅学習を効果的に

教室での発音指導の際、正確な発音の習得に必要な時間は、学習者により差が大きい。正確な発音が身に付かない学習者も少なからず存在する。学習者それぞれに平等に機会を与えているつもりでも、個人差が出ることは避けられない。

入門段階の発音練習に割ける時間は言うまでもなく限られており、瞬間に会話や文法など“本格的な学習段階”へと進む。発音が未習得であっても、なす術もなく会話に突入せざるを得ない。

当然のことながら、そのような学習者は授業中発音のたび教師に注意され、何度もくり返し発音させられる。学生はたまたま「正しい発音」ができると教師にほめられる。そのことをきっかけに意欲をもって次の授業に臨んだとしても、結局発音は未習得のままで、教師と同じ問題点を指摘され、せっかくの意欲を失うこととなる。

このような経験がくり返されることにより、結果として発音に対する苦手意識のみが定着してしまう。

正しい発音の習得に時間を要する学生を観察すると、以下の特徴が挙げられる。

- 発音練習時、自分の発音の問題点が自分では認識できない。
- 間違った発音のまま、何度も繰り返し音読練習をしてしまう。
- 知識としては個々の発音の違いを認識しているが、発音時に口の動きが正しい形についていけない。
- 声母、韻母それぞれ個別では発音できるが、韻母との組み合わせによって、できなくなる。
- 教師に指摘を受けた場合はうまく発音できるが、時間の経過とともにもどに戻ってしまう。

正確な発音を定着させるには、時間の都合上自宅学習が不可欠である。それにもかかわらず、発音が苦手な学生が自分ひとりで自習するのは、上記のような特徴から大変困難であると言わざるを得ない。

◎ 1.3. 中級・上級者の発音矯正

筆者が担当する入門クラスの大学生のみならず、2年目、3年目、またそれ以上の学習経験をもった学習者も何がしかの“訛り”のようなもの、つまり誤った発音の癖があり、その発音を直そうとしても適切な教材を見つけるのは難しい。初級入門の発音教材は多く目にするができるが、中級以上の既習者を対象とする発音教材は極めて少ないのが現状である。

間違った発音を指摘しその場では直せても、すでに癖として定着してしまっているため、その発音が次回の授業でもどに戻っているということを経験する教師は少なくないだろう。正しい発音の継続のためには、授業で発音の指導を受けるのみならず、自宅での効果的な発音練習が中級以上の学生にも不可欠である。

❖ 2. 教材の特徴

以上のような問題点から、学習者が自分の口の形を意識して学習することが、正しい発音習得のためには重要であると考え、筆者は新たな教材を模索した。そのような経緯で開発された本教材は確認ポイントを分かりやすく明示した映像教材である。画面と向き合い、発音の模範となる映像を使い、説明に沿って自分の発音における問題点を逐一確認することができる。

自習が困難であった発音練習が、この教材の使用により、容易に効果的に一人でも可能なものとなった。

◎ 2.1. シンプルな仕組み

どのような背景の学習者も容易に扱えるよう、カメラの操作をできる限り単純にした本教材の特徴は以下のとおりである。但し動作環境としては



図 2 ウェブカメラ制御装置

Adobe Flash Player（無料）のインストールが必要である。

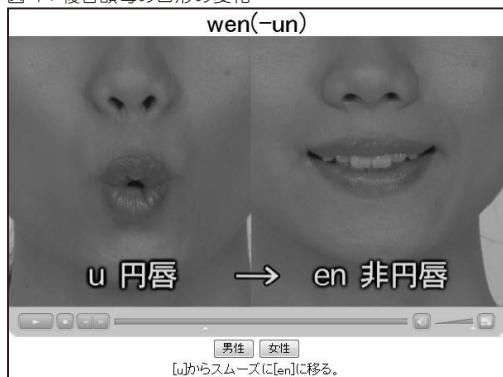
●鏡代わりのウェブカメラ

自分の口の動きを画面で確認することがで

図 3：複合韻母、口の大きさの変化



図 4：複合韻母の口形の変化



きるが、オンラインで本教材を使う場合でも、映される画像や音声教材提供側で記録し、利用することはない。

●顔の位置調整

パソコン内蔵の、あるいは外付けのウェブカメラが必要。カメラ制御装置は画面の左部分にある（図 2 参照）。「カメラとマイクへのアクセス」の許可をクリックすると、自分の顔が映しだされる。田の拡大と田の縮小や上下、左右の田をクリックして口元の位置を見やすいように調整する。

●「カメラを表示/非表示」の「非表示」を選択することにより、カメラで自分の映像を見ずに、模範の映像だけを見ることも可能。

◇ 3. 映像教材の内容

◎ 3.1. 基本発音：導入段階

本教材には 21 の声母と 36 の韻母の模範となる映像があり、男性バージョンと女性バージョンを見ることがでる。

個々の発音のポイントは、映像の下側に文字によって提示している。たとえば、声母 [b] の説明は下記のとおり：

[p] と対立する無気音。「さっぱり」の「ぱ」の子音と同じ。

注意：唇をしっかりと閉じた状態から始める

入門段階の初習者には、映像前半では、個々の発音方法を確認する作業に集中することを勧める。後半の「区別しにくい音」の部分は無理にリピートせず、何度も聞くことが重要である。

◎ 3.2. ミニマル・ペアの確認

映像で提示する項目は、可能な限り多く盛り込まれている。制作当初は男性バージョンを作成し反響をいただいたが、改訂版の女性バージョンに

表 1：確認項目

習得しにくい項目	確認の記述
1. 構え	例：「f」筋肉を緊張させ、上前歯と下唇が触れている状態を確認。また「そり舌音」の場合は舌先を立てて口蓋に接触した状態を確認するなど。
2. 無気音と有気音の対立	韻母を出すタイミングの違いがあることを提示する。
3. 混同しやすい舌面音とそり舌音と舌歯音	「ji, qi, xi」「zhi, chi, shi」「zi, ci, si」という個別な発音方法を説明するほか、ji-zhi, ju-zhu, jun-zhun, ji-chi, ju-chu, jun-chun などのように韻母と組み合わせたときの発音の注意点も確認するよう促す。
4. 円唇と非円唇	例：「e」「en」は唇が丸くなっていないことを確認、「i」は唇を横に引くことを確認。また、「i」の非円唇と「ü」の円唇を対比させて確認。図 4 を参照
5. 複合韻母	口の形の変化に合わせて細かく確認できるよう映像を並べて表示。例：「ai」の場合「i」は「a」に添える程度で強く発音しないことに注意。「ou」は大→小のように口の大きさの変化の違いを確認。図 3 を参照
6. 鼻音韻尾	「ng - n」の違いを説明するだけでなく、口腔の広さ、舌の前後母音にも注意を払うように促す。 例：「an」①構え：唇をやや横に引いた状態で発音する。②口の中は狭い。③舌は前よりというような段階を分けて確認。 「ang」①「ng」では舌の付け根を上を持ち上げ口は最後まで閉じないことを確認。図 5・6 を参照
7. ピンインの綴り方	ピンインの綴り方に引っ張られないように注意を促す。例「ian」「yuan」など。

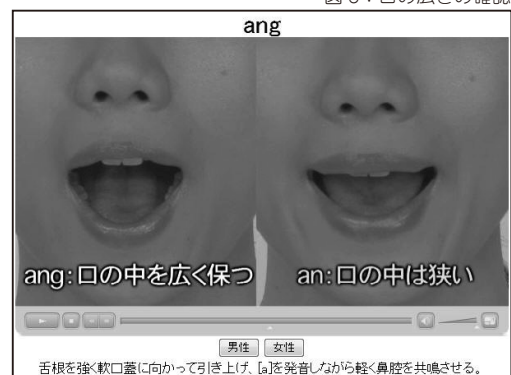
は「区別しにくい音」の項目を追加した。たとえば有気音と無気音の音の対立、そり舌音と舌歯音との対立。h と f は混同しやすいので注意が必要である。韻母の円唇非円唇の重要性および舌の位置の確認などである。中級や上級の学習者には発音矯正の教材としてお勧めする。

映像を見ながら、学習者自分の口元の形や舌の位置を確認して発音練習をする。映像の確認項目の例は表 1 を参照。

図 5：鼻音韻尾 [n] の説明



図 6：口の広さの確認



❖ 4. 使い方の提案

◎ 4.1. 授業での模範映像として

本教材は「クリエイティブ・コモンズ表示 - 非営利 - 継承 2.1 日本ライセンス」の下に提供されている。公開した条件に従う場合に限り、自由に本作品を複製、頒布、展示、実演することができる。従って、学習者がオンラインで自習のために利用できるのみならず、教師側も手持ちのモバイル機器に映像だけをダウンロードして、授業中発音を教えるときに映像データをモデルビデオにすることも可能である。

また、既に導入を終えた学習者に提示することで強い印象を残し、発音テストに使用することも可能である。マルチメディア教室やコンピュータ教室で使用する際、まず学生に 10～15 分発音練習をさせ正しい発音へと一歩進んだ後、発音テストで定着度を測ることができる。

◎ 4.2. 自宅学習用として

専ら学習者の自習用として使用する場合は、授業時には映像を提示せず自宅学習用教材として紹介することを勧める。教師が発音の問題点を発見した際は、練習の必要な部分を指摘し重点的な発音練習を促せばよい。

しかし、実際の使用をとおして我々は次のような結果を得ることとなった。学習者が社会人である

場合、その多くは明確な動機と高い学習意欲を有し、完全な自習により一定の学習効果をあげることができた。

一方学習者が大学生である場合多くは、ここで言及するまでもなく、継続的に学習意欲を維持することは困難である。授業時などに相対して発音指導をし、発音練習のポイントを直接指摘し自宅学習を促すことなしに発音の向上はあり得ない。合わせて、毎授業時に前回の既習内容を確認することもステップアップのために必要となる。

本教材は完全な自習教材としても、授業時の補助教材としても使用できるよう開発されたものであるが、学習者の状況に留意にした使用により、さらに高い学習効果が期待できるのである。

❖ 5. おわりに

以前より相原茂先生が「発音良ければ、なかばよし」と言われているように、中国語教育において発音の正確性は非常に強く求められ続けている。

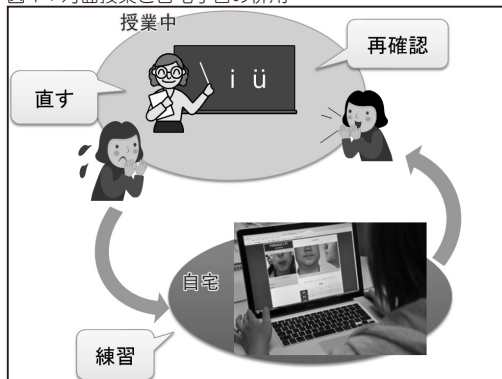
また、日下恒夫先生（2007）は「声の大きな人はかならず中国語の発音がよくなる。発音のいい人はかならず中国語をマスターできる。」と主張され、「中国語、発音よければ、すべてよし」と言われている。練習方法については CD のすぐあとに続けて、「大きな声で」、「筋肉を十分動かして」、「繰り返し」発音することを心掛けることとしている。

しかし発音が容易に身につかない学習者の学習状況を観察してみると、集中的かつ十分な音量で積極的に発音練習しているにもかかわらず、自分の口元の形には留意していない。教育現場において、発音練習と称し間違った発音のままただ発声が続けられるだけ、というのはよく見られる光景である。

発音の誤りを自覚することなくやみ雲に発音練習を強いても発音の向上は期待できない。自分の発音がテキストに書かれたポイントに叶っているかどうか、自分で確認できる環境が学習者に与えられることが必要なのである。

聞くことに注意を傾け、視覚的な確認の重要性

図 7：対面授業と自宅学習の併用



を理解させ、母語では使用しない筋肉を鍛えることにより、癖が少ないネイティブライクな発音に近づけることが本教材の目標とするところである。

参考

- 国際交流基金 (2009) 『音声を教える』 (国際交流基金日本語教授法シリーズ2) ひつじ書房
- 中野達 (2008) 『カラー音節表による中国語発音のすべて』 駿河台出版社
- 日下恒夫 (2007) 『アタマで知り、カラダで覚え

る中国語の発音』 アルク

注

- [1] コンテンツサイト <http://el.minoh.osaka-u.ac.jp/flit/public/zh/pncat/index.html>
- [2] 本事業は、学生・社会人を対象に英語、中国語、ベトナム語に関する情報コミュニケーション能力を育成するために、新規に開発するマルチメディア教材を活用した学士レベルの外国語教育プログラムである。
<http://el.minoh.osaka-u.ac.jp/flit/index2.html>

ゲームもできる音声付き 単語カードを無料で作る

— Quizlet の使い方 —

清原 文代 (きよはら ふみよ)

❖ 1. 学生の質問「どうやって単語を憶えるんですか？」

近年学生から「どうやって中国語の単語を憶えるんですか？」という質問を受けることがあり、いささかとまどっている。「単語は用例とともに憶えなさい」と教員はよく言う。それは確かに正しいが、初心者の場合、用例の中にあるターゲットになる単語以外の単語もわからない。まずは発音と主な意味一つという状態でいいので、知っている語彙を増やす必要がある。

もちろん単語の意味は一つではないが、単語の

習得は一度の学習で済むものではなく、単語が使われている場面や文脈に何度も接触して学習を繰り返していくうちに深く学習していくというプロセスをたどる。その第一歩を踏み出すのを援助するのが本稿で取り上げる Quizlet である。

なお、2012年7月14日に関西大学で開催された中国語教育学会関西地区研究会において、実際に Quizlet を操作しながらワークショップを行った。その際の操作動画をインターネットで公開しているので、適宜本稿とともにご参照いただきたい^[1]。

❖ 2. Quizlet^[2]とは？

Quizlet は平たく言えば試験勉強でお世話になった単語カードのデジタル版を作るための Web サービスである。

単語を入力するだけで、簡単に音声付きカードセットを作ることができ、入力した単語に基づいて、聞き取り練習やテスト、ゲームなどを自動的に生成してくれる。単語カードセットを作るには Quizlet のアカウントが必要だが、公開されている既存のカードセットを使うだけであれば、アカウントは必要ない（アカウントを取れば学習履歴を残すことができる）。

Quizlet は 2005 年カリフォルニアの高校生だった創業者が自分のフランス語学習のために作ったものが始まりで、現在は 1000 万余りの単語カードセット、直近 1 年間で 5000 万以上の訪問者があるという^[3]。

Quizlet は外国語学習から始まったという出自にふさわしく多言語対応している。操作画面は英語が基本だが、トップページ左側にある「Language」で日本語や簡体字中国語による操作画面に切り替えることもできる。

図 1：単語カードの両面を表示した状態^[5]



❖ 3. Quizlet で何ができるのか？

◎ 3.1 カードセットを聞く、見る

中国語の初級段階では発音が最大の難関だ。Quizlet は現在 18 言語の TTS (テキスト音声合成) を内蔵しており、カードの左上にあるスピーカーのアイコンをクリックすると、カードに書かれた中国語を読み上げることができる (図 1)。TTS が 100% 正しいわけではないが^[4]、pinyin をまだ完全にはマスターしていない初級者にとってはありがたい機能である。

◎ 3.2 カードセットで学ぶ

◆ 3.2.1 スペラー (音声→文字)

「スペラー」は TTS の読み上げる音声を聞いて文字を入力する練習である。

TTS の読み上げ速度は fast と slow の 2 段階から選ぶ。文字入力が終わった後 Enter キーを押せば正誤判定が行われる。キーボードから直接入力して解答する他、カードセットに使われている漢字がボタンとして示されるので (図 2)、学習者のパソコンに中国語入力環境がなくても大丈夫だ。声調符号付き pinyin を答えとして入力する場合は、画面上に声調符号付きのアルファベットのボタンが現れる。

Quizlet は iPad でも使用できるので^[6]、iPad の持つ中国語手書き入力を ON にすれば、漢字を手書きして練習することも可能だ。

◆ 3.2.2 学習

「学習」はカードの片面を示し、もう一方の面の単語を入力させるもの。間違えた問題があれば再度出題される。入力方法は上記のスペラーと同様である (図 3)。

◆ 3.2.3 テスト

採点機能付き自動生成のテストである。記入問題、組み合わせ問題、選択問題、正誤問題を自由に組み合わせてテストを生成する。「テストを作り直す」ボタンをクリックすれば、同じカードセットから何度でもランダムに出題する。

◎ 3.3 ゲームで遊ぶ、ゲームで学ぶ

Quizlet の特徴は単調になりがちな単語学習を継続するための仕掛けとしてカードセットを元にしたゲームを用意していることである。速度を競うゲームという枠組みを利用して、飽きずに何度も繰り返させることにより、単語への接触頻度、接触回数を上げることを狙っている。

◆ 3.3.1 スキャター

カードの表と裏に書かれた単語がばらまかれるので、同じカードの表裏に書かれたものを見つけてドラッグして重ねるゲーム。正解であれば2つの単語が重なって消え、不正解であれば単語は自動的に離れてしまう。全ての単語を消すまでの時間を争う。

◆ 3.3.2 スペースレース

カードの片面が問題として画面を左から右に横切る間に、もう一方の面を答えとして入力できると問題が打ち落とされ、得点が入る。画面を横切る間に入力できないと、ゲームが一旦停止し、正しい答えを入力するまで次へ進めないのは、単に点数を競うだけでなく、単語を憶えるためのゲームであるという教育的配慮であろう。



図 2 : スペラ



図 3 : 学習

開かれ、Quizlet のアカウントの有無に関わらず、誰でもカードセットを利用できる。「パスワード保持者」とは自分でパスワードを設定して、そのパスワードを知らせた人のみが利用できるという設定である。何らかの形で閲覧範囲に制限をかけるとカードセット共有用の URL や HTML コードを取得できなくなるので、あちこちで同じようなものを作る「車輪の再発明」を防ぎ、教材の共有を進めるという観点からは「全員」がおすすめである。「特定のクラス」とは Quizlet にはユーザーを招待してクラスを作る機能があり、そうして作ったクラスを指定してアクセスを許可するものである¹⁸⁾。

(3)カードセットを編集可能な人の範囲を選ぶ。

「自分のみ」「特定のクラス」「パスワード保持者」の3つの選択肢がある。とりあえずは「自分のみ」の設定でよいだろう。この設定も随時変更できる。慣れてきたら学生をクラスに招待し、「特定のクラス」を指定して、学習活動の一環として一緒にカードセットを編集するのもおもしろいだろう。

(4)カードセットに対するディスカッションを

❖ 4. Quizlet でカードセットを作る

◎ 4.1 Quizlet のアカウントを取る

Quizlet はメールアドレスがあれば簡単にアカウントを作ることができる¹⁷⁾。基本的なカードセット作成機能は無料で使える。Facebook のアカウントにリンクさせることもできる。

◎ 4.2 カードセットの作り方 (基本編)

- (1)カードセットの名称を入力する。
- (2)カードセットの閲覧可能な範囲を選ぶ。この設定は随時変更できる。「全員」「自分のみ」「特定のクラス」「パスワード保持者」という4つの選択肢がある。「全員」は作ったカードセットがインターネット上で公

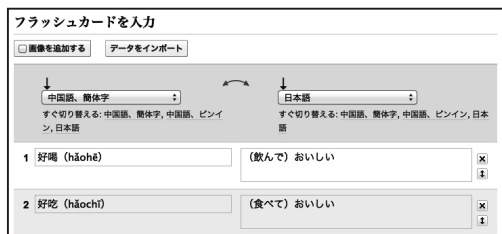


図 4：単語入力画面



図 5：カードセット作成画面

許可するかどうか決める。

初期設定ではチェックが入っており、カードセットの利用者からのコメントを受け付ける形になっているが、チェックをはずしてこの設定をオフにしてもカードセット自身の機能に影響はない。

(5) カードの表と裏の言語を設定する。

この言語の設定に従って TTS の読み上げが行われる。中国語簡体字・中国語ピンイン・中国語繁体字はそれぞれ別個の言語として定義されている。

(6) 単語を入力する (図 4)。

図 6：Flickr の画像を検索するボックス



1枚のカードに中国語簡体字・ピンイン・日本語の3項目を入れたい時は、カードの表と裏の2つの言語を指定した後、()で囲んで3つめの要素を入れるとよい。

例 言語設定が中国語簡体字—中国語ピンインの場合

吃(食べる) chī

例 言語設定が中国語簡体字—日本語の場合

吃(chī) 食べる

() に入れた部分については TTS は読み上げを行わず、またテストやスペースレースの正誤判定の際に () で囲んだものを無視する設定ができる。正誤判定の際には無視してよいが、注釈として入れたい事項も () で囲っておくとよい。

(7) 「セットを作成」をクリックする。

◎ 4.3 カードセットの作り方 (画像を貼る)

基本編で作ったカードは文字のみでできたカードであるが、カードセットに画像を加えることもできる。無料アカウントでは使用できる画像ファイルは Flickr にアップロードされているクリエイティブ・コモンズ・ライセンスのもののみである。年 15 ドルを支払い、有料アカウント^[9]にすると自分で用意した画像ファイルを使用できる。

(1) 「画像を追加する」にチェックをつける (図 5)。

(2) Flickr を検索するためのボックスが開くので、そこにキーワードを入れて画像を検索する (図 6)。

(3) 気に入った画像があったら、「この画像を使用」をクリックする。

◎ 4.4 カードセットの作り方 (一括入力)

基本編の作り方は単語ボックスに一つ一つ入力する形であったが、単語の数が多いときには面倒だ。あらかじめ作ったデータを一括入力するには以下のような手順で行う。

(1)Word などのワープロソフトで 1 行= 1 カードで入力する。カードの表の単語と裏の単語の間にタブを入れて区切る。

例 买 <タブ> 買う <改行>
 卖 <タブ> 売る <改行>

- (2)Word で作ったデータをコピーしておく。
 (3)「データをインポート」をクリックする (図 5)。
 (4)Word で作ったデータをペーストする。
 (5)「インポート」をクリックすると、単語が欄に入る (図 7)。
 (6)「セットを作成する」をクリックする。



図 7：一括入力の画面

❖ 5. Quizlet は紙にも対応

Quizlet は紙への出力にも対応しており、黒板と机と椅子しかない普通教室で授業している場合でも Quizlet でカードセットを作っておけば、プリントを作ることができる。

印刷できるのは、テストとカードである。テストはランダムに何度でも生成できるので、一つのカードセットから複数のテストを簡単に印刷することができる。

カードの印刷形式としては、表形式・リスト形式・切り取り線に沿って切り離し二つ折りにすればカードになる形式 (大と小)・3 インチ×5 インチのカードがある (図 8)。

但し、Web ブラウザ上では正しく中国語の字体で表示されていても、印刷機能では“写”と“写”のように日本語と中国語の漢字で微妙に字形が異なるのに Unicode 上では 1 つの文字コードに統合されているものをうまく区別できないので、注意が必要だ (図 9) ^[10]。

❖ 6. 教材の共有プラットフォームとしての Quizlet

Quizlet で作ったカードセットを全員に公開す

るモードにしておく、カードセットの共有やカードセットに入力したテキストの再利用が簡単にできる。Quizlet は教員が教材を共有するプラットフォームとしても優れている。

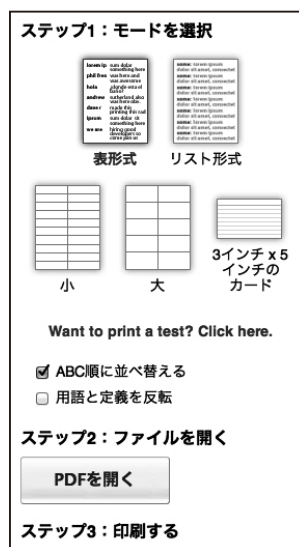


図 8：カードの印刷画面

図 9：Web 表示 (左) と印刷用カード (右)

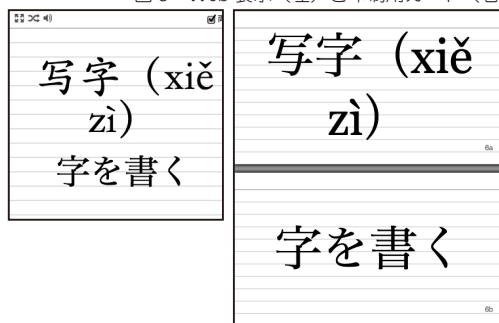




図 10：リンクもしくは埋め込み

◎ 6.1 共有用の URL、HTML コードの取得

Quizlet で作ったカードセットを全員に公開するモードにしておくと、「リンクもしくは埋め込み」をクリックして、共有用の URL や Web ページ埋め込み用の HTML コードが取得できる (図 10)。

「短い URL」をコピーし、学生や同僚にこの URL をメールに書いておく、この URL を使って LMS からリンクを貼るなどすれば、簡単に自分の作ったカードセットを知らせることができる。

Web サイトを持っているのであれば、カードセットにリンクを貼るための HTML コード、カード・学習・スキャターを自分の Web ページに埋め込むための HTML コードが取得できる (図 11)。Twitter や Facebook でシェアすることも可

図 11：共有用の URL と HTML コード



能だ。

◎ 6.2 単語のテキストデータを取得する

Quizlet で作ったカードセットを全員に公開するモードにしておくと、Quizlet のアカウントの有無に関わらず、カードセットを訪れた人は「エクスポート」機能を用いてカードに書かれた単語を全てコピーすることができる (図 12、13)。

5 で指摘した“写”の字体の問題もコピーしたものをフォントが指定可能な Word なり Excel なりにペーストして、中国語のフォントを指定して印刷用のプリントを作ることによって単語リストについては回避できる。

◎ 6.3 カードセットそのものをコピーする

カードセットが全員に公開されている場合、Quizlet のアカウントがあれば、そのカードセットを丸ごとコピーして自分のカードセットにすることも可能だ。コピーしたカードセットに編集を加えて保存することもできる。

◇ 7. 授業での利用

今年度前期、CALL 教室で授業を行っている第二外国語の中国語初級クラス (25 名) で Quizlet で作ったカードセットを利用して見た。

約 150 の単語を選んでカードセット (簡体字一ピンイン、簡体字一日本語) を作り、更にそれを一文字目の発音別に分けたものや品詞別に分けたセットを作成し、そのうち 22 個を使用した。単語のデータは筆者が代表を務める科研 (課題番号 22520574) ^[11] の分担者である浦山あゆみ氏 (大谷大学) が中心となって作った『基礎中国語の単語と例文』のデータ ^[12] を加工して使用した。

今回は筆者が Quizlet を使い出して日が浅いこともあり、学生を Quizlet に招待してクラスを作ることはせず、LMS の Moodle の中から個々のカードセットへのリンクを貼るという形で利用した。

学期開始時にまず今学期の目標として 150 語のカードセットを示して、Quizlet の使用法を説

明し、後はほぼ毎回発音別や品詞別のカードセットから1つを選んで宿題とした。翌週の授業の冒頭で教師がカードセットの中から口頭で出題、学生は紙に簡体字やピンイン、日本語訳を手書きし、自己採点するという敢えてアナログな方法で憶えているかをチェックした。また、成績評価の対象となる小テストや期末テストでは学生にどのカードセットを範囲にするかを予告した上でピンインの4択問題を出題した。

Moodleのアクセス履歴を見ると学期開始時から7月末までのカードセットへの総アクセス数は580、カードセット1つ当たりの平均アクセス数は23回といったところである。Quizletを全くあるいはほとんど利用しない学生もいる反面、学内からだけでなく自宅からも定期的にアクセスしている学生もいた。これだけのデータではQuizletの学習効果について云々することはできないが、学期開始時に150個の単語リストは紙で配付済みであり、Quizletを使わなくても宿題や試験勉強をすることができたにも関わらず、Quizletを使用した学生がいたことは確かだ。今後はQuizletのクラス機能を使って学生の学習履歴なども見てみたいと考えている。

なお、今回授業のために作成したカードセットはすべて全員に公開する設定にしてあり、それらをまとめたリンク集も公開している^[13]。前述のように全員に公開であれば、Quizletのアカウントの有無に関わらず、誰でもカードセットを使用して学習やゲームができる。カードセットの単語もすべてコピーできるので、ぜひご活用いただきたい。そして、可能であればご自分のカードセットを作って公開し、教材の共有を促進していただければ幸いである。

注

- [1] http://www.las.osakafu-u.ac.jp/~kiyohara/JACLE_Kansai_2012_Quizlet/
- [2] <http://quizlet.com/>
- [3] <http://quizlet.com/about/>
- [4] 例えば、Quizletの中国語TTSは“儿化”を正しく読み上げることができない。以下のサンプルで聞いてい

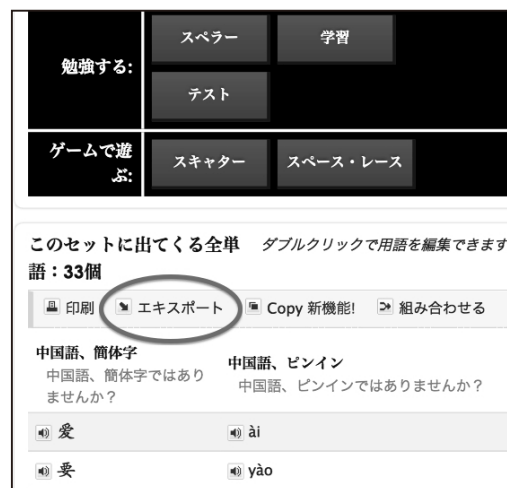


図 12: エクスポートボタン

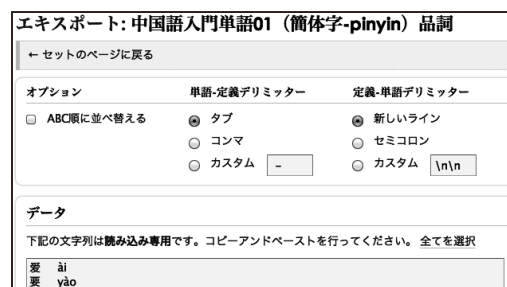


図 13: エクスポート画面

たきたい。

http://quizlet.com/_7o934

“这儿”ではなく“这里”を使うなど、カードセットを作る時に可能な限り“儿化”を避けるくらいしか、現時点では解決策がない。

[5] http://quizlet.com/_7mx28

[6] 但し、iPadではTTSの反応が若干鈍い。

QuizletのカードセットはiPhoneなどのスマートフォンでも使用できるが、スマートフォン用のWebページが用意されているわけではなく、画面が小さく使いにくい。Quizletのカードセットを取り込めるサードパーティー製のiPhone用やAndroid用アプリが複数あるので、そちらを使った方がよい。

2012年8月にはQuizletの公式iPhoneアプリ(無料)も出たが、本稿執筆の時点では日本語中国語の入力に問題がある。

<http://itunes.apple.com/jp/app/quizlet/id546473125>

[7] アカウントを取る際に生年月日を登録する必要があ

る。これは学習サイトという性格上、子供の利用が想定されており、13歳以下の子供についてはいくつかの機能が制限されているためである。

- [8] 無料アカウントでは作れるクラス数は8つに限られているが、有料アカウントでは無制限になる。
- [9] 無料アカウントと有料アカウントの機能差は以下のWebページで見られる。
<http://quizlet.com/faqs/faq-what-is-quizlet-plus/>

[10] http://quizlet.com/_7o934

日本語と中国語で微妙に字形が異なる“写”、“画”、“喝”を含むサンプル。

[11] <http://xunyicao.iic.hokudai.ac.jp/kaken/>

[12] <http://xunyicao.iic.hokudai.ac.jp/kaken/#jiaocai2>

[13] http://www.las.osakafu-u.ac.jp/~kiyohara/JACLE_Kansai_2012_Quizlet/

中国語で クローズテストを作ってみる

山崎 直樹 (やまざき なおき)

❖ 1 目的

本研究の目的は、機械的に生成でき機械的に採点できる、中国語の読解能力を測定するテストの開発可能性を探ることである。

上述の「機械的に～テスト」としては、現時点では、クローズテスト (Cloze Test) と呼ばれる方式が最も実現可能性が高そうである。

そこで、本研究では、中国語のクローズテストを試作し、小規模な調査ながら、次の2点を調べた。

- 母語話者に、そのテストを解答させた場合、解答がどれほど一致するか？
- 母語話者に、そのテストを解答させた場合、解答者はその設問がどのような能力を測っていると感じているか？

❖ 2 クローズテストとは何か

ここでは、クローズテストとは何かを簡単に説明する (すでに知識があるかたは読みとばしていただきたい)。

クローズテストは、Taylor1953によって提案されたテストで、本来、英語母語話者の英文読解能力を測定するために開発されたものである。

後に、このテスト手法は、母語話者のみではなく、英語を第二言語として学習する者の能力を測定できることが実証され、現在では、この目的でも広く用いられている (詳細は、佐藤 1988 を参照)。

佐藤 1988 の記述を引用して、このテストの形式の概要を以下に示す (p.11)。

ある文章に使われているすべての単語のうち、何パーセントかの単語を任意に消去したり、自動的に何番目 (通常 6 ~ 7 番目)

かにあたる単語を消去して、ネイティブスピーカーの被験者に前後のコンテキストをヒントに、原文にあった単語を再生させる方法をとる。(中略)たとえば、“I saw a man with an injured leg being carried into the ().” の場合、言語能力のほかに、一般常識や過去の経験にもとづいた知識によって、“hospital” が挿入できるはずである。後になって、このような空欄は通常、自動的な消去法(6～7番目の単語を消去)によって、50箇所設けられることになる。したがって、上の例では名詞が消去されているが、あらゆる品詞がバランスよく消去されるはずである。

ここで注意したいのは、無作為／機械的に単語を消去するという方法を採用ゆえに、一般の空欄補充問題——作問者が一定の意図(前置詞を消して文法知識を問う／接続詞を消して論理関係を把握する能力を問う…などが考えられる)をもって空欄を設定する——とは、かなり性質が異なるということである。

❖ 3 クローズテストのバリエーション

クローズテストにもさまざまなバリエーションがある。

正答の設定については、原文と完全に一致した解答のみ正答とする方法、コンテキストから判断して、文法・意味の両面から適切と認められるものを正答とする方法、あらかじめ同一のテストを行っておき、そこで出された解答をもとに、ありうる正答を準備しておく方法など、さまざまな手法がある。また、フリーハンドで解答を書かせるのではなく、選択肢を用意しておく方法もある(佐藤 1988: 122)。

また、空欄の設定に関しても、消去する個所を意図的に設定する方法、消去の範囲を1～3語と広くとる方法などがある(佐藤 1988: 144)。

その他に、短い頻度で単語の後ろ半分だけを

削除する、C-Test と呼ばれる手法もある(Klein-Braley 1984)。これであれば、例えば、“gesture” という英単語は“gest”と表記されることになる。この手法は、解答のぼらつきを抑えることができるといわれている(これは言語にもよると思われる。これについては§ 6で触れる)。

❖ 4 今回の実験

◎ 4.1 目的

今回の実験は、単語単位(文字単位ではない)で一定間隔の空欄を機械的に設定した中国語のクローズテストを母語話者に解答させ、その結果、複数の解答者の解答がどれほど一致するか、そして、母語話者の解答者は、その設問がどのような能力を測っていると感じているかを見ようとするものである。

◎ 4.2 方法

実験に用いたのは、大学入試センター試験の長文読解問題に使用された文章である。第1段落には手をつけず、第2段落以降、7語ごとに空欄を設けたクローズテストを作成した。

単語の認定は、「NAVER 中国語辞書」^[1]が提供するサービスを利用した。この「単語認定」>「等間隔で空欄に変換」という過程は、将来は、機械処理で行える可能性があることにご注意いただきたい。今回の実験では、明らかに不適切な区切りをしてある個所は、本稿の筆者が手で調整したが、これも中国語の形態素解析の精度が上げれば解決できる問題である。

このように制作した文章題を2セット用意した(実際に使用した問題は、この文章の末尾の「付録」を見ていただきたい)。

空欄補充と同時に、設問ごとのレイティングを被験者に要求した。ここでのレイティングは個々の設問の性質を評価するものであり、次の5段階を設定した。

A: 文章全体を考えて、推測能力をフルに働か

せる必要がある。

B：AとCの間。

C：前後の文を見て推測をする必要がある。

D：CとEの間。

E：直前直後の文字を見ればわかる。

◎4.3 対象

被験者は中国語を母語とする大学院生3人(20歳代、男性2人、女性1人)

◎4.4 結果

◆4.4.1 解答の一致の度合い

次の表1は、被験者3人の解答が一致したかどうかをまとめたものである。

表1：解答の一致度

	完全一致	3者不一致	他	設問数
問題1	20	6	27	53
問題2	19	2	18	39
計	39	8	45	92

これを見ると、被験者すべての解答が一致した場合は、半数以下である。被験者の数が増えれば、ばらつきが更に大きくなることは想像に難くない。

なお、ばらつきといっても、その内容はさまざままで、「妈妈～母亲」「思考～思索」などの類義語の間でのばらつきもあれば、「孩子～如果」「少年～但」「妈妈～母亲～会」のような、機能のまったく異なる語との間でのばらつきもある。後者のばらつきについては§7でも触れる。

◆4.4.2 レイティングの結果

被験者には、各設問がどのような性質の問題であると感じられたかを考えさせ、次の等級に分類することを要求した。

A：文章全体を考えて、推測能力をフルに働かせる必要がある。

B：AとCの間。

C：前後の文を見て推測をする必要がある。

D：CとEの間。

E：直前直後の文字を見ればわかる。

それぞれの等級に分類された設問の数(3人の被験者の合計)は次の表2のとおりである。

表2：各等級に分類された設問の数(3人計)

	A	B	C	D	E	計
問題1	5	13	46	32	63	159
問題2	8	6	38	16	49	117
計	13	19	84	48	112	276

「直前直後の文字を見ればわかる」と評価された設問が最も多く、「前後の文を見て推測をする」まで(C-E)を累計すると8割を越える。

表3は、参考までに、3人の評価が一致した設問がどの等級に分類されているかを示したものである。

表3：評価の一致度と等級

	A	B	C	D	E	計
問題1	0	0	3	0	6	9
問題2	0	0	4	0	6	10
計	0	0	7	0	12	19

被験者3人のレイティングが一致するのはC-Eの間であるようだが、もともAとBに分類された設問は少ないのでこれだけでは何ともいえない。

◆4.4.3 等級と解答の一致度の関係

等級Eに相当するのは、文法や慣用語レベルの知識を問う設問と考えられる(以下、Eに近いほど「よりローカルな設問」と呼ぶ)。等級Cから等級Aにかけては、参照する範囲がより広くなり、より広範囲な知識と推測能力が必要になると考えられる(以下、Aに近いほど「よりグローバルな設問」と呼ぶ)。

では、被験者の解答が一致する設問はどのような等級に分類されているのだろうか。それをまとめたのが次の表4である。表1で示したとお

表4：解答の一致度と等級の関係

	A	B	C	D	E	計
問題1	1	1	11	10	37	60
問題2	3	0	22	6	26	57
計	4	1	33	16	63	117

り、被験者の解答が一致した設問は、問題1で20、問題2で19である。それぞれにつき、3人の被験者が分類した設問の数を等級ごとに示したものである。

もともとその等級に分類されている設問が多い等級Eで一致度が高いのは当然であるが、興味深いのは、等級Aに分類される設問で解答が一致しているものもあることである。

ただし、設問がよりグローバルになるほど、レイティングにばらつきが見られるので、表4の網がけをした個所の数値も、その評価をした被験者は、設問別に見ると、それぞれ1人しかいなかった。

❖ 5 考察

以上、ごく簡単な実験ではあるが、上記の実験から、以下の知見が得られる。

- 機械的に生成したクローズテストであっても、多い／少ないの差はあるにせよ、よりローカルな設問から、よりグローバルな設問まで、いちおうは含まれている。
- フリーハンドで解答を書かせた場合、母語話者の解答が一致する度合いは半分にも満たない。また、解答のばらつきが極めて多様である（異なる文法範疇の間でゆれていることもある、§ 4.4.1を参照）ので、機械的に採点するのは難しからう。
- 母語話者の解答が一致するかどうかと、設問がローカルかグローバルかは関係ないようだ。

❖ 6 解答のばらつきを抑える方法

人手で採点するにせよ、機械的に採点するにせよ、解答のばらつきが少ないほうが、採点が容易なのは疑いない。

ナイーブに考えると、解答のパターンのばらつきを抑えるには、選択肢を用意してそこから選ばせる方式がよいように思える。しかし、中国語

の場合、この方式でも解答のばらつきを無くせる保証はない。このことは§ 7で述べる。

もう1つの可能性としては、§ 3で紹介したC-Testのような方式（単語の綴りの後半だけを消去する）が考えられる。この問題を考えるには刘1995が参考になる。

刘1995は中国語の「クローズテスト」の効果測定しているが、空欄の設けかたが「単語」単位ではなく、下記のように処理をしている。

狐狸十分着急，（ ）是一点也不害（ ）
它低头想了一（ ），想出了一个好（ ）意。

これはどちらかというと、Klein-Braley1984のC-Testに近い。

英語の単語は綴り字の半分を消してしまえば、残りの半分は多くの場合、意味の無い文字列であり、これは解答の選択を狭める効果しかない。しかし、中国語の場合、1文字が1形態素であることが多いので、“但是，害怕，一下，主意”の半分を消しても、残りの文字列がもつ情報量は、英語の場合とは比べものにならない。よって、英語のような表記法を採用する言語の場合と比べ、測定している能力が異なってしまう恐れがある。

しかも、このような手法を採ってもなお、ばらつきが抑えられてはいないようである（詳しくは、刘1995：93を参照）。それも無理はないと思われる。“思（ ）”という空欄があった場合、“思考，思想，思索，思路，思维……”などから1つを選ぶ決め手を探すのは難しい。

❖ 7 構造の「緩さ」

下記は3人の被験者の解答のバリエーションの例である。

問題1-13：妈妈／妈妈／会

問題1-17：想要／会／之所以

問題1-39：我／我／可是

問題1-40：我／决／一定

問題1-48：奇妙／时／样

異なる品詞の語が混じっていることがわかる(太ゴシックで示した例)。品詞というのは、その語が文の中でどのような振る舞いをするかによって決められた範疇である。同じ空欄に複数の種類の品詞の語が入りうるというのはどういうことか。

これは、中国語の構造の「緩さ」に起因する現象であるように思われる。

英語であれば、

- 定型動詞は必ず時制を伴う、
- 時制辞のある節には必ず主語がある、

……などの構造上の制約がある。よって、空欄に入りうる語の品詞にはかなり制限がかかる。少なくとも、ある空欄に、主語となる名詞句が入りうるか、それとも助動詞が入るか、はたまた接続詞かと迷う必要はないと思われる。しかし、中国語ではこれがありうる(上記の例参照)。

このような構造上の「緩さ」がある限り、設問ごとに選択肢を設定する形式にしない限りは、つまり、選択肢のプールの中から選ぶ形式のクローズテストにしている限りは、解答のばらつきを完全になくすことはできまい。接続詞が入ることを期待した空欄に、別の空欄用に選んでおいた助動詞が入りうるのであるから。

❖ 8 「グローバルな設問」とはどのような設問か

試みに、被験者が分類をした等級に、A:5, B:4, C:3, D:2, E:1 とポイントを与え、3者の平均を取り、その平均値が3を越える設問を「よりグローバルな設問」として取り出した。

以下は、その「よりグローバルな設問」が要求する解答は、文章の中でどのように振る舞っている語彙かを分類したものである。

1. 複数回、出現する語彙ではあるが、その中で初出の場合(問題1-13)
2. 初出ではないが、前回の出現がかなり離れた位置である場合(問題1-41)
3. そこにしか現れない語彙である場合。しかも、テキスト全体・ストーリー全体に対する書き手の評価や判断から推測する必要がある語彙である場合(問題1-52, 2-27, 2-34, 2-39)。
4. その他(問題1-6, 1-53, 2-11)

❖ 9. まとめ

今回行ったのは試行的な小規模の実験であるが、機械的に作成したテストであっても、かなり幅広い能力を測る設問になることがわかった。同時に、中国語の「構造の緩さ」から、解答のバリエーションをコントロールするのは難しそうであることもわかった。

参考文献

- Taylor, W L. 1953. "Cloze Procedure": A New Tool for Measuring Readability," *Journalism Quarterly* 30(Fall): 415-433.
- 佐藤史郎. 1988. 『クローズテストと英語教育』. 東京: 南雲堂.
- Klein-Braley, C. and U. Raatz. 1984. "A survey of research on the C-test1," *Language Testing* 1/2: 134-146.
- 刘颂浩. 1995. 「汉语等距离完形填空测试报告」. 『世界汉语教学』1995年第2期(总第32期): 85-93.

注

- [1] 『NAVER 中国語辞書』(<http://cndic.naver.jp/>) 内の「中国語分析ツール」

付録

今回の実験に使用した問題を以下に掲げる。太ゴシックで表示した語彙を空欄にした。

■問題 1 (2009 年度大学センター試験問題より)

(被験者 3 人の解答が完全に一致したのは 7、10、11、15、18、20、21、22、23、27、29、31、34、36、37、44、45、49、50、51)

很多父母都说，我要教这个孩子，要把这个孩子教出来。好像儿童的整个智力发展都必须依靠成人似的。……实际上，儿童的精神发展是依靠他们内在的理性独自进行的。尽管这种精神发展需要我们成人的帮助，但主要还得依靠他们自己。

儿童通过不断地活动来⁽¹⁾把他们内在的精神胚胎实体化。⁽²⁾比如说儿童眼前有个瓶子，⁽³⁾他内在的冲动告诉他：“去⁽⁴⁾抓瓶子。”然后他就走过来⁽⁵⁾开始抓这个瓶子，不断地⁽⁶⁾抓。在他反复活动的过程⁽⁷⁾中就把他内在的精神⁽⁸⁾胚胎要求他做的那件⁽⁹⁾事情实体化了。

再举一个⁽¹⁰⁾例子。一个小孩子拿来⁽¹¹⁾一个枕头，枕套上有花，⁽¹²⁾小孩子就问这朵花。⁽¹³⁾妈妈认为他很喜欢问东西，⁽¹⁴⁾于是就拿来了一大⁽¹⁵⁾堆东西让孩子问。这位⁽¹⁶⁾妈妈不了解儿童的心理，儿童⁽¹⁷⁾要问什么是受他内在⁽¹⁸⁾的理性冲动支配的。但她⁽¹⁹⁾匆匆拿来各种各样⁽²⁰⁾的东西说：“问这个！问⁽²¹⁾那个！”结果，儿童不知道该怎么⁽²²⁾怎么做才好。

其实我曾经⁽²³⁾也是这样的。每天早晨起⁽²⁴⁾来，我都要给我儿子⁽²⁵⁾说好多事情，我丈夫总⁽²⁶⁾说：“你安静点儿吧！让他⁽²⁷⁾自己思考吧！”后来我就尽量⁽²⁸⁾少说话了。有一天⁽²⁹⁾早晨，当我帮他穿好⁽³⁰⁾衣服，让他站起来的⁽³¹⁾时候，发现孩子在凝视着什么。⁽³²⁾我想：这孩子看什么呢？⁽³³⁾我顺着他的目光望⁽³⁴⁾去，看到早晨的阳光从⁽³⁵⁾玻璃窗射进来，照在一⁽³⁶⁾件粉红色的睡衣上，粉红色的⁽³⁷⁾睡衣又把光反射过去，⁽³⁸⁾那景色特别漂

亮。孩子在看，⁽³⁹⁾我不敢出声，我想，⁽⁴⁰⁾我不能破坏他这个⁽⁴¹⁾内在理性的自然组成的过程。⁽⁴²⁾过了一会儿，他不看了。⁽⁴³⁾我问：“你刚才是不是⁽⁴⁴⁾看到阳光照在妈妈的⁽⁴⁵⁾睡衣上特别漂亮？”我儿子⁽⁴⁶⁾点点头。但谁知道，那其中⁽⁴⁷⁾发生了什么事情呢？人们那⁽⁴⁸⁾诗意的感觉是怎样产生的⁽⁴⁹⁾呢？如果这个时候我废话⁽⁵⁰⁾一大堆，这个过程是⁽⁵¹⁾不是就不存在了？很⁽⁵²⁾显然，我们有些成人太喜欢⁽⁵³⁾说话了！

■問題 2 (2007 年度大学センター試験問題より)

(被験者 3 人の解答が完全に一致したのは 1、3、9、10、11、14、16、17、18、19、21、23、24、28、30、32、33、35、36)

十九世纪末，有一个少年做梦都想成为世界知名的小提琴演奏家。他从早到晚一有空就练小提琴，却几乎没有进步。连父母都觉得这个可怜的孩子拉得实在太差了，完全没有音乐才能。但他们又怕讲出真话会伤害少年的自尊心。

有一天，少年去见⁽¹⁾一位音乐家。音乐家说：孩子，你⁽²⁾先拉一支乐曲给我⁽³⁾听。少年拉了一支练习曲，⁽⁴⁾简直让人听不下去。⁽⁵⁾他拉完了以后，音乐家向⁽⁶⁾少年：你为什么特别喜欢拉小提琴？⁽⁷⁾少年说：我想成功，我想⁽⁸⁾成为一名伟大的小提琴演奏家。⁽⁹⁾音乐家又问道：你觉得拉⁽¹⁰⁾小提琴快乐吗？少年回答：我非常⁽¹¹⁾快乐。音乐家把少年带到自己⁽¹²⁾家的花园里，对他说：⁽¹³⁾孩子，你非常快乐，这说明你⁽¹⁴⁾已经成功了，又为什么非要⁽¹⁵⁾成为伟大的小提琴演奏家不可？⁽¹⁶⁾你看，世界上有两种⁽¹⁷⁾花，一种花能长出⁽¹⁸⁾果实，一种花不长果实。⁽¹⁹⁾不长果实的花也很⁽²⁰⁾美丽，比如蔷薇，又比如牡丹。它们⁽²¹⁾纯粹只是在阳光下快乐地⁽²²⁾开放，这就可以了。在我⁽²³⁾看来，快乐本身就是成功。

⁽²⁴⁾少年听了音乐家的话，反复⁽²⁵⁾思索后，完全明白过来。音乐家⁽²⁶⁾教给他的是一种⁽²⁷⁾人生哲学：快乐就是成功。小小⁽²⁸⁾的快乐也是一种成功，⁽²⁹⁾也能给人实实在在享受。⁽³⁰⁾如果放弃它，

就很可能使⁽³¹⁾人失望、消沉。少年从此冷静⁽³²⁾了。他仍然常拉小提琴，但⁽³³⁾不再被要做伟人的⁽³⁴⁾梦想困惑了。这位少年是⁽³⁵⁾谁呢？他就是后来成

为⁽³⁶⁾世界著名物理学家的爱因斯坦。他一生⁽³⁷⁾都喜欢拉小提琴，虽然始终没有⁽³⁸⁾什么进步，但是自己却一直很⁽³⁹⁾满足。

レビュー & リソース情報

2011年度のレビューをお届けする。

今年度のレビューの採り上げた数は少ないものの、各項目については、オペレーティングシステムやMicrosoft Officeの次期バージョン、さらには人文系や中国学で定番となっているハードウェアやソフトウェアの最新版を採り上げるなど、むしろ厳選したものとなっている。

「ハードウェア」の項では、CASIOとCANONの中国語電子辞書の最新機種と比較記事と、電子書籍端末の比較記事を採り上げている。購入を検討されている読者諸賢に何か得るところがあれば幸甚。

「ソフトウェア」の項で注目すべきは、やはりWindows 8 & Office 2013がUnicodeのVS (Variation Selector) に本格的に対応する点だろう。一般的な関心は低いかもしれないが、多漢字の面から見た場合、これは大きな変化と言える。

「学術リソース」では、ハングルを利用している関係上、これまでなじみが薄かった大韓共和国の人文学関連のWebサイトを採り上げた。併せて参照していただきたい。

「学術ソフト・製品」としては、愛如生の大型データベース三点を採り上げた。これらの大型データベースは、導入時のコスト面の問題があるものの、やはりその利便性は無視しえない。研究機関の将来プランとして、このような環境を充実させるか否かが問われる時代がすでに到来しているのだ。

Contents

ハードウェア	中国語電子辞書レビュー 2012 — カシオ EX-word XD-7300 とキヤノン wordtank Z900 —清原 文代 184	184
	電子書籍端末.....田邊 鉄 188	188
ソフトウェア	Windows8.....上地 宏一 194	194
	Microsoft Office 2012.....上地 宏一 196	196
	OS X Mountain Lion.....上地 宏一 197	197
	一太郎 2012 承 & ATOK2012.....山田 崇仁 199	199
	Chinese Writer 10.....金子 真也 202	202
学術リソース	韓国の人文学学術情報系ウェブサイトについて.....篠原 啓方 205	205
学術ソフト・製品	愛如生『申報』『方志庫』『宝巻』データベースについて.....二階堂善弘 213	213

❖ハードウェア

中国語電子辞書レビュー2012 —カシオEX-word XD-7300と キヤノンwordtank Z900—

清原文代

❖ 1.はじめに

本稿では中国語電子辞書の2012年モデルを2機種取り上げる。すなわち、カシオのEX-word XD-7300^[1]とキヤノンのwordtank Z900^[2]である。以下、メーカー名を以て上記2機種を呼ぶものとする。

❖ 2.中国語コンテンツ^[3]

カシオ、キヤノンとも英語辞書や国語辞書など多数のコンテンツを搭載しているが、ここでは特に中国語に関するものを取り上げる。

辞書名	音声	出版社
中日大辞典 増訂第二版		愛知大学・大修館書店
中日辞典 第2版	♪	小学館
日中辞典 第2版		小学館
中日辞典 新語・情報篇		小学館
中国語 新語ビジネス用語辞典 Ver.2.3		大修館書店
オールカラー中国語生活図解辞典	♪	小学館
日中パソコン用語辞典	♪	日経 BP 社
日中英・電子技術用語対訳集 第2版		日経 BP 社、書籍版なし
日中英固有有名詞辞典		日中韓辞典研究所、書籍版無し
現代漢語大詞典		上海辞書出版社
漢英大詞典第三版		上海訳文出版社
英漢大詞典		上海訳文出版社

■ 2.1 カシオ — コンテンツの量で勝負

カシオは辞書の数で勝負、収録語数で勝負といったラインナップである。特に中中、中英、英中といったある一定レベル以上の学習者が使用する辞書も収録語数の多いものを採用している。前年度のモデルから新たに加わったものは『中国語生活図解辞典』である。この辞書は紙版でも Windows パソコン用 CD-ROM 付きで発売されているが、画面をタップして操作できる電子辞書に向けたコンテンツだ。『中日大辞典』は2010年に第三版が出ているが、搭載されているのは一つ前の版である。出版社側の意向もあるだろうが、最新版が欲しいところだ。

本機種で初めて収録されたわけではないが、中国語の方言を取り上げているのが目を引く。方言の音声もついていて、教室で学ぶ共通語である“普通話”以外の中国語の多様な姿を耳で聞くこともできる。実は

コンテンツ名	音声	出版社
ひとり歩きの会話集 中国語	♪	JTB パブリッシング
ひとり歩きの会話集 台湾編	♪	JTB パブリッシング
旅の指さし会話帳 中国語	♪	情報センター出版局
はじめての上海語	♪	明日香出版社
はじめての台湾語	♪	明日香出版社
はじめての広東語	♪	明日香出版社
Dr.PASSPORT 日本語→中国語版	♪	マイス
文法中心 ゼロから始める中国語	♪	三修社
ピンイントレーナー		大修館書店、書籍版無し

キヤノンも2つ前の機種（V903）では同じものを収録していたのだが、現行機種の一つ前の機種（V923）からは収録していない。それと入れ替わるようにカシオが収録を始めた。学習コンテンツはキヤノンに比べればごくあっさりとした感じだ。

■ 2.2 キヤノン — 中国語教師垂涎、小学館と講談社を両方搭載

『中日大辞典』（カシオと同様の一つ前の版）、最近第6版が出版されたため二つ前の版になってしまったが現代中国語の代表的な辞書である『現代漢語詞典』、『現代漢語八百詞（増訂本）』の日本語版である『中国語文法用例辞典』が収録されているなど、キヤノンの辞書ラインナップは中国語教師のツボを突く。特に今

回従来から収録されていた講談社の中日・日中に加え、小学館の中日・日中が収録されたのが大きい。代表的な中型中日・日中辞典であるこの2種が入っているのは現在のところこの機種だけである。

会話集が充実しているカシオに対して、キヤノンは会話集は1冊のみで、中検対策用の単語集として定評のある『キクタン中国語』など学習コンテンツに力を入れている。

❖ 3. 検索機能

■ 3.1 カシオ — 中国語による複数辞書の見出し語検索がようやく可能に

紙の辞書にはできない電子辞書ならではの機能としては複数辞書の串刺し検索がある。今回特筆すべきはカシオが中国語による串刺し検索に対応したことである。中国向けモデルでは以前から対応していたが、日本向けモデルでは本機種でようやく対応した。「かんたんサーチ」というモードで中国語ピンインと中国語漢字による複数辞書の見出し語検索が可能だ。

複数辞書の見出し語検索の検索結果は横に二分割された画面で表示され、左側には辞書名の略号と見出し語が、右側には選択した語の語釈の冒頭部分が表示され、検索結果を概観しやすい。

但し、例文検索は相変わらず英語のみである。カシオは収録語数の多い中国語辞書を搭載しているのに、中国語による例文検索はできないのは残念だ。

■ 3.2 キヤノン — 個々の辞書の全文検索を実現するも、一部機能の削除も

キヤノンは以前から中国語による複数辞書検索に対応していた。今回の機種ももちろん中国語ピンインと中国語漢字による複数辞書の見出し語検索ができる。電子辞書の複数辞書検索は辞書のみを対象にし、会話集や学習コンテンツは対象外とされることが一般的だが、本機種では辞書に加え、会話集や学習コンテンツ（『キクタン中国語』）まで複数辞書検索の対象になっている。更に、個々の辞書の検索機能では従来からあった and 検索もできる例文検索に加え、本機種では語釈や訳文も含めた全文検索も実現しており、検索機能を強化して電子辞書に入っているコンテンツを隅々まで検索できるようにしようというキヤノンの強い意志がうかがえる。複数コンテンツの寄せ集めではなく、

辞書名	音声	出版社
中日大辞典 増訂第二版		愛知大学・大修館書店
中日辞典 第三版	♪	講談社
日中辞典		講談社
中日辞典 第2版	♪	小学館
日中辞典 第2版		小学館
中日辞典 新語・情報篇		小学館
中国語 新語ビジネス用語辞典 ver.2.3		大修館書店
現代中国語新語辞典		講談社
中国語類義語活用辞典		講談社、書籍版無し
中国語文法用例辞典		東方書店
日中パソコン用語辞典 改訂三版	♪	日経 BP 社
日本の文化とときたり事典 日中対訳版		講談社、書籍版無し
現代漢語詞典 第4版 2002年増補本		商務印書館
オックスフォード英中・中英辞典 第4版 ポケット版		オックスフォード大学出版社

コンテンツ名	音声	出版社
旅の指さし会話帳 中国	♪	情報センター出版局
キクタン中国語 中検3級レベル	♪	アルク
キクタン中国語 中検4級レベル	♪	アルク
キクタン中国語 中検準4級レベル	♪	アルク
出題形式で学ぶゼロから始めて中国語検定準4級に合格するための本	♪	アルク

電子辞書全体を一つのコンテンツとして提供しようとしている姿勢には好感が持てる。

ただ、前機種（V923）では中国語による複数辞書の例文検索も可能だったが、今回の機種では複数辞書検索は見出し語のみになっている。例文検索は本機種でも個々の辞書の検索機能において可能であるが、例えば“就”の用例を複数の中国語辞書から一気に拾うといった、中国語教師にとってはありがたい機能が使えなくなったのは痛い。

また、複数辞書検索の結果表示は、前機種（V923）ではカシオと同様に見出し語の一覧と語釈の冒頭の2分割画面で表示していたが、本機種では辞書ごとに分かれたタブをタップして見ていく形に変更された。検索語を含まない辞書のタブも常に表示されており、実際に一タタブしていかねければ、その辞書に検索語が含まれているかどうかわからず不便だ。更に手書き入力をOFFにしないと、変換ウィンドウが邪魔で端にある辞書のタブをタップできない。本機種から筐体のデザインが大幅に変わり、液晶が一回り小さくなり横長になったが、それが災いしているように思われてならない。

❖ 4. ワイルドカード検索

■ 4.1 カシオ — ワイルドカード検索はピンインのみ

綴りの一部分を不明なまま検索できるワイルドカード検索も電子辞書ならではの機能である。綴りがうろおぼえの時や、聞き取りをしていて単語の一部が聞き取れない時などに便利だ。カシオのワイルドカード検索はピンインのみが対象で、漢字単位のワイルドカード検索はできない。また、ワイルドカード検索が使えするのは個々の辞書の見出し語検索だけで、「かんたんサーチ」（複数辞書の見出し語検索）では使えない。

■ 4.2 キヤノン — ピンインに加え漢字単位のワイルドカード検索も可能

キヤノンのワイルドカード検索はピンインの任意のアルファベットだけでなく、漢字単位でも可能であるのが便利だ。但し、一つ前の機種（V923）では個々の辞書の見出し語検索でも複数辞書検索の見出し語検索でもワイルドカード検索が使えたが、本機種では個々の辞書の見出し語検索でしか使えなくなっている。

❖ 5. 発音機能

■ 5.1 カシオ — 音質にはやや疑問符が

紙と違って音が出ることは、電子辞書の特長としてまず挙げられる機能である。カシオは従来から人間の実際の声とTTS（テキスト音声合成）の二本立てで、TTSの読み間違いも考慮して、人間の声なのか読み上げであるのかを表示しており親切だ。但し、両方とも音質はお世辞にも良いとは言えず、本体のスピーカーはもとより、イヤホンで聞いても音の割れが気になる。

■ 5.2 キヤノン — 自分の声を録音して模範発音と比較、TTSを新たに搭載したが調整不足

キヤノンは従来から人間の声のあるコンテンツでは学習者が自分の声を録音し、模範音声と比べる機能があり、この機能は本機種でも健在で、初学者の発音習得の助けとなるだろう。

今回人間の声に加え、新たにTTSを搭載した。TTSのおかげで例文など人間の声が収録されていないところも読み上げることができるようになったのだが、辞書の例文で見出し語を〜で代替している部分に見出し語を入れて読み上げることができない。カシオのTTSでは実現されている機能なので、次期機種ではぜひ対応して欲しいところだ。

❖ 6. 外部コンテンツの導入

ここで言う外部コンテンツとはメーカーが別売する辞書カードなどのコンテンツカードではなく、使用者が追加するテキストや音声指す。

■ 6.1 カシオ — 専用ソフト経由で転送

テキストファイルと音声ファイルを専用ソフト^[4]（Windows用）を通じてパソコンから辞書本体のメモリあるいは別売のMicroSDカード（16GBのカードまで使用可能）に転送する。転送ソフトのテキストローダーはUnicode（UTF-16）で書かれたテキストファイルをGB（中国語）、Shift_JIS（日本語・英語）、KSC（韓国語）に変換して転送する機能を備えており、中国語で書かれたテキストファイルにも対応するが、ファイル名については簡体字に対応していない。転送できるテキストファイルはMicroSDカードと本体メモリに

それぞれ 200 個まで、テキストファイル 1 つ当たりの大きさは 5MB までという制限がある。転送したテキストファイルは辞書引きをしたり、TTS で読み上げることができる。音声ローダーは CD をリッピングして転送するが、既存の MP3 ファイルを直接転送することはできない。

■ 6.2 キヤノン — 自分で転送

別売の MicroSD カード (16GB まで使用可能) にテキストファイル、音声ファイル、動画ファイルを転送することができる。転送ソフトはなく、ユーザー自身が MicroSD カードの指定されたディレクトリに、対応する形式のファイルをパソコンを通じてコピーする形で、ユーザーは一定のスキルを要求される。1 枚の MicroSD カードに作れるフォルダは 100 個まで、1 フォルダ当たり 100 個までのファイルを転送できる。テキストファイルの文字コードは Unicode (UTF-8)、音声ファイルは MP3 または WAV、動画ファイルは MP4 または M4V に対応している。テキストファイルは中国語にも対応しており、簡体字によるファイル名も OK だ。TTS による読み上げもできる。但し、前機種では可能であったテキストファイルの辞書引きはできなくなっている。その代わりにテキストファイルの編集が可能になっている。

◇ 7. まとめにかえて — IC 電子辞書はどこへ行く？

私はこれまで電子辞書に関するレビューや論考をいくつか書いてきたが^[5]、今回 2 機種のレビューを書きながら、私の脳裏には常にもう一つの比較対象が浮かんでいた。すなわちスマートフォンやタブレット PC で使用する電子辞書アプリである。小学館の『中日・日中辞典』、『中国語生活図解辞典』、上海辞書出版社の『現代漢語大詞典』は iOS 版があり、率直に言えば iOS 版の方が使いやすいと感じる。また NAVER 中国語辞書のように検索にネット接続は必須であるものの、無料のアプリもある。今回取り上げた 2 機種の液晶は電子辞書としては特に悪いとは言えないが、スマートフォンの高精細な液晶に慣れてしまうと見劣りがする。キヤノンは検索がややもたつくことがあるが、これもスマートフォンの辞書アプリを知る前ならもっと寛容

になれただろう。

ワープロ専用機からパソコンのワープロソフトへ、カーナビからスマートフォンの地図アプリへとといった具合に、専用機から汎用機への流れが存在することを考えると、電子辞書も曲がり角にさしかかっていると見える。常時携帯する端末はやがて一つに収斂していく傾向がある。もちろんアプリタイプの電子辞書にも複数の辞書アプリに対する串刺し検索が難しいといった弱点はあるものの、とりあえず辞書が 1 冊引ければよいというユーザーは今後もスマートフォンに加えて単体の筐体を持つ電子辞書を買いつけるだろうか？電子辞書が生き残る道として、カシオのようにコンテンツを充実させる、キヤノンのように全文検索機能を提供するといった方向性の他に、辞書付きの電子教科書端末として生き残る道があると私は考えている^[6]。中国語ではないが、その方向に進みつつあるように見える電子辞書がシャープから最近発売された^[7]。中国語電子辞書もそちらへ向かうのか？それとも別の道か？“電子辞書オタク”として、そして中国語デジタル教材の制作者として今後もウォッチしていかねばなるまい。

注

- [1] <http://casio.jp/exword/products/XD-D7300/>
- [2] <http://cweb.canon.jp/wordtank/lineup/wordtank/china/z900/>
- [3] 書名の後ろに♪があるものは、中国語音声 (人間の声) がついているもの。書名の網掛けは 2 機種に共通するコンテンツ。
- [4] <http://support.casio.jp/download.php?cid=003&pid=288>
- [5] 清原文代「中国語電子辞書機能比較」(山崎直樹・遠藤雅裕編『辞書のチカラ 中国語紙辞書電子辞書の現在』、pp.149-178、好文出版、2005 年)
清原文代「電子辞書を使う、電子辞書で遊ぶ、電子辞書で学ぶ — 中国語電子辞書活用法」(愛知大学現代中国学会編『中国 21』vol.32、pp.51-70、東方書店、2009 年)
- [6] <http://qingyuan.tumblr.com/post/16793733333>
<http://qingyuan.tumblr.com/post/29529315081/2>
- [7] <http://www.sharp.co.jp/edictionary/lineup/pw-gx500/>

電子書籍端末

田邊 鉄

❖ はじめに

本稿ではまず、電子書籍端末の動向を、液晶タッチパネル搭載端末と、E INK 使用端末とに分けて概観する。その後、E INK 使用端末の使用感、電子書籍端末の多漢字対応について述べる。

❖ 液晶タッチパネル系端末の動向

汎用型の液晶タッチパネル搭載端末が元気だ。東芝やソニー、Acer、ASUS その他各社の Android タブレットが出揃ったのに加え、通販サイトでは、いわゆる「中華タブレット」が1万円を切る価格で販売されており、充電電池の持続時間が短いことを除けば、十分実用だ。もともとタブレット端末向けのコンテンツは、最新のパソコンに比べて、かなり性能の低い端末でも再生できるように調整されているので、オンラインメディアプレーヤーとして割り切って使うなら、高価な端末を買う必要はないかもしれない。

一方、電子書籍プラットフォームとしての機能を前面に押し出した液晶タッチパネル端末も登場している。東芝 BookPlace DB50 やパナソニック UT-PB1 などだ。汎用タブレットも発売している両社が、あえて電子書籍「専用」端末を出してきた理由として、ともに電子書籍分野の成長と、汎用タブレットへの橋渡し、という二点をあげ、市場としては最終的には汎用タブレットが割合としては大きくなる、という見通しを示している。

また、執筆時点（8月下旬）では予告に過ぎないが、Amazon の電子書籍端末 Kindle の日本発売が、ようやく決まった。新 Kindle Fire を含む Kindle の新ラインナップも発表され、日本でも「E Ink を用いた書籍特化型」だけでなく、Fire のような「読書機能を組み込んだ Android 端末」が同時展開されるのは確実とみられる。

東芝とパナソニックの液晶タッチパネル搭載電子書籍端末の売り上げについては、芳しい噂は聞かない。もともと汎用のタブレットをベースにして、ソフトや

サービスを追加しているだけだと考えれば、徐々に汎用タブレットと統合されていくものと思われる。

❖ Apple の狙いは電子教科書か

相変わらず、新製品についての情報は噂レベルしか伝わってこない Apple だが、消息筋によると iPad の7インチ版の発売は既定路線であり、「挑戦的な価格設定になるだろう」という。一方、Apple の7インチタブレットは、予想される iPad-mini ではなく、iBooks Player のような、機能が限定された廉価版タブレットでは、という観測も流れている。その背景には、Apple が今後目指すのは、教育現場に大量一括導入される、電子教科書端末だろう、という推測がある。

今年初めに、Apple は電子教科書事業への参入を正式に表明し、インタラクティブな教科書を利用できる新しい電子書籍プラットフォームである iBooks2 を、また、教師が簡単に電子教科書を作成できる iBooks Author を相次いでリリースした。また、本誌今号に掲載された氷野氏のレポートに詳しいが、iTunes U が大幅にグレードアップしている。今後は大学だけではなく、初等・中等教育までを対象とすることがアナウンスされており、「Apple は本気で単一の巨大企業による世界的な教育改革をやるつもりらしい」と、いわゆる「プラットフォーム問題」に対するのと同じ警告を発する向きもある。昨今の電子教科書に対する Apple の並々ならぬ執着を見ていると、必ずしも冗談ごととは言い切れないところが恐ろしい。

日本でもようやく電子教科書について、導入に向けたプログラムが示された。未だタブレット端末分野では力のある Apple が、教科書端末と配信システムを提供するとなれば、電子教科書の普及は一気に進むことが予想される。9月～10月に相次いで発表されると見られる、Apple 新端末の出来とともに注目したい。

❖ 楽天 Kobo はどこに行くのか

E Ink を使用する専用端末は、液晶タッチパネル搭載汎用タブレットの低価格化で、苦戦を強いられてい

る。実際に SONY Reader を利用しているユーザの口コミを見ていると、総じて満足度は高く、目に優しい、電池が長持ちする、といった肯定的な評価が多い。だが、スマートフォン全盛の時代に、「読書のためだけに余分にガジェットを持つ」のは、鞆にも財布にも環境にも優しくないことも事実だ。E INK 端末は、いつも文庫本を持ち歩いているような、池澤夏樹流に言えば「読書癖」のある人が、「読んでも読んでも本がなくならない」安心を得る、というニッチなニーズを満たすガジェットなのかもしれない。

そんな中、今年初めにカナダの電子書籍大手 Kobo Inc を子会社化した楽天が、E INK 端末 Kobo Touch を発売、楽天 kobo イーブックストアのサービスを開始した。

楽天はこれまで、電子書籍販売サービス Raboo を運営し、Panasonic や SONY の端末にコンテンツを提供している。楽天によれば、Kobo は当面 Raboo ではなく Kobo 独自のプラットフォームを通してコンテンツを提供するが、長期的には統合する計画だという。Raboo 運用開始時に、楽天は以下のような目標を掲げている。

< 楽天が目指すこと >

- OS やメーカーの違いに関係なく、どんな電子書籍ストアから購入しても、どんな電子書籍端末からも読める。
- 電子書籍を、どこで購入したかに関わらずお客様が管理できる。
- リアル書店、ネット書店、電子書籍ストアでの人気の本がひと目で分かるような情報をお見せする。

電子書籍端末の黎明期からライバル関係にある Panasonic と SONY、Kinoppy でマルチデバイスにコンテンツ提供している紀伊國屋書店が、楽天の販売力の大きさを基盤にして手を組み、プラットフォームやコンテンツ販売者の違いにとらわれない形で、日本の電子書籍普及を進めようとするのは、楽天にしかできない電子書籍振興策であり、大方の歓迎をもって受け入れられたはずだ。にもかかわらず、協力企業と競合する電子書籍端末を発売し、サービスも複雑化するのは解せない。Kobo が日本語書籍に EPUB3 を採用していることから統合するのは技術的に難し

かったのかもしれないが、それにしても「(EPUB3 採用で) 書籍点数はすぐに先行各社に追いつき追い越せる」、「Koboこそが本当の書籍改革だ」とぶち上げた楽天・三木谷社長が、電子書籍ビジネスの将来について、本当に明確なビジョンを持っていたかどうかは、いささか疑わしい。サービス開始直後のシステムトラブル、なかなか増えない書籍点数などを見ていると、当面困難な状況が続くのではないか。

ただ、ハードについて言えば、後述するように多漢字プレーヤーとして、高い潜在能力を持っていると思われるので、楽天のネットサービスが破綻しないことを祈りたい。

❖ 電子書籍端末の使用感

ここでは、主として E INK 端末 SONY Reader PRS-T1 と Kobo Touch を紹介する。

■ 価格

本稿執筆中に、SONY が Reader の新機種 PRS-T2 を9月中旬に発売する、という発表があった。SONY ストアでの予価は 9,980 円。また、旧機種 T1 を 8,980 円、5 インチモデルの PRS-350 を 7,980 円で販売している。もともと 16,000 円～18,000 円程度で売られていたから、およそ半額になっている計算だ。

これは直接的には 7,980 円という「挑戦的」な値付けの Kobo に対抗するためであろう。また、日本発売が決まった Kindle など、後発組を権勢する狙いもあろう。

PRS-T2 は今のところ Kobo にしかない Facebook 連携機能に加え、Evernote へのクリッピングに対応したり、弱点だった白黒反転を軽減する技術を搭載したり、と、あからさまな「競合製品潰し」になっている。以下は PRS-T1 に基づく情報なので、新機種と異なる点があることをお断りしておく。

図 1：左から Kindle2, Reader, Kobo, iPad2



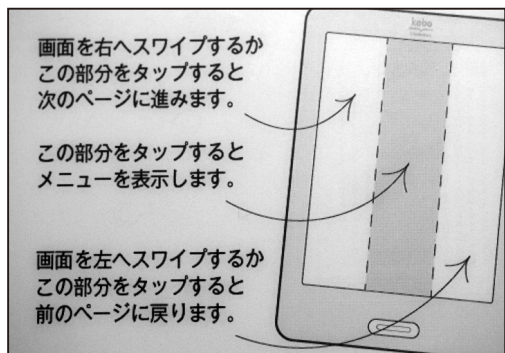


図2：Koboのマニュアル

■ 外観

図1は、SONY Reader PRS-T1 と Kobo Touch、比較のために、Kindle2 と iPad を並べてみたところである。大きさは、横は Kobo が 5 ミリほど長く、縦は Reader が 1 センチほど長い。重さは、15 グラムほど Reader が軽い。大きさも重さもほとんど同じだが、縁を薄くし、曲線をうまくつけたデザインのおかげか、Reader の方が、実際の重量差以上に軽く感じる。

■ E INK 画面

E INK は性質上、液晶のように「瞬時の書き換え」というわけにはいかない。白黒反転して書き換えられる過程が目に見えるという、もたつき感が気になる人は結構多いだろう。後発の Kobo では、相当改善されている。ほとんど同じ 2 ページを作って試すと、「違っているところだけが書き換わる」感覚である。一方、Reader は画面書き換えの際に相当派手に白黒反転が見える。筆者はそれほど気にならずに読書しているが、ストレスを感じる人もいるかもしれない。明るい室内での視認性はどちらの端末も非常に高い。

表1：搭載辞書一覧

辞書の種類	Reader	kobo
日本語	大辞林第3版	国語辞典
英語	ジーニアス英和辞典第4版 New Oxford American Dictionary Second Edition	英英辞典
その他		仏仏辞典 独独辞典

■ 操作

両機種とも、画面タッチによる操作が可能だ。

Reader はピンチ操作による拡大・縮小が可能。ただ E INK のタッチディスプレイは追従性が低いので、iPad などでのピンチ操作ほど快適ではないし、目当ての大きさでぴたりと止めることは難しい。選択の決め手となるほどの機能とは言えない。

Reader で特筆すべきは、ページ送りのためにハードウェアボタンがついていることだ。タッチ操作は直観的で便利だが、触れてから反応するまでに時間がある E INK のタッチディスプレイでは、ちゃんと触れたかどうかわかりにくいことがある。つい二度タップしまつてページを連続で送ってしまう、というミスは、タッチ操作のできる E INK 端末を持っていれば必ず経験するだろう。その点、クリック感のあるハードウェアボタンならば、誤操作は激減する。

Reader に比べて、Kobo のタッチディスプレイは、やや反応が鈍く感じられるが、これはタッチセンサの問題なのか、処理が遅くて反応していないように見えるだけなのかは不明だ。いずれにせよ、読書をする上ではストレスになるので、改善が望まれる。

なお、Kobo 本体に収録されている操作マニュアルには問題がある。図2のように、ページ送りの際の手を「右にスワイプ」、「この部分をタップ」と示してあるが、この操作の通りにページが送られるのは縦書きの書籍に限られる。日本の文芸書等は、おおむね縦書きなので、完全な間違いとは言えないが、操作マニュアル自体が横書きなので、マニュアル通りに操作すると前のページに戻ってしまう。

■ 辞書等

それぞれ、表1のような辞書を搭載している。Kobo に英和辞典が含まれないのは残念だが、辞書データを入れ替える Hack^[1] が紹介されており、データコンバータさえ用意できれば、どんな辞書でも載せられそうだ。たとえば、Wikipedia や英辞郎などを入れることができれば重宝するだろう。フランス語辞書・ドイツ語辞書が目玉だが、これらも日本語はついていない。

Reader で英語辞書が 2 冊入っているのはポイントが高い。ただし、日本の Reader Store では洋書が購入できず、アメリカの Reader Store で購入した本を

読むこともできない¹²⁾。英語多読マシンとして使うつもりなら、ゲーテンベルグプロジェクトなどから、EPUB形式のファイルをダウンロードするのがいいだろう。

辞書引きの操作は、調べたい語を長押しするか、指でなぞって選択して行う(図3)。

Readerは、長押しすると、おおよそ語単位で白黒反転する。その後、表示されるバンドで反転部分(選択された範囲)を調整する。選択すると直ちに辞書引き結果が画面下部に表示される。図は「パトラッシュ」を選択しているが、該当語がない場合、近い語(図では「パトカー」)を表示する。選択箇所付近には、ハイライト・メモの作成・検索・Wikipedia・Googleの5つのボタンが表示される。ハイライトとメモは、あとから読み返したい箇所に目印をつけておくもので、ページ単位で目印をつけるブックマーク機能も合わせると、3種類のマーク付け手段があることになる。メモはテキストメモと、手書きメモがある。メモやハイライト、ブックマークはまとめて、また、個別に一覧することができる。WikipediaやGoogleボタンをタップすると、選択されている語をオンラインのサービスで検索することができる。

Koboでは、長押しするとその場に辞書ウィンドウが表示され、おおよそ1語の意味が表示される。英語ならいいが、日本語では「てにをは」だけが選択されてしまうことが多かった。Koboは該当部分をなぞることで選択できるので、その方がやりやすいだろう。なぞって選択すると、傍線(横書きの場合は下線)が引かれる。その後、画面下部に表示されている辞書ボタンをタップすると辞書が表示される。国語辞典については、語彙数が少なすぎる印象だ。

画面下部には、Readerと同じく、ハイライトやメモのボタンが表示される。メニューから一覧できることも変わらない。WikipediaやGoogle検索のボタンはないが、Facebookのアイコンがある。これはKoboの目玉のひとつ、Reading Life機能のためのボタンだ。ここをタップすることによって、読書中の本を、コメント付きでシェアすることができる。読書を「ごく個人的な営為」と考える人々には、読書歴を共有することに対して抵抗があるかもしれない。一方、人文系研究者にとっては、「ちゃんと仕事しているよ」「カレントアウェアネスに気を配っているよ」という、一種の業績公開システムと考えることもできるかもしれない。

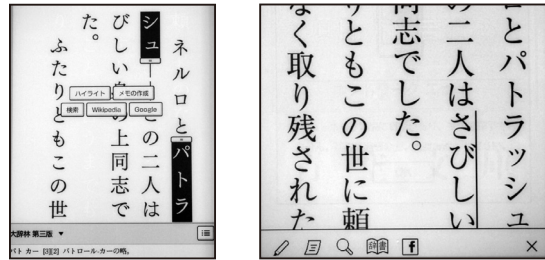


図3：辞書引き操作

❖ 漢文を表示させてみる

Koboで多漢字表示を試みる時のお約束として、フォントの設定がある。

Koboでネットから落としたEPUBファイルや、自作のファイルを表示しようとすると、図4のように豆腐(□)ばかりが表示されて、面食らうことがある。

ここで「Koboは漢字が表示できないんだっ!」と早合点してはいけない。画面の中央をタップするとメニューが表示される(図5)。

図4：「豆腐」だらけ

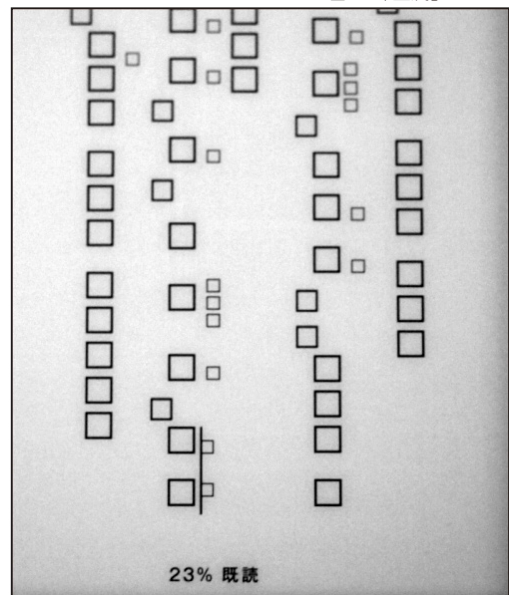
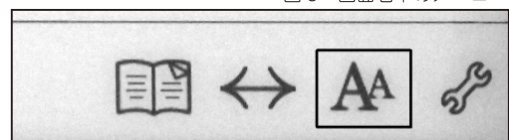


図5：画面右下のメニュー



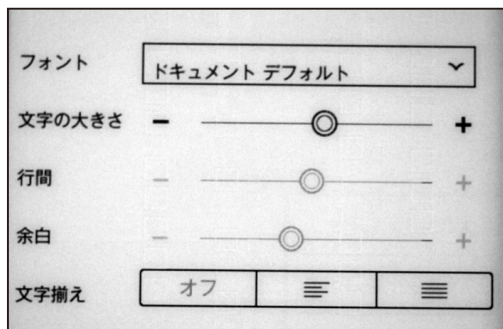


図6：表示設定

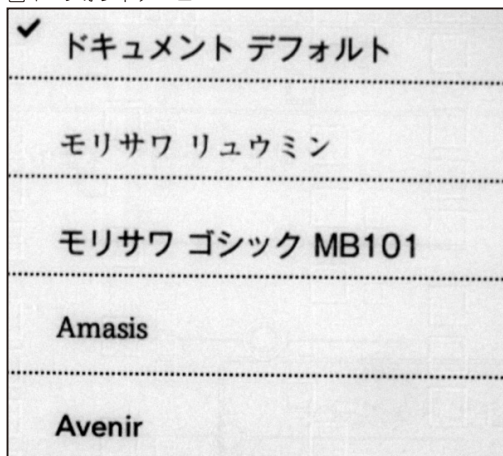
この中の、Aが二つ重なったアイコンをタップすると、フォントの種類や大きさを設定するダイアログが現れる(図6)。行間・余白・文字揃えも設定できるのかと思ったら、これらは日本語版では無効にされているようだ。

ここで「ドキュメント デフォルト」と表示されているところをタップし、フォントメニューを表示させる(図7)。

このうち、モリサワ リュウミンを選べば、さしあたり、漢字表示に関しては一番の性能を発揮する(次ページ図8)。

よく見ると、画面の右端ギリギリまで文字が表示されていて見づらい。なぜか漢文のファイルは漢字が右に寄って表示されてしまう。それに合わせて送り仮名・ふり仮名も右にずれるので、文字が重なったりはしないが、端の文字がよみにくくなってしまふ。比較的知られた解決方法らしいが、ファイル名を〇〇.epubから〇〇.kepub.epubと書きなおすことによって解消し

図7：フォントメニュー



た(次ページ図9)。

準備がすんだところで、ReaderとKoboで漢文のEPUBファイルを表示させてみる(図9)。

書体の違いは措くとしても、Koboの方が、なんとなく文字間隔が整って見えるように感じられる。ただ、上述の端が切れる問題を解消したため、やや返り点が右すぎるようだ。行間や行頭行末は比較的揃っているように感じる。調整を加えれば、Koboではより美しく漢文を表示できるようになるのではないかと

❖ 多漢字表示実験

Reader、Kobo上で、複数のカテゴリの漢字を表示させてみた。次の表は、中国語の簡体字・繁体字・Unicodeの拡張A・拡張B、IVS使用異体字を読み込ませ、表示できるかどうか判定したものである。拡張C・Dについては、表示できるデバイスがなかったので割愛した。

また、これら二つのデバイスに加え、iPad上のiBooksおよびbReaderでの結果も示す。

以上の結果は、あくまでも「文字が単独で表示できたかどうか」である。Readerなどで、特定のシーケンスに対して不具合が生じる例も報告されており、それぞれのデバイスの得手不得手を判定するには、もう少し厳密な検証を必要とするが、今回は紙数の関係で、これ以上の検証は行わない。

iPadはWeb閲覧やOffice文書の編集など、パソコン的な使われ方もするデバイスなので、iBooksの中国語表示への対応は当然といっていいかもしれない。その一方、IVSはサポートしていない。iPadでIVSによる異体字を表示するためには、今のところ、青空文庫リーダーであるbReaderが、ほとんど唯一の選択肢である。

ReaderやKoboは中国語が弱い。繁体字は一部表示できているが、簡体字は全滅に近い。Reader Storeには中国語教材「やさしい中国語 カタコト会話集」という教材や、NHKテレビ/ラジオ中国語講座のテキストを配信しているが、一般的な「自炊本」のように、文字は画像として扱われている。学校教科書が電子書籍化するとして、「ばらばらめくり」が難しい電子書籍であってみれば、検索ぐらいはしたいし、また、教科書であればラインぐらい引きたい、と思うのが人情であろう。電子書籍専用機にも、多言語環境を用意

表2：表中△は、同じ漢字が表示され異体字セレクタが無視されたケース

	Reader	Kobo	iBooks	bReader
中国語簡体字				
东	×	×	○	×
刘	×	○	○	○
庆	×	×	○	×
龙	×	×	○	×
赵	×	×	○	×
中国語繁体字				
啟	×	×	○	×
吳	×	○	○	○
悅	○	○	○	○
眾	×	○	○	○
黃	○	○	○	○
拡張 A				
鰮	×	×	○	×
挾	×	×	○	×
鱗	×	×	○	×
麀	×	×	○	×
取	×	×	○	×
拡張 B				
悉	×	×	○	×
躄	×	×	×	×
曠	×	×	○	×
段	×	×	×	×
獮	×	×	×	×
IVD				
辻	○	△	△	○
辻				
葛	○	△	△	○
葛				
祇	○	△	△	○
祇				

してほしいものだ。

異体字関係では、サロゲートペアにも対応している Reader が、今のところ一歩リードしている。Kobo は今後の展開に期待、というところであろうか。

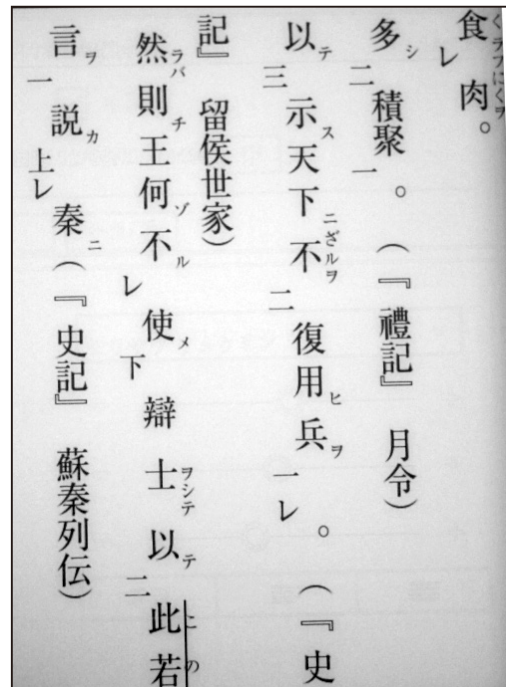


図8：「豆腐」の解消

注

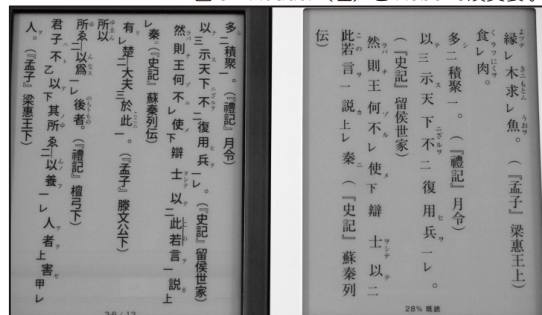
[1] <http://petit-noise.net/blog/20120808/kobo-touch%E3%88%A7%E8%8B%B1%E5%92%8C%E8%BE%9E%E6%9B%B8>

ただし、kobo Touch のシステムをアップデートすると使えない。

[2] 特別な方法で可能になる、という報告もある。日本のクレジットカードは使えないので、アメリカの Reader Store で使えるギフトカード等が必要。

<http://sonyreader.d-reader.org/readerlibrary.html>

図9：Reader (左) と Kobo で漢文表示



◆ソフトウェア

Windows 8

上地 宏一

◆ 10月下旬販売開始（予定）

冒頭からこのようなことは書きたくないが、せっかく Windows 7 に慣れてきたのに、もう次のバージョンか、というのが筆者の正直な印象である。ともあ

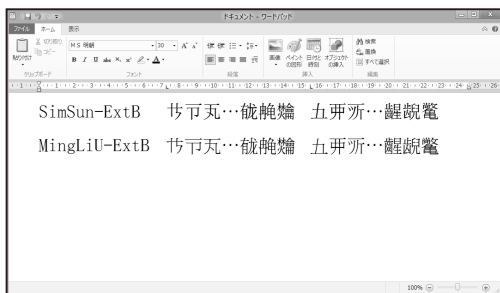


図 1: Ext.C および D の集合開始部分および終了部分の 3 字

図 2: ワードパッドで IVS を表示

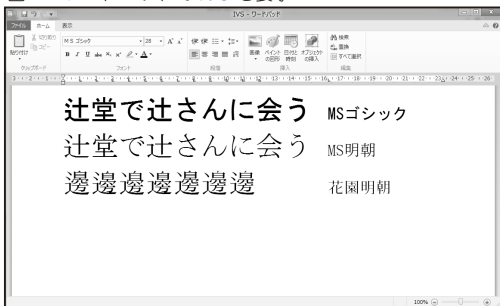


図 3: IE10 で IVS を表示



れ、iPhone、iPad や Android といったスマートフォン、タブレットの操作に対応したユーザーインターフェイスを取り込んだ意欲的な OS が Windows 8 である。本稿はその「Release Preview」版を評価した結果を記事としてまとめたものである。漢情研的には収録フォント更新と IVS 対応の 2 点が目新しいと言えそうだ。

◆ Ext.C, D 漢字を収録

これまで Unicode の 7 万漢字のうち、Ext.C および D 集合を収録するフォントが Windows には用意されていなかった。Windows 8 ではようやく「SimSun-ExtB」および「MingLiU-ExtB」に Ext.C, D の両集合が収録され、Unicode の漢字をフル (IVD を除く) で使うことができるようになった (図 1)。なお、日本語以外の簡体字、繁体字、韓国語フォントはデフォルトでフォントリストに表示されない場合がある。その時はコントロールパネルのフォント一覧で「非表示」を「表示」に切り替える必要がある。

◆ IVS 対応

Windows 7 でも部分的に IVS の表示が可能であったが、Windows 8 ではさらに対応が進んでいる。ワードパッド (図 2) や Internet Explorer 10 (図 3) において IVS の表示が可能である。検索ダイアログのテキストボックス内でも IVS を表示できるので、おそらく描画機構そのものが標準で IVS に対応しているものと思われる。ただし IVD を収録するフォントは用意されていない (JIS X 0213 の 2004 年改正で切り替わった分については MS 明朝、MS ゴシックのフォントでも IVS によって字体の切り替えが可能)。IVS の文字を入力すると全体で 1 文字として解釈される。検索

については、VS (バリエーション・セレクタ) の異なる文字同士は別字として解釈されるが、VS 無しの文字で VS 付きの文字を検索することができる。

花園フォントなどの IVD を収録するフォントを活用すれば文字表現の幅が広がるだろう。Web ページにおいても IVD を収録するフォントを Web フォントとして呼び出すことで、IE という一般的なブラウザで IVS を使うことができる。異体字表現の環境が一步前進したと言えるだろう。

❖ その他

非漢字については「Segoe UI Symbol」において、麻雀牌、ドミノ、トランプ (図4) や、絵文字^[1] (図5) が追加収録となっている。「Segoe UI」フォントは Windows の英数字の UI 向け標準フォントとして位置づけられており、Windows 8 以降では、これらの文字 (記号、図) が標準的に使えることを意味している。なお、Windows 7 における同フォントについても Microsoft Update で更新することでケータイ絵文字が追加される。また「メイリオ」にア行の e およびヤ行 je のグリフが収録された^[2] (図6)。

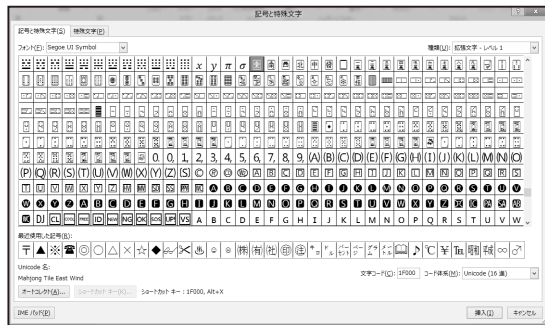


図4：麻雀牌、ドミノ、トランプ

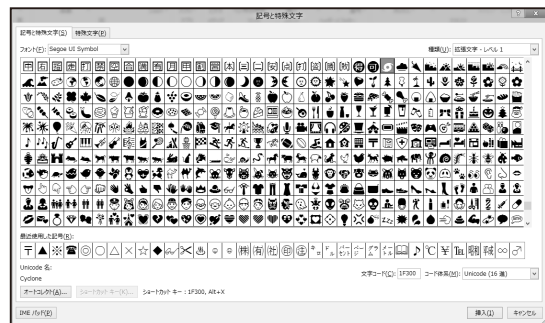


図5：絵文字

図6：かな補助集合

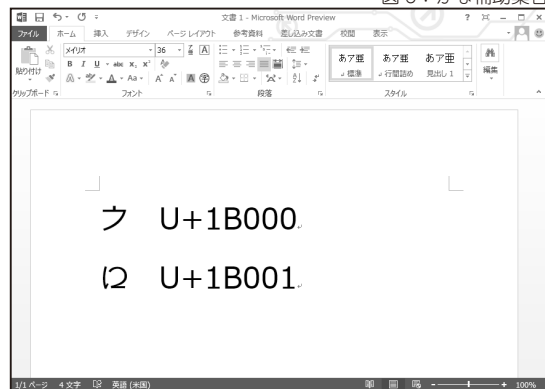
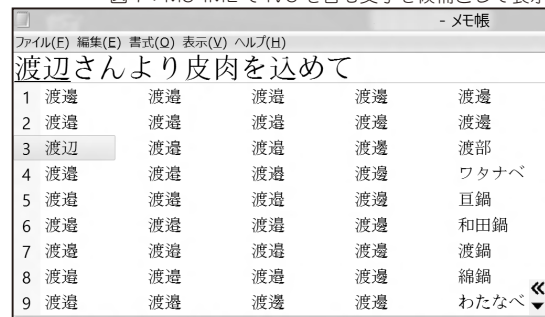


図7：MS-IME で IVS を含む文字を候補として表示

❖ 多異体字時代の到来

本誌では Microsoft Office 2013 および OS X Mountain Lion のレビューも行っているが、それらのテーマも IVS 対応が含まれている。いよいよ IVS を標準で扱うことのできる環境がそろったといえよう。しかしながら IVD は異体字が番号付きで並んでいるだけであり、何番と何番はどこが異なる、といった情報はない。また複数のソースから異体字集合が登録されていることに由来して、全く同じに見える異体字ペアも多数存在する。このように気軽に IVD を使うことは後々混乱を招く可能性がある (図7 は MS-IME に「邊」および「邊」の IVD 異体字を使った「ワタナベ」を複数登録しておいて変換した際のジョークである。なお、MS-IME で IVS を含む文字を候補として表示するためには設定の変更が必要)。手前味噌で恐縮だが、IVD (を含むフォント) の異体字集合に関するメタデータの整備^[3]が必要とされているのではないだろうか。



注

[1] いわゆるケータイ絵文字のこと。Unicode では「Emoticons」および「Miscellaneous Symbols And Pictographs」という名称となる。

[2] 本誌第 12 号の高田氏の論文を参照。

[3] 試案として次の拙稿が挙げられる。「明朝体漢字の異体化データベースについて」、『東洋学へのコンピュータ利用第 23 回セミナー』, pp.3-31, 2012.

Microsoft Office 2013

上地 宏一

❖ 大きな変化はなし、か

Windows 8 のリリースには間に合わないようであるが、Office も次期バージョンの内容が次第に明らかになってきた。主たる更新内容は Windows 8 へのインターフェイスの適応と SkyDrive などのクラウドやネットワークを使ったデータのやり取り・コミュニケーションに関する機能の追加である。このたび、一般ユーザー向けの「Office Professional 2013 プレビュー版」が公開されたので簡単に評価を行った。インストール先は Windows 7 である。

図 1：出力された IVS を含む PDF ファイル

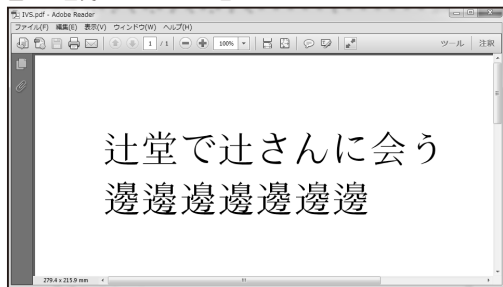
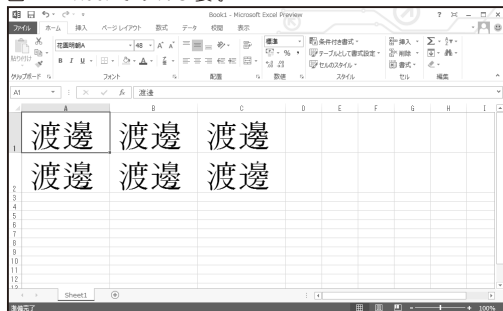


図 2：Excel での IVS 表示



❖ IVS への部分対応

ざっと見たところ、漢情研の話題となりそうな更新内容は IVS への部分対応のみであった。部分、とは Windows 7 では Word のみ IVS に対応しているという意味である。従前からそうであったが、Office では Word と Excel で文字の描画機構が別開発となっている模様で、Word だけ OS とは独立して IVS に対応しているようである。Excel の声調符号付きピンイン表示の不具合は相変わらず直っていない。PowerPoint も IVS の表示はできなかった。

また Word にて IVS に対応していると言っても IVS の文字が親字と VS の 2 文字とに分かれているため非常に使いにくい。たまたま IVS の文字については該当するフォント（グリフ）を表示できるレベル程度の対応といえ、残念である。当然ながら、異体字を選びながら入力するような仕組みは用意されておらず、親字を入力した後に IME パッド（文字パレット）を利用して続けて VS を入力する形で IVS を入力することになる。

加えて、IVD を収録したフォントの追加は見られなかった。このため、花園明朝のような IVD を収録するフォントをインストールするか、Windows 8 において、JIS X 0213 の 2004 年改正時の変更字形の範囲内で IVS を用いることになる。

ドキュメントの PDF 出力について、この IVS を含んだ文書を出力すると、きちんと PDF ファイルとして出力できた(図 1)。この点は評価できる。しかし困ったことに、IVS を使った文だけがテキストではなく画像として出力されてしまい、PDF 内の検索もできない。これでは IVS の魅力が半減である。

❖ Windows 8 と組み合わせるのがベター

気を取り直して Windows 8 のプレビュー版^[1]に Office 2013 プレビュー版をインストールした。すると Excel や PowerPoint でも IVS を表示できるようになった (図 2)。しかし、そもそも Windows 8 では IVS に OS レベルで対応しているはずだが、Word や Excel では IVS を親字と VS で分離した文字として操作する必要がある。ちなみに Word では VS は 1 文字だが、Excel では VS が 2 文字となるため、関数 (len, mid, left など) で IVS1 文字を 3 文字分として処理する必要がある。また PDF 出力については IVS 部分がやはり画像となる。

このほか Windows 8 のワードパッドと異なり

PowerPoint では IVS 付きの文字で検索をしても VS が落ちた親字部分のみで検索が行われる。このように各アプリケーションで若干の挙動の違いが見受けられる。

結論として、現時点では Office において IVS を使ったデータを作成することは若干時期尚早であるが不可能ではなく、また Windows 8 が必須と思われる。Office で IVD をまんべんなく使うほどではなくても Windows 標準フォントである MS 明朝、MS ゴシックにおいて JIS X 0213 の 2000 年字形と 2004 年字形を IVS で簡単に切り替えられるのは便利と言えるだろう。

注

[1] 本誌レビュー記事「Windows 8」も参照されたい。

OS X Mountain Lion

上地 宏一

❖ 中国語関係で大きな進展

前バージョンの Lion からほぼ 1 年となる 7 月に新しい OS X の発売が開始された。コードネームはピューマ (Puma) の別名「Mountain Lion (10.8)」である。この動物は初代 Mac OS X の「Puma (10.1)」と同じものを指すことになるが、特に意味はなく全く別物である。当バージョンから正式に「OS X」という名称となり「Mac」が外れることとなった。

新しい Windows 8 でユーザーインターフェイスが大きく変わって失敗の予感云々、という話を横目に、OS X は粛々とかつ着実に進展しているように見受けられるが、今回は特に中国マーケットへの攻勢が垣間見える更新となっている。

当レビューでは、次のテーマに沿って新 OS を紹介したいと思う。

- フォント
- 音声合成
- その他

❖ フォント

ずばり、今回の目玉は中国語フォントの充実ではないかと思われる。もともと Mac OS X の日本語処理の目玉として 6 種類 (3 書体、計 6 ウェイト) のヒラギノフォントの標準搭載が挙げられるわけだが、今回中国語フォントの充実が著しい。具体的には簡体字系が 7 書体計 11 ウェイト、繁体字系が 4 書体計 6 ウェイト追加されている (図 1)。すでに中国語フォントは明朝体、ゴシック体、楷書体、仿宋体など複数収録されているため、今回の追加によってフォントデザインの品質はさておき、標準環境において実用的な中国語文書処理が期待できる。

なお、OS をアップグレードした時点ではこれらの追加フォントはインストールされていない (使用停止: 「切」となっている) ので、Font Book のリスト上でダウンロード・インストールすることになる。

相変わらず Ext.B 集合以降の漢字集合の一括追加はなかった。このため、Microsoft Office for Mac 2011 を購入するか、あるいは花園フォントを導入すれば無

Baoli SC R	汉字文献信息处理研究
Lantinghei SC EL	汉字文献信息处理研究
Lantinghei SC DB	汉字文献信息处理研究
Lantinghei SC H	汉字文献信息处理研究
<i>Libian SC R</i>	汉字文献信息处理研究
Wawati SC R	汉字文献信息处理研究
<i>Weibei SC B</i>	汉字文献信息处理研究
Yuanti SC L	汉字文献信息处理研究
Yuanti SC R	汉字文献信息处理研究
Yuanti SC B	汉字文献信息处理研究
Yuppy SC R	汉字文献信息处理研究
Lantinghei TC EL	漢字文献信息處理研究
Lantinghei TC DB	漢字文献信息處理研究
Lantinghei TC H	漢字文献信息處理研究
Wawati TC R	漢字文献信息處理研究
<i>Weibei TC B</i>	漢字文献信息處理研究
Yuppy TC R	漢字文献信息處理研究

図1: Mountain Lion で追加収録の中国語フォント一覧

図2: テキストエディットでIVDを入力(花園明朝)

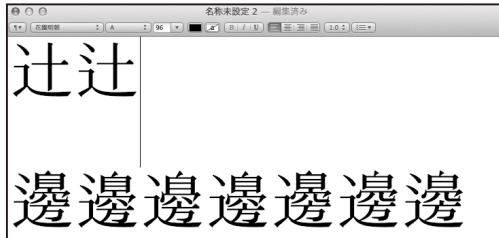


図3: VS 無し、および VS 付きの文字は区別される



図4: ヒラギノフォントでのIVS表示



償で Ext.B, C, D のすべての漢字集合を扱うことができる。

❖ 音声合成

前バージョンから音声合成 (TTS) の日本語 (Kyoko) と中国語 (Ting-Ting: 普通話) が利用できるようになっているが、新バージョンでは、さらに中国語の広東語 (Sin-Ji) および台湾国語 (Ya-Ling) が追加されている (手動で追加インストールする)。

音声合成機能はターミナルの say コマンドを使って発声が可能である。たとえば以下のように実行する。

```
say -v Kyoko こんにちは
say -v Ting-Ting 你们好
say -v Sin-Ji 無問題
say -v Ya-Ling 晚安
```

「-v 名前」で発声者 (言語) を指定し、その後ろに文を記述する。文を記述しなかった場合、入力待ち状態となるので、直接文章を打ち込んだり、ブラウザなどから文をコピー&ペーストすればよい。入力待ち状態は Ctrl キーを押しながら「d」で終了となる。

say コマンドはその場で発声させるほか、「-o ファイル名」とすると音声ファイルの作成もできる。ファイル形式は wav や mp4 などに対応している。mp3 形式への直接の出力はできないため、別の変換プログラムと組み合わせる必要がある。

音声合成の品質はそれほど高いものではない。文節の区切りがうまく認識されずに変なリズムとなる場合や、特に日本語においては音と訓の読み間違えや数詞が苦手のようなのである。それでも、たとえば音声教材作成を援用できるのではないだろうか。

❖ その他

■ IVS 対応

すでに前バージョンにて OS レベルでの IVS 対応はできているとのことで、改めて確認してみた。標準の「テキストエディット」では、確かに IVS を入力・表示することができる (図2)。IVS として記述した文字は親字+異形番号のペア全体で 1 文字となるため、BS キーで削除すると丸ごと消える。また検索に

おいても、別の VS が付いた文字同士はもちろん、VS 無しの文字と VS 付きの文字についても区別される(図 3)。これはある意味で不便かもしれない。なお、ヒラギノフォントのうち「ProN」のものが IVS の字形切り替えに対応している(図 4)。このほか花園明朝を利用すれば現在登録されているすべての IVD 字形を使うことができる。

■ 辞書

現代漢語規範詞典(第2版と思われる)が収録された(図5)。これは非常に強力と思われる。また日本語の辞書については差し替えが行われている。



図5：付属辞書(「現代漢語規範詞典」)

❖ まとめ

このように、漢情研的視点で今回の OS X のバージョンアップを評価すると、大いに「買い」ではないだろ

うか。これが 1,700 円で手に入るのだから大変お得であると思う。

一太郎2012 承 & ATOK2012

山田 崇仁

❖ “最強の日本語強化” を唱う一太郎

昨年 25 周年の節目をむかえた一太郎シリーズだが、今回の“2012 承”では「ツールパレット」機能の充実が大きな変更点である。

■ 強化されたツールパレット

この機能は、前バージョンから搭載されているが、今回から新たに「文字数」「文字」の二つが加わった。

● 文字数

「文字数」は「文書の全字数」及び「選択範囲の字数」を数える(半角全角問わず 1 字で換算)機能である。字数は任意の間隔や「更新」をクリックすることで再計算される。

評者は、簡単な文書ならばエディタで下書きすることが多いが、その際字数を数えるウインドウをサイドに開いて作業をすることも多い。Word にも字数換算機能が搭載されているが、ツールパレットを使って逐次的に字数を確認できるのはとても便利だ。

● 文字

「文字」は、文字に関わる機能を集約したパレットである。基本的な文字・段落修飾は、前バージョンから搭載されている「文字飾り」「調整」が担っているが、「文字」ではそれよりも少し特殊な機能を担当している。

一太郎のツールパレットの「文字数」機能で文字数を確認しているところ





一太郎の「文字」→「異体字」で「辺」の異体字を表示

「異体字」は、選択した文字の旧字・新字や Unicode の VS (Variation Selector: 異体字セレクタ) に対応する異体字への変換を担う。既に一太郎 2007 から VS には対応していたが、「文字」に「異体字」が搭載されることで使い勝手が格段に良かった (p.45 に掲載の拙稿を参照)。

その他、「文字」には ATOK と連携する機能や手書き入力 (JIS X 0213 の収録字に対応)、踊り字などを入力する「準仮名」、漢文に返り点や振り仮名・送り仮名をといた訓点を入力するための「漢文」機能が

一太郎 2012 承で白文に訓点を付けた



搭載されている ([漢文] を使った具体的な訓点入力の手順については、p.46 掲載の拙稿で別途解説をしているので参照されたし)。

■ EPUB への対応

今回のバージョンアップで注目されたのが、作成したファイルの EPUB3 書き出し機能である。以下のように、一太郎から出力される EPUB では音声や映像に対応していないという弱点はあるが、文字関係の機能はそこそこ充実している^[1]。

● EPUB 保存機能でサポートする項目

- 日本語固有の表現
 - ふりがな (ルビ) / 文字結合 / 傍点、圏点 / 縦中横 (縦書き時)
- 書籍向け機能
 - 表紙、目次 / 段組、段組間の罫線 / 脚注 (文書末) / 連番参照、箇条書き参照から参照位置へのジャンプ
- 多彩な文字飾り
 - フォント、文字サイズ、太字・斜体
 - 文字色、中抜き、影文字、反転
 - アンダーライン、取り消し線、アッパーライン、文字罫、塗りつぶし

筆者もいくつか一太郎経由で EPUB を作成してみたが、VS の異体字が画像に変換されてしまうのには驚いた。確かにこれならどの環境でも「意図した字形で読める」という一点は保証されるものの、レイアウト的に他の文字列の間にバランスを欠く形になってしまうため、CSS の記述に一工夫必要となるかもしれない。

■ プレミアム版にはヒラギノフォントが付属

前バージョンの 2011 創がモリサワフォント (リュウミン / 新ゴ for 一太郎) を搭載していたが (ただし、一太郎及び関連ソフトでのみ使用可能という制限有)、2012 承の搭載フォントはヒラギノフォントに変更となった。バージョン毎にフォントが変わることで、モリサワフォントを使っていたユーザーには少し不便が生ずるように感ずるが、1 台のみと言うインストール台数の制限はあるものの、Mac OS X にも標準インストールされている美しい日本語フォントが、JUSTSYSTEM 社以外のアプリケーションでも利用可


能となることは喜ばしい。個人的には、これだけでプレミアム版を購入を決断した。アカデミック版やバージョンアップ版を購入可能なユーザーは、通常よりも遙かに安価に当該フォントを購入できるため、是非ともお薦めしたい。

❖ ATOK

ATOKは2012年で30周年となった。最新バージョンである2012のコンセプトは「楽しんで、かしくく。わたしの力を引き出す ATOK。」である。^[2]

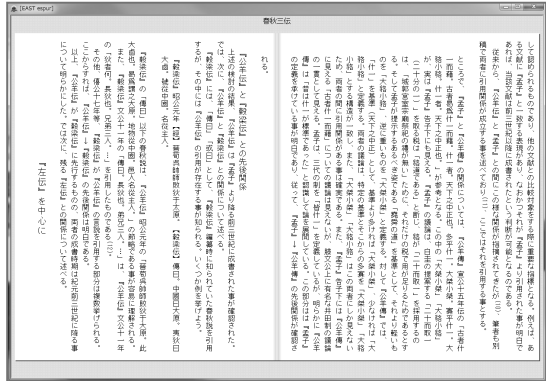
今回のバージョンアップでは、「AS (Advanced Suggest) エンジン」によってより強化された推測変換機能が注目すべき点だろう。Windows用のIMEでは、タブレットや携帯電話などに比べて推測変換機能の便利さの恩恵をそれほど受けるわけではないが、推測変換機能は、あればあったて便利なお宝だ。

また、充実する「先回り訂正」機能も秀逸である。「先読み予測」は、読みを入力している段階で間違っただけの読み直しをしている場合、正しい変換候補を明示する機能である。また従来から搭載されている、誤字・誤フレーズ・読み誤りの指摘機能も強化された。誤字が多い評者にとって、これらの機能は文書作成に欠かせない、とてもありがたい機能である。

当然、標準辞書への語句追加も行われ、さらには同音語の適切な結びつきなどもより強化されている。また、区切り位置が異なる単語を「」キーで提示する機能もなにげに便利だ(30周年記念辞書は、さすがにおまけ以上の価値は無いだろうが、「一発変換お名前辞書」は存外名簿作成に役立つかもしれない)。

また、昨今のATOKは、インターネットに繋がることにより便利な機能を実現するようになっていく。その代表が、辞書を複数デバイスで共有可能なATOK Syncアドバンスだろう。もっともこの機能は、DropBox等のオンラインストレージを組み合わせれば擬似的に実現可能だろうが、最新キーワードを辞書に自動登録する「ATOK キーワード Express」やブログやWebから自動学習する「おまかせキーワードチャージャー」は、それらのオンラインストレージ経由では決して実現できない強みがある。

更に、変換時に参照可能な辞書として、プレミアム版では『明鏡国語辞典 第二版』『ジーニアス和英辞典 第3版』が搭載されている。辞書と連動すると、



一太郎からEPUB形式で保存した電子書籍を、縦書き対応PC用EPUBリーダーespurで閲覧したもの

入力の質が格段に上がるため、是非とも使いこなしたい。論文などの文章を書く場合、別途販売されている『広辞苑 第六版 for ATOK』や『角川類語新辞典 for ATOK』等もお薦めである。

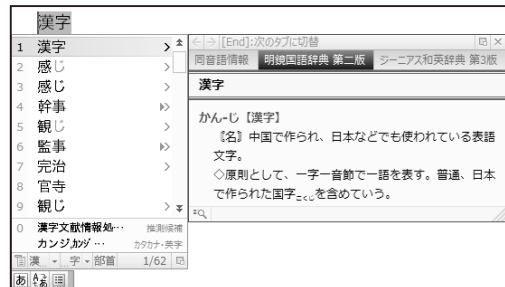
ATOK単体で試用版も提供されているので、MS-IMEしか知らないのであればちょっと使ってみるとよいだろう。本誌特集1の拙稿も併せてご一読いただきたい(p.35)。

❖ おわりに

最期に落とすようで申し訳ないが、本誌特集2のアンケート結果を見ると(p.118)、一太郎ユーザーの数はOpenOffice.orgにも劣っているという、衝撃的だがある意味当然かもしれない結果が出ている。これは、プリインストールされたMS Office以外に他者の同様なソフトをわざわざ買うということはない。さらには、バージョンが古くなったら、無料のOfficeソフトに走るという傾向を示している。

その様な視点からすれば、一太郎の立場は相変わらず

ATOKの辞典参照機能



ずよくはない。それでも、他との比較という意味において、日本語文章のレイアウト設定や文書自体の作りやすさは、一太郎の方がまだまだ上であると断言する。

これはひいきの引き倒しにしか過ぎないのかもしれないが、どのように新規ユーザーを取り込むかが、一太郎復権の鍵となることは言うまでも無い。次バージョンでその答えの一端が示されることを期待しつつ、筆を置くことにしたい。

注

- [1] 以下の簡条書きは、<http://www.justsystems.com/jp/products/ichitaro/feature3.html>に掲載されている情報にもとづくものである。
- [2] <http://www.justsystems.com/jp/products/atok/>

ChineseWriter10

金子 眞也

❖ 新しくなった ChineseWriter10

2012年2月、高電社から、中国語入力統合ソフト ChineseWriter10 が発売された。前バージョンである ChineseWriter9 が発売されたのが2007年3月だから、実に5年ぶりである。「スタンダード」・学習機能搭載の「学習プレミアム」・文字認識機能搭載の「OCRプラス」の3つのタイプが発売されているが、今回

図1：日中どこでも翻訳

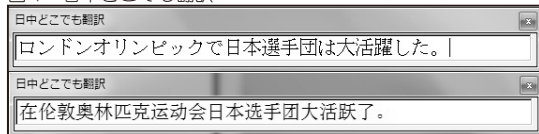
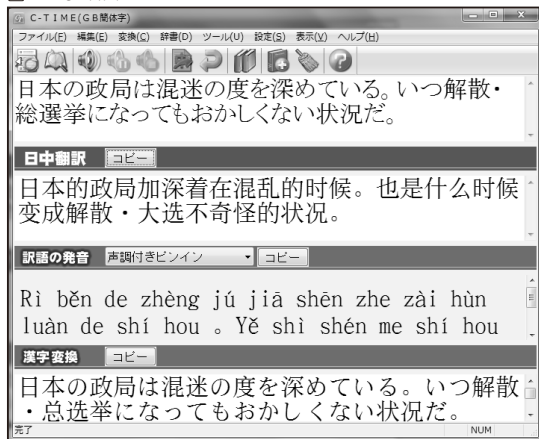


図2：C-TIME



評価したのは「スタンダード」である。

使用環境は、OSが64bit版のWindows7 Home Premiumで、32bit版MicrosoftOffice2010使用という組み合わせである。一般ユーザーとしては、まあ、ありがちな環境だと思う。

今回のバージョンアップの最大の目玉は「変換精度の向上」である。予測変換機能を初搭載し、変換のストレスを感じない。ChineseWriterがIMEから発展したソフトである以上、本来の機能が強化されたことは、まことに喜ばしい次第である。

❖ いろいろな機能

ChineseWriter10にはIMEとしての機能以外に9つの機能がある。以下、紹介していく。

■ 1 日中どこでも翻訳

これは最大128文字の日本語から中国語に翻訳しながら入力するツールで、図1では紙面の関係で上下に並べてあるが、上段が入力した日本語、下段がクリックして得られた翻訳結果である。

■ 2 C-TIME (日中翻訳パッド)

日本語原文・中国語訳・そのピンイン表記・原文の簡体字表記を一覧で表示するツールである。図2をご覧いただきたい。一見便利そうだが、機械翻訳の精度が「それなり」であって、手を加えなければ使えないことを考えると、ピンインや簡体字まで一覧表示することの優位性が減じられてしまうようで残念である。

■ 3 漢字ピンイン変換

漢字（簡体字）をピンインに変換するツールである。語彙レベルではなくて単漢字レベルでの変換なのだろうか、意表を突くような変換結果を得ることも多い。そのため、使い勝手は必ずしも良くない。文章レベルでピンインを振る場合は、後述の Word アドインを使うべきである。

■ 4 チャイニーズナビ

アプリケーション上の日本語や中国語を取り込んで、漢字変換・辞書検索・中国語の読みの確認ができるツールである。

■ 5 文例マスター

中国語の文例集である。メール以外に日常会話・旅行会話・ビジネス会話も収められていて、音声聞くこともでき、たいへん内容豊富な仕上がりとなっている。前バージョンがメール用の文例だけだったのと比較すると大きな進歩だ。レイアウトも見やすく、つられて関係ない部分まで読みたくなりそうだ。

■ 6 チャイニーズパッド

コピーや貼り付け時に中国語の文字コードを変換できるエディタである。実は、ChineseWriter 付属のツールの中で筆者が頻繁に使用するのがこのチャイニーズパッドである。GB2312 や UTF-8 で中国語を含む Web ページを作るときに愛用している。

■ 7 中国語デジタルマルチ大辞典

小学館『日中辞典』第2版・同『中日辞典』第2版・愛知大学 / 大修館書店『中日大辞典』増訂第2版は前バージョンと同じだが、さらに大修館書店『中国語新語ビジネス用語辞典』電子版第2版・日本工業出版『日中英技術用語ハンドブック』・上海辞書出版社『現代漢語大詞典』が加わって充実した布陣となった。ただし、『現代漢語大詞典』の例文検索ができないのがとても残念である。

辞書は音声つきで、見出し語や例文、『現代漢語大詞典』の場合は語釈にまで結構使える音声が付されていて、使い勝手もよい。

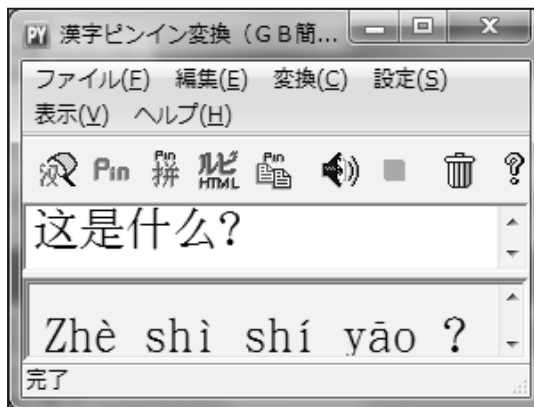


図3：漢字ピンイン変換



図4：チャイニーズナビ

■ 8 音声合成

チャイニーズパッドや漢字ピンイン変換などのツールに中国語の文章を貼り付けることで、中国語音声合成による読み上げができる。

図5：中国語デジタルマルチ大辞典





図6: Word アドイン

■ 9 Word アドイン

Microsoft Word 2010 / 2007 / 2003 / 2002 / 2000 に対応する。アドインを利用することにより、ルビ振りや中国語読み上げが簡単にできるようになる。図をご覧ください。読み上げの精度もルビ振りの精度もまずまずの出来である。軽声の処理などに注意すれば、十分使える。Word アドインでは“什么”もちゃんと“shénme”に変換される。

❖ 結論

IME として変換精度が向上したこと、辞書に『現代

漢語大詞典』が加わったこと、便利な読み上げ機能や Word アドインでのルビ振りなどを総合的に評価すると、ChineseWriter10 は買って損のないソフトだといえよう。

『現代漢語大詞典』が欲しいだけなら、同じ高電社から『現代漢語大詞典』の iPhone / iPod touch 用アプリが発売されているので、そちらを使う手もあるが、音声はついていない。

なお、ChineseWriter10 は、使用者 1 名に限り使用できる 1 ユーザーライセンスで、ネット接続ができる環境でライセンス登録（アクティベーション）をしないと使えない仕組みになっている。ソフトウェアは契約条件を守って正しく使いたいものである。

❖ 学術リソース

韓国の人文学系ウェブサイトについて

篠原 啓方

❖ はじめに

韓国は90年代後半以降、IT事業全般に力を入れてきている。今春には野党の党首選挙がネットや携帯を通じた市民投票で行なわれるなど、電子化に対する社会の関心・意識は高い。こうした動きは学術分野においても同様であり、人文系資料のデジタルアーカイブ化にもかなりの投資を行っている。資料影印・翻刻の出版事業は、日本や中国ほど振るわなかったものの、デジタルアーカイブの構築とネット配信に対する意気込みには並々ならぬものがある。

こうしたデジタルアーカイブは、資料へのアプローチが容易になったという点で、韓国(朝鮮)学の専門家だけでなく、東アジア文化の比較研究の進展に大いに貢献するものといえよう。ただ問題となるのは、サイト内のハンゲルである。韓国のサイトである以上当然のことであるが、韓国語を解しない利用者のアクセスを遠ざける一因となり、サイトへの関心度にも一定の影響を及ぼすものと思われる。本稿は、そうした日本における利用頻度の増加への期待も込め、特に人文研究においてよく利用される学術ウェブサイトをいくつか紹介・解説するものである。

❖ 1. 韓国歴史情報統合システム

<http://www.koreanhistory.or.kr/>

■ 1. 概要

韓国情報安全部と韓国情報化振興院が中心になって進める国家知識ポータル (<https://www.knowledge.go.kr/main.jsp>) の一領域。同システ

ムにおける「歴史」とは歴史学ではなく、先史時代を含む「過去の資料情報一般」を指すものと解され、統合システムの名は、多くの機関で運営するサイトが同システムで一括検索できることにちなんでいる。

紹介ページによると、事業は①韓国歴史資料の体系的かつ総合的な電算化、②多数の歴史関連専門機関による歴史資料データベースの構築、③検索サービスの提供——に要約される。デジタル化事業は1999年から共同で進めてきたというが、統合システムとしての開設時期は正確には分からなかった。統合検索(2012年7月現在)できるサイトと管理者、URLは表2の通り。

ドメインからも分かるように、国立機関、地方自治体、法人、国公私立の大学など様々である^[1]。こうした官民の各団体が官主導のプロジェクトに参画し、統合されるのも韓国の特徴の一つといえよう。

図1：韓国歴史情報統合システム トップページ



表1：トップページアイコンの日本語訳

고도서 古図書	고문서 古文書	도서 図書	문서 文書	연속간행물 連続刊行物
고전 국역서 古典国訳書	연구자료 研究資料	목록·해제 目録・解題	인물 人物	지도 地図
사전 辞典	연표 年表	멀티미디어자료 マルチメディア資料	유물·유적 遺物・遺跡	금석문자료 金石文資料

表 2：統合システム内のサイト名（管理者）と URL

	サイト名（管理者）	URL
1	功勳電子史料館（国家報勲処）	http://e-gonghun.mpva.go.kr
2	奎章閣韓国学研究院（ソウル大学校奎章閣韓国学研究院）	http://e-kyujanggak.snu.ac.kr
3	近代韓日外交資料（釜山広域市立市民図書館）	http://siminlib.koreanhistory.or.kr
4	南冥学古文獻システム（慶尚大学校文泉閣）	http://nmh.gsnu.ac.kr
5	東学農民革命綜合知識情報システム （東学農民革命参与者名譽回復審議委員会）	http://www.e-donghak.go.kr
6	民主化運動アーカイブシステム（民主化運動記念事業会）	http://db.kdemocracy.or.kr/index.jsp
7	承政院日記（国史編纂委員会）	http://sjw.history.go.kr
8	古文書生活史博物館（韓国国学振興院）	http://life.ugyo.net
9	王室図書館蔵書閣デジタルアーカイブ（韓国学中央研究院）	http://yoksa.aks.ac.kr
10	儒教ネット（韓国国学振興院）	http://www.ugyo.net
11	戦争記念館資料広場（戦争記念館）	http://www.warmemo.co.kr/library/knowledge/kj_search.jsp
12	朝鮮王朝実録（国史編纂委員会）	http://sillok.history.go.kr
13	朝鮮総督府官報データベース （親日反民族行為真相糾明委員会ほか）	http://gb.nl.go.kr
14	鍾路図書館古文獻原文検索サービス（鍾路図書館）	http://jongnolib.koreanhistory.or.kr
15	韓国経学資料システム（成均館大学校尊経閣）	http://koco.skku.edu
16	韓国古典翻訳院	http://www.itkc.or.kr
17	韓国古典籍綜合目録システム （国立中央図書館図書館研究所）	http://www.nl.go.kr/korcis
18	韓国関連西洋古書原文 DB システム （明知大学校国際韓国学研究所）	http://www.e-coreana.or.kr
19	韓国金石文綜合映像情報システム（国立文化財研究所）	http://gsm.nricp.go.kr
20	韓国独立運動史情報システム（独立記念館）	http://search.i815.or.kr
21	韓国仏教文化綜合システム（東国大学校中央図書館）	http://buddha.dongguk.edu
22	韓国史データベース（国史編纂委員会）	http://db.history.go.kr
23	韓国女性史知識情報システム（韓国女性政策研究院）	http://www.womenshistory.re.kr:7070
24	韓国歴代人物綜合情報システム（韓国学中央研究院）	http://people.aks.ac.kr
25	韓国族譜資料システム（成均館大学校尊経閣）	http://jokbo.skku.edu
26	湖南記録文化システム（全北大学校博物館）	http://honam.chonbuk.ac.kr
27	韓国振興財団基礎学問資料センター	http://www.krm.or.kr
28	メディアガオン古新聞資料（韓国言論財団メディアガオン）	http://www.kinds.or.kr

■ 2. 検索方法：アイコンから

それでは、具体的にサイトを見ていこう。トップページの上部にあるアイコン（図 1）の内容と配列は表 1 の通り。

まずはアイコンから入ってみる。古図書をクリック。伝統的な 4 分類法による画面が登場する。そこで経部の礼類をクリックし、次の画面（図 2）の上から四

つ目（深衣制度）をクリックすると、書誌情報の管理者（韓国学中央研究院）サイト（<http://yoksa.aks.ac.kr>）に移動する（図 3）。上段の項目は左から書名、編著者、刊行年、書誌、記事、イメージ（画像）^[2]。イメージをクリックすると影印画像を表示するビューアが別画面であられる（図 4）。

ビューア画面の上段にあるアイコン（図 5）は左から「先頭」「以前」「縮小」「通常の大きさ」「拡大」「次」



図2：經部→礼類の結果

서명	편저자	간행년	서지	가사	이미지
深衣制度 v1	정구(조선)	光復(1898)	서지	-	이미지

図3：書誌情報ページ

「最後」「印刷用ブラウザ」。印刷用ブラウザをクリックすると、ブラウザの設置を問うメッセージが登場し、「OK」をクリックすると画像 (amb形式) が、「キャンセル」(もしくは×) をクリックすると印刷用ブラウザのプログラムがダウンロードされる。ダウンロード後、日本語版の Windows7 にインストールし

図4：影印画像ビューア

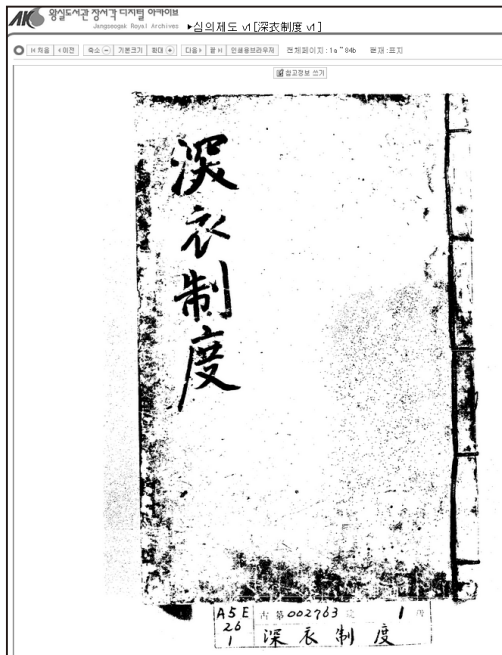


図5：ビューアの操作アイコン



てみたが、うまく作動しなかった^[3]。

3. 検索方法：検索窓から

次は、検索を使ってみる。トップページ左の検索窓(図6)から表1のサイト内にある関連記事がヒットする仕組みである。検索窓の下には詳細検索(左。別画面に移動)と検索(右)アイコンがあるが、ここでは「対馬」で通常検索。韓国では正字体(繁体体とほぼ同じ概念)を利用するため、日本の略字体ではなく、「對」で入力する。

3,837件がヒット。上段の項目は左から「분류(分類)」「건수(件数)」「보기(見る)」(図7)。分類欄はトップページのアイコン(図1)順に並んでおり、「見る」の下位アイコンには左の「전체보기(全体を見る=全体の羅列)」と右の「분류별보기(分類別に見る=中

図6：検索窓



図7：検索結果

對馬 총 3837건	분류	건수	보기
	고도서	889	전체보기 분류별보기
	고문서	27	전체보기 분류별보기
	도서	118	전체보기 분류별보기

図8：「見る」の結果

전체 검색어 : 對馬 | 총 3837건

고문서(27)

대마도종가문서(對馬島宗家文書)(27)

分類紀事大綱 一/對馬島宗家文書資料集 1 [상세서지보기 | 기사보기]
 작성자 : 날짜 :
 분류 : 고문서 > 대마도종가문서(對馬島宗家文書)
 제공 : 국사편찬위원회 한국사데이터베이스

海東靑之義 [상세서지보기]
 상위서지 : 分類紀事大綱 二/對馬島宗家文書資料集 1 > 享保五 庚子
 발송자 : 宗對馬守為 平田直右衛門 날짜 : 1720-02(음)
 분류 : 고문서 > 대마도종가문서(對馬島宗家文書)
 제공 : 국사편찬위원회 한국사데이터베이스

分類紀事大綱 二/對馬島宗家文書資料集 1 [상세서지보기 | 기사보기]
 작성자 : 날짜 :
 분류 : 고문서 > 대마도종가문서(對馬島宗家文書)
 제공 : 국사편찬위원회 한국사데이터베이스

ト件数)」が示され、下に原文記事の翻訳文が羅列される。「倭寇」で絞り込み検索をかけると、44件がヒット(図14)。「太祖11巻6年…」をクリックすると、原文が登場する(図15)。「○」以下が原文記事となる。左上の「▼」が付いたアイコンは左から「国(韓国語)訳」・「原文」・「イメージ(影印画像)」。

その右隣のアイコンのうち必要なもののみ説明しておく、「←(実録の以前の記事)」「→(実録の次の記事)」であり、「|◀」から右は検索記事内における「|◀(先頭)」「◀(以前)」「▶(次)」「▶| (最後)」。

その下には「太祖11巻、6年(1397丁丑/明洪武30年)2月27日(庚戌)2番目記事」と典拠が示される。

■ 2. 承政院日記

<http://sjw.history.go.kr>

管理者は国史編纂委員会。承政院は朝鮮国王の秘書的業務をつかさどった機関で、2001年に世界記録遺産に登録された。同サイトはその日記の原文テキスト、韓国語訳が検索・閲覧できる(随時アップデート中)。影印画像の一部も閲覧可能というが、その方法はよく分からなかった。

トップページの検索窓に「天使」を入力(図16)。796件がヒットし、各記事の原文テキストが羅列され(図17)、各記事をクリックすると原文が閲覧できる。本来の画面では、資料の右上に西暦と中国の年号が漢字で表記されている。

■ 3. 王室図書館蔵書閣デジタルアーカイブ

<http://yoksa.aks.ac.kr/>

管理者は韓国学中央研究院。同院は韓国学を中心とする国立の研究・教育機関(教育課程は大学院以上)。王室図書館の名称として古くから文献に登場するが、朝鮮末期以降、管理組織が次第に分散・縮小していった。現在の蔵書閣の直接の母体は、韓国併合後に朝鮮王室の庶務を担当することになった李王職の管理下に設けられた蔵書閣である(建物はソウルの徳寿宮にあった)。

トップページ右上の言語変更で日本語版サイトに切り替えられる。韓日のトップページを比較(図18)すると、韓国語版にのみ「고도서추천자료(古図書推薦資料)」という項目が新たに加わっている(画面には의궤자료「儀軌資料」とある)。古図書をクリックし、「儀軌」で検索すると(図19)、638件がヒット(図

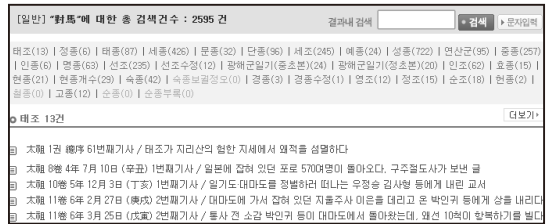


図13: 対馬の検索結果



図14: 絞り込み検索の結果

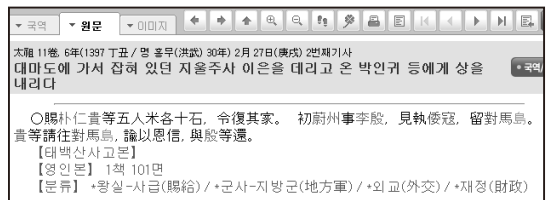


図15: 記事原文

図16: 承政院日記 トップページ



図17: 検索結果





図 18: 王室圖書館藏書閣デジタルアーカイブ トップページ (左: 韓国語版, 右: 日本語版)



図 19: 検索画面

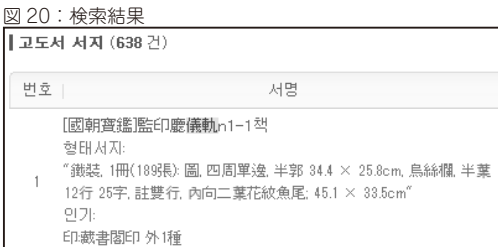


図 21: 奎章閣韓國學研究院 トップページから検索



20). 書名をクリックすると別画面が開く。以降の操作は前述(統合システム)の「深衣制度」と同様。

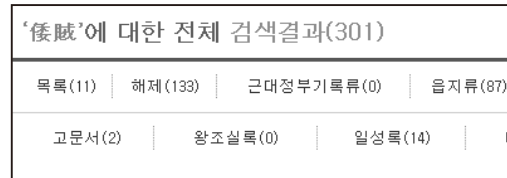
■ 4. 奎章閣韓國學研究院

<http://kyujanggak.snu.ac.kr/>

18世紀後半に新たに設けられた王室図書館。現在はソウル大学の付設機関として管理・運営されている。同サイトは所蔵資料の原文テキストおよび影印画像の閲覧・検索ができ、原文検索は朝鮮時代の資料(朝鮮王朝実録、承政院日記、朝鮮王室儀軌、日省録など)が主である。ただ説明文に漢字の併記がほとんどなく、専用ビューアが正確に開かなかったり(Google Chromeでは開けず、Internet explorer9では開くが画像が見られない)、プログラムのダウンロードがうまくいかなかったりと、日本語環境ではアクセスに難がある。

トップページの検索窓に「倭賊」を入力(図 21)⁶⁾。左端の選択窓は「원문자료(原文資料)DB」と「所蔵資料DB」があるが、ここでは原文資料を選択。「倭賊」に対する全体検索結果は301件(図 22)。上段は分類別のヒット件数(「目録(11) | 解題(133)」)。その下段に検索結果が羅列され、各資料をクリックすると原文が閲覧できる。

図 22: 検索結果



■ 5. 韓国古典総合 DB

http://db.itkc.or.kr/itkcdb/mainIndexIframe.jsp

管理者は韓国古典翻訳院で、政府傘下で組織された古典国訳を主業務とする民族文化推進会が、2007年11月に改称したもの。日本国内からなら日本語のページに自動的につながる。つながらない場合は、トップページ右上で言語を切り替えられる。

同サイトでは、高麗～朝鮮時代の文集やその他の古典籍の原文テキスト・韓国語訳が閲覧できる。影印画像ビューアがあるようだが、使い方はよく分からなかった。トップページ(図23)で「碑文」を検索すると画面が切り替わり、結果が左端の一覧(図24)に表示される。各項目をクリックすれば該当画面に切り替わる。同サイトでは朝鮮王朝実録や承政院日記も検索できる。内容は前述のサイト(sillok.history.go.kr/main/main.jsp)とほぼ同じようであるが、国史編纂委員会のサイトが見やすい気がする^[7]。

■ 6. 韓国古典籍総合目録システム

http://www.nl.go.kr/korcis

国立中央図書館が中心となって開発したシステム。情報通信部などの支援を受け、2005年よりサービスを開始。傘下に韓国古典籍保存協会を持ち、会員機関は現在国内52、国外33あるという。サービス内容は、関連機関所蔵の古典籍目録および影印画像の提供で、随時アップデート中という。国外機関の情報には、ハーバード大学イェンチン図書館や米議会図書館所蔵の古典籍などがあるという。

トップページ中段の検索窓に「文館詞林」を入力(図25)。検索窓左の選択窓は、上から「全体」「表題」「キーワード」「著者名」「発行者」。すると検索結果画面があらわれる(図26)。書誌情報の項目は左から「番号」「表題」「著作者」「発行者」「発行年」「板種」「所蔵機関」。

■ 7. 韓国金石文総合映像情報システム

http://gsm.nricp.go.kr

管理者は文化財庁傘下の国立文化財研究所。非文献の文字資料のうち、金石に刻まれた文字資料の情報が中心である^[8]。筆者も立ち上げにかかわったことがある。

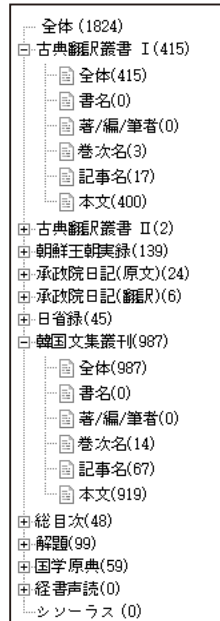
トップページ中段右の検索窓に「胎室」を入力(図27)すると3件がヒット(図28)。一番下の「文宗



図 23 : 韓国古典総合 DB トップページから検索

大王胎室碑」をクリックすると、解説画面が出る(図29)。画面右上の「統合ビューア(拓本/判読文/解釈文)」(図30)をクリックすると、ビューアが別画面で開き(図31)、画面左に拓本が、画面右には釈文が表示される。

図 24 : 検索結果



◇ おわりに

以上、サイトの雑多な羅列という印象をぬぐいきれないが、主要なサイトの概要と利用方法について略述した。韓国における人文系データベースは多くの資料情報を提供しており、利用価値も高いといえるが、日本語環境からの利用には難のあるものも多い。「ハングルが読めない」ことを前提に操作した結果、いろいろと不便な点も見えてきた。各国語版サイトの製作でなくとも、ハングルの説明に漢字

図 25 : 韓国古典籍総合目録システム トップページから検索

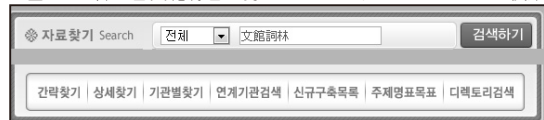


図 26 : 検索結果。所蔵機関はハングル表記のみ

번호	표제	저자	발행자	발행년	판종	소장기관
1	佚存叢書, 冊1-36	林述齋(日)撰	[刊録者未詳]	光緒 8(1882)	木板本	서울대학교 규장각한국학연구원
2	古逸叢書, 1-49(卷1-118)	趙希顔(清)編	[刊録者未詳]	光緒 10(1884)	木板本	서울대학교 규장각한국학연구원

レビュー&リソース情報

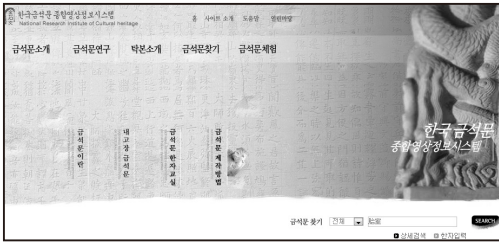


図 27: 韓国金石文綜合映像情報システム トップページから検索

번호	명칭 (名稱)	시대	지역	관측문	해석문	선택
3	이호민신도비(李好閔神道碑)	조선	경기도 양평군 옥천면 신북리(京畿道 楊平郡 玉泉面 新漚里) 산 247-1번지에 자리한 이호민묘소에 있는 이호민신도비(李好閔神道碑)이다. 1635년(인조..	신	신	신
2	직지사사적비(直指寺寺蹟碑)	조선	"경상북도 김천 직지사(直指寺)에 있는 절의 내력을 기록한 비문이다. 직지사는 신라말 고려초에 늘어대사가 활동하며 태조가 대살로 황건하였고 왕희지 글씨를..	신	신	신
1	문종대왕태실비(文宗大王胎室碑)	조선	"이 비는 1735년(영조 11년) 경상북도 예천군 영봉사에 건립된 문종대왕태실비(文宗大王胎室碑)이다. 태실이란 왕이나 왕실 자손의 태를 모서두는 돌로..	신	신	신

図 28: 検索結果

문종대왕태실비(文宗大王胎室碑)

통합뷰어(탁본/판독문/해석문)

図 29: 解説画面

통합뷰어(탁본/판독문/해석문)

図 30: 閲覧用の「統合ビューア」

図 31: ビューア画面

급/석/문/통/합/뷰/어/

문종대왕태실비(文宗大王胎室碑) 관독문

を併記するだけでも利便性はかなり高くなる。ダウンロード不要のビューアがあればなおよい。韓国学のさらなる国際化のため、使用環境の今後の充実に期待したい。

注

- [1] 戦争記念館 (http://www.warmemo.co.kr/library/knowledge/kj_search.jsp) へのリンクはできなかった。
- [2] 本来は書名の左に「番号」がある。
- [3] 韓国のサイトでは、利用時に該当サイト専用のプログラムをダウンロードさせることがよくあるが、同システムにも以下のようなプログラムがある (<http://www.koreanhistory.or.kr/intro/listDataDown.jsp>)。画面上段から、ユニコードフォント [韓国語用]、韓籍入力機 [ハングル古字の入力]、韓国語グローバル IME、奎章閣イメージビューア、国史編纂委員会イメージビューア、韓国学中央研究院イメージビューア、韓国学中央研究院 SVG ビューア、全北大学校博物館ジャバランタイムエンバイロメント)。これらが日本語環境で動くのかどうかは試していない。
- [4] 「大」の上にあるのが検索方法選択欄。左から「部首/画数」「音価」「四角号碼」「破字(解字)」
- [5] 王名(廟号)のハングル表記は、wiki「朝鮮国王のと諡号の一覧」から各王の項目に移動すれば確認できる。
- [6] 「倭賊」の左隣の選択窓は「統合検索」、その左隣のチェック欄は拡張(右)と基本(左)とある。検索時に変更の必要はなし。
- [7] いわゆる植民地期に日本人が中心になって編纂された高宗・純宗実録は国史編纂委員会サイトでのみ閲覧可。ちなみに両実録は、世界遺産の登録対象から除外されている。
- [8] 陶製の墓誌なども含まれる。また木簡のうち、近年の発掘資料は別サイトで管理されている。

❖ 学術ソフト・製品

愛如生『申報』『方志庫』『宝巻』データベースについて

二階堂 善弘

❖ はじめに

愛如生（北京愛如生数字化技術研究中心）の『中国基本古籍庫』は発売当初、約20億字を超える中国古典の巨大データベースとして、大きなインパクトを与えた。日本においては関西大学アジア文化研究センター（CSAC）が初めて導入し、その後は京都大学や龍谷大学など幾つかの研究機関にも設置され、広く使われることとなった。

愛如生はその後も巨大データベースを製作したが、高額なものが多いため、残念ながら日本ではまだまだ広く普及するという形にはなっていない。関西大学アジア文化研究センターにおいても、2012年度からそのうちの幾つかのデータベースを導入したが、いずれも外部研究資金によるものである。ここでは、近年導入した『申報』『地方志』『宝巻』の各データベースについて簡単に紹介する。

❖ 『申報数拠庫』

『申報』は言うまでもなく中国の近代において強い影響力を有した新聞である。清の同治年間から長期間にわたって発行し続けられた。そのすべてをデータベース化したものが、愛如生の『申報数拠庫』である。日本の代理店である東方書店の紹介文（<http://www.toho-shoten.co.jp/er07/shenbao.html>）によれば以下の通りである。

『申報数拠庫』には、「申報（上海版）1872.4.30-1949.4.19」（アーネスト・メジャー創刊、上海申報館出版、全2556号）と「申報（漢

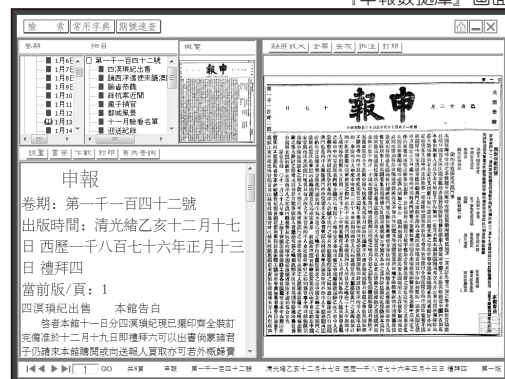
口版）1938.1.15-7.31」（申報漢口版発行部出版、全192号）、「申報（香港版）1938.3.1-1939.7.10」（聶光墉督印、申報香港版発行部出版、全487号）の3種類が含まれ、現時点で全世界に収録されていて、見ることが可能な『申報』すべてを収録しています。

関西大学CSACには『申報数拠庫』のネットワーク版が導入されており、建物内においては複数のパソコンからアクセスが可能となっている。自前のサーバにセッティングするのではなく、クライアントプログラムのみを使用する形となる。なお、テスト時にはまだすべてのデータは揃っていなかった。なお、『申報数拠庫』を使用しての詳細なレポートは、一橋大学の佐藤仁史氏が『東方』379号（2012年9月16～19ページ）に書かれているので、ご参照いただきたい。

実際に自分が使用しての感想であるが、やはり膨大な『申報』のテキストが一気に検索でき、さらに画像データで確認できる利便性は大きい。

『中国基本古籍庫』と異なり、画面が幾つかに分

『申報数拠庫』画面



にはいかない。特に、「云」を「雲」と誤変換している事例が目についた。

とはいえ、例えば筆者の専門である寺廟に関する検索を行ったところ、新しく確認できたデータも多かった。『古籍庫』同様、幾つかの欠点もあることを踏まえながら使用するべきであろう。

❖ 『宝巻新集』

『宝巻新集』データベースは、中国の民間宗教の経典或いは通俗文学の資料である「宝巻」を整理して収録したものである。こちらはネットワーク版ではなく、スタンドアロン版を導入している。従って、関西大CSACの一台のノートパソコンにて運用している。

東方書店のサイト (<http://www.toho-shoten.co.jp/or07/315802.html>) の説明によれば次の通り。

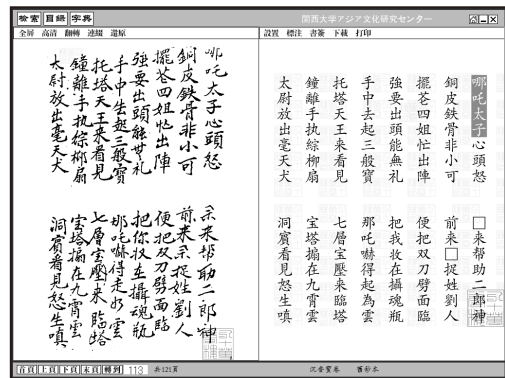
『宝巻新集』（硬盤版）は、元末明初から清末民初までに民間で流传した宝巻 400 種余を、原版の図像を付して収録するデータベースである。「左図右文」の形式で各叢書の最善本をもとに作成された原書の影印版とデジタル式の全文を掲載しており、分類検索・条目検索・全文検索及び添加標注・分類書籤・ダウンロード・プリントも可能。

データベースの内容は、「故事類」と「教義類」に大別される。もっとも、それほど内容に違いがあるという感じでもない。

『方志庫』と同様に、画像とテキストデータが連動



「宝巻新集」



「哪吒太子」にて検索（『沉香宝巻』）

する形となっている。その点ではデータが確認しやすい。ただ、そもそも「宝巻」を読んだことのない人には使いにくいデータベースであると思われる。ただ、これだけ読みにくい資料をテキスト化しているということは、十分に評価できると考える。中国宗教研究の現場では、必要なデータベースであろう。

『人間はガジェットではない』

ジャロン・ラニアー著・井口耕二訳 早川書房 2010年12月 ISBN978-4-15-320016-6 1500円＋税

師 茂樹

第14章 安息の地（バシュラールの幼形成
熟に対する熱い想い）

❖ ウェブ社会への批判的まなざし

本書は、Web 2.0をはじめとする現今流行の情報技術パラダイムやその背景にある思想について警鐘を鳴らしている書物である。その意味では、本誌の読者が関心を持っているであろう人文学におけるコンピュータ利用（あるいは人文情報学、デジタル・ヒューマニティーズなど）に特化した内容ではない。しかしながら、コンピュータの学術利用やウェブ社会と学界との関係などについても、大きな示唆を与えてくれる。

とりあえず本書の目次をあげておこう。

第1部 人とは何か

- 第1章 人の欠落
- 第2章 自己放棄の黙示録
- 第3章 ノウアスフィア＝みんなの内に潜む
トロール

第2部 お金はどうなるのか？

- 第4章 デジタル小作農の流行
- 第5章 街は音楽でできている
- 第6章 果てしなき幸運を手にするため、ク
ラウドの支配者は自由意志を放棄す
る
- 第7章 人間的なクラウド経済の可能性
- 第8章 未来に至る三つの道

第3部 フラットの耐えられない薄さ

- 第9章 レトロポリス
- 第10章 デジタルな創造性はフラットな場所
を避ける
- 第11章 総員、膜に敬礼

第4部 ビットを最大限に活用する

- 第12章 私は反対思考のループ
- 第13章 意味解析発展のありえたコース

第5部 未来の体液

上の目次をざっと眺めていただければわかると思うが、本書は決して（Web 2.0 について啓蒙する新書のような）読みやすい本ではない。「ノウアスフィア」（エリック・レイモンド『伽藍とバザール』三部作のひとつ「ノウアスフィアの開墾」が下敷きとなっているのだろう）などの用語をはじめ、全体としてハッカー文化的な文体で書かれているので、慣れるまで読むのに違和感をおぼえる読者もいるだろうと思う。しかし、たとえば「総員、膜に敬礼」という、これだけでは内容がよくわからない題を持つ第11章が、「ウィキ化する学術会議」などの節を持つ研究者注目の章であることからわかるように、表面的な読みにくさの向こう側に無視できない問題提起が含まれている。

評者は、本書（の原書）の存在を、仏教研究のデジタル化に携わっている研究仲間を教えてもらった。彼は以前から Wikipedia に批判的な意見を持っている人で、本書についても同じ Wikipedia 批判の文脈での紹介であった。評者はそれを聞いて早速原書（*You Are Not a Gadget: A Manifesto* 2010）を取り寄せ、英語は面倒くさいけど読もうか、とぐずぐずしていたところ、原書の出版年と同じ2010年に邦訳（本書）が出版された。その翻訳のスピードからも、本書の重要性は感じ取れるのではないかと思う。

❖ 気軽な設計とその影響

オープンソースや Web 2.0、ロングテールなど、「フラット化する」現在のウェブ社会に対して、「サイバネティクス全体主義」あるいは「デジタル毛沢東主義」と人間主義との対比などを通じた批判的な議論を展開する本書の論点は多岐にわたる。また Wikipedia 批判でも注目される本書ではあるが、その問題意識は

表面的でありがちな Wikipedia 批判に収まるものではない。それはいずれも興味深いものであるが、ここでは評者が人文学におけるコンピュータ利用との関連で気になった話題のひとつである MIDI の話をとりあげたい。

MIDI とは、よく知られているように電子楽器の演奏データ形式のひとつであり、現在国際規格として広く普及している。そもそも MIDI は、ラニアーによれば「デイブ・スミスという音楽用シンセサイザーの設計者が音符をデジタル的に表現する方法を思いつきで作ってみた」ものである。スミスはキーボード・プレイヤーであったので、MIDI における音符の表現は鍵盤楽器で表現される音のような離散的なものとして設計され、バイオリンなどのように連続した音階を表現するものとしてはモデル化（ラニアーの言葉を使えば「固定化」）されていなかった。しかし、そのように「思いつき」で設計された MIDI は、その後国際規格として広く普及してしまった。その結果、MIDI にあうように音楽用ソフトウェアやシンセサイザーが開発され、それをを用いて音楽が作られるようになった。「今となっては MIDI を変更することなどとうてい無理であり、だから、当初の意図よりも完全なものであると MIDI が感じられるように文化のほうが変わってしまった」、というのである。

この話を聞いて思い出したのは、文字コードの標準化のことである。MIDI のような「思いつき」ではないにせよ、たとえば Unicode などは当初 16 ビットにすべての文字が収まるという、今となっては安易な設計思想で開発されており、その影響が現在も続いている（最近話題となった携帯電話の絵文字は、かなり「思いつき」に近い形で開発がスタートしたようである）。それがどれくらい、コンピュータ上での書記活動や人文系テキスト・データベースなどの設計に影響しているのかはわからないが、MIDI と同じような状況が文字方面でも起きているのではないかと懸念されることはいくつもある。

ただし評者は、ここで技術者に先見の明がないと批判したり、安易な設計について愚痴をこぼしたりしたいわけではない。仮にどんなに優秀な設計であっても、

対象（MIDI で言えば音符、文字コードで言えば文字）をモデル化する際に、対象の持つ曖昧さ、意味解釈の可能性を失わせることには変わりがないし、またそれが普及するとユーザがそのモデルにあわせる形で文化が再形成されていく（そのことによって、そのモデルはますます普及する）、という点も変わらない、と思うからである。

加えて、現代のウェブ社会においては、技術の優秀さはしばしば機械処理のしやすさが基準となって判断される。たとえば近年話題のセマンティック・ウェブ（人文情報学方面では Linked Open Data などでも普及しつつある）は、要するにウェブで生み出される無数のコンテンツをよりコンピュータにとって理解しやすいものにするための技術である。モデル化されることによって機械処理が可能となり、機械処理が可能になることによって広く普及してしまう。

「本書の言葉は、主に人でないモノに読まれるはずだ」というラニアーの慨嘆は、ウェブが機械中心の社会となり、人間が行った機械処理のためのモデル化が結果的に人間の創造性を制限するようにフィードバックしてしまう状況＝「サイバネティクス全体主義」を問題視しているのである。

❖ 未来に向けてどうすべきか

ウェブ社会が求める機械処理のための概念の固定化に対抗して、意味の多様性、解釈の可能性（それをラニアーのように「人間主義」とよぶのはいささか抵抗感があるが）を提示していくのは、人文学のひとつの目的ではないか、と評者は考えている。その意味で、ラニアーが提起する上のような問題を、人文学におけるコンピュータ利用に携わっている研究者が、自らの問題として受け止め、考えるべきではないかと思う。本書は、文字コードなどの標準化作業をしていたり、テキスト・データベースの設計・開発などを行なっている技術者・研究者が、自らの設計の背景にある考え方が未来の社会にどのようにフィードバックするかを自問自答するための、一つの視点を提供してくれるのではないだろうか。

『中国の情報通信革命』

エリック・ハーウィット著, 三宅功監修, 高杉耕一・黒川章訳 NTT 出版
2011年12月 ISBN 978-4757103139 2,940円+税

千田 大介

1989年、評者が北京に留学していた頃を思い起こすと、中国の情報通信環境は脆弱この上なかった。電話は留学生宿舍の受付に一台あるだけで、国際電話を掛ける際には受付に申し込み、30分～1時間待ってからようやく繋がるのが常だった。電話がかかって来たときも、館内放送で呼び出され、受付に駆けつけなくてはならなかった。

そうした状況は90年代に入ると急激に改善されていく。街角の売店が店頭カウンター付き電話機を設置し、そこから国際電話も掛けられるようになった。やがて、ダイヤルアップでインターネットに繋がるようになり、携帯電話の急速な普及も始まった。そして今や、都市部の大半の家庭にブロードバンド回線が引かれ、スマートホンの3Gサービスでインターネットに手軽にアクセスできるようになっている。

評者などは、情報通信環境を所与のものとして享受するばかりであるが、周到かつ効果的な政策抜きにしてかかる飛躍的な発展が成し遂げられるものではないことは、考えてみれば当たり前である。



本書は、中国における情報通信の発展を、主に経済政策論的視点から論じたものだ。エリック・ハーウィット著 *China's Telecommunications Revolution* の翻訳書で、原著の出版は2008年である。また巻末に、原著出版以降の中国の情報通信状況について、簡単にまとめている。

本書はまず第1章「産業政策と中国の電気通信業界」で、産業政策と情報通信事業の発展に関する論点整理を行った上で、第2章「中国における電気通信の歴史と政策の軌跡」で清朝末期から現在に至る中国の電信事業の歴史と政策を、第3章「1990年代-2000年代における電気通信セクターの競争では」電信事業の発展における事業者の競争について、中国聯通を中心チャイナコムに論じている。第4章「中国のインターネットと

政策」では中国におけるインターネットの発展過程を詳述し、政府の政策や統制についてまとめている。第5章「通信網の建設—通信機器企業の役割」は巨竜・ZTE・華為ファーウェイなど通信機器メーカーの発展について論じ、第6章「上海の電気通信産業—市政府の役割に関する事例」は上海を題材とするケーススタディである。第7章「電話とインターネットのデジタルデバインド」は中国の都市・農村の情報格差問題を論じ、第8章「産業政策と電気通信改革の教訓」で全編を締めくくっている。

このように本書は有線・無線電話やインターネット、さらには通信機器メーカーに至るまで、情報通信に関わる様々な分野を取り上げ、中国における発展の過程と政策についてまとめている。本誌の読者諸賢の大半にとって経済政策論は専門外であろうが、全般に記述は平易であり文学部出身の評者も難なく理解することができた。

中国の情報革命について取り上げた書籍は我が国でもいくつか出版されているが、ここまで詳細かつ体系的に中国の情報通信の全貌をまとめたものはなかった。情報社会が到来した現代にあって、社会や文化を理解するには情報通信に関する知識が欠かせないが、体系的にそれを得ることのできる本書は、中国の情報通信事情の格好の教科書となろう。

また各章の始めには、欧米・日本など各国の情報通信政策について簡単にまとめられているので、そうした先進諸国の事例と中国の政策とを対照させることができる。それにより、中国の個別事例の研究に閉じこもることなく、中国をひいては日本をも相対化する視点が得られることも特筆される。



本誌の読者には第4章「中国のインターネットと政策」に興味を覚える人が多いことだろう。この章では、インターネットの黎明期には多くのプロバイダが

林立したが、それが爆発的な発展が始まるとともに、情報統制を指向する政策もあいまって電信局系に収斂していった過程を明晰にまとめている。インターネット規制についても、それが主に見せしめなどによりネットユーザーとISPの自主規制を促す方向で進められたことが述べられている。

中国のインターネットが言論空間として最も有効に機能していたのが1990年代末であることは論を俟たないが、本書を読むと、それがプロバイダの数が多く言論統制の手段が固まっていなかったこと、ネットユーザーが一部のエリート層に限られたことなどに起因することが理解される。

また、評者が『チャイニーズ・カルチャー・レビュー』シリーズの翻訳を通じて得た印象としては、2003年、SARSの流行と胡錦濤政権の成立を境に、中国のネット・文化は目に見えて自由を失っていく。本書によれば、中国のインターネット規制は2000年に各種政令が出て本格化している。ともなれば2003年はそれが一定の効力を発揮し、かつ北京五輪に向けた情報統制体制の確立に大きく動き出した年であると位置付けられよう。

ところで、昨今、2011年中東のいわゆるジャスミン革命の影響からか、Twitterの禁じられた中国で発達した各種マイクロブログが民主化を促すことに期待する論をしばしば見かける。しかしそれらの多くは、中国のインターネットやネット社会に対する客観的な分析を抜きに希望的憶測を述べているに過ぎない。

その点本書は、米中のネットユーザーのネット利用が似た傾向を見せていることを指摘し、ネット接続時間の増加が社会活動参加時間と反比例し個人をより分断する方向に働くとの研究を引いた上で、中国の状況について論じ、「ネットをベースとした自律的集団形成が共産党体勢をおびやかす、やがて民主主義につながる可能性はまだ見えてこない」としている。

原著の出版時期はマイクロブログブームの直前ではあるが、マイクロブログサービスを提供するISPが政府の統制下にあり、かつアカウント取得にあたりISPへの実名登録が義務づけられている状況下において、それが政府の意に沿わない民主化要求のプラットフォームとして機能し得ないのは自明であり、そもそ

もマイクロブログに多くを期待するのは間違いである。

またジャスミン革命そのものについても、実態は食品価格上昇による庶民=非ネットユーザー層の反政府活動であり、ネットが民主化を促したというのは、正確に現実を反映していない米国・シリコンバレーのプロパガンダ的言説であるという批判がなされている。それと同様に昨今中国で頻発しているデモ・暴動などのいわゆる「集団的事件」も決して民主化要求デモではなく、「維権」すなわち権益を守るための運動である点にも留意が必要である。中国は欧米や日本とは大きく異なる社会・制度を持つからこそ、願望や我々の社会の常識に基づいた予断を排し、広く情報を収集し客観的に分析する、本書のような態度がより重要になる。



本書にも問題がないわけではない。

例えば、本書ではインターネット関係の統計データとしてCNNICの「中国インターネット発展状況レポート」を使っている。CNNICの統計は、例えばネットユーザーの定義が頻繁に変更される、アンケート調査対象や収集方法が一定しないなど、データの信頼性にいささか欠けるところがあることが夙に知られている。

中国には社会調査の自由がなく、CNNICのデータに頼らざるを得ないのは事実であるが、情報通信を専門に論ずるからには、中国の情報調査会社の調査レポートを参照するなど、より厳密を期してもらいたかった。

また、原著が英語であるためか、参考資料の大半は英語の論文・報道で、中国国内のものはあまり引用されていない。ある政策について、反応や影響が最もよく現れるのはやはり中国国内メディアなのであり、そうした資料を多用すれば、より重層的に論が広がったのではなからうか。

とはいえ、中国の情報通信の発展過程を明晰かつ客観的にまとめた本書の功績と価値は、こうした問題点によって損なわれることはない。今後、中国の情報社会に言及する際には、本書の記述が1つのスタンダードとなる。現代中国の文化や社会に興味を持つ人にとって、必読の一冊であると言えよう。

漢字文献情報処理研究会彙報

2011年10月1日

会誌『漢字文献情報処理研究』第12号出版。

2011年12月18日

第14回大会、2011年度総会開催。

2012年2月1日

『電脳中国学入門』（好文出版）刊行。

2012年7月28日

公開シンポジウム「デジタル書籍・著作権に関する最新動向～これからの東アジアにおけるデジタル文化のために～」開催。

第14回大会・2011年度総会

日時：2011年12月18日(日)

会場：花園大学 拈花館202教室

■ 第13回大会 (13:00～16:05)

1. 挨拶 (13:00～13:10)

2. 第一部：人文情報処理教育ミニセッション (13:10～14:50)

- 「中国学情報化への対応に関するアンケート」報告

山田崇仁（立命館大学）

- 「人文系情報処理教育におけるPBL実践の可能性」

師茂樹（花園大学）

3. 第二部：EPUBミニセッション (15:20～16:40)

- ローテク&ローコストでiOS搭載機で使える外国語学習のための電子教科書（EPUB・PDF）を自作する

清原文代（大阪府立大学）

- EPUBにおける縦書きとフォント

川幡太一（NTT未来ねっと研究所）

■ 総会 (17:00～17:30)

- 2011年度事業報告、会計報告（会計監査：野

村英登・平林宣和）

● 執行部改選

代表：師茂樹

副代表（兼会誌編集局長）：山田崇仁

副代表（兼サーバ管理担当）：上地宏一

幹事（会計・名簿担当）：小島浩之

幹事：佐藤仁史

幹事：田邊鉄

幹事：千田大介

幹事：二階堂善弘

- 2012年度事業計画、予算案承認

2012年公開シンポジウム

■ 2012年公開シンポジウム

題目：デジタル書籍・著作権に関する最新動向
～これからの東アジアにおけるデジタル文化のために～

日時：2012年7月28日(土) 13:30～17:00

会場：関西大学 CSAC4階セミナースペース（大
阪府吹田市）

共催：科学研究費補助金・基盤研究(B)「情報化
時代における中国学次世代デジタル研究基
盤の確立」(代表者：関西大学 二階堂善弘)

協賛：関西大学アジア文化研究センター（CSAC）

■ プログラム

1. 平成24年著作権法改正の概要 (13:30～13:50)
小島浩之（東京大学大学院経済学研究科講師）

2. コメント (13:50～14:00)

石岡克俊（慶応義塾大学産業研究所准教授）

- 質疑応答 (14:00～14:30)

- 休憩 (14:30～15:00)

3. 講演「デジタル書籍と定価と文化」(15:00～
16:00)

石岡克俊（慶応義塾大学産業研究所准教授）

- 質疑応答 (16:00～17:00)

著者紹介

小川 快之 (おがわ よしゆき)

1968年生。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。現在、早稲田大学非常勤講師、国士舘大学非常勤講師、法政大学兼任講師。専門は中国史、中国語教育。著書：『伝統中国の法と秩序—地域社会の視点から—』(汲古書院、2009年)。

郭 修静 (かく しゅうせい)

1967年台湾生まれ。1992年、台湾輔仁大学歴史学科卒業後、国立政治大学中国語センター中国語教員、別府大学文学部講師等を経て、2004年、大阪外国語大学大学院博士後期課程(地域言語社会専攻)単位取得退学。2008～2012年、大阪大学世界言語研究センター特任助教。現在は大阪大学、関西大学、大阪女学院大学各非常勤講師。専門は中国語教育、最近ではITを利用した教材開発を主な研究分野とする。

金子 真也 (かねこ しんや)

1955年東京生。龍谷大学法学部教授。最近では漢字問題を含む言語政策への関心が高い。

<http://www.huaxia-info.com/>

上地 宏一 (かみち こういち)

1976年生まれ。大東文化大学外国語学部講師。コンピュータにおける多漢字処理、特に漢字字形生成エンジンや異体字データベースなどに興味を持っている。自身が構築・運営する漢字字形Webデータベース「グリフウィキ <http://glyphwiki.org/>」も5周年を迎えることになり、さらなる発展を目指して目下思案中である。

川幡 太一 (かわばた たいち)

現在、某通信会社の研究所勤務。マークアップなどのテキスト情報処理システム、漢字・多言語の表示・編集処理や、ネットワーク分散オブジェクトシステムなどに関心を持つ。

清原 文代 (きよはら ふみよ)

1960年代に大阪府に生まれる。大阪市立大学大学院後期博士課程単位取得退学。現在は大阪府立大学高等教育推進機構外国語教育センター准教授。但し、近年作った名刺を配りきらないうちに所属部門が変わっている。専門は中国語教育とeラーニング。自作中国語教材(音声・PDF・EPUB)をポッドキャストでインターネット配信中。

<http://www.las.osakafu-u.ac.jp/~kiyohara/> (更新停滞中)

Twitter ID:@wendai_Q

小島 浩之 (こじま ひろゆき)

1971年、岐阜県生。東京大学大学院経済学研究科講師・経済学部資料室室長代理。専門は東洋史学および歴史資料の保存と活用に関する研究。最近の業績に「中国古文書学に関する覚書(上)」(単著)、「東京大学大学院経済学研究科所蔵『伝鎌倉出土渡来銭』について」(共著)いずれも『東京大学経済学部資料室年報』2(2012)がある。

佐々木 愛 (ささき めぐみ)

1968年東京都生。島根大学法文学部准教授(東洋史学研究室)。ただし本年度は上海師範大学で在外研究中。初めての中国生活で挑戦の日々を送っている。専門は中国思想史(宋～清)。論文に「明代における朱子学的宗法復活の挫折：丘濬『家礼儀節』を中心に」(『社会文化論集』5)など。

設楽 舞 (したら まい)

1971年東京生まれ。青山学院大学大学院文学研究科修了。短期大学にて日本文学を学び、大学・大学院にて教育学を専攻。現在、東京大学経済学部資料室学術支援職員として資料の補修に従事。主要論文「東京大学大学院経済学研究科所蔵「新渡戸稲造旧蔵書」について—その概要と特徴」『東京大学経済学部資料室年報』2,2012.3。

篠原 啓方 (しのはら ひろかた)

1971年兵庫県生。韓国高麗大学校大学院修了。博士(文学)。関西大学文学部准教授。専門は朝鮮古代史。

菅原 慶乃 (すがわら よしの)

関西大学文学部准教授。博士(言語文化学)。専門は映画史。近著に『華語電影工業：方法与歴史的新探索』(共著、北京大学出版社、2011年)等。第8回太田勝洪記念中国学術研究賞受賞。

田邊 鉄 (たなべ てつ)

1963年京都府生まれ。大阪外国語大学外国語学研究科東アジア語学専攻修士課程修了。北海道大学情報基盤センター准教授。専門は中国語教育・教育学・デジタルコンテンツ・マルチメディア表現。最近の主たる関心は、感性工学の教育分野への応用と、教科書イラストの身体論。QUMARIONや液タブと戯れる日々。

千田 大介 (ちだ だいすけ)

1968年東京生まれ。慶應義塾大学経済学部教授。専門分野は、ここ千年くらいの中国のサブカルチャー。http://wagang.econ.hc.keio.ac.jp/

二階堂 善弘

1962年東京の下町生まれ。東洋大学文学部卒業、早稲田大学大学院文学研究科博士課程退学。現職は関西大学文学部教授。博士(文学)・博士(文化交渉学)。専門は中国の民間信仰研究。最新の著作は『アジアの民間信仰と文化交渉』(関西大学出版部)。サイトは、http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~nikaido/

氷野 善寛 (ひの よしひろ)

1980年大阪生まれ。関西大学博士後期課程単位取得満期退学、博士(文化交渉学)。現在は関西大学アジア文化研究センターPD、京都女子大学、関西大学各非常勤講師。『官話指南』を中心とした近代における中国語教材の研究の傍ら、様々な媒体を用いた中国語デジタル教材の開発を行っている。また所属センターでは近代中国語コーパスをはじめとして東アジア研究に関わるデータベースやアーカイブズの構築及び設計を担当している。

平林 宣和 (ひらばやし のりかず)

1966年、東京生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。早稲田大学演劇博物館助手、広島経済大学専任講師を経て、現在は早稲田大学政治経済学術院准教授。専門は近現代の中国演劇史。

師 茂樹 (もろ しげき)

1972年生まれ。花園大学准教授。最近3次元CGにも手を出している。最近書いたものとしては、師茂樹「電子書籍のノとインタラクティブィティ」(『東洋学へのコンピュータ利用 第23回研究セミナー』2012年3月)など。

Twitter ID: @moroshigeki

矢野 正隆 (やの まさたか)

1972年、福岡県生。東京大学経済学部資料室特任助教。専門はベトナム前近代史およびアーカイブズ資料の保存。最近の論考に「前近代ベトナム貨幣関係資料」(『東京大学経済学部資料室年報』2)「地域研究資料の収集とコアジャーナル」(『アジア研究ワールドトレンド』198)など。

山崎 直樹 (やまざき なおき)

1962年生。関西大学外国語学部所属。専門分野は中国語教育および言語学。言語構造に関する知識をどう構造化して言語学習者に伝えるかが、最近の興味を中心である。目下、「見て触れるオモチャのような比較統語論」を開発中。

山田 崇仁 (やまだ たかひと)

1970年愛知県生まれ。立命館大学院文学研究科修了。博士(文学)。大阪大谷大学・滋賀大学・花園大学・立命館大学非常勤講師。専門は先秦文献の成書時期の解明、先秦～前漢における語用法の変遷。近業は、「文字なる表記の誕生」『中国古代史論叢』五集(2008)。「書同文考」『史林』91巻4号(2008)。「書契考」『中国古代史論叢』六集(2009)など。

http://www.shuiren.org/

編集後記

『漢字文献情報処理研究』第13号をお届けする。昨年発行された本誌12号の特集2で提示した出版計画のうち、第1弾となる『電腦中国学入門』が2012年2月に無事刊行された。

本号では、その追加企画を特集として設けてみた。結果的にこの企画が本号全体の半分近くを占めてしまったのだが、おかげで非常に充実した内容になったと自負している。『電腦中国学入門』と本誌と併せて御一読いただくことにより、更なる電腦中国学スキルの向上に繋がれば何よりの喜びである。

一方、その他の項目も分量は少ないながら、OSやOfficeソフトといった電腦利用の基礎に関わる製品を採り上げていることもあって、注目すべき内容で溢れている。おかげで編集作業をしながら大いに物欲を刺激されてしまったのだが、それだけ全体が充実した内容になったということなので、こちらも嬉しい限り。

末筆ではあるが、忙しい中本誌に原稿をお寄せいただいた執筆陣や、ここ数年入稿が遅れてしまって迷惑をかけ続けていた好文出版に篤く御礼申し上げます。(♪)

漢字文献情報処理研究 第13号

発行日 2012年10月1日
定価 本体2,000円＋税
編集 © 漢字文献情報処理研究会
<http://www.jaet.gr.jp/>
編集委員 ○山田 崇仁 金子 真也
上地 宏一 小島 浩之
佐藤 仁史 田邊 鉄
千田 大介 二階堂善弘
師 茂樹 山崎 直樹
デザイン 睡人亭：<http://www.shuiren.org/>
DTP
発行人 尾方敏裕
発行所 株式会社好文出版
〒162-0041
東京都新宿区早稲田鶴巻町540
林ビル3F
TEL:03-5273-2739
FAX:03-5273-2740
URL:<http://www.kohbun.co.jp/>

○本誌に関する訂正・補足情報は、漢字文献情報処理研究会サイト (<http://www.jaet.gr.jp/>) に掲載します。
○本誌の定期購読をご希望の方は、以下の項目につき明記の上、好文出版まで、書面・FAXもしくは電話にてお申し込みください（住所・FAX・電話は上記奥付参照）。

- 送付先住所 ○氏名 ○年齢 ○職業
- 勤務先 ○必要部数

○漢字文献情報処理研究会への入会をご希望の方は、<http://www.jaet.gr.jp/guiding.html> の趣意書および規約をよくお読みの上、同ページにリンクが掲載されている入会フォームよりお申し込みください。書面での申し込みは受け付けておりません。

ISBN978-4-87220-152-9

C3004 ¥2000E



Windows 7 + Office2010 環境対応
多漢字・中国語マニュアル

2012年2月刊行

電腦中国学入門

漢字文献情報処理研究会 編 B5判・240頁・定価 本体2,000円+税
(執筆：千田大介・上地宏一・小島浩之・佐藤仁史・田邊鉄・二階堂善弘・師茂樹・山田崇仁)

情報時代の中国学必須電腦スキル

- 漢字 7 万字を使いこなすなら Windows7
- ピンインのルビを自動で振ろう
- 論文・レポートを効率的に執筆するための Word テクニック
- 中国の今を知る、動画投稿サイト・ミニブログ案内
- 教師必読！ Excel 成績管理マニュアル
- 充実のコンテンツ、中国学電子ジャーナル・電子図書館
- 10 億字は当たり前？ 最新学術データベース情報
- とっても簡単、自前の全文データベースを作る



B5判・240頁
ISBN978-4-87220-150-5
定価 本体2,000円+税

C O L U M N

IVS (IVD)
Unicode 以外の大規模文字集合
ATOK と Google 日本語入力
Windows 7 で入力できる言語
Windows 7 の中国語フォント
フリー中国語 IME
独自コード系中国語システム
メールソフトと Web メール
論文の書き方本と Word の解説本

Windows のショートカットキー
そのほかの Office 収録ソフト
フォント・字形・字体・異体字
メディアリテラシー：統計を疑う
書誌学用語
DVD・Blu-ray Disc とリージョンコード
中国で銀行口座を開設する
ソフトウェアやデータベースの寿命
テキスト処理の参考書

※ご予約は、裏面の注文書をご利用ください。



好文出版

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町540 林ビル3F

●TEL (03) 5273-2739 ●URL <http://www.kohbun.co.jp/>
●FAX (03) 5273-2740 ●MAIL info@kohbun.co.jp